令和４年度

事 業 報 告 書

高知県かんごちゃん

公益社団法人高知県看護協会

目　次

Ⅰ. 継続教育研修

1. 継続教育研修 …… 1
2. 看護管理者支援研修 …… 4
   1) 看護管理者入門ビギナーコース …… 4
   2) ミドルマネジャーコース …… 7
3. 臨床看護研究基礎研修 …… 10
4. 在宅看護研修 …… 12
5. 高齢者の終末期看護　エンド・オブ・ライフケア …… 15

Ⅱ. 認定看護管理者教育課程

1. 認定看護管理者教育課程セカンドレベル …… 17

Ⅲ. 職能委員会主催研修

1. 保健師職能委員会 …… 21
2. 助産師職能委員会 …… 25
3. 看護師職能委員会 …… 28
4. 保健師・助産師・看護師職能合同集会 …… 33

Ⅳ. 委員会主催研修

1. 看護制度委員会 …… 35
2. 医療安全委員会 …… 39
3. 災害看護委員会 …… 43
4. ３職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会 …… 49

Ⅴ. 看護研究学会

1. 看護研究学会 …… 55
2. 地区支部看護研究発表会 …… 58

Ⅵ. 受託事業

1. 看護職員等研修事業
   1) 多施設合同研修 …… 59
   2) 新人看護職員研修
      実地指導者研修 …… 62
      教育担当者研修 …… 65
   3) 新人助産師合同研修 …… 68
   4) 保健師助産師看護師実習指導者講習会 …… 72

5） 看護教員継続研修 78
6） 感染管理担当者研修 81
2. 訪問看護師研修事業
1）施設-在宅を支援する看護師育成研修 85
2）施設-在宅を支援する看護師育成研修（フォローアップ研修） 88
3. 看護職員認知症対応力向上研修 90
4. 医療的ケア児等養成研修
1）医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成研修 92
2）医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修 97
5. 高知県新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成研修 100
6. 新型コロナウイルス感染症等対応人材育成研修 108
7. 就労環境改善のための体制整備事業
1）看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ 110
2）看護職のワーク・ライフ・バランス推進
フォローアップ・ワークショップ 113
8. 看護職員確保対策事業
看護の心普及等・ナースセンター事業ナースセンター強化事業 116
9. 小児救急電話相談事業 121

Ⅶ. 配信事業
1. 診療報酬改定説明会 125
2. 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 126
3. 災害支援ナースの第一歩 127
4. 認知症高齢者の看護実践に必要な知識 128
5. 医療安全管理者養成研修 129
6. 看護職員の賃金制度の抜本的見直しに関する勉強会 130

Ⅷ. 日本看護協会受託事業
1. 新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保事業 131

Ⅸ. こうち看護協会訪問看護ステーション事業 133

Ⅰ．継続教育研修

1. 継続教育研修

研修名	**継続教育研修**	
開催日時	プログラム参照	
受講者数	260 名　（会員 189 名　72.6%、非会員 71 名 27.4　%） （内訳　保健師1名、助産師 1 名、看護師 240 名、准看護師 15 名、介護士 1 名、その他 2 名）	
研修形態	ハイブリッド研修　集合 150 名(57.6%)、オンライン 110 名(42.4%)	
教育目的	1）看護専門職として高い倫理観に基づき、看護実践能力の向上をはかる。 2）看護専門職としてのキャリア発達を促進し、変化する社会や地域のニーズに対応できる能力を養う。 3）他職種と連携・協働し看護職の役割を発展させる能力を養う。	
講師・内容	プログラム参照	講義・演習

1．プログラム

4つの力		テーマ	日程	研修形態	レベル	ねらい	内容	講師	定員	計
ニーズをとらえる力	1	臨床判断力を高めよう ～患者さんの変化を予測して実践する看護～	6/15(水) 10:00～16:00	HB	Ⅱ～Ⅲ	症状からわかる患者の危険を予測し、必要な看護を理解し提供できる	臨床判断力とは/臨床判断力の必要性/予防できる急変/危険を察知するための症状の理解と必要な看護	高知医療センター 救急看護認定看護師　大麻 康之	50	45
	2	せん妄の理解と看護	7/6(水) 13:30～16:30	集合	Ⅱ～Ⅲ	せん妄の病態を理解し、予防・ケアに役立てる	せん妄とは／せん妄のアセスメント／せん妄の治療／せん妄の予防・ケア（事例を使って）	高知大学医学部附属病院 精神看護専門看護師　小笠原　麻紀	60	46
ケアする力	1	「褥瘡ケアに強いナースになろう」基礎編	8/30(火) 10:00～16:00	HB	Ⅱ	褥瘡予防の重要性や、褥瘡ケアを実践する上で必要な基礎知識・技術を学ぶ	褥瘡発生の予測／スキンーテア/褥瘡経過評価(DESIGN-R)/褥瘡発生後のケア／栄養管理／事例	社会医療法人近森会近森病院 皮膚・排泄ケア認定看護師　安松和美	50	50
協働する力	1	スタッフの育成を支援するコーチング	10/13(木) 10:00～16:00	HB	Ⅱ～Ⅲ	目標達成のため、相手の強みや持ち味を引き出すコミュニケーションスキルを学ぶ	若者の特徴、承認/ほめる/叱る理論と演習	有)AEメディカル 代表　野津　浩嗣	60	35
	2	プレゼンテーションのコツ （多職種合同会議に役立てよう）	8/18(木) 9:30～12:30	HB	Ⅱ～Ⅲ	相手に正しく分かりやすく伝える	プレゼンテーションの基本構成/テーマ/自分の考えを伝える/まとめ/資料の作り方	高知県立大学看護学部 助教　池内　香	50	12
意思決定を支える力	1	事例を通して学ぶ看護倫理 ー気になる場面を振り返るー	7/22(金) 9:30～12:30	HB	Ⅱ～Ⅲ	臨床現場で直面する倫理的諸問題について考えると共に、倫理的ジレンマへの対応を学ぶ	看護倫理とは何か／看護者として患者の尊厳を守るための意識・態度とは／臨床現場で直面する倫理的諸問題／看護倫理場面の事例検討	高知県立大学看護学部 特任助教　三浦　由紀子	50	21
その他	1	社会人基礎力を高めよう	9/1(木) 10:00～16:00	オンライン	Ⅱ	社会の一員として基礎力を身につける	社会人基礎力、自己診断テストの実施、主体的な行動、チームで働く力、キャリアビジョン、看護に必要なホスピタリティ	近森病院附属看護学校 副学校長　平瀬　節子	50	15
	2	おとなの発達障害	11/2(水) 13:30～16:30	集合	Ⅱ～Ⅲ	大人の発達障害について理解を深め、職場での支援方法を学ぶ。	大人の発達障害とは/発達障害の特性/発達障害の理解と対応/職場での支援	医療法人白菊会白菊園病院 統括看護部長　松永　智香 音楽療法士　上羽美香	60	36
	3	情報とメディア ー日頃どのような情報を活用していますかー	中止	集合or HB	Ⅱ	特性を知って使おう	情報とは、メディアの種類、情報の特性、情報管理における倫理、ネットワーク上の脅威(ユーチューブ・SNSを含)、セキュリティ対策	高知大学教育研究部 医療学系連携医学部門 准教授　宮野　伊知郎	60	

HB：ハイブリット研修(集合+オンライン)

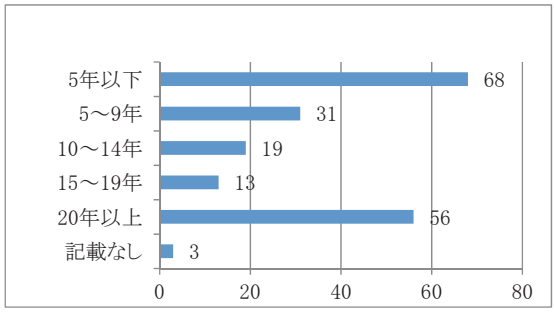
2. アンケート結果

※アンケートは Google ドライブを使用したオンライン上の質問と回答

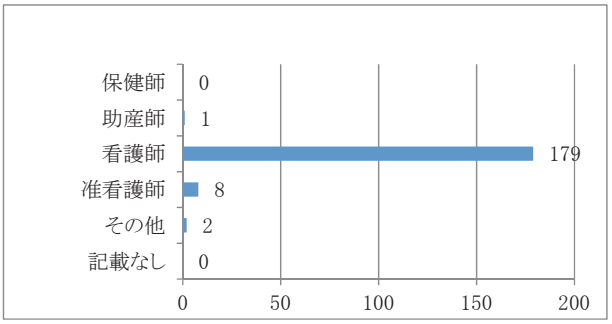
1)8 研修まとめ

参加者数　260 名　　回答数 190　　回答率 73.0%

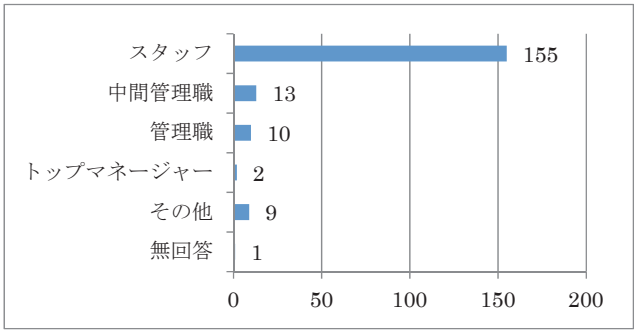
(1)経験年数 n=190



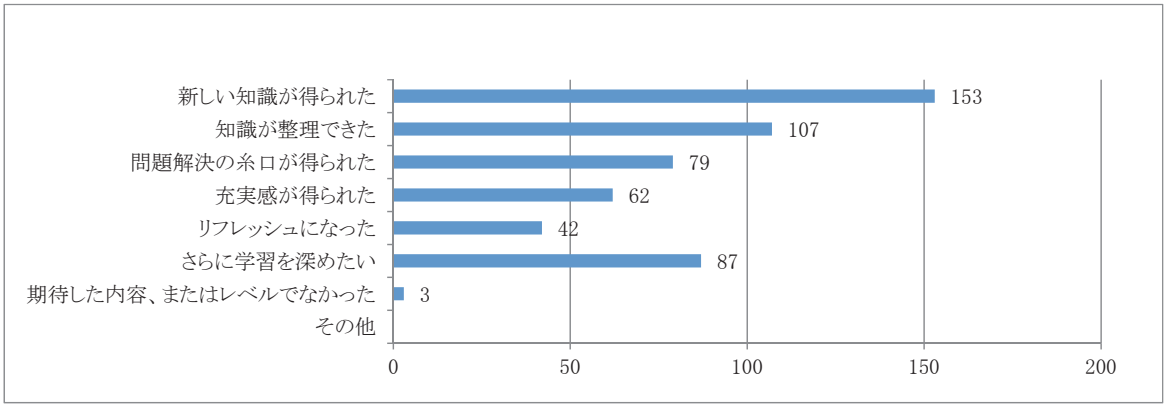
(2)職種 n=190



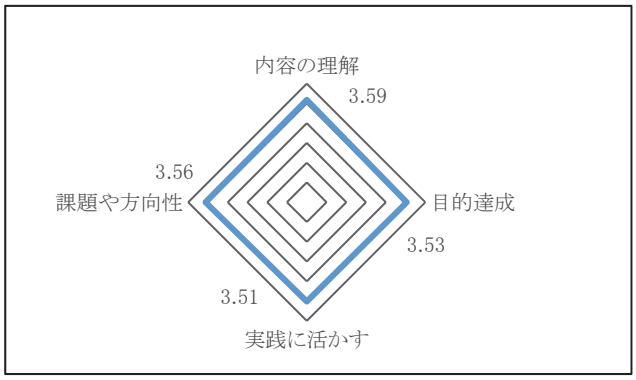
(3)職位　n=190



(4)研修の感想(複数回答)　n=190



(5)内容評価(8 研修平均)　n=190

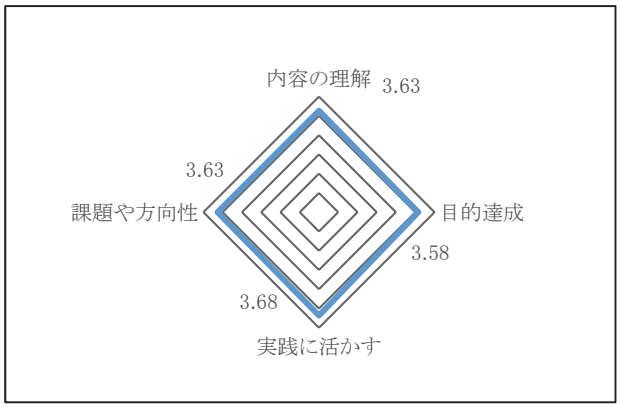


指標(4:とてもそう思う　3:ややそう思う　2:余りそう思わない　1:全くそう思わない)

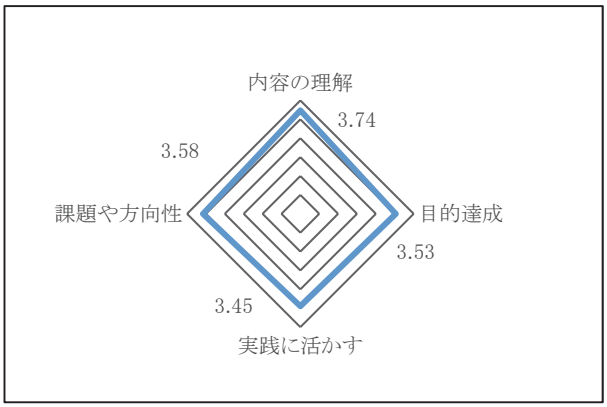
2)研修別内容評価

指標　4 段階(4:とてもそう思う　3:ややそう思う　2:余りそう思わない　1:全くそう思わない)

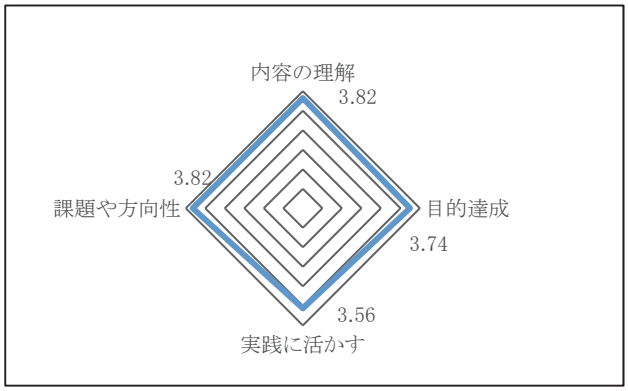
(1)臨床判断力を高めよう　n=19



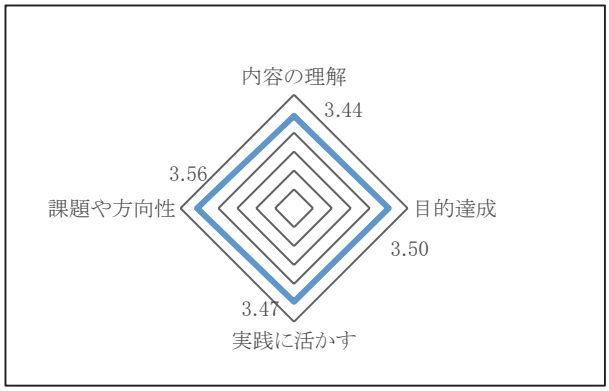
(2)せん妄と理解　n=38



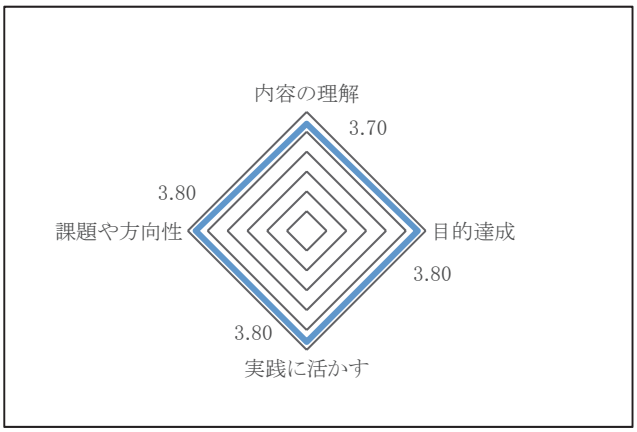
(3) 褥瘡に強い看護師になろう　n=39



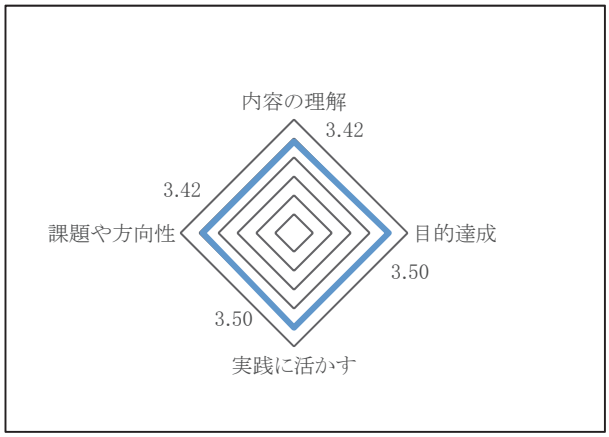
(4) スタッフを支援するコーチング　n=32



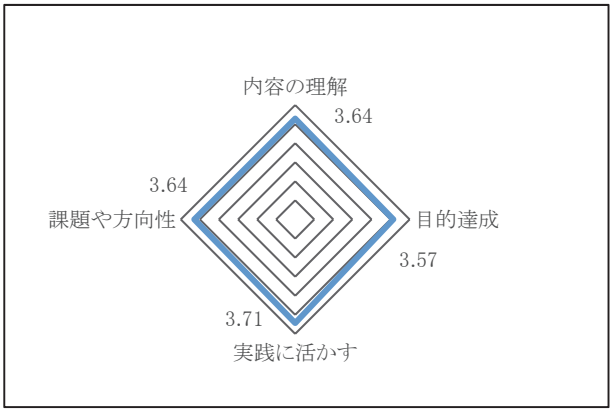
(5) プレゼンテーションのコツ　n=10



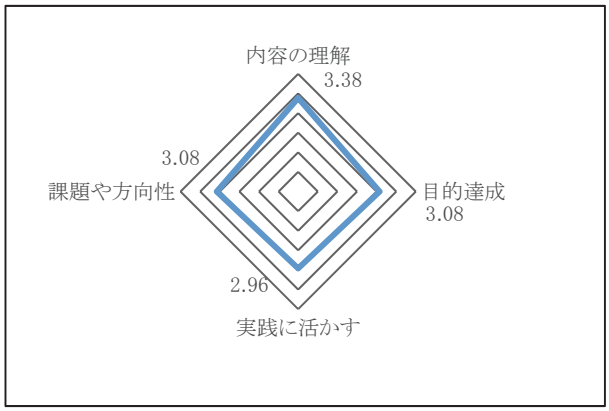
(6) 事例を通して学ぶ看護倫理　n=12



(7) 社会人基礎力を高めよう　n=14



(8) おとなの発達障害　n=31



3)研修担当者コメント

「JNA ラダーを構成する4つの力」に沿って計9研修を企画した。開催時期は6月～11月の予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のため「情報とメディア」は中止となり、「社会人基礎力を高めよう」は 1 月に延期し全面オンラインで研修を開催した。研修形態をハイブリッド型とし、感染防止対策を強化した上で 8 研修は実施できた。参加者数は、全体で集合 57.6%、オンライン 42.4%の割合であった。演習については、オンライン上で個人ワーク・ペアワークを取り入れ、参加型の研修となるよう工夫し有意義な研修だったとの意見も聞かれた。今後もジェネラリストのニーズに添った研修を企画していきたい。また、アンケートを Web 上で行ったが、回答数が少なく今後の課題である。

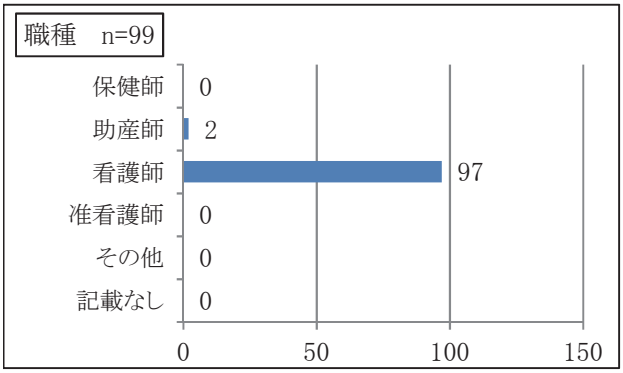
2. 看護管理者支援研修

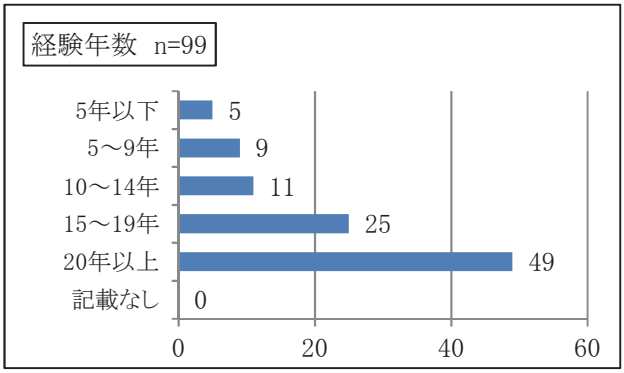
研修名	1）看護管理者支援研修ビギナーコース (1)　ファシリテーション研修「結果の見えるカンファレンス運営をめざして」 (2)　中間管理者のスキルアップ研修「初級管理者のためのマネジメント研修」 (3)　中間管理者のスキルアップ研修「現場の課題発見と業務改善」	
開催日	(1)　令和4年8月31日（水）　10:00～16:00 (2)　令和4年10月14日（金）　10:00～16:00 (3)　令和4年10月31日（月）　10:00～16:00	定員　:各70名
受講者数	(1)　令和4年8月31日（水）　受講者 63名 オンライン 62名・集合 1名　会員 45名・非会員 18名 (2)　令和4年10月14日（金）受講者　51名 集合 51名　会員　37名・非会員　14名 (3)　令和4年10月31日（月）受講者　43名 集合43 名　会員32名・非会員11名	のべ受講者数 157名 会員数:114名 （新入会員:3名） 非会員:43名
目的	看護管理者は、問題解決する論理的思考力やコミュニケーション力、他者に説明できる表現力・伝達力・交渉力などを身に付け、さまざまな課題に立ち向かうための積極的な行動力が求められる。このような能力と行動力を習得する。	
ねらい	臨床現場のリーダー、認定看護管理者教育課程（ファースト・セカンドレベル）の準備教育の位置づけとして学ぶ。	
講師	(1)　株式会社　ジーシフト　取締役社長　彦田　美香子 (2)　株式会社アニメートエンタープライズ　有限会社　AEメディカル 代表取締役　野津　浩嗣 (3)　高知大学医学部附属病院　教育担当師長　谷　めぐみ	
内容	(1) カンファレンス運営に必要となるファシリテーションについて 構成要素・必要な役割・プロセス・道具箱など プロセスの4つのステップ（進め方の手順）について 始める　→　広げる　→　まとめる　→　終える (2) 結果承認と事実承認、YouメッセージとIメッセージについて 枕詞を効果的に使ったコミュニケーションと言い訳が減る質問 スキルや会話の黄金ルール　について (3) 業務整理をするための「課題抽出」の方法について 課題を客観視して分析した業務改善の考え方	講義・演習

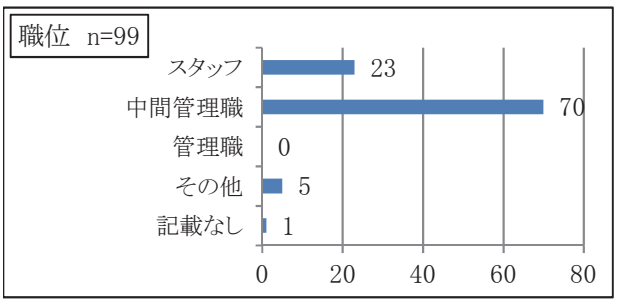
1．アンケート結果

1）　令和4年8月31日（水）　アンケート回収数　41名　回収率　65.1%
2）　令和4年10月14日（金）　アンケート回収数　28名　回収率　54.9%
3）　令和4年10月31日（月）　アンケート回収数　30名　回収率　69.8%

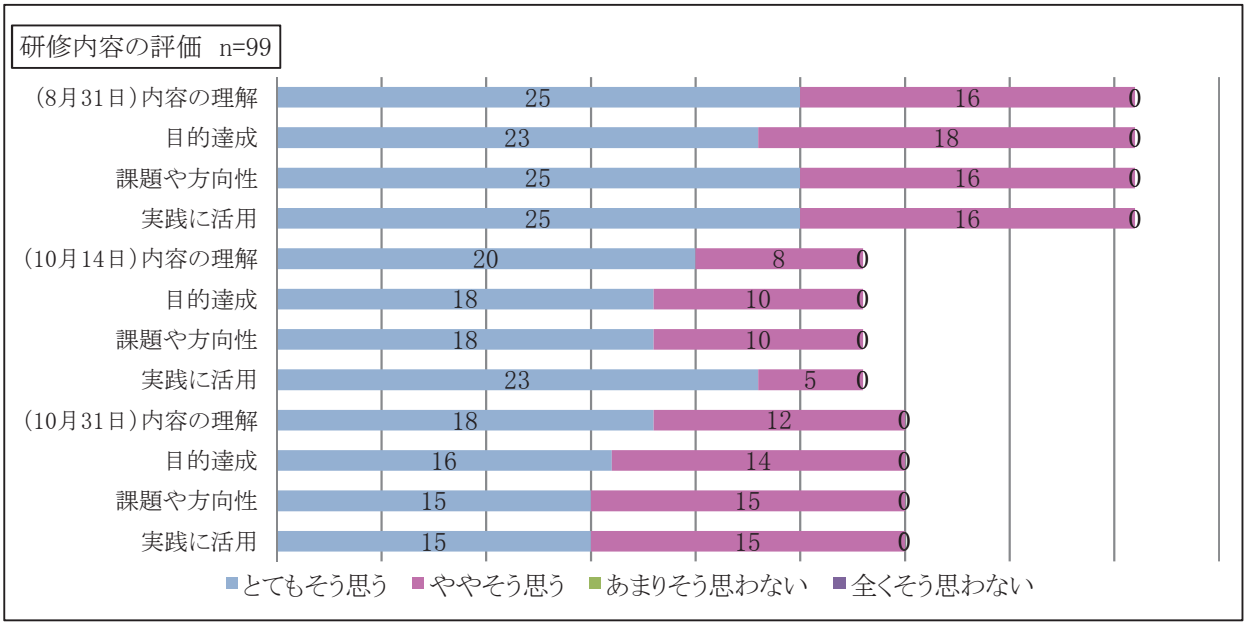
1）　受講者背景



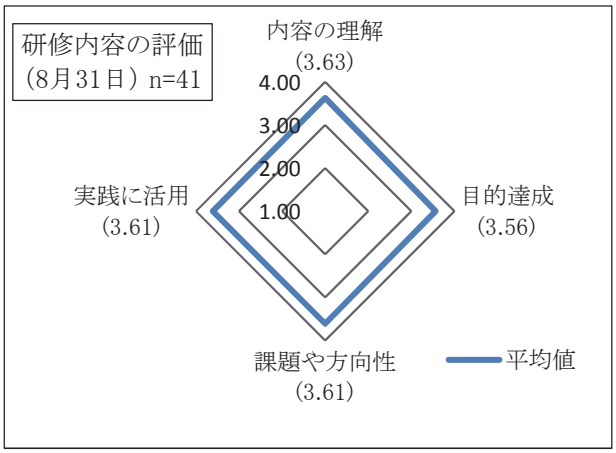


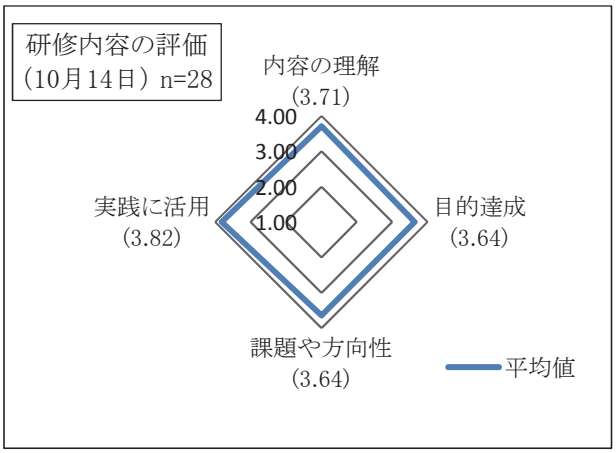


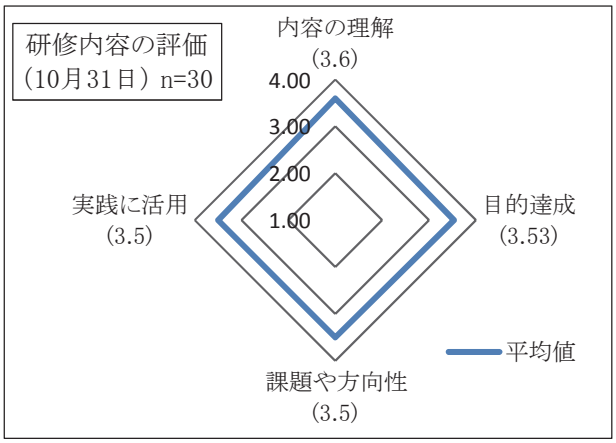
2） 研修内容の評価



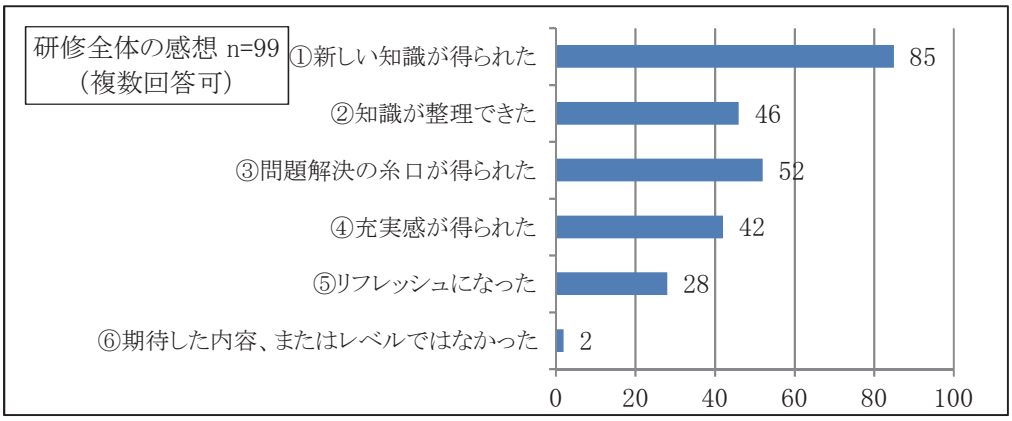
3） 研修内容の評価の平均点と標準偏差







4） 研修全体の感想



⑥ 期待した内容、またはレベルではなかったを選択した理由

・今までにしたことのある内容だった

2. 意見・感想（抜粋）

- ファシリテーターの技法など学べた。とても良い研修でした。
- 今日のような楽しい研修会にまた参加したい。
- 意識の転換になった。
- 日頃からなんとなくもやもやしながらもこうやって伝えたほうが、絶対スタッフの気持ちを捕まえることができると自分で確信したこともあったりしていた。この研修で理由付けしていただき、自信を持って現場で活かすことが出来そうである。ほんとに素晴らしい研修でした。
- とても分かりやすい研修でした。
- 今後の仕事に生かすことができると思っている。
- 指導する時に今日学んだことをいかしていきたいと思った。
- 綺麗な言葉遣いも、大変勉強になった。
- 元々興味深い内容であったが、理論的に捉えることで、モヤモヤしていた自分の中の部分が講義を聴くなかで明確になりスッキリした。研修内の演習がもう少し効果的に実践できたらよかったが、説明を聞いても理解できないままで演習してしまい残念であった。今回学んだコーチングの理論を活かして、日々の業務に取り組んでいきたいと思っている。参加できてよかった。

3. 研修担当者のコメント

研修の内容に対する評価の平均値（4段階選択法）は、内容の理解 3.6～3.71 目的達成 3.53～3.64 課題や方向性 3.5～3.64 実践に活用 3.5～3.82 と高値であった。また感想・意見では、受講することによって、自己のコミュニケーションに自信が持てたことや意識の転換になったこと、学びを活かして日々の業務に取り組んでいきたい等が記載されていた。以上のことから、効果的な研修であったと考える。

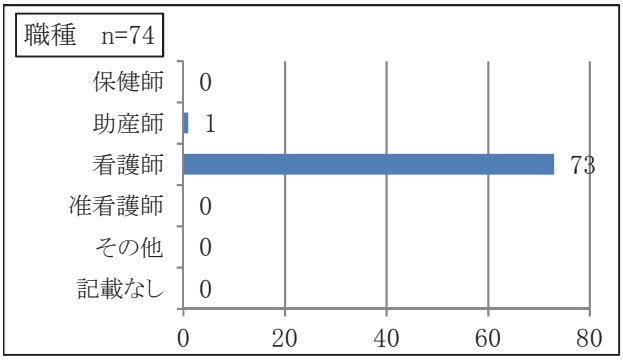
定員に対する割合は、 8月31日 90% 10月14日 72.9% 10月31日 61.4% であった。次年度は、受講者数の維持と更に効果的な研修になるようにアンケート結果を踏まえた研修企画を提案したい。

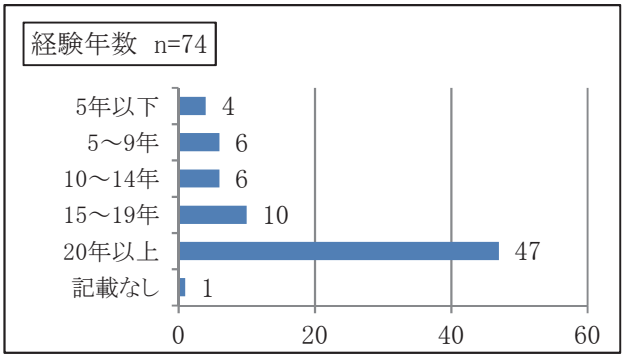
研修名	2）看護管理者支援研修ミドルマネジャーコース (1)　看護管理者の業務管理の秘訣 ～忙しさからの解放、段取り力アップ～ (2)　概念化スキルを身に着けて本質的な問題解決をしよう (3)　ホントは、楽しい 「育成面談と目標管理面談の正しい方法」 あなたの面談力は何点ですか？	
開催日	(1)　令和4年9月13日（火）　10:00～16:00 (2)　令和4年11月24日（木）　10:00～16:00 (3)　令和4年11月28日（月）　10:00～16:00	定員:50名
受講者数	(1)　令和4年9月13日（火）　受講者 30名 オンライン 30名　会員 27名・非会員 3名 (2)　令和4年11月24日（木）　受講者　21名 オンライン 21名　会員　17名・非会員　4名 (3)　令和4年11月28日（月）　受講者　29名 集合　2名・オンライン 27名　会員　25名・非会員　4名	のべ受講者数 80名 会員数:69名 非会員:11名
目的	看護管理者は、問題解決する論理的思考力やコミュニケーション力、他者に説明できる表現力・伝達力・交渉力などを身に付け、さまざまな課題に立ち向かうための積極的な行動力が求められる。このような能力と行動力を習得する。	
ねらい	現場看護管理者としての役割遂行に必要な情報・知識と管理能力を習得する。	
講師	(1)　株式会社フェアアンドイノベーション　代表　永瀬　隆之 (2)　株式会社サフィール　代表取締役　看護管理総合教育研究センター　代表 臨済宗妙心寺派　嵩岳山　少林寺　閑栖住職　河野　秀一 (3)　TNサクセスコーチング株式会社　代表　奥山　美奈　様	
内容	(1)　自分のワークスタイル知り、時間の使い方と仕事の進め方 組織の生産性向上の高め方 理解とデータによる体系的な理解のための分析ツールと段取り力の向上とスキルについて (2)　概念の「概」について 問題の本質を捉える方法として概念化・抽象化・構造化のスキル 概念的に物事を考え行動をすることの重要性と概念化能力「俯瞰し応用できる能力」について (3)　育成面談と目標管理面談を動画から学ぶ 不安の動機づけを可能性の動機づけに変化させること	講義・演習

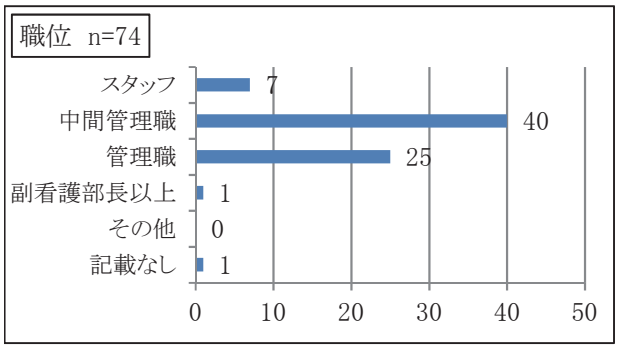
1．アンケート結果

1）　令和4年9月13日（火）　アンケート回収数　29名　回収率　96.7%
2）　令和4年11月24日（木）　アンケート回収数　20名　回収率　95.2%
3）　令和4年11月28日（月）　アンケート回収数　25名　回収率　86.2%

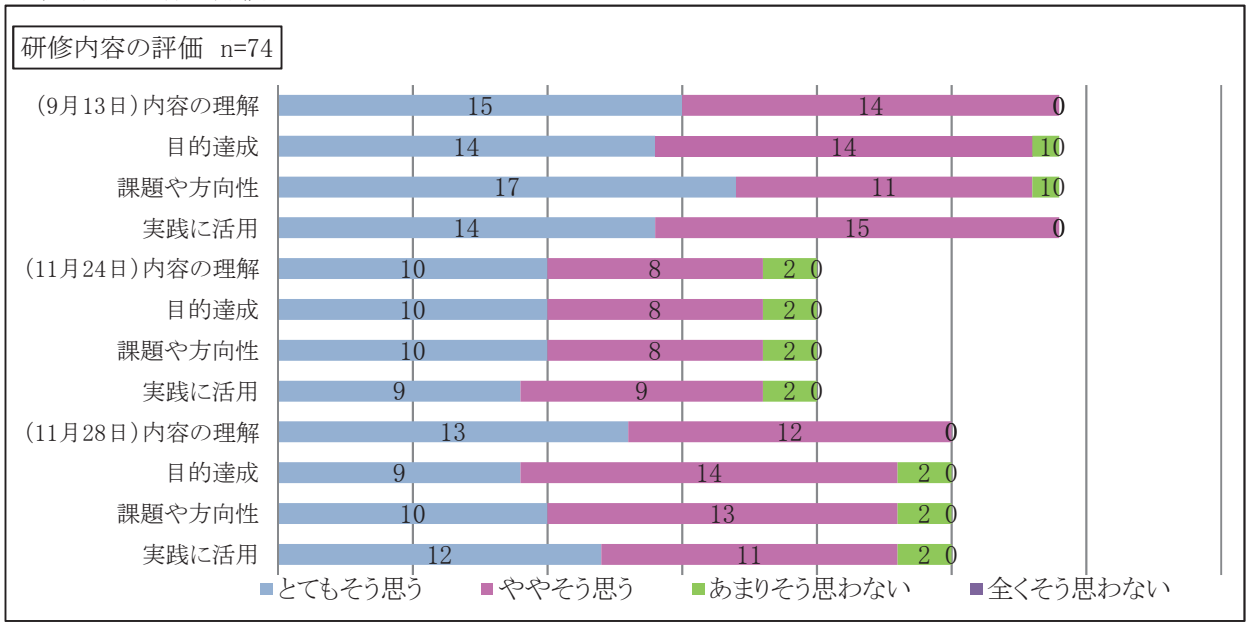
1）　受講者背景



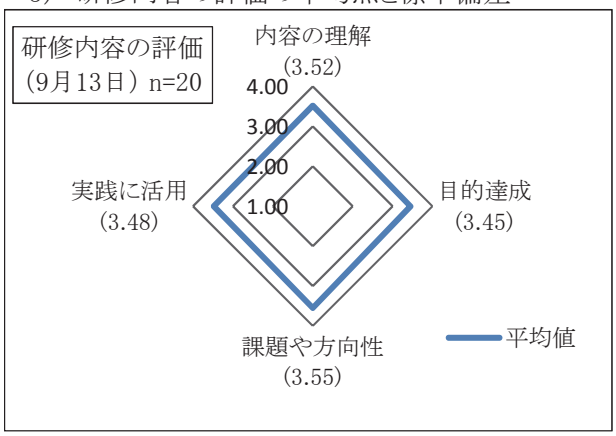


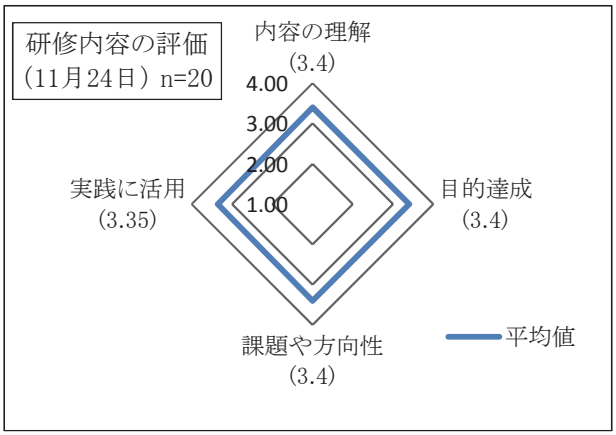


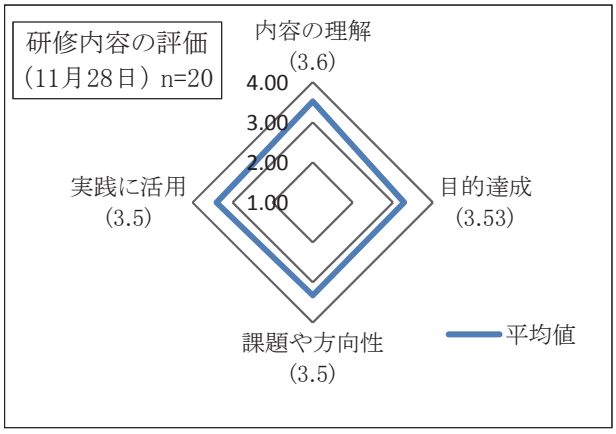
2） 研修内容の評価



3） 研修内容の評価の平均点と標準偏差



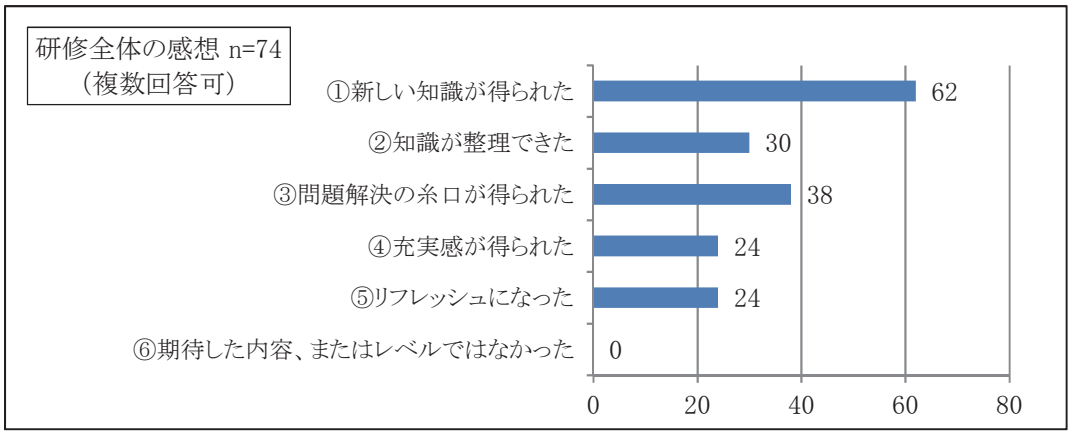




②あまりそう思わないを選択した理由

- 人相手の業務で、生産性のある仕事をするには、職場の状況にもよると思いました
- 内容が難し過ぎて自信を無くした
- 全体像を見るなど難しく、自信がなくなってきた
- 自分が未熟で、面談する余裕がない
- 病院としても面談をしていないし、する時間がない

4） 研修全体の感想



2. 意見・感想（抜粋）

- 改めて自分の仕事を数値化してみると ムダが多いことに気がついた。
- 自身の管理者として強み、弱みの結果が見えた。本日の学びは明日から実践していく。
- 自分に足りてない部分を理解する事ができた。段取り力を身につけてそれを現場にも活かしたいと思っている。
- 是非明日から活用したいと思っている。
- とても聞きやすく、日頃の自分の働き方を振り返るきっかけとなった。段取り力がアップできるよう、本日の講義を参考し実践していきたいと思っている。
- 抽象化し本質を理解するというところがこころに響いた。
- 演習を踏まえての講義であり、グループワークで他施設の方との意見交換も出来たので良かった。
- 講師の先生の出された課題・事例が日常に溢れている事象で、それをまずは問題と捉える事ができていなかったように思った。日常に溢れていることを概念化でき、問題解決、業務改善、業務改革に繋げていければと考えている。
- 難しい言葉が多かったが自分で考えることもできたし、色々な方の考えも聞くことができて良かった。
- スタッフとのコミュニケーションの大切さ、皆んなで考え可視化した仕組み作りをして行く事の重要性を改めて感じた。
- 最初は難しく捉えていましたが、順だって説明を聞く事で自身頭の中の整理ができた。
- 今回の研修に参加してマネジメントに必要な能力や自分の管理者としての立ち位置を考えるきっかけになった。研修で得た知識を今後に生かして行けるよう日々トレーニングをしていこうと思っている。
- 今までは、目標面接と育成面接を切り離して考えていたが、具体的な実践方法がわかって勉強になった。
- 私も4カ月の我が子を病気で亡くし先生と同じような体験している。親近感がわき 講義で色々学べた。
- 今回の研修でたくさんの情報やテクニックを学べて研修に参加して良かった。成功例などは、すごく感動した。こんな風に出きるようになりたいと思った。

3. 研修担当者のコメント

研修の内容に対する評価の平均値は、内容の理解 3.4～3.5 目的達成 3.28～3.45 課題や方向性 3.32～3.55 実践に活用 3.35～3.48 であった。

感想・意見から、仕事を数値化することから見えてくること、日常に溢れている事象を問題と捉え概念化して問題解決・業務改善・業務改革に繋げることやスタッフとのコミュニケーションの大切さと可視化した仕組み作りをして行く事の重要性、目標面接と育成面接の具体的な実践方法がわかった等と述べられている。以上のことから、今研修の学びを現場で活かそうとする意欲と姿勢が読み取れ、受講者の今後の活躍が期待できる。

昨年の受講者数を参考に定員を50名に変更したが、定員に対する割合 9月13日 60% 11月14日 42% 11月28日 58% であった。次年度は、受講者数の増加と効果的な研修になるようにアンケート結果を踏まえた研修企画を提案したい。

3. 臨床看護研究基礎研修

研修名	臨床看護研究基礎研修	
開催日時	令和4年 5 月 16 日(月)・5 月 19 日(木)・5 月 26 日(木) 6 月 2 日(木) (2.5日間)	9:30～16:30 13:30～16:30
研修形態	集合	
参加者数	総数 34 名(4科目通して参加 21 名)、 会員 27 名 非会員 7 名 のべ:99 名	定員 各 50 名
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師	
ねらい	(1)臨床における看護研究の意義と研究的視点を学ぶ (2)看護研究の基本的知識やプロセスを学ぶ (3)看護研究の臨床への活用について学ぶ	
講師	プログラム参照	
内容	講義 ・ 演習	

1)プログラム・科目別参加者数

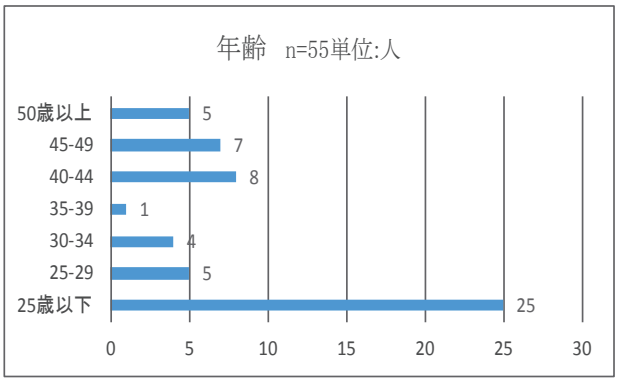
	研修名	日 程	内 容	講 師	参加者数
実研際究Ⅰの	看護研究の基礎知識	5月16日(月) 9:30～16:30	看護研究とは/テーマの探索と文献検討	高知県立大学看護学部 教授 畦地博子 准教授 高谷恭子	24
実研際究Ⅱの	研究計画の進め方	5月19日(木) 13:30～16:30	目的と研究方法の設定	高知県立大学看護学部 教授 池添志乃	26
実研際究Ⅲの	看護研究における 倫理的配慮	5月26日(木) 13:30～16:30	倫理的配慮とは/看護研究における倫理指針/倫理的配慮の実際/倫理的配慮を行うために必要な書類/倫理審査委員会	高知県立大学看護学部 教授 瓜生浩子	23
実研際究Ⅳの	看護研究論文(症例研究を含む)の書き方と発表	6月2日(木) 13:30～16:30	研究論文の種類/研究論文の構成/研究論文の作成手順/文献の活用/論文の記述/論文投稿	高知県立大学看護学部 教授 田井雅子	26

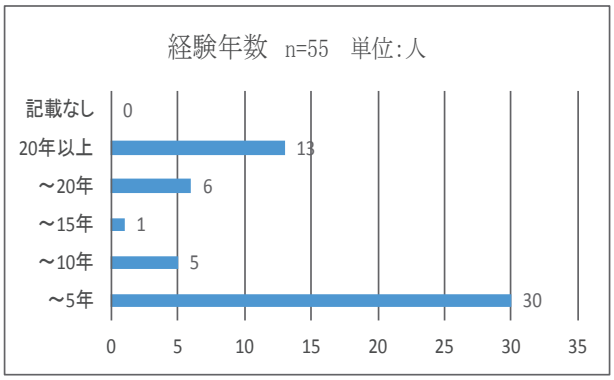
2) アンケート結果(4 科目まとめ)

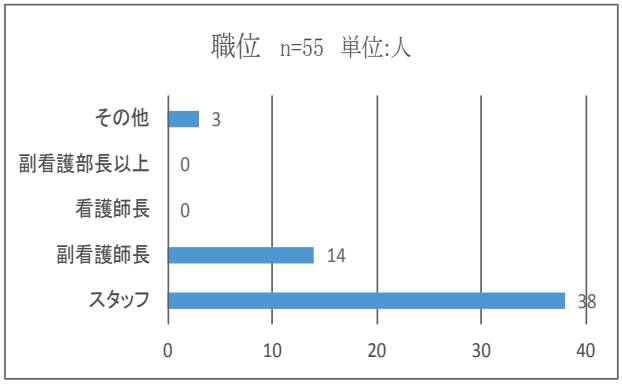
参加者数延べ 99 名 回答数 55 回答率 55.6%

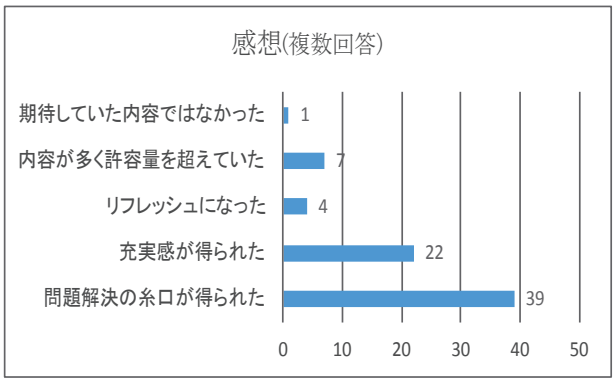
※アンケートは Google フォームを使用したオンライン上の質問と回答

(1)参加者背景



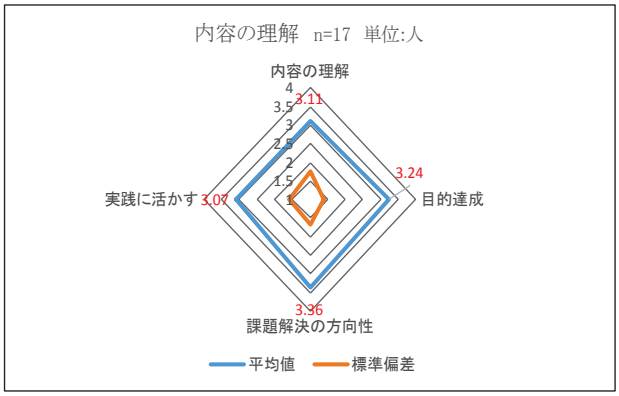




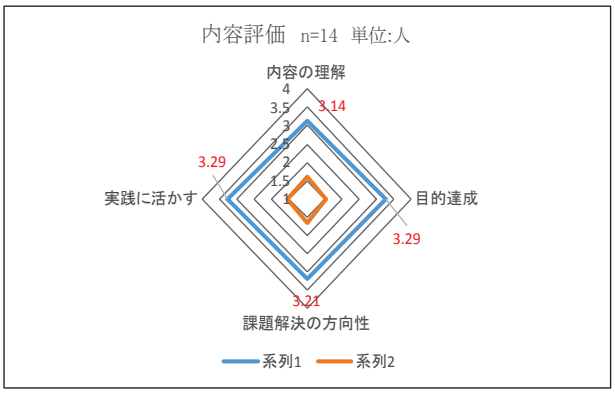


(2)科目別内容評価(4 段階)

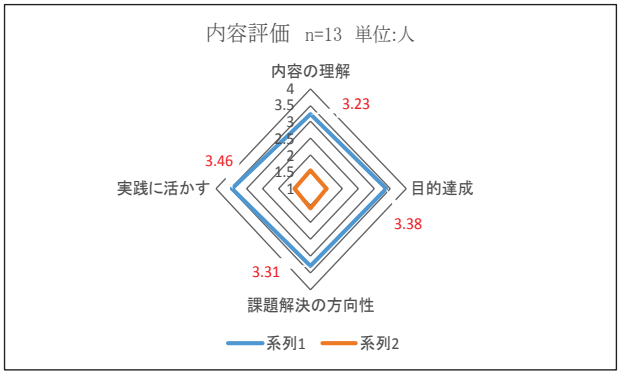
①看護研究の基礎知識



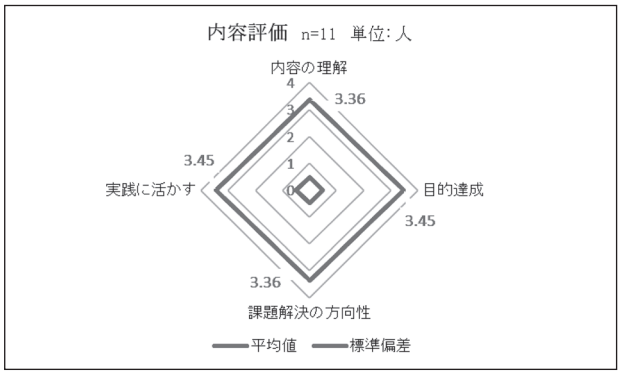
②研究計画の進め方



③看護研究における倫理的配慮



④看護研究論文の書き方



3)研修担当者コメント

科目ごとの参加者数は 23 名～26 名で総数 34 名、4 科目を通して参加した人は 21 名(61.8%)であった。延べ参加者数は 99 名。研修形態は全科目対面で、グループワークは感染対策をしながら、短時間、少人数で行った。アンケート結果から、内容評価は 4 段階中 3.1～3.4 であり、感想では問題解決の糸口が得られたと答えた人が多かった。現場の看護師が研究的視点を持つことは大切で、臨床での実践報告や研究につなげてもらえるよう今後もこの研修を企画していきたい。

4. 在宅看護研修

研修名	在宅看護研修 1) 訪問薬剤師との連携 2) 在宅看護に活かす臨床推論	
開催日 (ライブ)	1) 令和4年11月27日(日) 2) 令和5年2月4日(土)	定員 ： 30名
受講者数	1) 令和4年11月27日(日) 受講者10名 オンライン3名・集合7名 会員9名・非会員1名 2) 令和5年2月4日(土) 受講者 9名 オンライン7名・集合2名 会員3名・非会員6名	
目的	在宅療養者と家族が穏やかに日常生活を送るための看護ケアについて学び在宅看護の質の向上を図る。	
ねらい	1) 在宅療養者の状態観察力向上のために臨床推論の知識・技術を習得する。 2) 在宅看護ケア実践力向上のために訪問薬剤師の役割や支援について学ぶ。	
講師	プログラム参照	
内容 研修詳細	プログラム参照	

研修プログラム

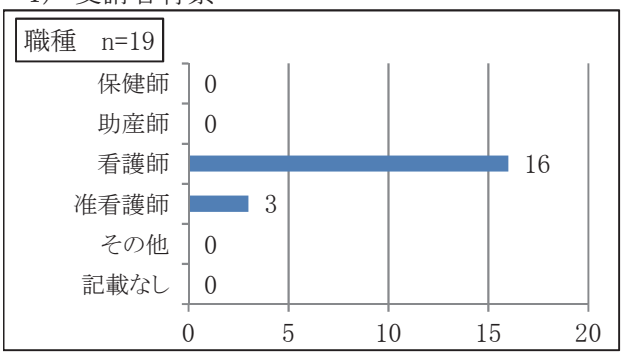
研修番号 研修名	講 師	研修内容	研修日/録画配信期間/受講方法	申込期間	受講料
訪問薬剤師との連携	ひつざん薬局 薬剤師 伊藤 悠人	① 訪問薬剤師の役割について知ろう	受講方法 録画(90分)を配信 期間内に視聴する	9月15日 ～ 10月15日	①②③ 計 5時間 (300分) 会員 2,200円 非会員 4,400円
		② 在宅で処方される薬剤について 便秘症・不眠症・認知症・糖尿病 心不全・緩和ケア	受講方法 録画(90分)を配信 期間内に視聴する		
		③ 在宅での内服治療について考えよう	令和4年11月27日(日) 13:30～15:30(120分) 受講方法 ： 集合・オンライン		
在宅看護に活かす臨床推論	高知医療センター 救急看護認定看護師 大麻 康之	① 急変トリアージ能力を高めるために必要なこと	受講方法 録画(90分)を配信 期間内に視聴する	11月15日 ～ 12月15日	①②③ 計 5時間 (300分) 会員 2,200円 非会員 4,400円
		② 臨床推論の基礎	受講方法 録画(90分)を配信 期間内に視聴する		
		③ 在宅での急変対応を実際に考えてみよう	令和5年 2月4日(土) 13:30～15:30(120分) 受講方法 ： 集合・オンライン		

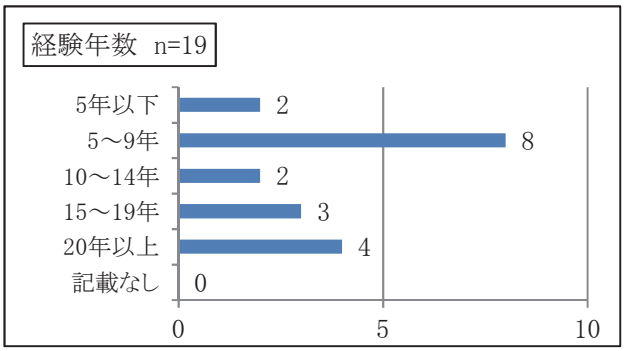
1. アンケート結果

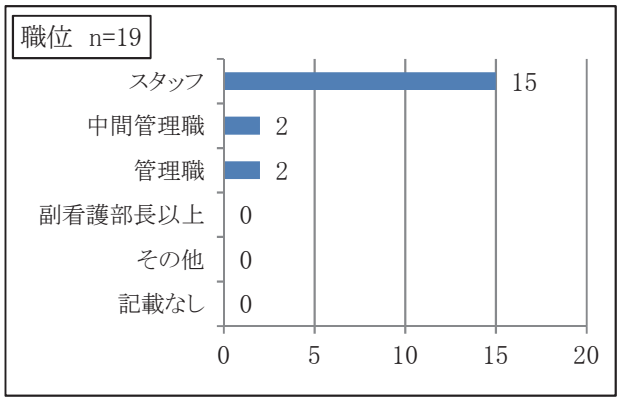
令和4年11月27日(日) アンケート回収数 10名 回収率 100%

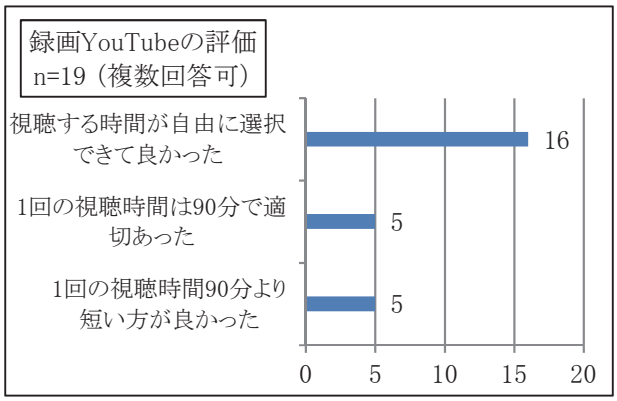
令和5年2月4日(土) アンケート回収数 9名 回収率 100%

1) 受講者背景

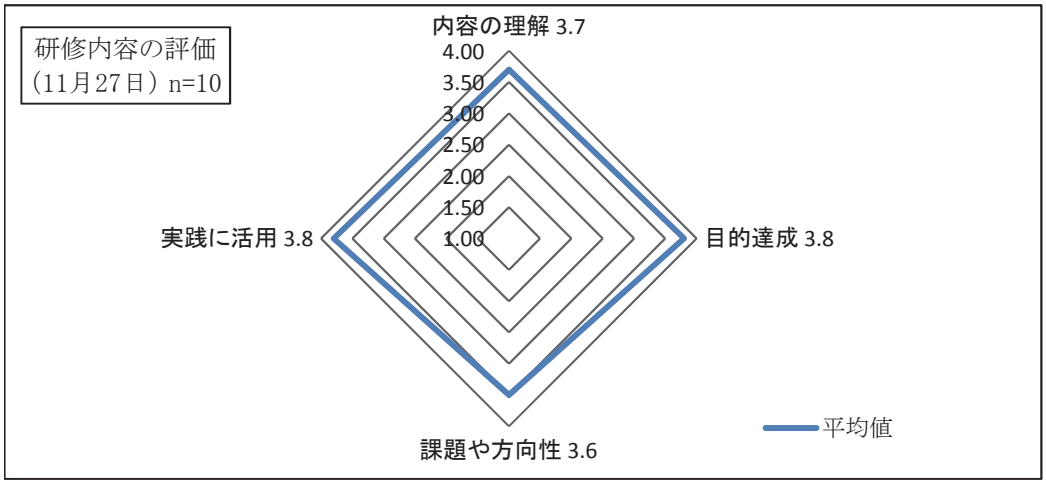


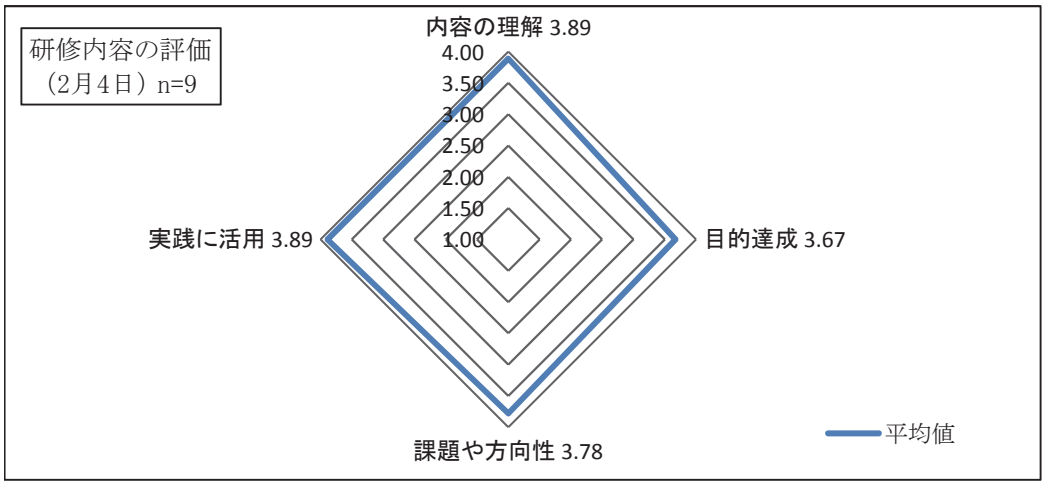


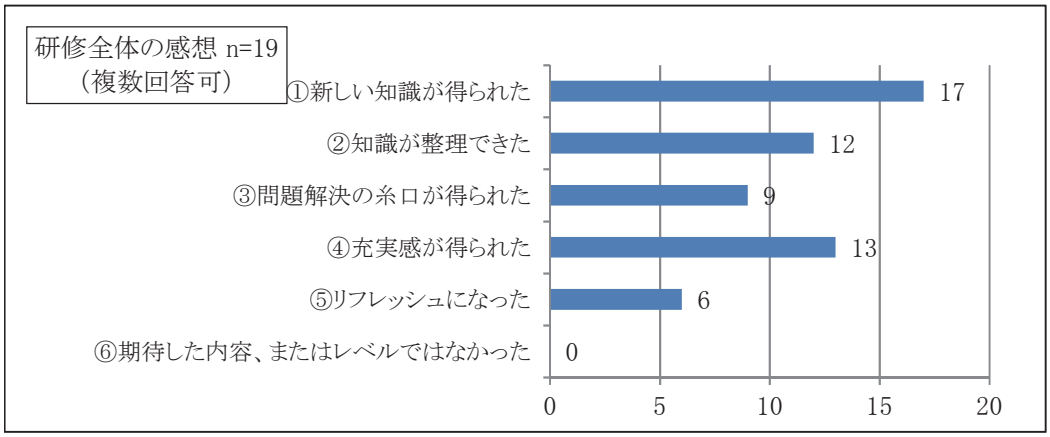

職位 n=19
スタッフ
中間管理職
管理職
副看護部長以上
その他
記載なし
15
2
2
0
0
0
0
5
10
15
20


録画YouTubeの評価
n=19（複数回答可）
視聴する時間が自由に選択できて良かった
1回の視聴時間は90分で適切あった
1回の視聴時間90分より短い方が良かった
16
5
5
0
5
10
15
20

2） 研修内容の評価


研修内容の評価
（11月27日）n=10
内容の理解 3.7
目的達成 3.8
課題や方向性 3.6
実践に活用 3.8
4.00
3.50
3.00
2.50
2.00
1.50
1.00
平均値


研修内容の評価
（2月4日）n=9
内容の理解 3.89
目的達成 3.67
課題や方向性 3.78
実践に活用 3.89
4.00
3.50
3.00
2.50
2.00
1.50
1.00
平均値


研修全体の感想 n=19
（複数回答可）
①新しい知識が得られた
②知識が整理できた
③問題解決の糸口が得られた
④充実感が得られた
⑤リフレッシュになった
⑥期待した内容、またはレベルではなかった
17
12
9
13
6
0
0
5
10
15
20

2. 意見・感想（抜粋）

- 分かりやすく、事前に資料を見たことでより理解ができた。
- 薬剤師の在宅への介入が詳しくわかり、今後退院支援をする中で、どんなところで協力が得られるか、よく理解できた。
- 専門的な話も多くてとても勉強になった。看護の実践にも生かせる学びが多く参加して良かった。
- 加算の知識が得られ、新たにサービスをつないでいけると思った。
- 映像、画像があり、とても分かり易かった。
- オランザピンの直腸内投与について知りたかったので、話しが聞けて参考になった。オピオイドによる嘔気の種類が受容体の違いで起こっていることを初めて知ることができた。適した薬剤を使えるようにアセスメントしたいと思った。
- グループワークがあったため、情報共有ができ有意義な研修でした。
- 自分で勉強しないといけない内容をまとめて詳しく教えて頂けたことに大変感謝している。明日からの看護師業務に活かして行けるようまとめて自分のものにしていきたい。
- 急変時にアセスメントすべきことが整理できた。何かおかしいと思っても偏った考えではなく複数考えられることを挙げて、何が1番当てはまるのかを考えることの必要性を学ぶことができた。
- 内容が本当にとても分かりやすくて、現場で遭遇したときにどう動けば良いのか、イメージしやすかった。
- 苦手な急変時対応を楽しく学ぶことができました。グループワークでは他のステーションの方がどんなふうに対応されているのかも具体的に知る機会を得ることができて、本当に参加して良かった。

【録画（YouTube）の視聴に対する意見・感想】

- 一回の動画時間を短くして、数回シリーズにしていただいた方が、視聴しやすいと思いました。
- 自宅での空き時間を利用して視聴出来る点が、自分の生活リズムに沿った学習が出来て良かった。
- わかりやすかった。
- いつでも視聴できるという点はとても良かった。できれば研修のギリギリ前日くらいまで視聴できるとなおありがたかった。
- 隙間時間に視聴できたので良かった。
- 視聴期間内に再確認できるのと、内容を聞き研修を聞くことができるので理解し易かった。
- 自分の時間で見れたので研修に申し込み易かった。

3. 研修担当者のコメント

初めてのYouTubeを使用しての研修であった。動画視聴の意見・感想では、「視聴期間内に再確認できる」「自分の生活リズムに沿った学習ができた」等であり、概ね効果的な研修方法であることが分かった。

研修の内容の評価は、①内容の理解度の平均値　3.7と3.89　②目標達成の平均値　3.8と3.67　③課題や方向性の平均値　3.6と3.78　④実践に活用の平均値　3.8と3.89　であり、参加者の満足度は高いことが伺える。

意見・感想には、「薬剤師の在宅への介入が詳しくわかり、今後退院支援をする中で、どんなところで協力が得られるかよく理解できた」「看護の実践にも生かせる学びが多く参加して良かった」「苦手な急変時対応を楽しく学ぶことができました」等の記載があり、研修のねらいを達成でき、また受講生が今後の臨床の場で活かしていける内容であったと考える。

参加者数が定員の30～33.3％と低値であり、広報の方法を工夫して受講者を増やすことが課題である。

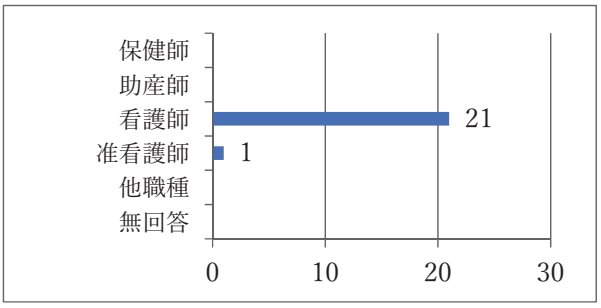
5. 高齢者の終末期看護エンド・オブ・ライフケア

研修名	ELNEC-JG 看護師教育プログラム		
開催日時	① 令和4年9月 24 日(土) ② 9月 25 日(日)	時間	① 9:00～16:50 ② 9:00～15:45
受講者数	受講者 24 名(会員 21 名 非会員 3 名)	定員 30 名	
ねらい	高齢者ケアに携わる看護師を対象に、高齢者に特化したエンド・オブ・ライフケアの知識とスキルを獲得し、高齢者のニーズに対応できる人材を育成する。		
講師	社会医療法人近森会 統括看護部長 老人看護専門看護師 岡本充子 有馬温泉病院 看護部長 老人看護専門看護師 西山みどり 日本赤十字社 高槻赤十字病院 訪問看護 原田かおる 愛媛大学医学部附属病院 曽根司央子		
内容 (キーワード)	エンド・オブ・ライフケア・人生会議・多職種連携	講義・演習	

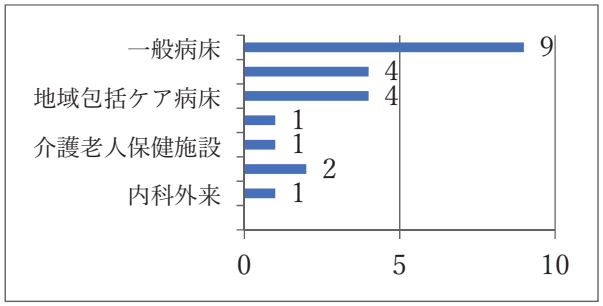
受講者: 24 名 アンケート回収: 1日目 22 名 アンケート回収率 91.7 %

1.アンケート結果

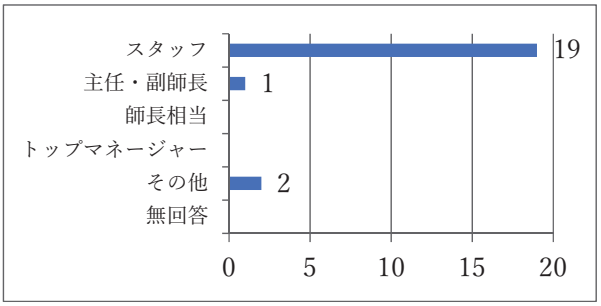
1) 職名



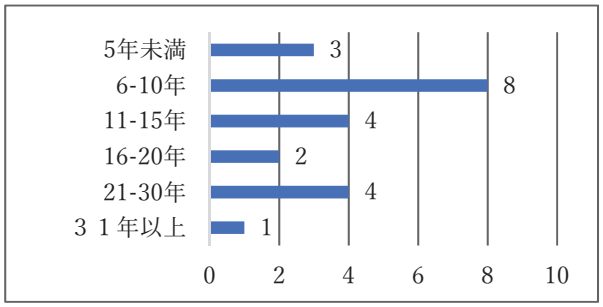
2) 所属



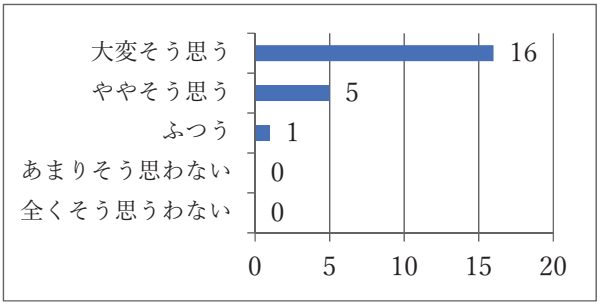
3) 職位



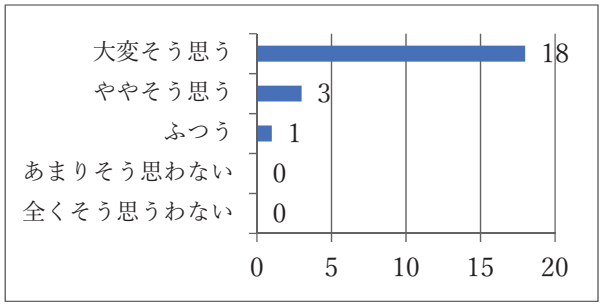
4) 高齢者ケアの経験年数



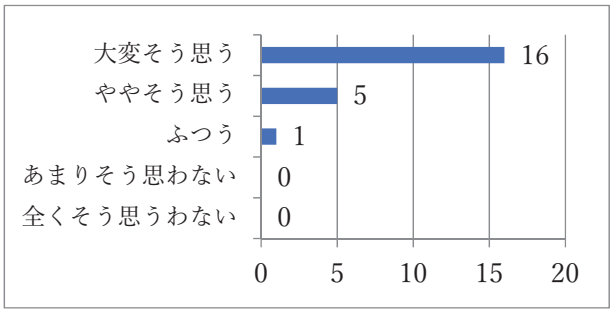
5) EOL の重要性の理解



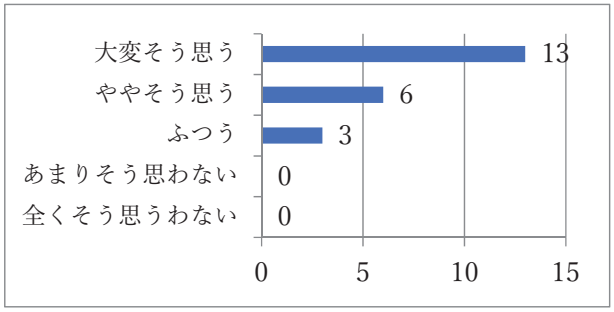
6) 参加目的の満足度



7) 今後の職場での活用度



8)プログラムは自施設の EOL の状況にあっているか



2.研修全体を通した感想

・とても理解しやすい内容でした。現場では、このケアでいいのか、十分に関わりを持てなかった等、多々思うことがあります。カンファレンスを通してケアについて振り返りの機会を積極的に持つことの重要性を再認識しました。

・この研修を通して率直に思うのは、後輩たちともっとコミュニケーションを取り、高齢者ケアについて考え、気づきに繋げられるよう日々関わりたいと思います。文化的な側面、倫理的な問題など様々な背景に寄り添いを持つことで、更にケアが意味あるものになるという事を学びました。ありがとうございました。

・どの講義も分かりやすく、資料も見やすかったです。講師の方もユーモアがあり、退屈せずに講義を受けることができました。グループワークではファシリテーターがどんどん進めてくれたので、意見も言いやすく効果的なグループワークでした。

・2日間ほんとに勉強になりました。聞きなれない言葉もありましたが、エンド・オブ・ライフケアや ACP、倫理などは看護師の永遠のテーマであるので、この研修を今後に活かしていきたいです。又、このような研修があれば参加したいです。

・数年前に同僚がこの研修を受けて、考え方が変わったという事があったので、以前から受けてみたいと思っていました。本当にこの研修を受けられて良かったです。漠然としたケアではなく、エビデンスに添い、意味のあるケアを実践します。

・演習、グループワークが充実していた。モジュール別に組み立てられ系統立て学ぶことができた。他者の意見や価値観を聞くことが自分の振り返りになった。タイムスケジュールが良かった。講師の先生方の実体験が参考になり、分かりやすかった。

・モジュールの時間での内容が多く理解が追い付かない所がありましたが、久しぶりのグループワークで楽しかったです。

・座学に加え、グループワークをすることで、自分とは違う視点からの意見をたくさん聞くことができて、とても刺激になりました。

3.研修担当者コメント

・高齢者の終末期ケアに関する研修を、ELNEC-JG 看護師研修プログラムを活用して開催した。新型コロナウイルス感染拡大第7波が少し落ち着いた時期の募集であったが、やむを得ずキャンセルをされた施設もあった。次年度も企画し、県内の医療機関のみならず高齢者施設、老人保健施設、在宅医療機関など幅広い分野の方が受講できるように働きかけていきたい。アンケートでは、2日間、終末期ケアについて様々な視点から学び、演習を通して更に学びが深まったとのコメントが多くみられた。

Ⅱ．認定看護管理者教育課程

1．認定看護管理者教育課程

研修名	セカンドレベル	
開催日時	令和4年5月13日(金)～12月17日(土) 32 日間(実習予備日 1 日含)	時間 9:30～16:30
受講者数	43名 (会員43名 非会員0)	定員 40名
修了者数	43名	
研修形態	分散方式	講義 ・ 演習
授業形態	対面、遠隔、ハイブリッドの混合	
教育理念	多様なヘルスケアニーズを持つ個人・家族・地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、一定の基準に基づいた看護管理者を育成する。	
教育目的	看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。	
到達目標	1. 組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。 2. 保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。	
受講要件	1.日本国の看護師免許を有する者。 2.看護師免許を取得後、実務経験が通算 5 年以上ある者。 3.認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了している者。 または看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当※の職位に 1 年以上就いている者。※副看護部長相当の職位とは、保健医療福祉に関連した組織において、看護管理を行う立場を指す。	

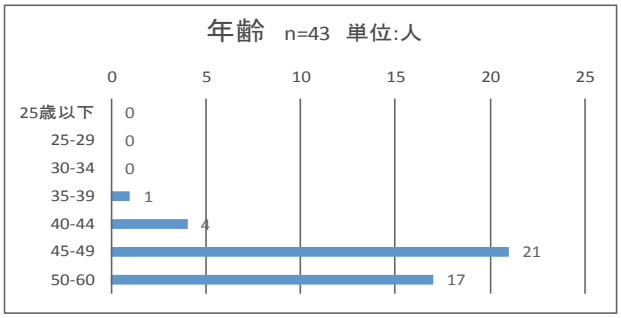
1)プログラム

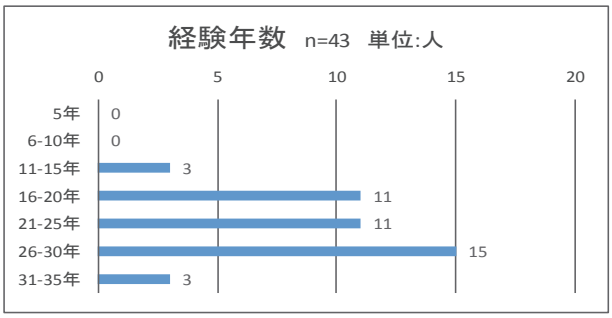
教科目	単元	教育内容	時間数	研修日	講師
高知県看護協会科目	認定看護管理者とは	・ 認定看護管理者教育課程のカリキュラム構成 ・ 認定看護管理者に求められるもの ・ 病院看護実態調査から見た現状と課題	1.5	5月13日(金) 9:30～12:30	高知医療センター 看護局長 田鍋 雅子 (認定看護管理者)
オリエンテーション			1.5		研修担当者
実施時間数(3)					
論文・レポートの書き方		・ 概念化 ・ 論理的思考 ・ 文献の活用 ・ レポート作成	3	5月14日(土) 13:30～16:30	高知県立大学看護学部 准教授 内川 洋子
実施時間数(3)					
ヘルスケアシステム論Ⅱ	社会保障制度の現状と課題	・ 日本における社会保障 人口構造、疾病構造の変化 社会保障費の(財源)構造と推移	6	5月29日(日) 9:30～16:30	関東学院大学看護学部 教授 日本看護協会 副会長 齋藤 訓子
	保健医療福祉サービスの現状と課題	・ 保健医療福祉サービスの提供内容の実際 病院、看護小規模多機能型居宅介護、 訪問看護ステーション等	6	5月27日(金) 9:30～16:30	高知県立大学看護学部 教授 森下 安子
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	・ 多職種によるチームケア提供の実際と課題	3	5月28日(土) 9:30～12:30	高知県立大学看護学部 教授 森下 安子
実施時間数(15)					
組織管理論Ⅱ	組織マネジメントの実際	・ 看護管理論	3	5月14日(土) 9:30～12:30	高知大学医学部看護学科 教授 森木 妙子 (認定看護管理者)
		・ 組織分析	12	6月9日(木) 9:30～16:30 6月10日(金) 9:30～16:30	高知県立大学看護学部 教授 山田 覚
			6	6月11日(土) 9:30～16:30	高知赤十字病院 前看護部長 吉永 恵子 (認定看護管理者)
		・ 組織の変革 ・ 組織の意思決定	3	6月22日(水) 9:30～12:30	社会医療法人近森会 統括看護部長 岡本充子 (老人看護専門看護師)
	看護管理における倫理	・ 看護管理における倫理的課題 ・ 看護管理における倫理的意思決定	6	6月23日(木) 9:30～16:30	社会医療法人仁生会 細木病院 看護部長 豊田 邦江 (がん看護専門看護師)
実施時間数(30)					

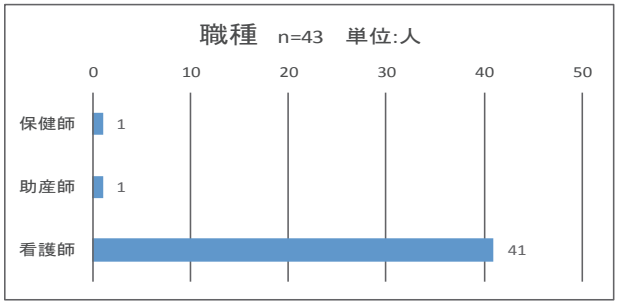
教科目	単元	教育内容	時間数	研修日	講師
人材管理Ⅱ	人事・労務管理	・ 人員配置 ・ 勤務計画	6	7月23日（土） 9：30～16：30	幡多けんみん病院 看護部長　横山　理恵 （認定看護管理者）
		・ ワークライフバランスの推進 ・ タイムマネジメント	3	7月24日（日） 9：30～16：30	明和会医療福祉センター 法人本部人事主幹 竹中　君夫
		・ 労働災害とその対策 ・ 労務管理に関する今日的課題	3		
		・ ストレスマネジメント ・ ハラスメント予防策と対応	6	7月7日（木） 9：30～16：30	医療法人防治会　いずみの病院 看護部長　松岡　和江 （認定看護管理者）
人材管理Ⅱ	多職種チームのマネジメント	・ 人的資源の活用 ・ 看護補助者の育成	6	7月8日（金） 9：30～16：30	医療法人おくら会　芸西病院 看護部長　角谷　広子 （認定看護管理者）
		・ リーダーシップの実際	6	8月5日（金） 9：30～16：30	医療法人おくら会　芸西病院 看護部長　角谷　広子 （認定看護管理者）
		・ コンフリクトマネジメント	6	9月3日（土） 9：30～16：30	高知学園短期大学看護学科 非常勤講師　岡本　眞知子
	人材を育てるマネジメント	・ キャリア開発支援 ・ 人材育成計画	9	8月19日（金） 9：30～12：30 8月20日（土） 9：30～16：30	近森病院附属看護学校 副学校長　平瀬　節子 （認定看護管理者）
実施時間数（45）					
資源管理Ⅱ	経営資源と管理の実際	・ 医業収支 ・ 経営指標の活用 ・ 費用対効果	3	8月19日（金） 13：30～16：30	社会医療法人仁生会　細木病院 企画課　課長　門田　紘和
		・ 適切な療養環境の整備	3	9月2日（金） 9：30～12：30	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター 看護局長　田鍋　雅子 （認定看護管理者）
	看護管理における情報管理	・ 看護の評価 ・ 改善のための情報活用	9	9月2日（金） 13：30～16：30 9月30日（金） 9：30～16：30	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター 看護局長　田鍋　雅子 （認定看護管理者）
実施時間数（15）					
質管理Ⅱ	看護サービスの質保証	・ クオリティマネジメント 医療・看護におけるクオリティマネジメント	12	9月15日（木） 9：30～16：30 9月16日（金） 9：30～16：30	高知大学医学部附属病院 看護部長　多田　邦子 （認定看護管理者）
	安全管理	【医療安全】 ・ 安全管理の実際 ・ 安全管理教育 ・ 法令遵守	6	10月26日（水） 9：30～16：30	高知赤十字病院 看護部長　小松　ゆり （認定看護管理者）
		【感染管理】 ・ 感染管理の実際 ・ 感染管理教育 ・ 法令遵守	6	10月15日（土） 9：30～16：30	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター 看護科長　西川　美千代 （感染管理認定看護師）
		・ 災害対策	6	10月27日（木） 9：30～16：30	高知県立大学看護学部 教授　竹崎　久美子
実施時間数（30）					
統合演習Ⅱ	演習	・ 自部署の組織分析に基づいた実践可能な改善計画を立案する。	36	講義 6月16日（木） 9：30～16：30 個別指導 1回目 8月6日（土） 9：30～16：30 2回目 8月27日（土） 9：30～16：30 3回目 9月23日（金） 9月24日（土）※ 9：30～16：30 4回目 10月22日（土） 9：30～16：30 実践計画発表 12月17日（土） 9：30～16：30	講師 高知県立大学看護学部 教授　山田　覚 講師 高知県立大学看護学部 教授　山田　覚 四国大学看護学部 教授　池田恵美子 （認定看護管理者） 高知県立大学看護学部 准教授　内川　洋子 高知大学医学部附属病院 副看護部長　原田　千枝 （認定看護管理者） 高知大学医学部看護学科 教授　森木妙子 （認定看護管理者）
	実習	・ 地域連携を理解するための他施設実習を行う。 （実習施設は、受講者自身の所属種別以外の施設とする）	9	7～8月現地実習 実習予備日 8月11日（木） 9：30～16：30 振返り 9月17日（土） 9：30～12：30	高知県看護協会 顧問　宮井　千恵
実施時間数（45）					

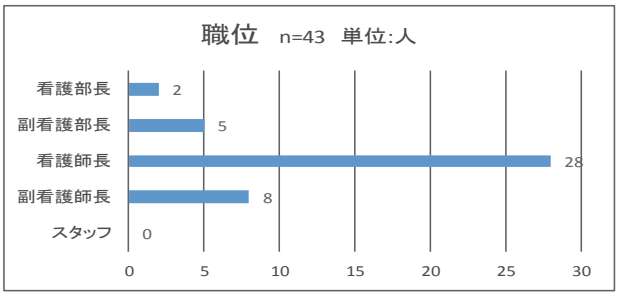
総時間数＜183＞

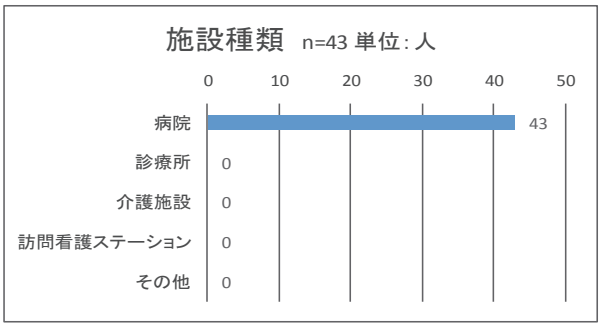
2)受講者背景

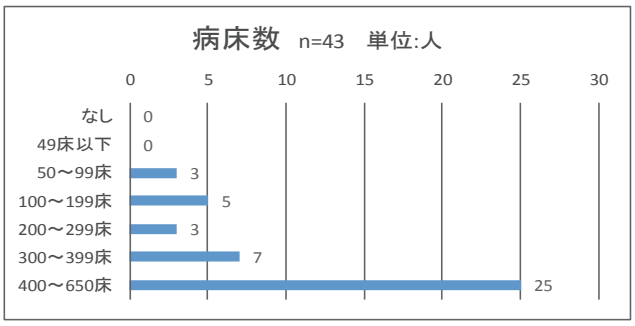












3)アンケート結果

(1)科目別内容評価(平均)

	論文・レポートの書き方		ヘルスケアシステム論Ⅱ		組織管理論Ⅱ		人材管理Ⅱ	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
内容の理解	3.30	0.46	3.67	0.47	3.57	0.52	3.76	0.44
目的達成	3.27	0.49	3.67	0.47	3.59	0.51	3.74	0.45
実践に活かす	3.55	0.50	3.79	0.43	3.69	0.46	3.83	0.38
課題解決の方向性	3.45	0.50	3.63	0.48	3.59	0.49	3.76	0.42

	資源管理Ⅱ		質管理Ⅱ		実習振返り		看護管理実践計画発表	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
内容の理解	3.41	0.64	3.91	0.29	3.89	0.38	3.95	0.21
目的達成	3.46	0.61	3.89	0.31	3.86	0.40	3.95	0.21
実践に活かす	3.59	0.52	3.94	0.24	3.95	0.21	3.98	0.15
課題解決の方向性	3.48	0.56	3.88	0.32	3.91	0.36	3.95	0.21

※アンケートは、グーグルフォームを使用し、4段階評価で行った。
評価指標(4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:余りそう思わない 1:全くそう思わない)

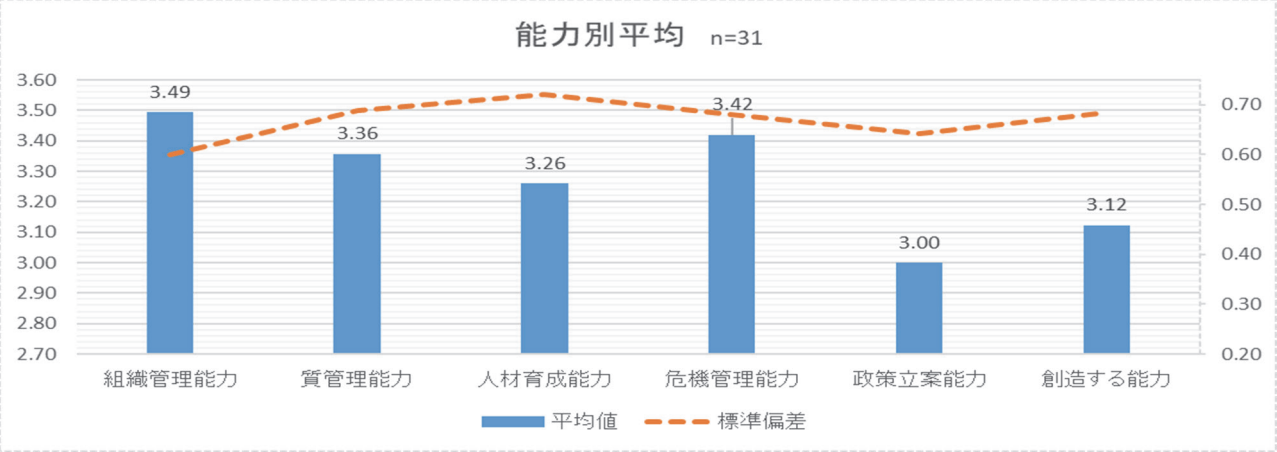
(2)研修終了後のアンケート

アンケート実施期間:令和 4 年 11 月 22 日(火)～11 月 30 日(水)

※アンケートは Google フォームを使用したオンライン上の質問と回答

受講者数:43 名、回答数:31、回答率:72.1%

①研修で学んだことを、それぞれの立場で、今後どの程度役立てられると思うか(22 項目)。



※指標(4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:余りそう思わない 1:全くそう思わない)

②看護管理実践計画を実行するにあたり、施設・部署のフォローアップ体制について

・看護部・自部署、委員会など協力的で、支援も得られ計画を進めることができている(17 名)。

・これまで、顔の見える関係ではなかった他職種・他部門と連絡・調整等できるようになった(3 名)。

・上司は自発的な提案を寛容に受け入れてくれるが、助言はなく、自発性を求められていると感じる。

・施設のトップが納得する計画を立てることが必要になると再認識した。

・自部署・他部署とも協力が得られるように、実施後のデータを共有しながら改善していく。

③今後の認定看護管理者研修に役立てるための意見

・他施設実習が新鮮で勉強になった。

・高知県内で管理者研修が修了できるようになればよい。

・計画を実施後どう変化したか発表の機会があればよい。

・対面での授業形態が望ましいと思った。遠隔だとグループワークでやりにくさがあった。
また、統合演習Ⅱの個別指導は対面の方が指導を受けやすいのではと感じた。

・コロナ禍で、対面では参加ができない状況になっていく中、遠隔による開催は本当に助かった。

4)研修担当者コメント

セカンドレベルは、前回開催から 4 年目の開催となり 43 名が修了した。授業形態は対面としていたが、新型コロナウイルス感染拡大により、全課程 32 日中(実習予備日含)遠隔は 19 日(59.4%)、それ以外の 13 日(40.6%)はほぼハイブリッド開催となった。また今回から、カリキュラムに地域での他施設実習があったが、実習が実施できた者は 24 名(55.8%)で、実施できなかった者は 18 名(41.9%)であり、「地域包括ケアシステムにおける多職種連携」の講義を受けた。(欠席 1 名)。

アンケート結果から、各教科目の内容評価は高く、ばらつきも小さかった。特に看護管理実践計画書発表における内容評価は高く、有意義な発表会であった。研修終了後のアンケート(22 項目)の結果を能力別平均値でみると、「組織管理能力」「危機管理能力」が高く、「政策立案能力(医療の動向を踏まえ、制度改正などへの対応を事前に準備することができる)」と、「創造する能力(地域に共通の保健医療福祉サービスの課題を想定し、課題解決に向け調整することができる等)」が低かった。これらは、受講者の職位や役割などが関係していると思われる。

受講者は自分自身のキャリアアップや、組織の役割を担い本研修を受講しており、今後組織の中で看護管理者として能力を発揮し、実践的な行動につなげてくれることを期待している。

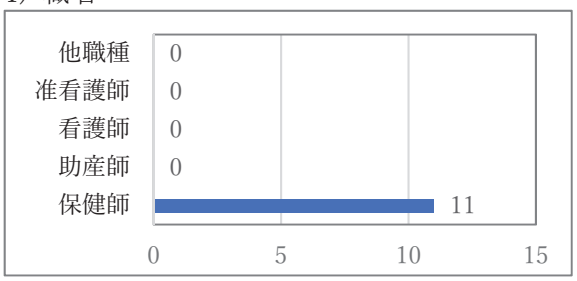
Ⅲ．職能委員会主催研修

1. 保健師職能委員会

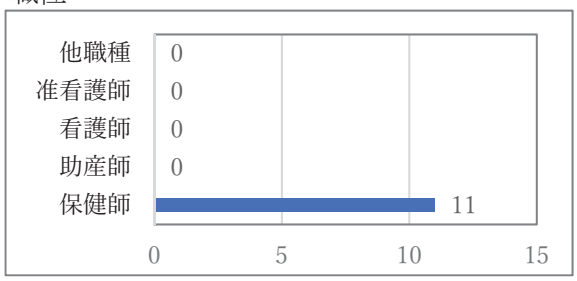
研修名	1） 新任期保健師交流会	
開催日時	令和4年12月11日（日）	時間 13:00～14:30
会場	幡多会場（大方ふるさと総合センター） 高知会場（高知県看護協会）の2か所を Zoom で配信	
参加者数	11 名（会員:0 名 非会員:11 名） 幡多会場 6名 高知会場 5名	定員 20 名
ねらい	①新任期保健師の交流を深め、今後の相互の学びの機会につなげる ②看護協会の魅力を伝え、入会促進につなげる	
体験提供者	永森 萌美（須崎保健所）	
内容 （キーワード）	新人保健師 交流 リフレッシュ	意見交換

1.アンケート結果　　出席者:11 名　アンケート回収:11 名　アンケート回収率:100%

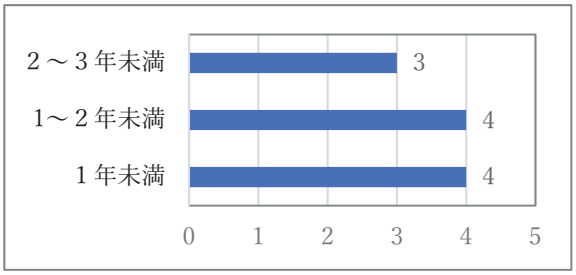
1）職名



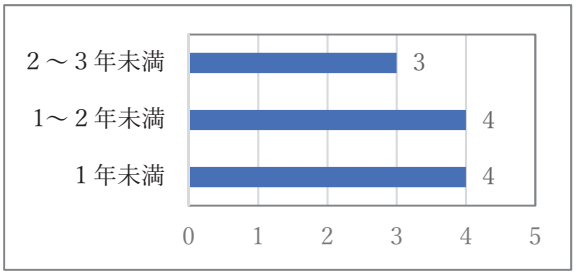
2）職位



3）経験年数



4）研修内容の理解度



5） 今後頑張ってみたいこと

・住民さんが困ったときや不安な時に思い出してもらえるような保健師になりたいです。
・いろんな視点で気づきができるようにしていきたい。
・自分の職場だけでなく、他の市、保健所とも交流していきたいなあと思いました。
・データヘルス計画に照らし合わせた現在の保健事業の見直し。
・自分のなりたい保健師になれるよう、小さいことからコツコツ取り組んでいきたいと思います。
・知識の習得、メンタル強化をしていきたい。

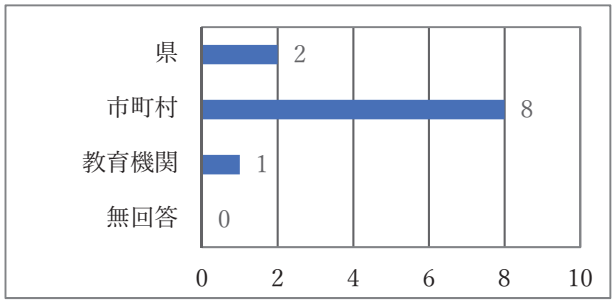
2.担当者のコメント

高知会場、幡多会場とも、同期の人や日頃の仕事から慣れている人もいたが、あらためて自己紹介を行い、笑いや雑談も交え、お互いの人柄をより知り合えた交流会となった。今後、長く保健師をしていく中で、相談しあい、助けあい、大変なことも一緒に乗り越えていく仲間たちとなると考える。コロナ禍の中、新人さんたちが交流できない日々が続いたが、今回、交流会をもつことができ「いい仲間たちといい時間を過ごした」、と新人さんが振り返ることができれば良いと感じた。

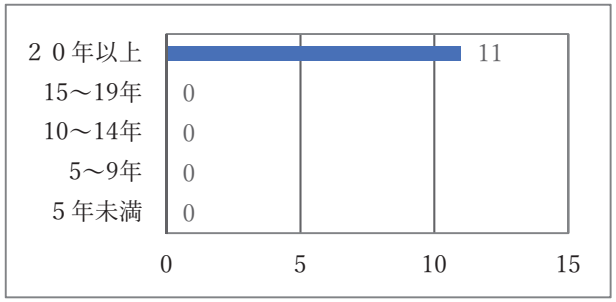
研修名	2）保健師の経験を成長につなぐ ～「みんなで育ちあう事例検討」研修の経験をとおして～	
開催日時	令和５年２月５日（日）	時間　13:00～16:00
参加者数	12 名（会員:9 名　非会員:3 名）	定員　20 名
ねらい	事例検討の場面を人材育成の場面として捉え、現場の保健師が育ちあう機能やその効果等についての学ぶ機会とする。また、その機会を通して保健師間のネットワークの構築を図る。	
講師	高知県立大学看護学部　講師　　川本　美香 高知県立大学看護学部　助教　　坂元　綾 須崎市役所健康推進課　保健師　西本　美公子	
内容 （キーワード）	事例検討　人材育成　OJT　統括保健師	話題提供・意見交換

1.アンケート結果　　出席者:12 名　　アンケート回収:11 名　アンケート回収率:91.7%

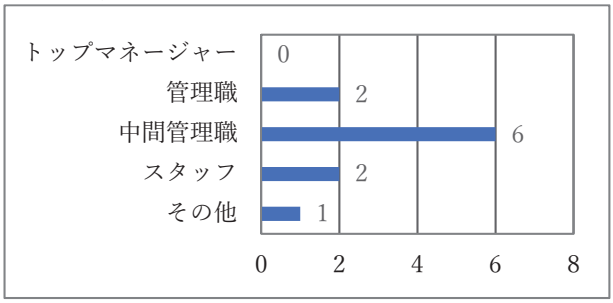
1）勤務先



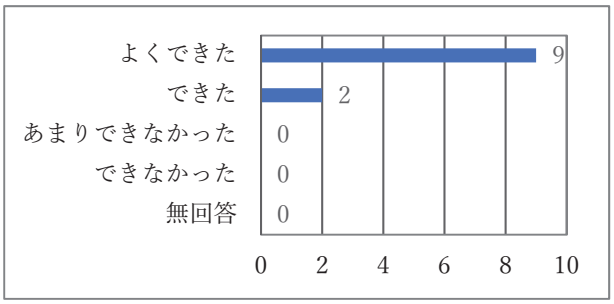
2）経験年数



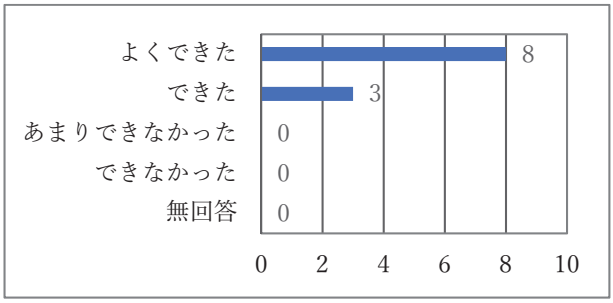
3）職位



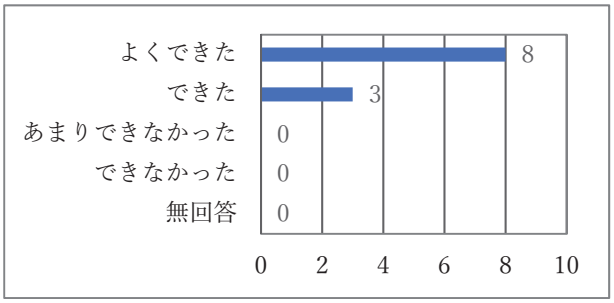
4）研修内容の理解度



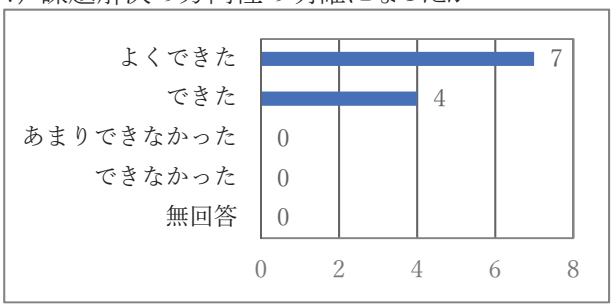
5）参加目的の達成度

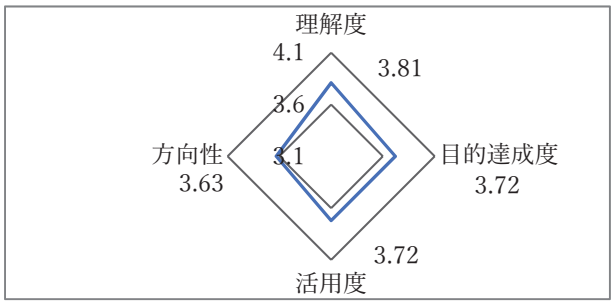


6）今後の活動に活用できるか

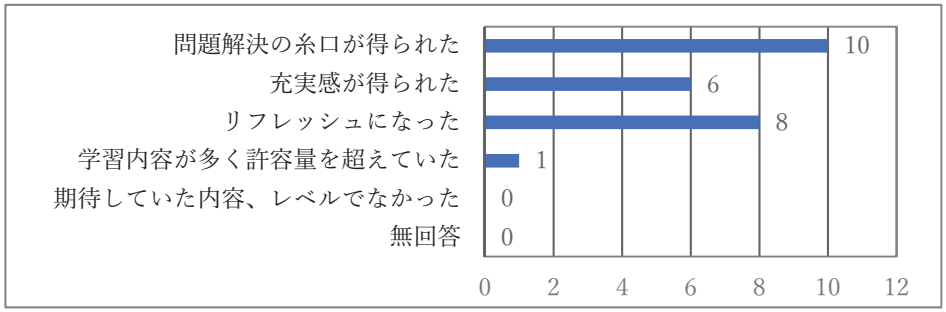


7）課題解決の方向性の明確になったか

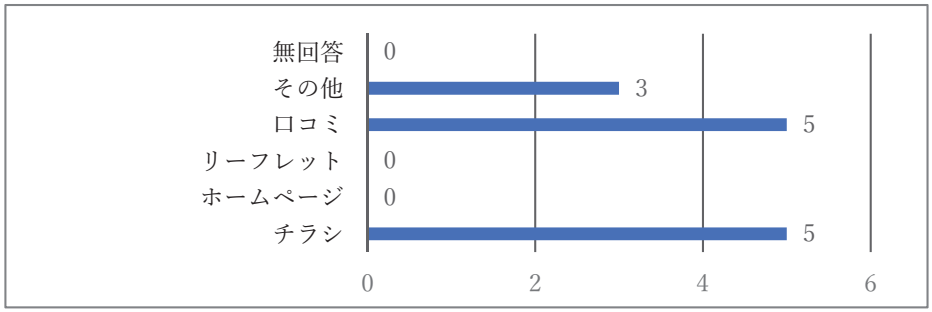




8）研修全体を通した感想



9）この研修を何で知ったか（複数回答）



10）研修終了後現場でどのように活用できるか

・事例検討の効果を学んだ。すぐに実践は難しいと思うが、後輩の保健師とケースを語ることから始めたい。後輩の保健師の思いを引き出すこと、気づかせることなど、難しいと思うが取り組んでいきたいと思う。

・語らいの場の必要性を感じた。研修会の報告などもとりいれたい。漢方薬のようにじんわりやっていきたい。急に取り入れようとしても難しいから。

・日々の業務の中で少しずつ出来たら良いので、語り合う時間を意識して作ろうと思いました。

・保健師の他のメンバーとの育ち合いに活かしていきたい。

・現状の再点検。

・保健師の人材育成として事例検討会の開催について協議する。

・保健指導ミーティングの事例検討が、保健師に与える影響について整理でき、その事を皆に情報提供できる。

・日常の中で言語化し語ってもらうことを意識した関わりを行っていきたい。

・保健師が語り合える場の設定、確保をする。

2.意見、感想

・保健師の人材育成の再スタートができたと感慨深いものがありました。職能委員の皆様、先生方、これからもよろしくお願いいたします。

・各市町村、県等悩みはおなじだと思いほっとしました。相談しながらやっていけたらと思いました。
・コロナで web 研修が多くなっていますが、やっぱり集合研修の方が、色々な人に会えて元気がもらえると思いました。
・研修機会があることは大変重要です。今回の企画に感謝いたします。次回の企画を楽しみしています。
・保健師職能委員会が取り組んできた事例検討会の意義や効果などを紐解き説明していただきありがとうございました。ストンと落ちました。
・「何のために」が具体的になれば、そのために必要な能力が明確になると思うので、そういった視点での整理も今後やっていきたいと思いました。
・久しぶりに業務以外の話題で皆さんのご意見を聞くことができて元気が出ました。
・本日の 4 人の報告が全てつながっており、この方法を継続していく根拠となりました。
・実践の振り返りができ、後押しとなった。 保健師のコア機能について考え、保健師同士が振り返り語り合うなど、言語化していくことが教訓や応用などの理論的枠組みの中で位置づけ、フィードバックし継続していくことが専門性を発展させ、継承のためにも必要なことだと感じた。

3.担当者のコメント

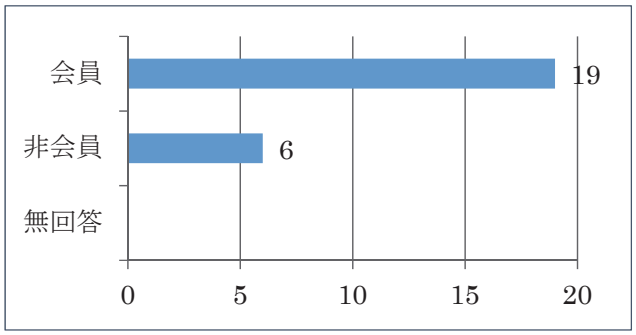
各圏域から複数名の参加があったことによって、各現場で少しずつ保健師が育ちあう取り組みが広がっていくのではないかと期待する。アンケートからも、すぐには事例検討の場を持つことはできないかもしれないけれど、意識して話し合える場を作っていこうという意見が多かったことから、研修のねらいは一定達成できたのではないかと思う。今後も人材育成をテーマとする研修企画を検討していきたい。

2. 助産師職能委員会

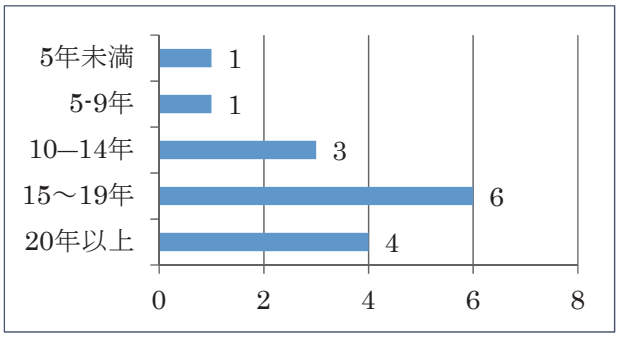
研修名	1)産後ケアを語ろう	
開催日時	令和 4 年　10 月　　26 日(　土曜日)	時間　10:00～12:00
受講者数	25 名　(会員:19 名　・非会員:6 名　)	定員　30　　名
ねらい	産後ケア事業に関連する話題提供により、高知市・高知県内での産後ケアの実際を共有し、それぞれの助産師がおかれた場所で役割をどのように発揮していくか、また助産師間・他職種とどのように連携していく、あるいは現状における課題等について意見交換を行う。これらを通して、施設・地域をこえた助産師のつながりを深め、今後の助産師活動の発展にむけたヒントを得る機会とする。	
話題提供	高知県看護協会助産師職能理事:嶋岡暢希 高知県助産師会会長:浜口理恵 高知市母子保健課係長:小松千穂	
内容(キーワード)	助産師職能　産後ケア事業 子育て世代包括支援　連携	講義・演習

1. アンケート結果　　回答数 15 名　　回収率　60%

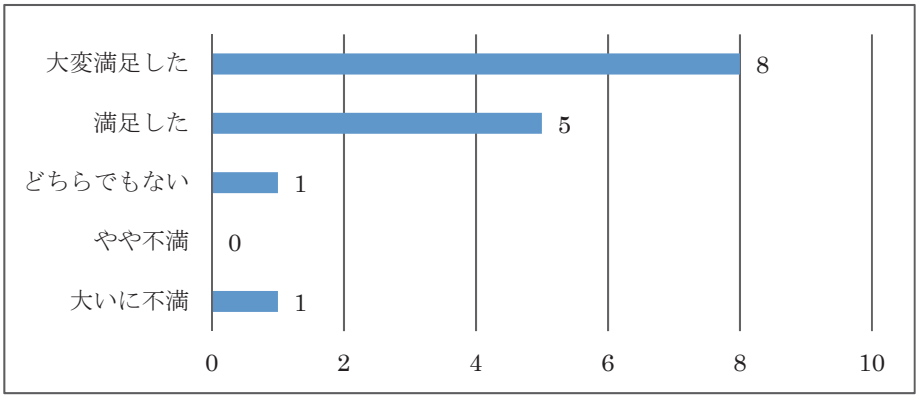
1)会員の有無



2)経験年数



3)今回の交流会の満足度について



3-1)満足度の理由について(11 件の回答)

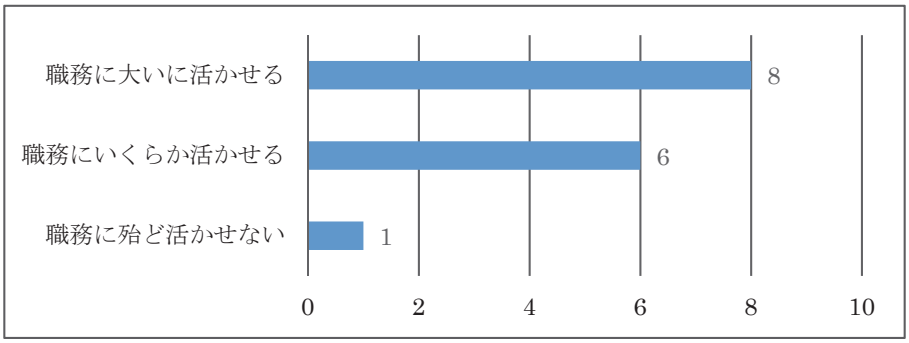
・新しい産後ケアについて学ぶことができた

・産後ケアについて考えるきっかけとなった

・産後ケアの必要性は感じていたが、現状や具体的な申請方法等聞くことが出来て保健指導時に伝えやすくなりました。

・産後ケアの話が聞けて、大変勉強になりました。少しの時間でしたが、助産師同士が顔の見える会ができて、本当に良かったです。
・開業助産師さんとお話ができたことが、役に立ちました。
・地域の助産師活動を紹介できて良かったです。
・高知市の話もあり、行政への質問なども対応していただけて良かったと思います。
・産後ケアについてがテーマであれば、なぜ一施設の開設者のみ話す機会が与えられる会だったのか、話題提供するのが一施設だとしても事前に、各施設のリーフレット等も持参して良い等の声かけが欲しかったです。シンポジウム形式にするとかもっと方法があると思います。
・産後ケアに特化したお話を、いろいろなお立場での話を伺うことが出来てイメージングできました。また、久しぶりの対面での会だったので、近況やお願いしたいこと、聞いておきたいことなど隙間で顔を合・わせて話すことが出来て嬉しかったです。
・産後ケアについて知見が深まった　グループでの意見交換がなかったので残念でした
・交流があまりとれなかった。

4）職務への活用性について



4-1）職務への活用性についての理由（9 件の回答）
・産前産後に関わり話を具体的にできる。
・行政に入って仕事している中で、地域にいる助産師さんと行政の橋渡しや助産師さんとお母さんとご家族の橋渡しができればと思いました。
・病院の方と情報交換できて良かったです。
・はぐあすの詳しい話がきけて良かった
・グループでもっと話せる時間が欲しかったです。地域と施設の助産師がお互いに顔を合わせる機会は連携につながっていくと思うのでこのような機会はありがたいです。
・自分の中で母子に関わる上でのスタンスを整理出来たように思います。
・産後ケア実施市町村の対象者が少ない
・産後ケアを紹介

5）意見・感想（9 件の回答）
・実りある学習になりました
・リモートで参加したんですが、会場の様子なども見れるようにパソコンを一台設置してもらえるといいかなと思いました。
・久しぶりに、たくさんの助産師の顔が見えて嬉しかったです。ありがとうございました。
・リアルな会に参加できて嬉しいです
・久々に皆さんに会えて嬉しかったです。

・一施設のプロモーションにつながるような会ではなく、公平に情報交換につながるような会にしていただきたかったと思います。ただ交流会自体の意義はあると思いますので、今後も企画していただけたらと思います。
・交流会と銘打っているので、知らない方とも少し交流できたら良かったとは思いますが、今回の内容でも時間的にいっぱいいっぱいだったので難しい話しでしょうか…
・産後ケアを知って頂く良い機会で、高知市からも 3 本柱が整ったとの話がありましたが、各事業（アウトリーチ・宿泊・通所）の代表者なりでも構わないので、現場の声を届ける機会にもなったのではないでしょうか？また、助産院のパンフレットも配布出来ることを事前にお知らせ頂ければ準備したのに、残念です。
・看護協会　助産師会が交流できるような工夫が欲しい

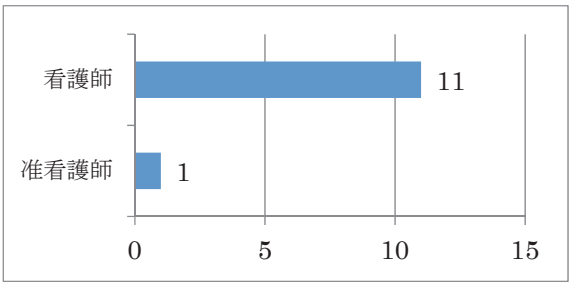
Ⅳ．委員会主催研修

3. 看護師職能委員会

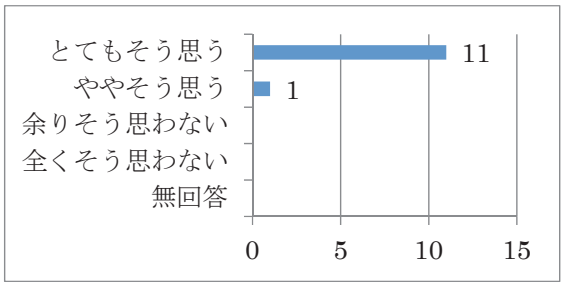
研修名	1）多施設新人看護師研修会・交流会	
開催日時	令和 4 年 10 月 2 日(日)	時間 9:30～12:30
受講者数	12 名(会員 5 名・非会員 7 名)	定員 50 名
ねらい	多施設の新人看護師と交流することで、お互いの悩みや思いを出し合い、ﾘﾌﾚｯｼｭすることができる。	
講師	看護師職能委員（高知赤十字病院　三木初美）	
内容（キーワード）	新人看護師　ﾘﾌﾚｯｼｭ	

1. アンケート結果　回答数 12 名　回収率　100 %

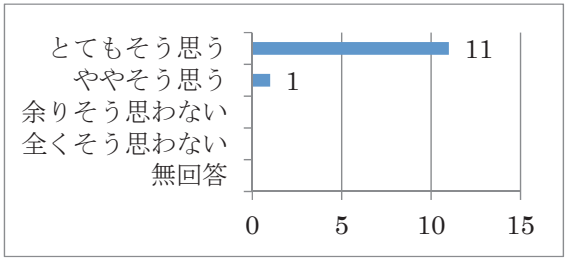
1)職種



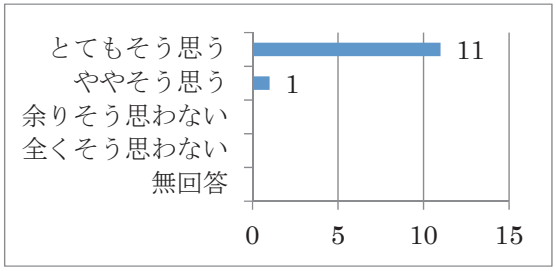
2)研修内容の理解度



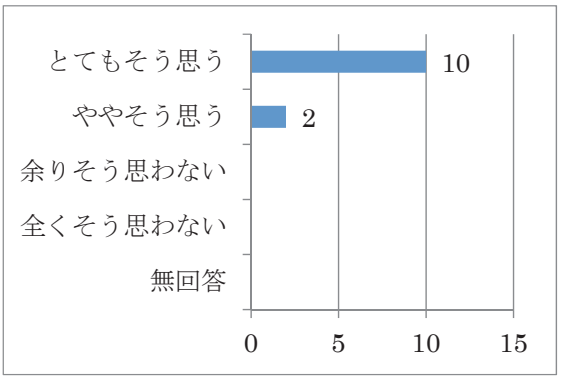
3)参加目的の達成度



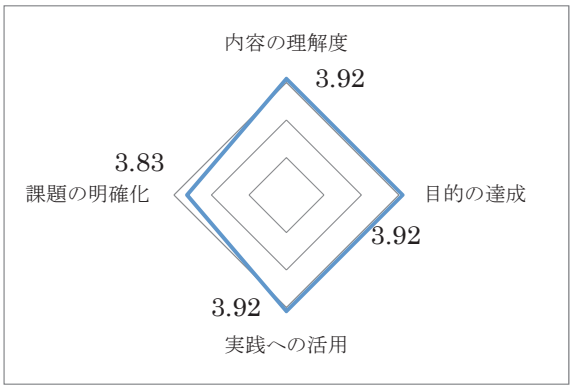
4)今後の活動に活用できるか



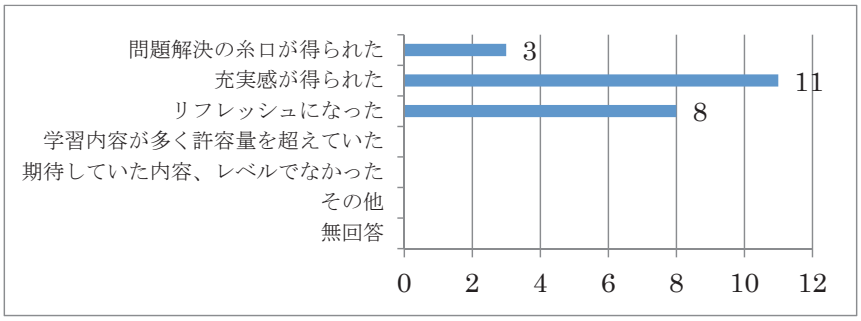
5)問題解決の方向性が明確になったか



6)研修内容:理解度、達成度、活用度、方向性



7)研修全体を通した感想(複数回答)



2. 感想、ご意見

・すごく良い機会になった。

・自分の悩んでいることを共有したことで、これからどうしたら良いかを見つけることができた。

3. 研修担当者コメント

今年度も多施設新人看護師研修会・交流会は新型コロナウイルス感染拡大のため、集合研修できるか、否かの選択の中、感染状況が落ち着きはじめ、開催できることができた。しかし開催時には医療機関でのクラスターが相次ぎ発生している状況であった。その中で 12 名ではあるが、協会に参集することができた。新型コロナウイルス感染症による影響で新人看護師は同期と集まれず悩みを話す機会が少なかったと思われるが、今回の研修で交流ができる機会となった。

グループワークではなかなか発言できない人もいたが、新人の悩みや考え方を傾聴し、職能委員全員が先輩看護師として発言を促し、アドバイスすることができた。

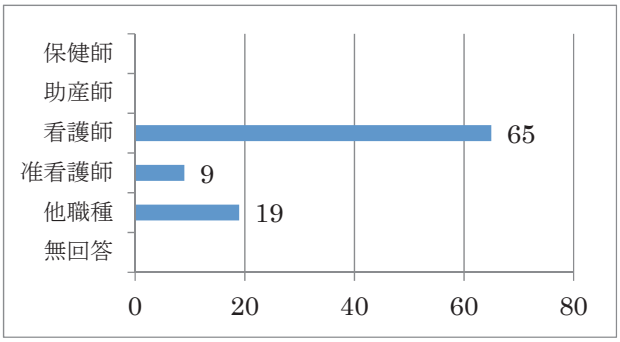
開催時期は 10 月であったが、入職してから半年間を振り返り、自己の成長にも気づき、なりたかった自分に向けての課題をについて考え、明日からのモチベーションにつながったのではないかと考える。

次年度も新人がリフレッシュできモチベーションにつながるような研修会・交流会を継続していきたい。

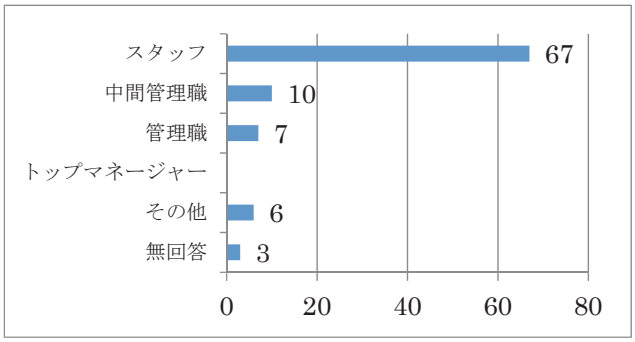
研修名	2)医療・介護・福祉施設職員研修	
開催日時	令和 4 年 10 月 6 日(木)・10 月 18 日(火)・11 月 17 日(木) 11 月 19 日(土)・令和 5 年 1 月 25 日(水)	時間　3 時間
受講者数	112 名(会員:57 名　非会員:55 名) (看護師 80 名　准看護師 7 名　介護職他 25 名)	定員　各　30 名
ねらい	医療・介護・福祉施設で働く看護・介護職員がより質の高いケアを提供するための能力を養う。	
講師	①　医療法人　地塩会　南国中央病院　院長　宮本寛 ②　日本赤十字社　高知赤十字病院　皮膚・排泄ケア認定看護師　田村収代 介護老人保健施設リゾートヒルやわらぎ　総師長　野町清佳 ③　社会医療法人　近森会　近森病院　感染管理認定看護師　近森幹子 日本赤十字社　高知赤十字病院　感染管理認定看護師　成瀬美佐 ④　放送大学　高知学習センター　客員准教授　岡本眞知子 ⑤　特別養護老人ホームあざみの里　看護師　松木裕子	
内容(受講者)	①　高齢者の摂食嚥下～口のリハビリテーション～(20 名) ②　高齢者の皮膚を守ろう(21 名) ③　感染管理の基本(22 名) ④　医療現場におけるハラスメント(17 名) ⑤　高齢者施設等における終末期ケア(32 名)	講義

1. アンケート結果　　出席者:112 名　　アンケート回収:93 名　アンケート回収率:83%

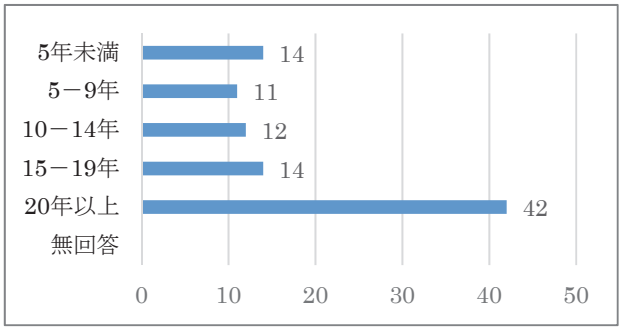
1)職名



2)職位

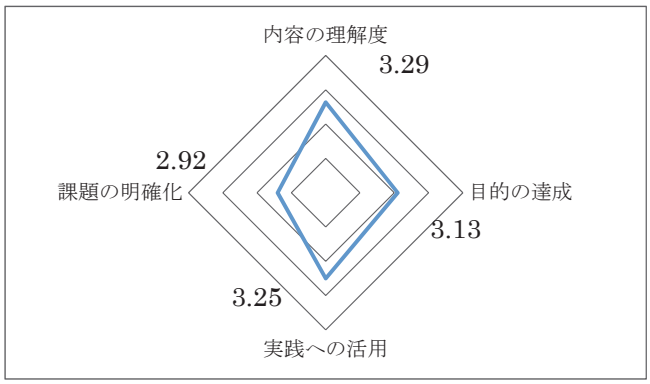


3)経験年数

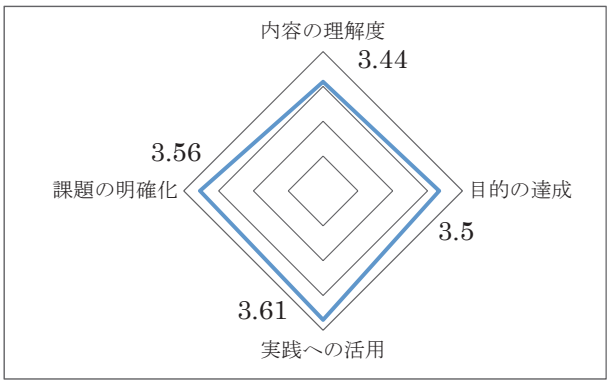


4)研修毎の評価

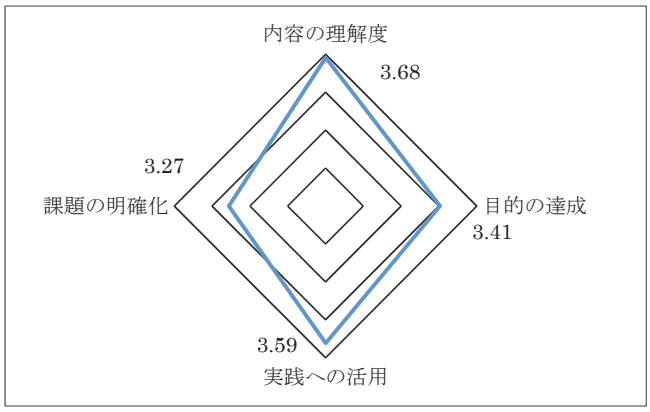
①高齢者の摂食嚥下



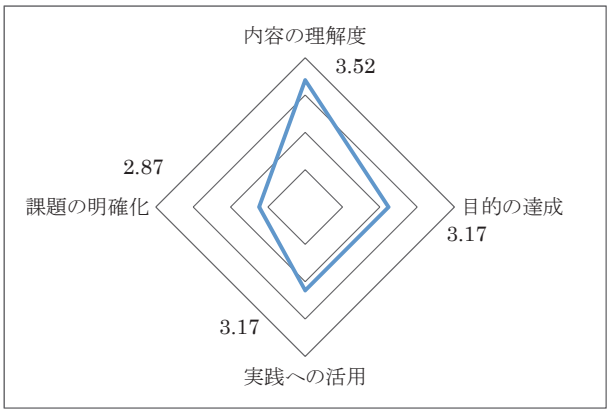
②高齢者の皮膚を守ろう



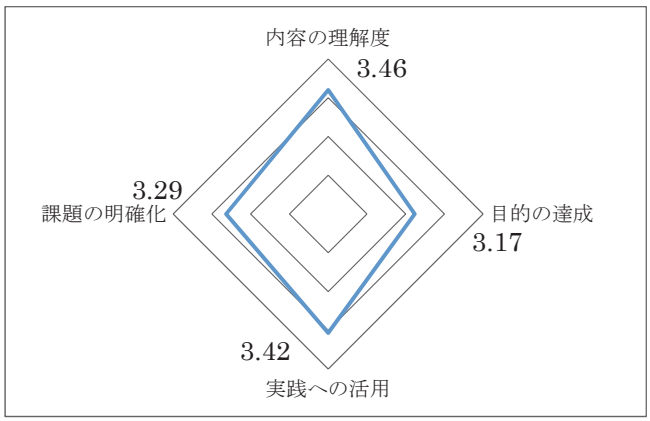
③感染管理の基本



④医療現場におけるハラスメント



⑤　高齢者施設等における終末期ケア



2.研修の意見・感想(全研修アンケートの抜粋)

①　解りやすくて、面白く興味をそそる話術で明るい先生で話が透いとるように入り、楽しい研修だった。

①　職場に持ち帰り色々な場面で、取り入れて行きたい。

②　知らない分野の実例や、研究発表などとても参考になった。

② 私は褥瘡対策委員会.NST に属しており、日々褥瘡や皮膚剥離をゼロにする為にどのように関わればいかと考えている。今回の講義で軟膏の塗り方、体の触り方、なぜスキンテアが起こるのかなど知ることができとても勉強になった。 オムツの当て方では夜勤ではいつも 2 枚尿とりパットを当てていたが、考え方が変わった。

③ 基本を思いだし大切な事が思いだすことができました。反復練習、反復学習が必要だと思いました。定期的に参加したい。

③ 自らの感染対策が正しいのか不安があったが、オンラインで一対一の指導をして頂き、たいへん参考になった。今後も様々な研修を期待する。

④ 感染の基本を見直す事が出き、尚再確認する事が出来、今後の感染対策に参考にしたい。

④ 今回の講義でハラスメントに対する考え方が変わった。研修の内容をスタッフと共有して働きやすい環境を目指していきたい。

⑤ 職場での、他のスタッフに伝達講習を、行いたい。

⑤ 個人的になるが、家族との人生会議は必要不可欠だと再認識できた。

3. 研修担当者コメント

今年度も「医療・介護・福祉施設職員研修」は COVID-19 の感染対策の為に受講者の 3 密をさけるよう定員を 30 名とした。COVID-19 感染拡大の影響を受け、③の高齢者施設や在宅サービス等における感染管理の基本の研修は日程変更し開催した。前年度は全4回の受講者数は 70 名、今年度は5回開催し、受講者数は 112 名で前年度と比較して 42 名増となった。職種は、看護師・准看護師が 71.4%（前年 78.5%）、介護職他が 22.3%（前年 21.4%）であった。また、職位は、スタッフが 72%（前年 60.7%）、管理職が 18%（前年 37.2%）であった。研修の評価は4回の研修すべてにおいて、内容の理解、目的達成、実践への活用、課題の明確化にバラつきがあるが、意見・感想からは高評価が得られ、受講者のニーズに沿ったものであったと考える。

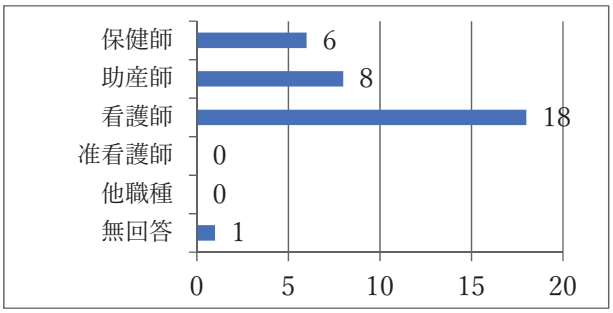
次年度も、施設での看護・介護で直面している問題に焦点を当てた内容で、現場のニーズに沿った研修の企画をしていきたい。

4. 保健師・助産師・看護師職能合同集会

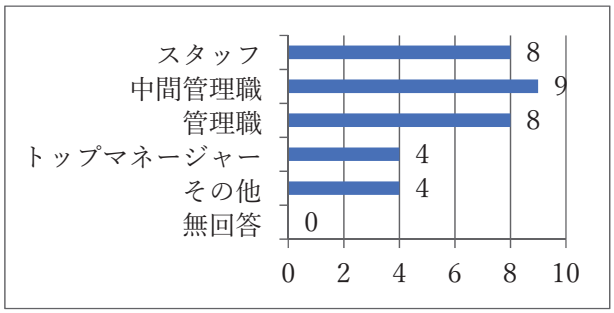
研修名	**看護職はコロナ禍をどう乗り切ったか　～第6波を振り返って～**	
開催日時	令和4年7月3日（土）　集合・オンライン研修	時間　12:30～14:30
受講者数	59 名（会員:50 名　非会員:8 名）	保健師　9 名・ 助産師 15 名 看護師 34 名・准看護師 1 名
ねらい	県内で第 6 波の新型コロナウイルス感染拡大がおこり、医療現場や高齢者施設等でクラスターが発生したが、お互いに助け合いながら危機を乗り越えた。3 職能がそれぞれの現場での経験を振り返ることで、学んだことを今後に繋げ、看護協会が職能団体として担う役割を考える。	
講師	保健師:　中央東福祉保健所　　尾木　朝子 助産師:　高知医療センター　矢野真奈美 看護師:　高知赤十字病院　　川村　亜希	
内容 （キーワード）	COVID-19 クラスター　看護職能　役割　連携	報告・意見交換

1.アンケート結果　　出席者:59 名　　アンケート回収:33 名　アンケート回収率:55.9%

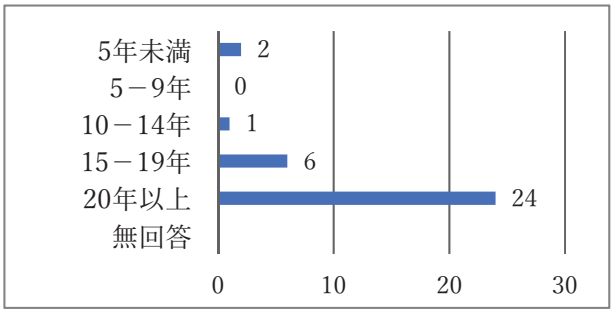
1）職名



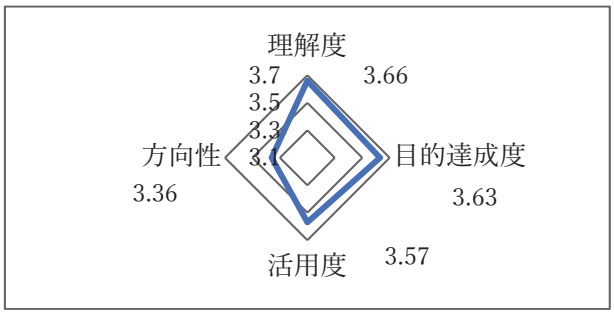
2）職位



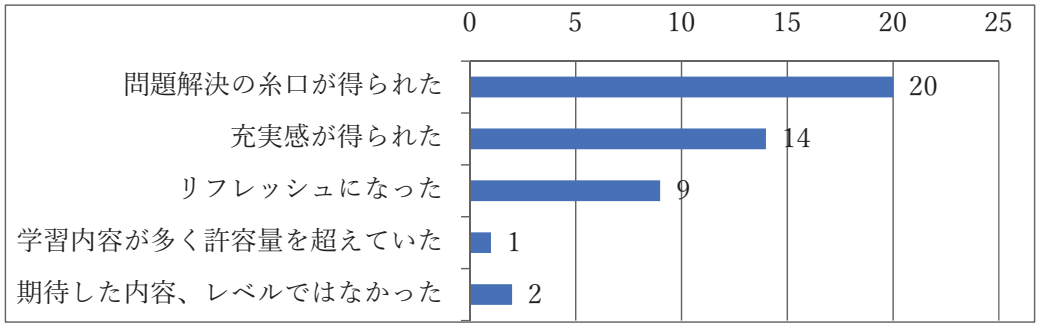
3）経験年数



4）理解度・達成度・活用度・方向性の明確化



5）研修全体を通した感想(複数回答)



2. 感想、意見

・医療現場で起こっていた状況について学べました。

・コロナに関する取り組みを共有でき、参考になりました。ありがとうございました。

・機器の不具合で時間がとられるのは もったいないですね。

・資料が見えにくく残念でした 感染対策なので仕方ないですが、先の指定があるのであれば、資料がいただければと思います。

・今回、当病棟でクラスター発生し、壮絶な体験を致しました。他院他施設で起きた時、もっと真摯に受け止め次自分達の病院で起きた時どう対処するのか、具体的にマニュアル化し、準備、訓練しておくべきであったと反省しております。終息して１ヶ月経ちましたが、残務処理に追われ未だに通常業務に戻れずマニュアルも出来ていません。今回の研修を今後のマニュアル作成の参考にしていけたらなと思っております。

・互いに状況を共有することの重要性を実感しました。施設との協働や、それを阻害する要因について初めて知り、限られた資源のなかでもシステム作りが必要と思いました。

3.担当者のコメント

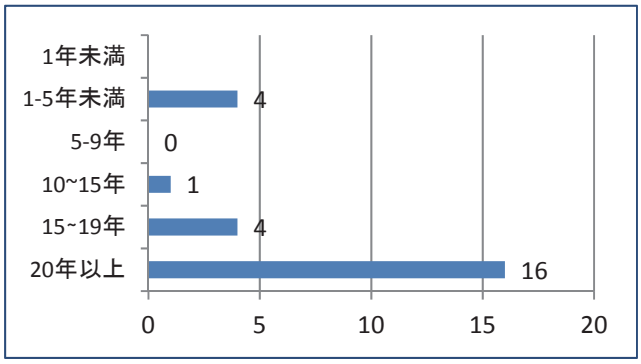
職能集会は、この2年間 COVID-19 感染拡大により開催できなかったが、今年は3年ぶりのハイブリッド型集会を開催した。第6波で医療現場や地域の高齢者施設等でのクラスターを体験した看護職が、どのように乗り切ってきたのか、また、どのような支援活動を行ったのか、その体験を振り返ることができた。今後にむけて3職能が更に、専門性を発揮し、互いに支援できる体制ができることに期待したい。

1. 看護制度委員会

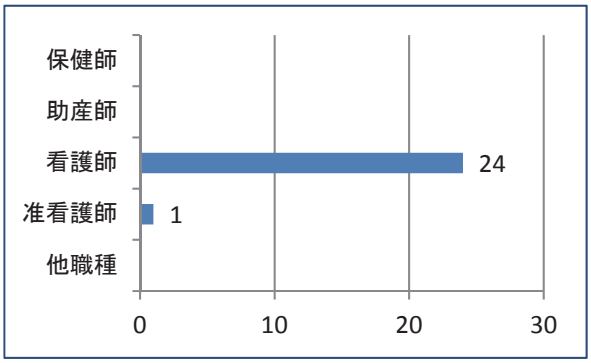
研修名	1)看護師の資格と診療報酬について知る	
開催日時	令和 4　年 11 月 26 日(土曜日)	時間　9:30　～11:30
受講者数	27 名(会員 27 名　) オンライン 21 名　集合 6 名	定員　50　名
ねらい	専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了等の看護師の実践と診療報酬の関係について知り、経営的視点を拡げる	
講師	濱中　洋平 日本経営 NK アカデミー事業　統括マネージャー(講師オンライン)	
内容(キーワード)	看護師　診療報酬	講義 ハイブリット

１．アンケート結果　　回答数 25　名　　回収率　92.5%

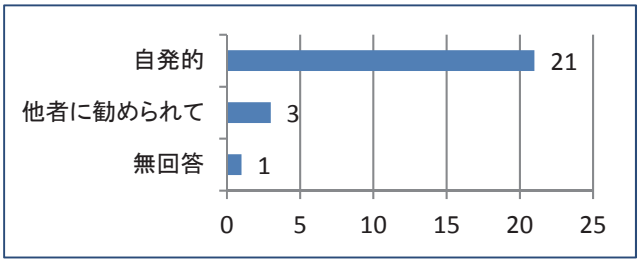
1)経験年数



2)職種



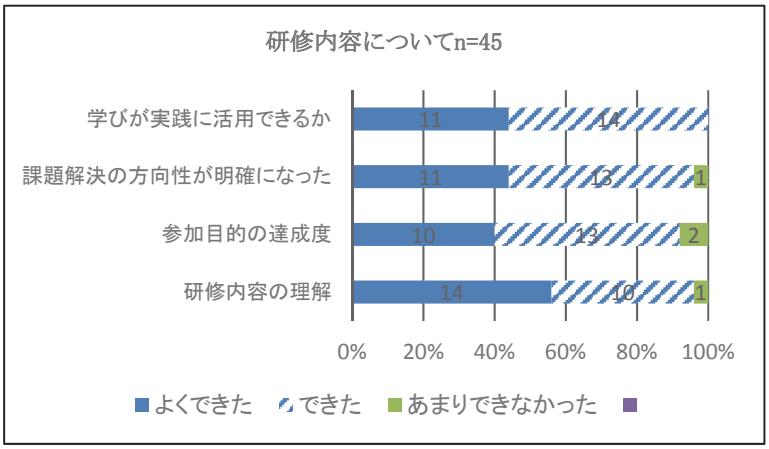
3)参加について

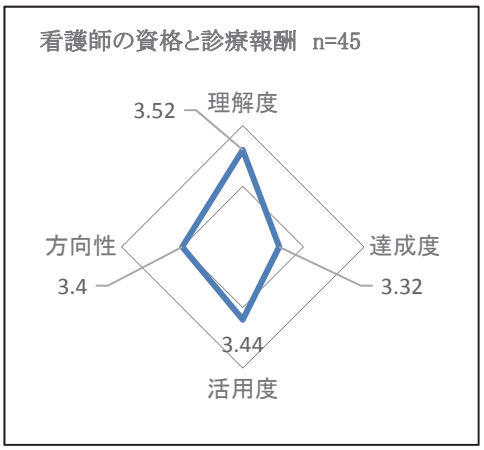


4)この研修をどのように知ったか

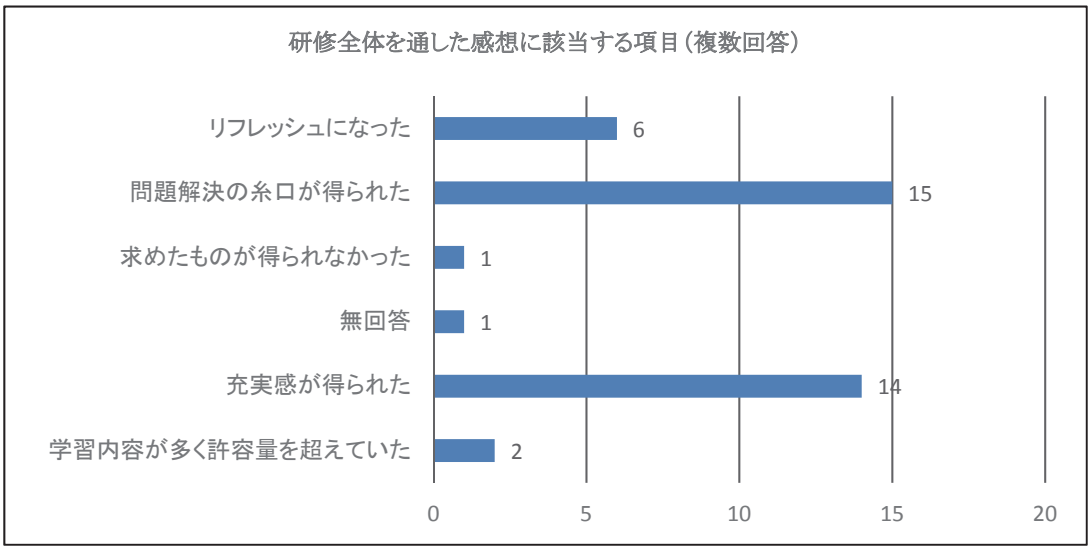
チラシ	11
ホームページ	6
教育計画冊子	5
口コミ	1
その他	7

5)研修内容について





6)本日の研修についての感想



2. 感想

診療報酬等について知識不足な点があったためとてもわかりやすく、示唆を得ました。もっと知りたいことがあるので、メールします。

分かりやすい講義で大変いい勉強になりました。今後のやるべき事が分かりました。

とても分かりやすい内容でした。 院内の師長と共有したいと思います。

医療政策の方向性を理解することができた。パフォーマンスがあがる業務改革を検討したいです。

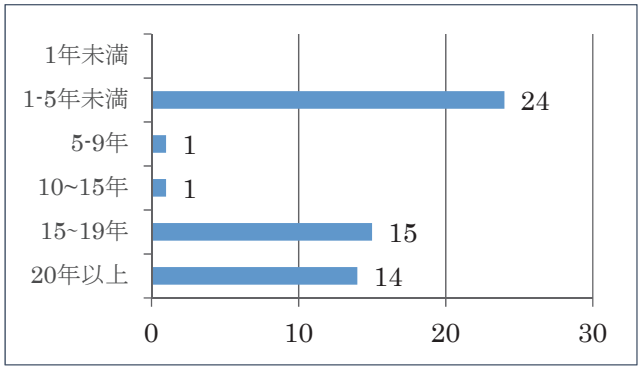
3. 担当者コメント

ポイントを押さえた大変分かりやすい内容であった。国の医療政策の概要を押さえ、プロセスを把握して診療報酬を読み解くという考え方も理解できた。講義の中で、講師の看護師への期待も感じられ、今回の学びを看護管理に活かすことを期待する。

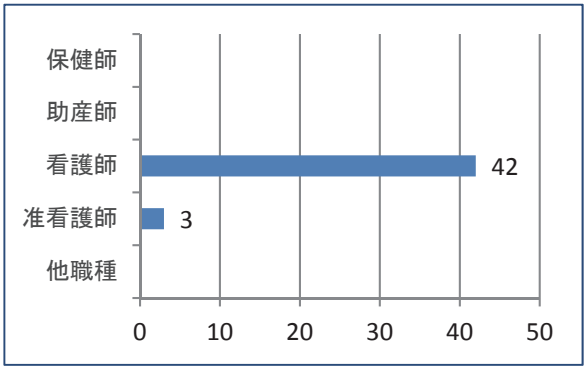
研修名	2)看護記録	
開催日時	令和 4 年　11 月 26 日(土曜日)	時間　13:30～16:30
受講者数	58 名(会員 33 名・非会員 18 名・新入会員 7 名) オンライン 44 名　集合 14 名	定員　50　名
ねらい	看護記録の基本を学び、患者の状態に応じた適切な記録ができる	
講師	松永　智香　　認定看護管理者　白菊園病院　統括看護部長 佐田　久美子　高知開成専門学校	
内容(キーワード)	看護師　　看護記録の基本	ハイブリット

1. アンケート結果　　回答数 45　名　　回収率　77.5%

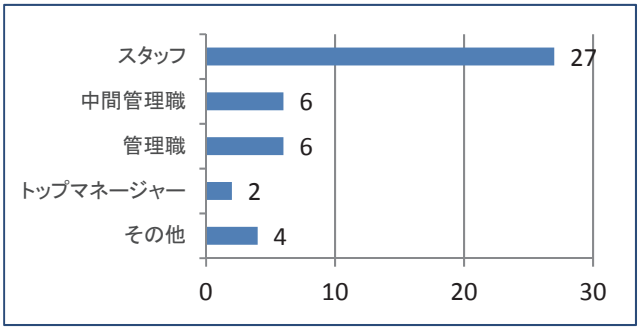
1)　経験年数



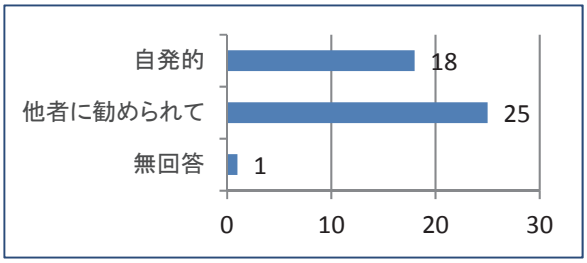
2)職種



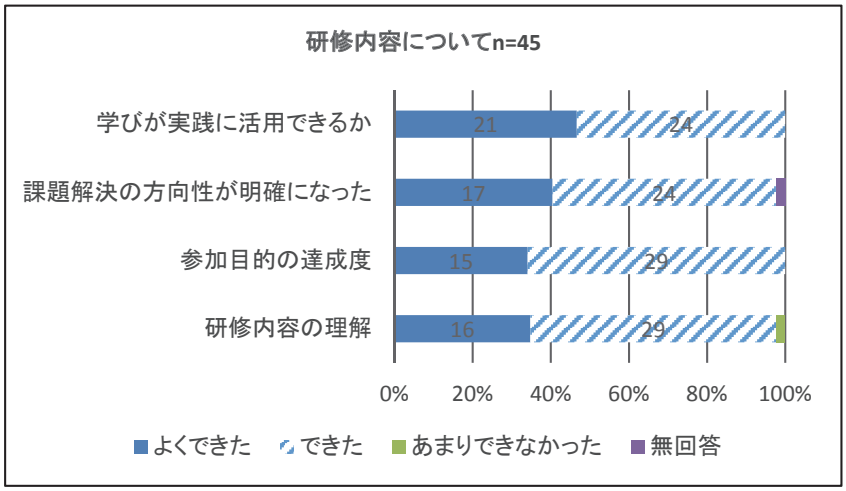
3)職位について

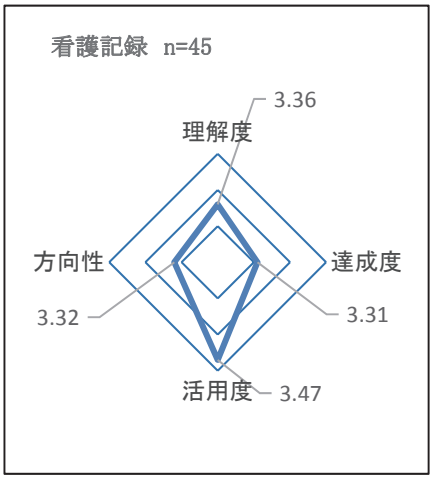


4)研修参加について

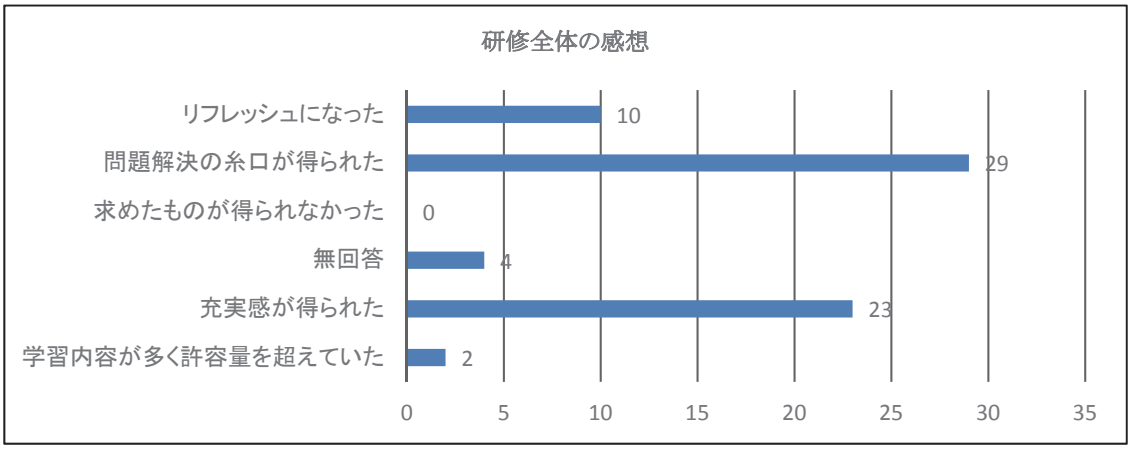


5)本日の研修について





6)研修全体の感想(複数回答あり)



2. 意見・感想

・具体的でわかりやすかった。
・詳細を明確に具体的に説明があり、実践に取り入れることができそうだと感じた。
・ダメだと思っていた記録の記載方法が、良かったことがわかった。
・思考が整理できた。
・自分が今後記録で直していくべき箇所が明確になった。
・SOAP 以外の記録について理解することができた。
・厚生支局の監査で「記録を充実してください」と指摘があり、本日の研修でよく理解できた。
・看護記録の役割や、どのように書いていくのか学べた。
・看護記録の記載に慣れていないスタッフへの指導に活用できる内容だった。
・記録の書き方で SOAP や DAR に自信がなかったが、今回の講義で少し自信が持てた。
・分かりやすかった。自分が迷っているところに共感しながら進めてくれたので受講して良かった。
・記録のあり方について再認識でき、今後現場での記録の質の向上と看護の質の向上につなげていきたいと思った。
・POS、フォーカスの特徴についてわかった。
・看護記録の書き方について日々悩んでいたので、書き方の事例などを通して理解を深める事が出来た。
・臨床現場にいるので、基礎教育での看護記録の書き方の伝え方や今の学生の傾向など、興味深かった。
・資料も凄く分かりやすく明日からの仕事に役立つ。
・記録講座を適宜やってもらいたい。

3、担当者コメント

対象者が幅広く、准看護師からトップマネージャーまでで、ニーズも幅広いことが予想されたが、研修内容は概要から記載方法まで具体的に紹介され、受講者との質疑応答で理解が深まった。　研修評価として、満足度は高く、実践に繋がる学びになった。

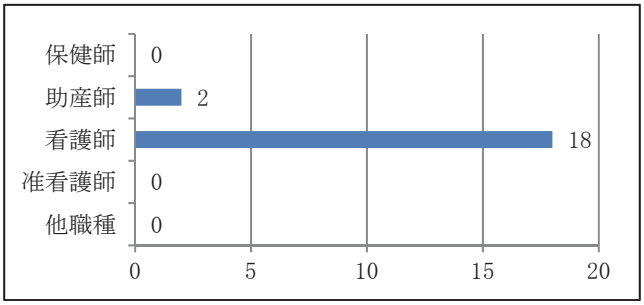
2. 医療安全委員会

研修名	1)医療安全管理者フォローアップ研修	
開催日時	令和4年8月27日(土)	時間 9:30～12:30
受講者数	20名(会員19名・非会員1名)	定員40名
ねらい	医療安全管理者及び養成研修終了者が、組織における安全活動を推進できるよう、知識、技術の向上を図るとともに、安全文化の醸成のためのチーム医療構築に向けた自己の役割を理解する。	
講師	上尾中央総合病院　特任副院長　長谷川　剛	
内容(キーワード)	医療安全　前向きなインシデントレポート	講義(オンライン研修)

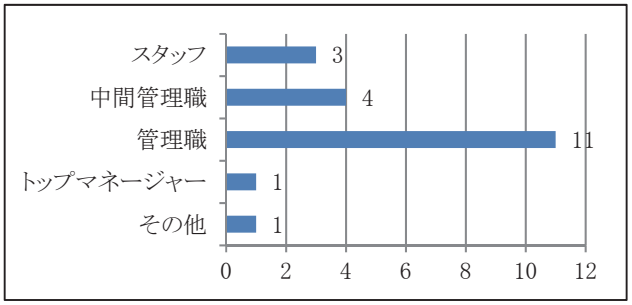
1．アンケート結果　回答数 20 名　回収率　100%

n.20

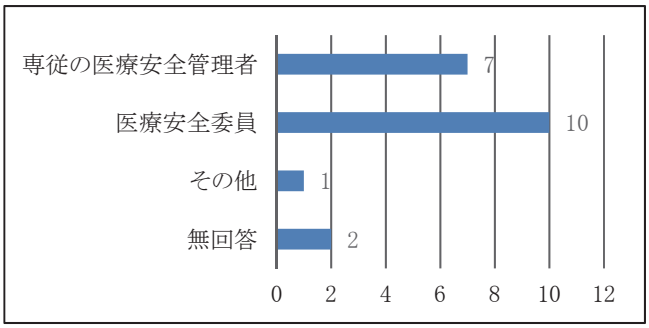
1)職種



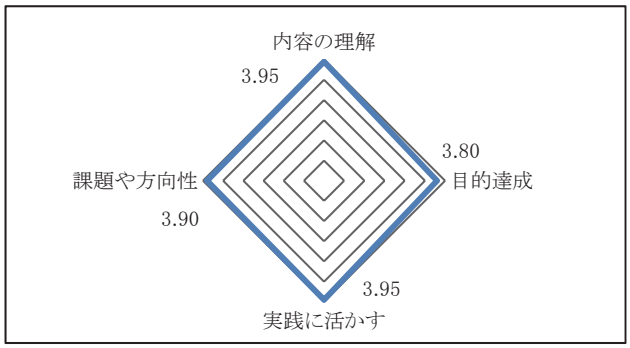
2)職位



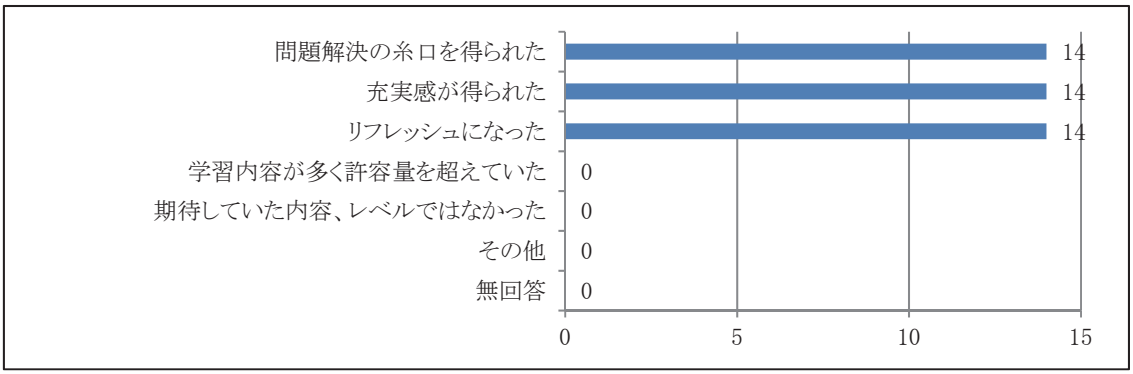
3)医療安全への関り



4）研修内容の評価（4 段階）



5）研修全体の感想（複数回答）



2.　意見・感想

・今回、参加させていただき、わかりやすく、前向きな取り組み頑張ってやっていこうと思います。

・先生の研修はいつもとても参考になります。今回もまた明日からやっていこうと思う事ができました。

・今回の研修ではモヤっとしていたことが晴れたような気がした。頑張り過ぎず頑張ろう！と思った。

・今までは成功事例からのポジティブフィードバックという視点がなかったので、大変良かったです。今後に活かせていけそうです。

・レポート分析もマンネリ化し、対策はいつも同じ、人的エラーで教育とかばかりでした。
今年から安全チームに加わり、カンファで行き詰まり、エラーをしなかった人の行動特性にピントを当ててと提案しましたが、皆、ピンときてないようでしたが、自信を持って、提案していきたいと思いました。

・昭和の人間は叱られて育ちましたが、今どきの人はそれでは前を向きません。先生の講義のように、時代の変化に沿った医療安全の考え方をしていくべきと学べました。充実した 3 時間でした。

・いままで原因を追求していた、と改めて考えさせられました。

・レポートを書く当事者の気持ちを考慮しつつ建設的な対応が学べた。

3. 研修担当者コメント

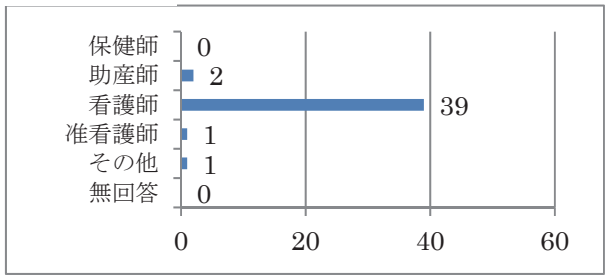
本研修は、2013 年より当協会で開催していた医療安全管理者養成研修において 7 年間来高していただいていた講師により、「前向きなインシデントレポートの活用方法」と題して、オンラインにて研修を実施した。医療の現場では、日頃、エラーを起こしたことに視点をおき関わっていることが多いが、本研修では、そのエラーをどのようにして発見できたのか、前向きなポジティブアプローチを行うことが大切であるということを学ぶ研修となった。コロナ禍で医療現場がひっ迫する最中での研修であり、参加者数が 20 名と少なかったことは残念ではあったが、受講生からの研修に対しての評価も高く、施設での医療安全への取り組みに役立ててくれることを期待する。

研修名	2) 医療安全リンクナース研修①②	
開催日時	① 令和4年 11 月26 日(土) ② 令和4年 12 月 10 日(土)	時間 9:30～12:30
受講者数	① 27 名(会員 20 名・非会員 7 名) ② 31 名(会員27名・非会員4名)	定員各40名
ねらい	医療安全に関する理解を深め、実践力の向上を目指し、医療安全管理者や職場のリーダーと協働する力を得る	
講師	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター 副院長 林 和俊	
内容(キーワード)	医療安全 チーム医療 リーダーシップ 心理的安全性	講義(オンライン研修)

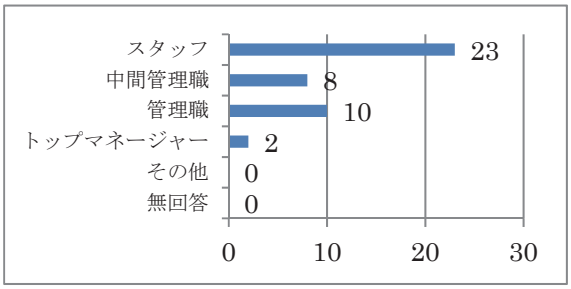
1. アンケート結果　回答数 43 名　回収率 74%

n.43

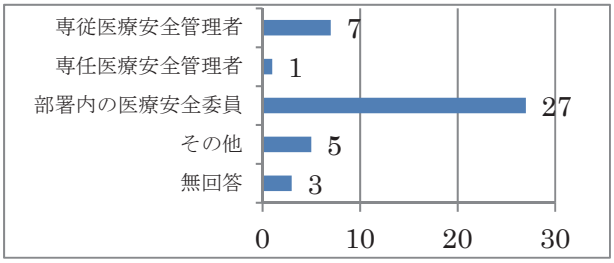
1）職種



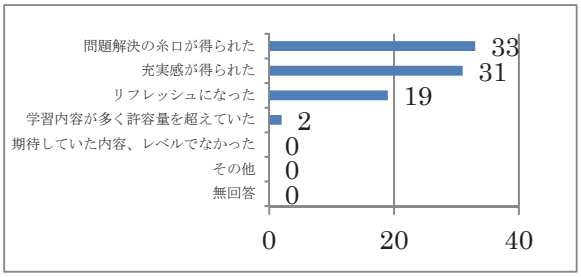
2）職位



3）医療安全への関わり

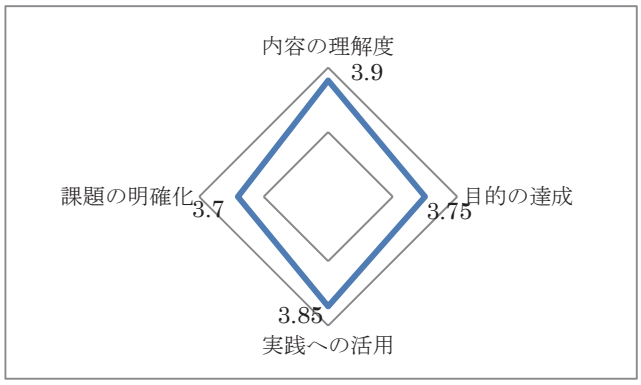


4）研修全体の感想（複数回答）

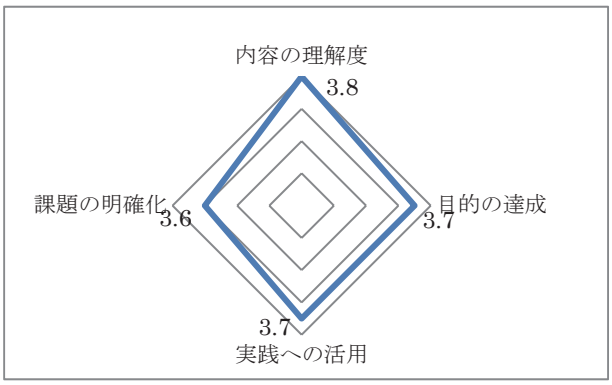


5）研修内容の評価（4 段階）

【チームワークについて考えよう】



【リーダーシップと心理的安全性】



2.　意見・感想

・施設に持ち帰り今後の医療安全への取り組みに反映できればと思います！
・楽しく学ぶ事ができ参加して良かったです。
・分かりやすく元気が出ます。
・動画がたくさんあり、イメージしやすく、わかりやすかったです。
・本日の研修で学んだチームステップスについて、部署でも活用出来るようにまず知ってもらう事からはじめ医療安全への意識が高められるような働きかけをおこなっていきたいと思いました。
・大変分かりやすく、楽しく受けることができて、とても勉強になり有意義な時間でした。
・看護師だけでなく、介護職種や看護補助者、薬剤師など、どの職種でも受けやすい分かりやすい内容だったと思います。自分の意識も考え直して、今回学んだ事を活かせるように、また伝えられるようになりたいと思います。
・次年度も同じ講義があれば、他のスタッフも参加させたいと思います。
・心理的安全性について学ぶ事が出来てよかったです。
・心理的安全性のあるチーム、内的動機づけを高めるチーム作りを目指していきたいと思います。
・最近管理者になったばかりでしたので、今日の研修は自分にとって良い学びとなりました。
・とても参考になりました。
・病棟リーダーをしている中、コミュニケーション、誉める、指導、どれも大事だと改めて勉強になりました。
・心理的安全性を高めるリーダーとしてのありかたが勉強になりました。部署の雰囲気なども改善できればと考えていたため解決の糸口が見つかりました。
・心理的安全性が重大なインシデント、アクシデントの予防に繋がり、リーダーは心理的安全性のあるチームづくりを行っていく必要があると学べました。
・リーダーはチームを引っ張る、代表する、指示を出す、というのが仕事だと思っていたので、今回の研修で改めてリーダーの役割、チームづくりを学べました。
・この機会をまたいただきたいです。素晴らしい研修でした。
・心理的安全性を意識して日々の取り組みを行い、ヒヤリハットやインシデント報告時の対応や新人フォローに生かしたいです。しかし多忙な時など特に価値観の押し付けや高圧的な態度も見られる気がします。
・病棟スタッフとして働いていますが、小さな気づきや意見に耳を傾けてチーム全体で情報共有や問題解決に向けて働きかけが出来るようにしたいです。

3.　研修担当者コメント

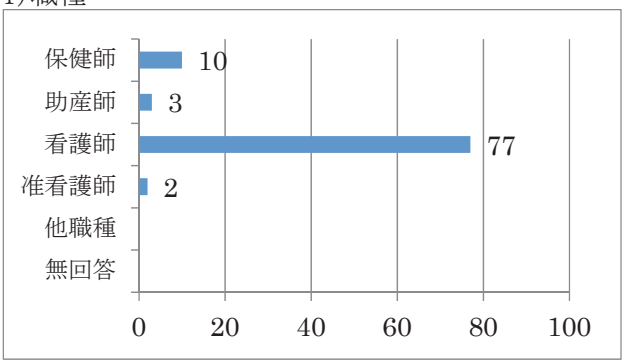
今年度のリンクナース研修は、「チームワークについて考えよう」「リーダーシップと心理的安全性」というテーマでオンライン研修を実施した。講師より参加者全員に向けチャット機能を活用し、意見・感想等を求め、受講生より活発な意見がきかれた。オンライン研修ではあったが参加型の研修ができたことはよかった。また、研修評価も高い結果であった。この研修で学んだことを医療現場で活用できることを期待したい。

3. 災害看護委員会

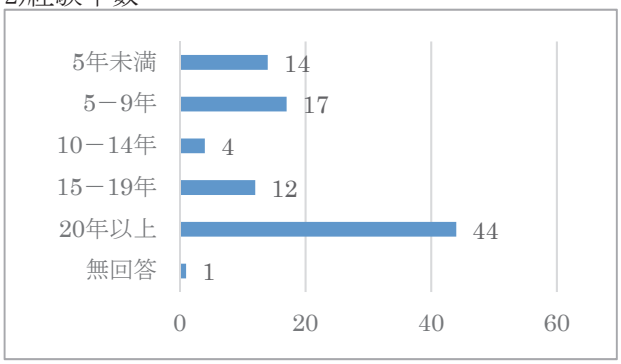
研修名	1） 地域災害支援ナース育成研修【基礎編】	
開催日時	令和 4 年 8 月 20 日(日)オンライン研修と集合研修 高知東・南地区支部 9:00～12:00 令和 4 年 10 月 16 日(日)オンライン研修と集合研修 東部 1・2 地区支部 9:00～12:00 令和 4 年 11 月 5 日(土)オンライン研修 幡多地区支部 9:00～12:00	
受講者数	延べ 111 名(会員:81 名 非会員:30 名)	各定員 40 名
ねらい	災害時支援活動に必要な知識・技術を学ぶ。 災害支援ナースと地域災害支援ナースについて学ぶ。	
講師	高知県立大学看護学部 教授 竹﨑久美子 高知赤十字病院 DMAT 看護師 岡林正 JA 高知病院 DMAT 看護師 西田和真 高知県立幡多けんみん病院 DMAT 看護師 山下敏弘	
内容	高知県の災害時支援体制・1 次、2 次トリアージ	講義・演習

1. アンケート回収 92 名 アンケート回収率82.8%

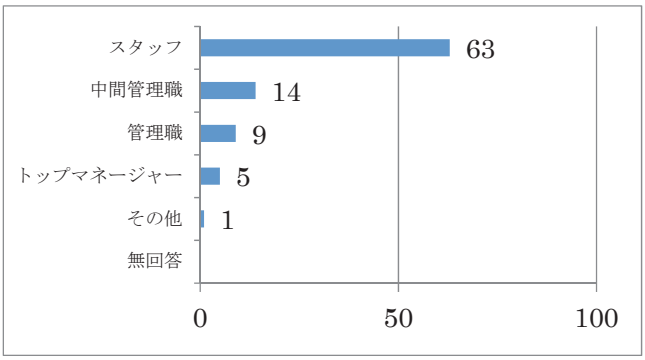
1) 職種



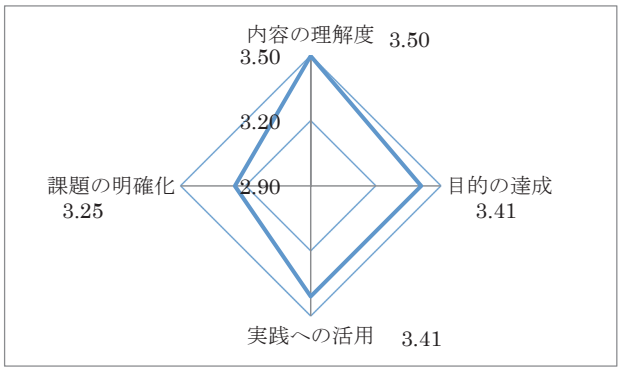
2)経験年数



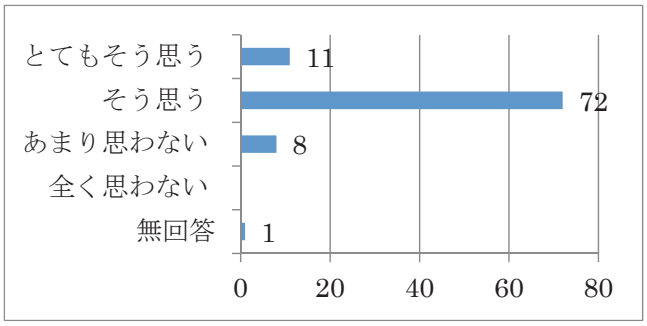
3)職位



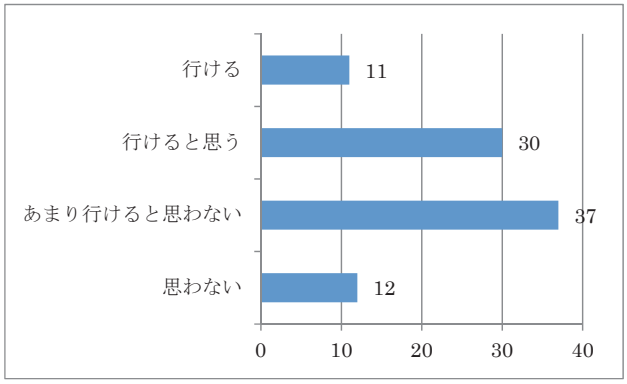
4) 内容理解・目的達成・活用・明確化



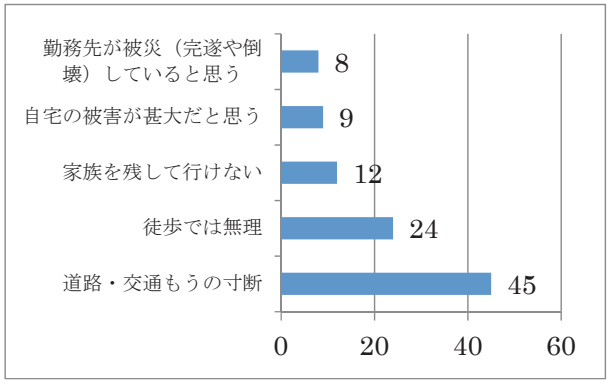
5)災害・地域災害支援ナースに登録したいと思う



6) 災害時、職場まで出勤できるか



7) 出勤できない理由



2. 意見・感想

・知識の再確認ができた。

・トリアージについて自信がなかったが、講義を受けて、学べることができた。

・トリアージや看護は病院や避難所だけでするのではなく、自身の住んでいるマンションなど小さなコミュニティでも、即座に行うと多くの命がたすかり、どこにどれくらい医療が必要な人が待っているのか把握しやすくなると思った。

・年に数回しかない研修で学びなおすことで、災害看護に関するアップデートができた。

・具体的なトリアージが聞けて勉強になった。

・研修後に自宅の指定避難所の運営マニュアルをホームページで確認した。避難所の準備、受け入れ、運営までしっかりとしたマニュアルを確認し、研修と照らし合わせて考えることができた。避難所での着任・活動時の注意点はとても参考になった。 トリアージタッグの使い方、観察手技はわかりやすい内容で学びとなった。

・今後に活かせるようにしたい。

・一人でも多くのスタッフが次年度からは参加出来るように働きかけたい。

・必ずしも災害救助をしなくても良いことが、理解できた。

・医療者として自分の出来る事は協力したい。

・災害看護について学び、備えの準備ができるよう院内で取り組んでいきたい。

・市町村の立場で、医療救護訓練や避難所運営訓練など行っている中で、看護の力が必要な場面が多くあることを実感している。 災害支援ナースとはどのようなものか知ることで、受援体制もイメージしていきたいと思い、参加した。

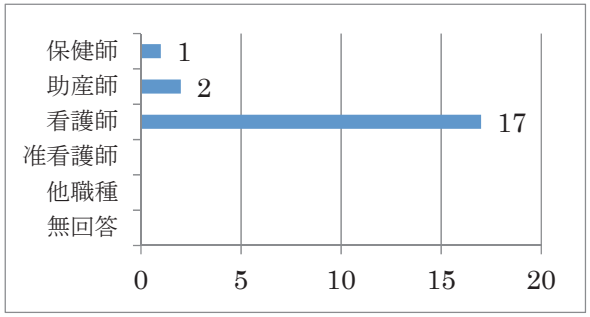
3. 研修担当者コメント

本年も COVID-19 感染症の感染予防対策を考慮し、高知東・南地区、東部 1・2 地区はハイブリット研修、幡多地区支部はオンライン研修で開催となった。昨年度はコロナ感染拡大に伴い、回数は1回のみで、31 名であった。本年度は 111 名と多くの参加があり、オンラインでの参加の方からも、とても分かりやすい研修であったと良い評価が得られた。次年度の計画では、ハイブリット、オンライン、集合で開催できるようにしていく予定である。また、協会でも広く広報できるように工夫をして行きたい。

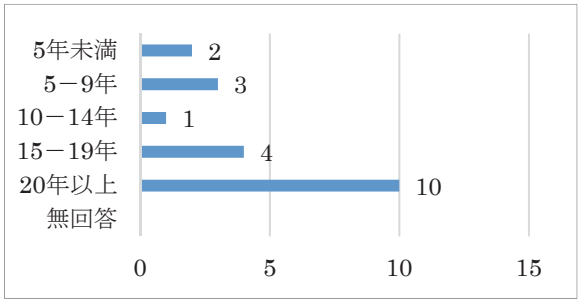
研修名	2)災害支援ナース育成研修【実務編】	
開催日時	① 令和 4 年 9 月 11 日(日)高知西部 1・2地区支部 中止 ② 令和 4 年 11 月 27 日(日)高知市西・北地区支部 9:00～12:00	
受講者数	① コロナ感染拡大の為中止 ② 31 名(会員 27 名・非会員 4 名)	定員 40 名
ねらい	災害時支援活動に必要な知識・技術を学ぶ	
講師	③ 高知赤十字病院 日本 DMAT 隊員 寺尾浩・野口岳浩・松岡歩惟・宗石沙貴	
内容	災害看護最近の動向、2 次トリアージ	講義・演習

1. アンケート結果 アンケート回収:20 名 アンケート回収率:64.5 %

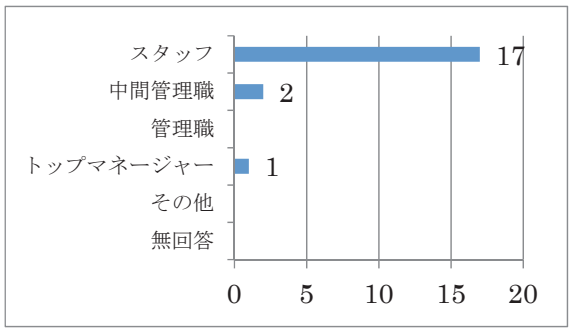
1)職種



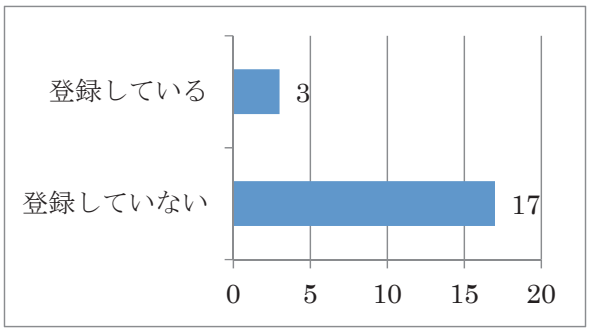
2)経験年数



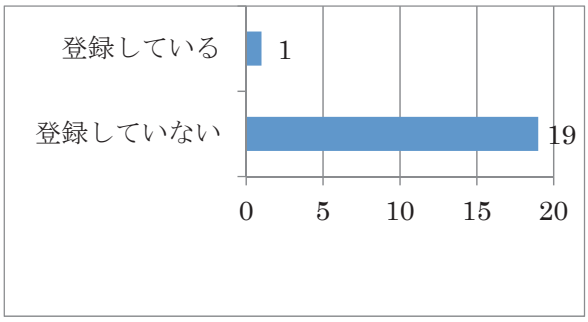
3)職位



4)地域災害支援ナースの登録の有無(高知県版)



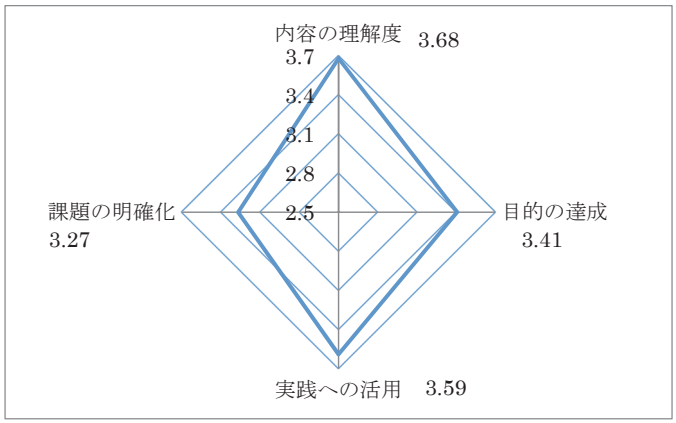
5)災害支援ナースの登録の有無(全国版)



6)住居地別人数

土佐市	2
宿毛市	1
高知市	11
いの町	2
香美市	1
安芸市	1
香南市	1
本山町	1

7)内容の理解・目的達成・活用・方向性



2. 意見・感想

・グループワークで他の人の考え方や視点を知ることができ、勉強になった。 アドバイザーの方が囁いてくれる言葉や投げかけでも、自分の意見やグループの方向性を修正することができた。 机上での想定災害なのに想像しただけで恐ろしいと思ってしまうのに、実際にその場面を目の当たりにしたら動けるのかと感じた。今回の学んだことを活かして現場での発信に繋げて、被災生活からの復興が少しでも早く始まるようにと思う。

・講師の先生とアドバイザーの先生方の進行が分かりやすく楽しく研修を受けることができた。

・今回の研修で、災害時の自分の動き方や、状況を予想する事が出来、大変、勉強になった。 また、このような研修に定期的に参加し地域の災害支援ナースとして、役立てたい。

・講師の方々の実際の体験をふまえた話しが聞けてすごく参考になった。

・避難所運営ゲームでは初対面の方々と作戦会議することで様々な意見を聞くことができた。他のチームがどんな避難所の配置をされたのかを共有できたら良かった。

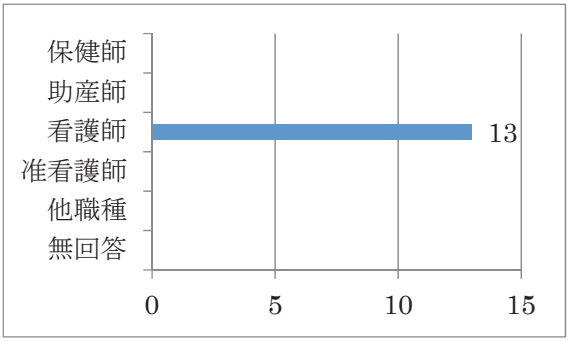
3. 研修担当者コメント

コロナ感染拡大の為、高知西1地区・高知西2地区支部での研修は中止となった。高知市西地区支部・高知市北地区支部は感染対策をとりながら、机上での演習での開催となった。机上ではあったが効果的に、1 次トリアージ、2 次トリアージ、避難所設営・運営まで演習することができた。

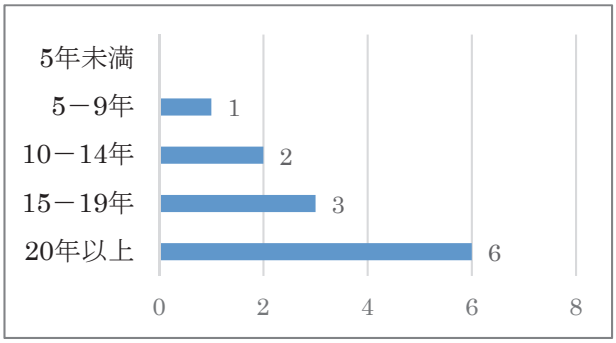
研修名	3)災害支援ナースフォローアップ研修	
開催日時	令和4年 12 月 11 日(日)13:30～16:30	
受講者数	16名(会員:16 名　非会員:0 名)	定員 40 名
ねらい	高知県の災害医療体制の現状や、実際の災害支援活動を通しての注意点などを学び、コロナ禍での災害支援活動時の参考とする。	
講師	高知県立大学大学院看護学研究科　佐々木康介 高知県健康政策部　保健対策課　災害医療対策室室長　安部満裕	
内容	災害医療救護体制　コロナ禍での支援活動　災害支援ナースの役割	講義・演習

1. アンケート結果　　出席者:16 名　　アンケート回収:13 名　アンケート回収率:81.2%

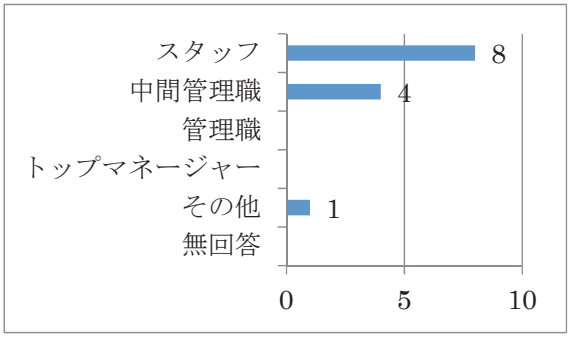
1)職種



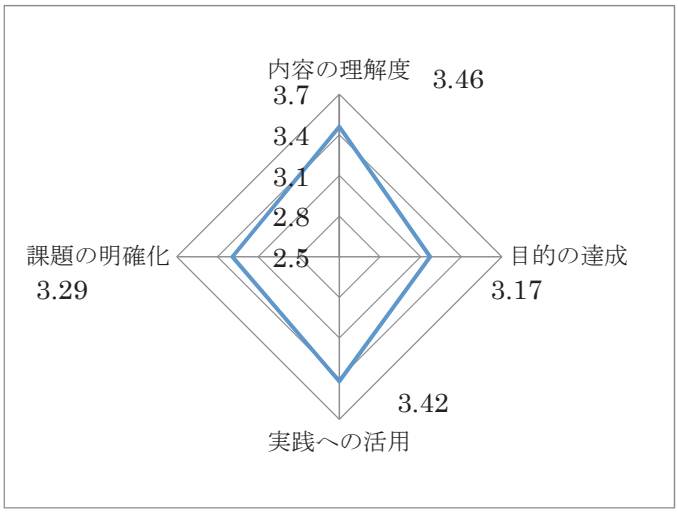
2)経験年数



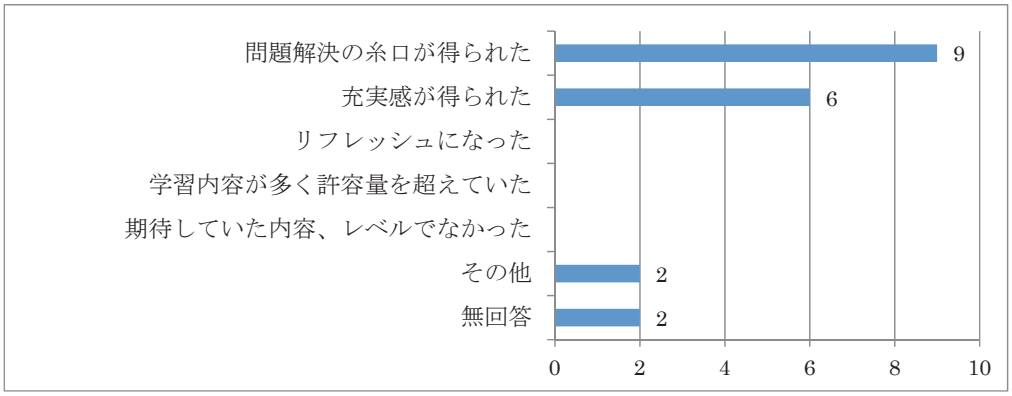
3)職位



4)内容理解・目的達成・活用・方向性



5)研修全体を通した感想



2. 意見・感想

・実際に起こりうることに対してへのイメージディスカッションは、他の方の意見も聞けるので勉強になる。また、質疑応答では、他の施設の方の質問を共有することで、普段は使用していない吸引ビンのことも思い出すこともできて振り返る機会になった。

・研修直前の事前アンケートを短時間でまとめてくださって、共有してもらえ良かった。

・現在、コロナ病棟の人員の確保のため、その他の病棟の人員不足に悩んでいる。また、当院の看護師も、県外の病院支援に派遣された。

・今回の研修を受けて、災害支援ナースが、感染対策の手助けも行っていく必要性を感じたため、感染分野の知識の向上にも努め、広範囲の対応をしていこうと思う。高知県の災害医療体制は、私たちだけが聞くのはもったいなく、一般市民の方々にも聞いてもらいたい内容だと思った。

・吸引瓶の質問に対して全員に確認してもらい、当院で検討して頂く手がかりとなった。ゾーニングに関しても、全国での研修ではイエローゾーンを設定していないという施設もあった。今回の研修でイエローゾーンの設定することは、間違いではないと確認できた。また、環境整備や整理整頓などの平時の対策がいかに大切かということがスタッフにはなかなか伝わらず悩んでいたが、今回の研修でその大切さを知ってもらうことが必要だと再認識できた。

3. 研修担当者コメント

昨年に引き続き、高知県災害医療対策室より、災害時の医療救護体制についての講義を依頼し、受講生からの評価も良かった。

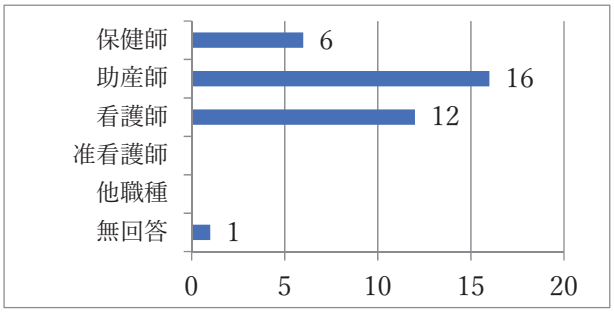
また、災害支援活動の実際として、新型コロナウイルスの集団感染が発生した施設に実際に支援をおこなった講師に講義していただいた。クラスターが拡大した施設の実際、支援方法、支援の実際、支援者の心構え、備えなど自然災害時にも共通する内容であった。支援する側の感染に対する知識の習得の必要性を再認識できた内容であった。今回の受講者 16 名中 4 名が災害支援ナース登録者、4 名が地域災害支援ナース登録者と、50%が災害・地域災害支援ナースの登録者であった。今後も災害・地域災害支援ナースがスキルアップできる研修を企画していく。

4. 3 職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会

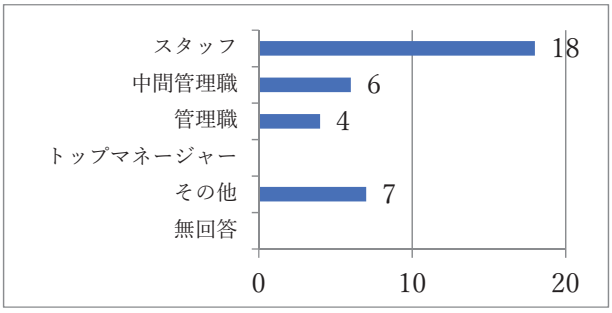
研修名	1）高知家の子どもの未来を支える力！ 保健師・助産師・看護師ができること	
開催日時	令和4年7月3日（土）	時間 9:00～12:00
受講者数	51 名（会員：39 名 非会員：12 名）	定員 50 名
ねらい	学校の教職員のみでなく看護職等が学校で行う「いのちの教育」において、3職能が其々の立場でどのように貢献できるか検討した結果を報告し、高知県の子どもたちの生きる力を育む教育に役立てて貰えるよう発信していく。	
講師	シンポジスト：保健師 小澤 若菜 ・ 助産師 関 正節 ・ 看護師 岩﨑 美幸 座 長 ：東京医療保健大学看護学科 教授 渡曾睦子	
内容 （キーワード）	性（生）教育・母子保健・職能別役割	シンポジウム

1.アンケート結果 出席者：51 名 アンケート回収：35 名 アンケート回収率：68.6%

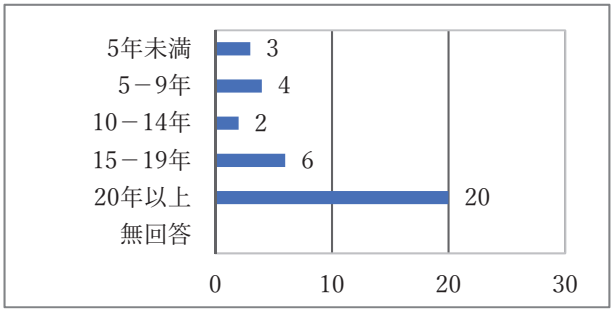
1）職名



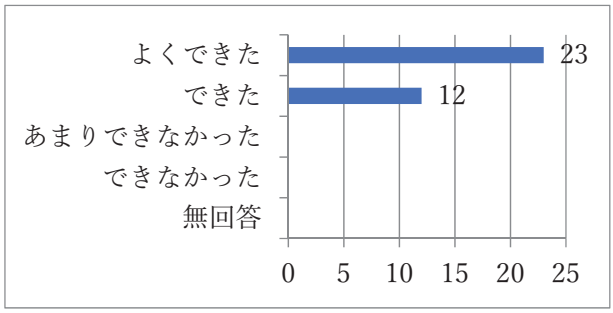
2）職位



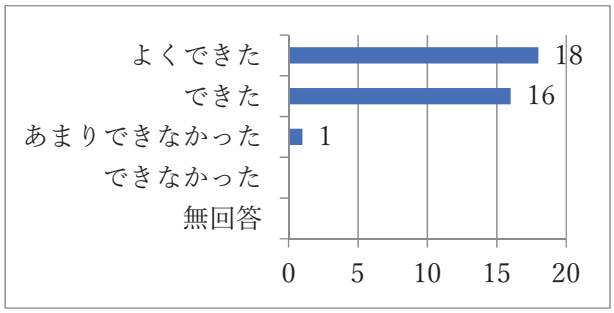
3）経験年数



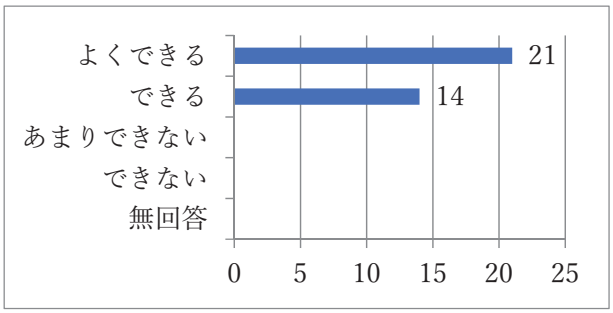
4）研修内容の理解度



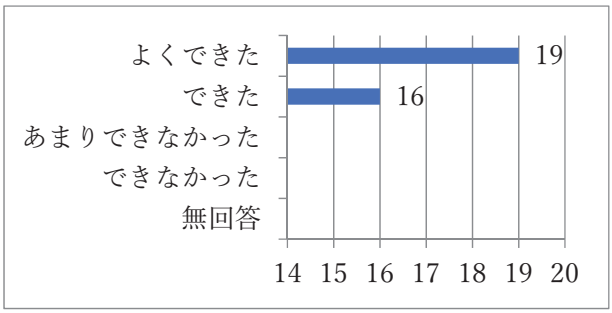
5）参加目的の達成度

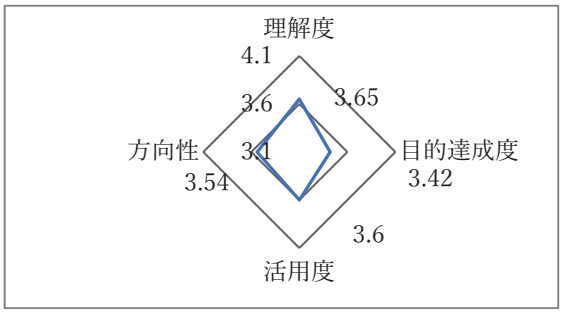


6）今後の活動に活用できるか

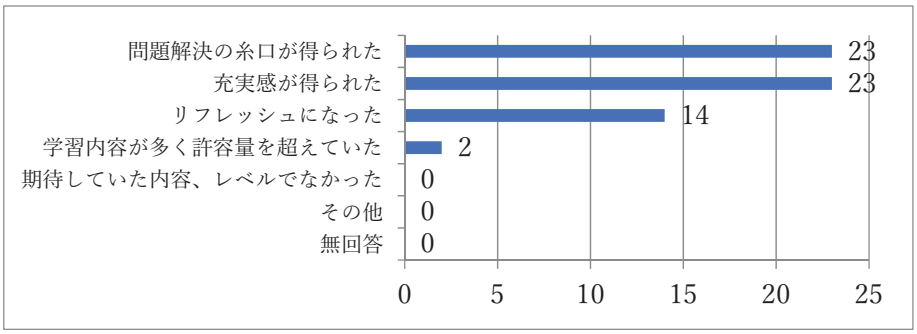


7）課題解決の方向性が明確になったか





8）研修全体を通した感想(複数回答)



2. 感想、意見

・今回もたくさんの気づきと学びができました。少しずつ前に進んでいきたいです。
・大変勉強になりました。学校関係者として今後働きかけていきたいと思います。ありがとうございました。
・3職能と学校で情報共有し、それぞれの立場でできること、役割等をディスカッションでき良かったです。
・この取り組みが具体的な実践になると良いと思います。今ある仕組みがうまく使えたら良いと思います。
・職能委員会での活動が少しずつ進んでいっていると感じました。まずは課題の集約と共有が大事だと思いました。
・ありがとうございました。 次回も楽しみにしております。 是非、お声掛け頂きたいです。
・3職能でまとめられた資料を提供していただき、グループワークを通して自分の気になりごとや考えを整理することが少しできたと思います。みなさんの熱意で、自分も頑張らないといけないと思いました。
・現場でできることも見つかったように思います。 ありがとうございました。
・色々な職種の方の話が聞けてよかったです。学校の先生方の参加が増えるといいなと感じました。
・改めて保健師の役割について認識する機会となりました。何をどうするために、どういう戦略で動いていくかをしっかり考えて取り組んでいくことが重要だと感じました。渡會先生、ありがとうございました。

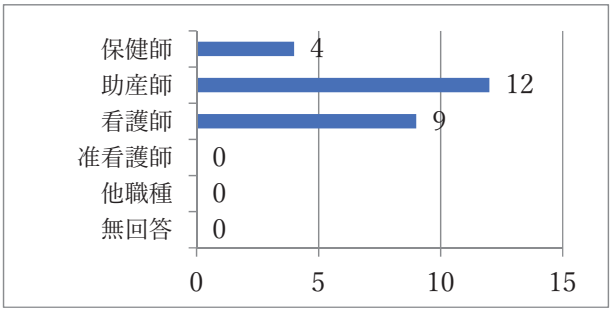
3.担当者のコメント

昨年度末に COVID-19 感染拡大のため開催できなかった研修を、令和4年度に開催した。保健師、助産師、看護師の其々が、高知県の子どもたちの未来を支えられるように自分たちにできる事を、各職能委員会で協議し、まとめた結果をシンポジウム形式で発表を行った。今後、この成果をどのように発信していくのかが課題と思われる。

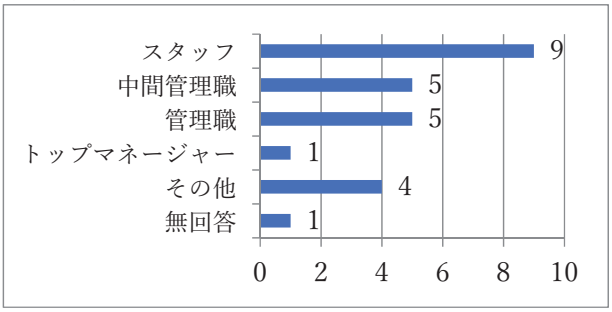
研修名	2) 子どもの生きる力を育むいのちの教育を考えるシンポジウム	
開催日時	令和５年１月 29 日(日)	時間 9:30～12:30
受講者数	39 名(会員:27 名 非会員:12 名)	定員 50 名
ねらい	高知県の子どもたちの生きる力を育む教育について、地域・教育・福祉・医療が一緒に考え、子どもたちの生きる力を育むための関わりの手がかりを一緒に見つける。	
講師	シンポジスト ①高知県教育委員会 保健体育課 廣田志保 ②高知県子育て支援課 母子保健・子育て支援室チーフ 山本 和栄 ③香南市役所 健康対策課 保健師 朝倉 ちさ 座長:東京医療保健大学看護学科 教授 渡曾睦子	
内容 (キーワード)	性(生)教育・母子保健・職能別役割・地域活動	シンポジウム

1.アンケート結果　出席者:39 名　アンケート回収:25 名　アンケート回収率:64.1%

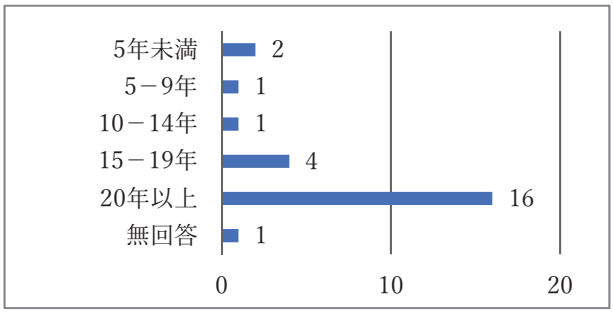
1) 職名



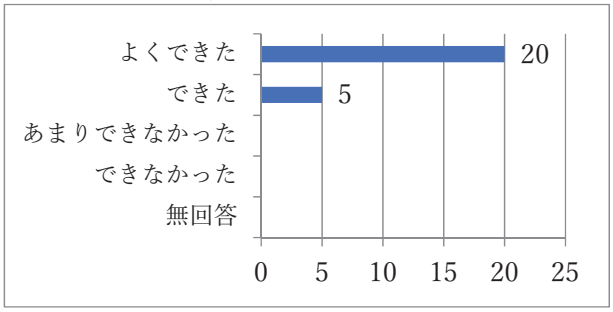
2) 職位



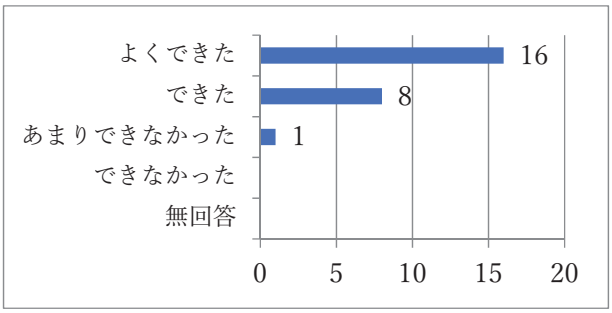
3) 経験年数



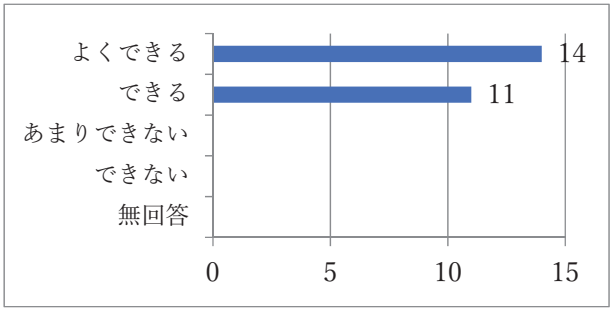
4) 研修内容の理解度



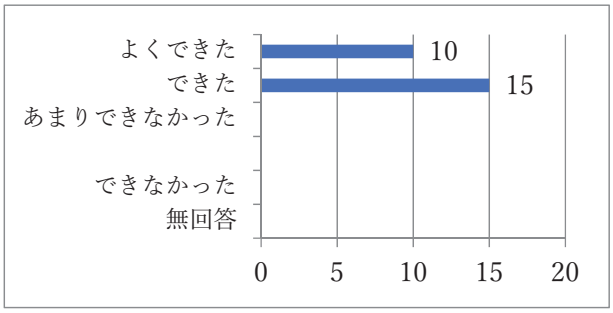
5) 参加目的の達成度

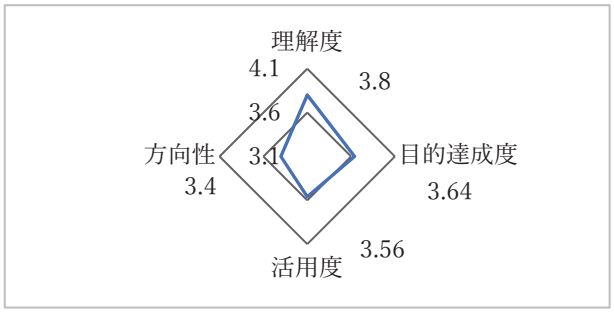


6) 今後の活動に活用できるか

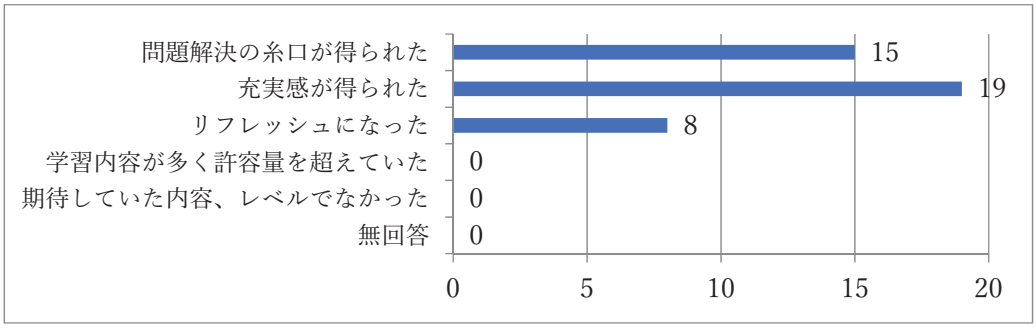


7) 課題解決の方向性が明確になったか





8) 研修全体を通した感想(複数回答)



2. 感想、意見

・看護職としてなにができるか、霧がはれてきました。
・シンポジウムと言う研修で沢山のご意見が聴け、学びが多かった。もう少し時間があれば深める事が出来たかなとも考えました。
・年度のまとめによい議論でした、ありがとうございました。
・香南市の学校と連携した取り組みが参考になりました。
・教育委員会さんからの出席がないのが残念でした。教育の現場のお話、ご意見もお伺いしたかったです。
・教育委員会と地域保健師、3職能が密に連携して、繰り返し子供達と関わる教育の機会を作ることが必要と感じました。
・現在実施している事業の評価ができる良い機会となりました。ありがとうございました。
・香南市の方の発表を聞き、皆が同じ方向性を持ち、これらの取り組みをモデルとして高知市はじめ高知県下に波及できるように、高知県の課題を共有し課題解決の為の糸口になれば良いと思いました。
・香南市さんの取り組みがとてもいいなと思いました。ぜひ全市町村で共有し高知で取り組んで頂きたいと希望します。また、保健医療と教育との意識のズレが気になります。現場の先生方の対応で傷ついて自己肯定感をなくしたり、不登校になっていく子どもたちもいます。先生方への教育も必要と思いますし、教育委員会、現場の先生方と一緒にやっていくための場が欲しいですね。
・高知県や香南市の取り組みが、子どもの生きる力を育むことにつながっていくと感じました。これから、自分たちがどのように取り組んでいけばよいか考えていくことができました。
・とても実りある研修になりました。 これからの自身の役割や地域や学校の取り組みも知ることができてよかったです。
・子どものいのちを守るためにそれぞれのポジションで何をしていくか考えようという冒頭の言葉がありました。みなさんの発表、ディスカッションは刺激になりました。子どものいのちを育むためには親へのアプローチも必要だと思います。助産師として働く中で、心配な方もいるのが現状です。どのようにこのお母さんが親として、意思決定して肯定感を高く持って、助けを求めて子育てしていくのか？いい妊娠、いいお産がいい育児に繋がると思いますし、地域に繋ぐだけでなく、妊娠出産期への助産師の介入も大切だと思いました。学校の参観日にいのちの教育をして親子で学べる機会などもやっている所があると思うので、そんな取り組みも知りたいですし、自身も他職種協働していきたいと考えました。

・香南市の取り組みや県の取り組みなど知れたことが凄いと思いました。また、病院の看護師として、入院中のいつも関わるお母さんの自己肯定感を高めるように、意識していきたいと思いました。
・行政、教育、病院と様々な職種が参加して有意義でした。是非教育委員会も、次は参加して欲しいです。病棟の、一スタッフですが、家庭や職場で広めていきたい内容が沢山ありました。次回もぜひ参加したいと思います。

3.担当者のコメント

高知県の子どもたちの生きる力を育む教育について、地域・教育・福祉・医療が一緒に考えることを目的に、県や教育委員会、市町村の担当課による現状報告や課題等の報告を行って頂いた。特に、香南市の保健師による子どもの自己肯定感を高める取り組み報告では、企画から実践、事後のフォローアップ等、教育現場と地域保健師の連携の取り方等、学びが多く次年度の方向性が得られるものであった。

Ⅴ．看護研究学会

１．看護研究学会

テーマ	「求められる看護の力」 ～ともに造る看護の未来～	
開催日時	令和５年2月 25 日（土曜日）	時間 9:00 ～ 13:20
開催形式	シンポジウム・口演発表者・共同研究者(一部)参集、一般参加者遠隔のハイブリッド	
参加者数	79 名 （保健師 1、助産師 2、看護師 75、准看護師 1）	
目的	県下の看護職者に研究発表及び実践活動報告の場を提供し、看護職の研究活動を推進するとともに、本県の看護の質向上を図る。	
演題	口演 13 題	
プログラム	Ⅰ シンポジウム コロナ禍で変化する人と人とのかかわり ～問われるコミュニケーション力～ 座長 高知県立大学看護学部 特任助教 三浦由紀子 シンポジスト 学校教育の立場から 高知県立大学看護学部 教授 瓜生浩子 臨床の立場から 高知大学医学部附属病院 教育担当看護師長 谷めぐみ 周産期看護の立場から 高知医療センター 不妊症看護認定看護師 田渕良枝 家族看護の立場から 高知大学医学部附属病院 家族支援専門看護師 星川理恵 Ⅱ 研究発表・実践報告 第１群：実態調査 4 題 第２群：看護介入 4 題 第３群:教育・看護師支援 5 題	

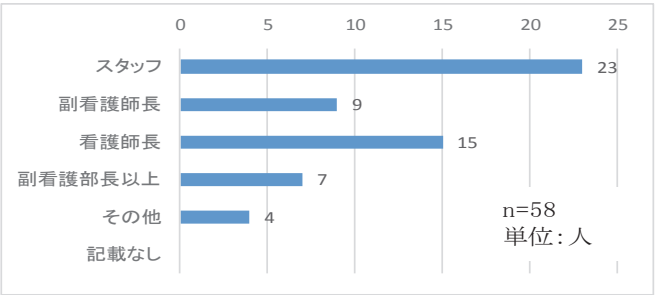
1)アンケート結果

参加者数 79 名 （研究学会委員９名・協会職員１名含む） アンケート回答 58 回答率：73.4％

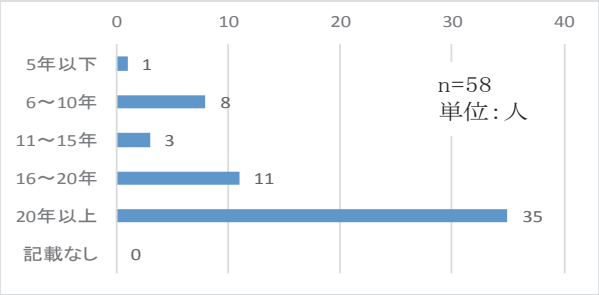
※アンケートは Google フォームを使用したオンライン上の質問と回答

(1)参加者背景

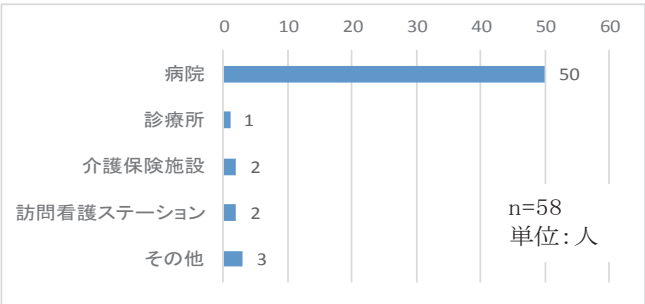
①職位



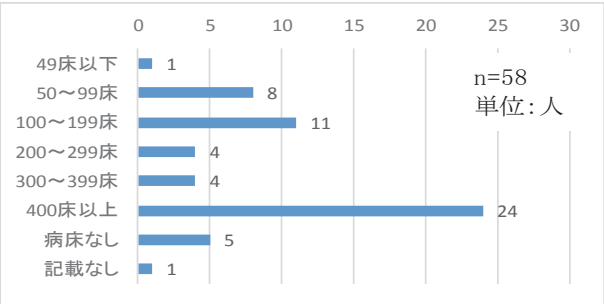
②経験年数



③所属施設

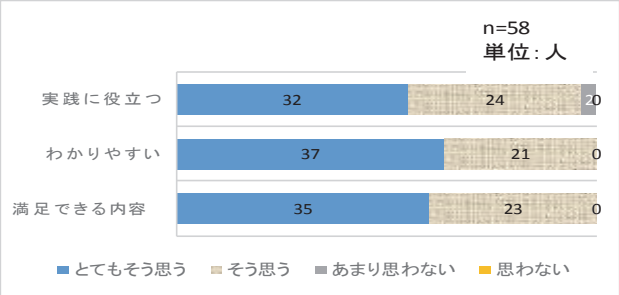


④所属施設病床数

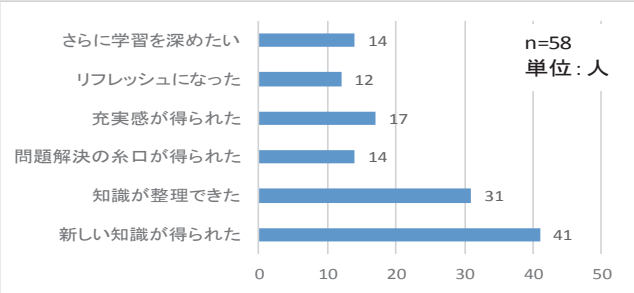


(2)シンポジウムについて

①満足できる内容でしたか



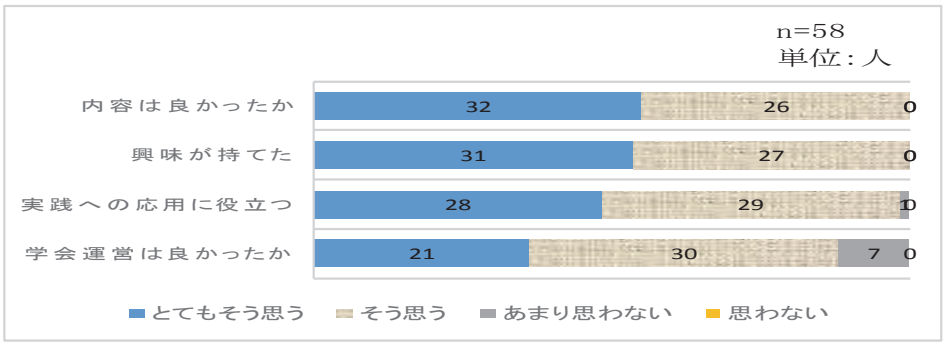
②感想(複数回答)



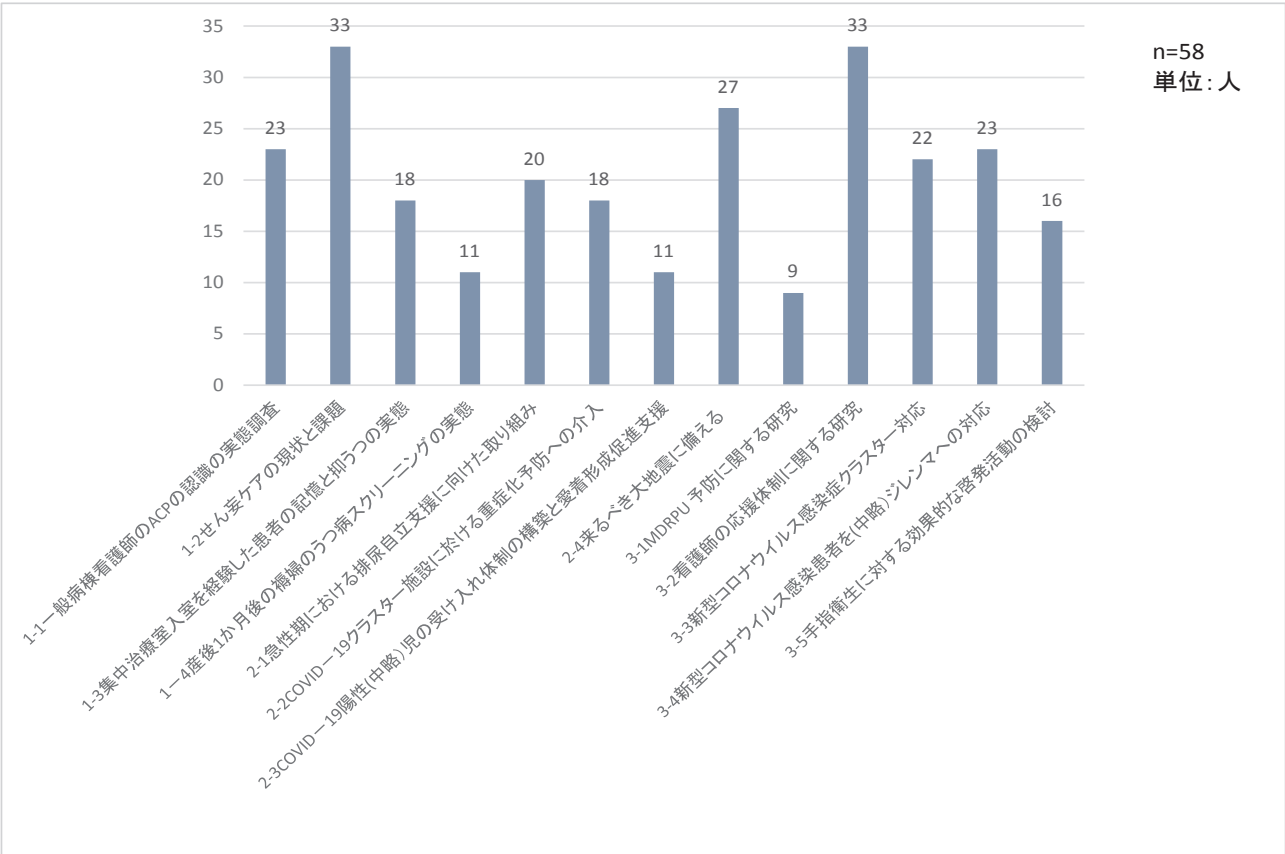
③次年度以降の希望のテーマについて

・看護教育
・災害対策について
・アフターコロナ後の看護(職)の深化
・ワーク・ライフ・バランス
・看護職としてのタスクシェア/シフト(2)
・睡眠障害について
・長期予後　地域連携　病棟連携
・チーム医療

(3)口演発表について



(4)本日の研究発表、実践報告で、どのテーマに興味がありましたか。(複数回答)



(5)意見・感想

・とても勉強になった。これからの看護に役立てたい。

・シンポジウムでは、シンポジスト同士のディスカッションがあると、一層フロアも刺激を受け、活発な場になるかと思った。今回なら、相互にどうつなげていくか、といったことを参加型で聴きたかった。

・音声が小さく聞こえにくかった。

2)研修担当者コメント

令和 4 年度看護研究学会は参加者数 79 名で、開催方法は新型コロナウイルス感染対策のため、シンポジウム・口演発表者・共同研究者(一部)は参集、一般参加者は遠隔のハイブリッドとした。

シンポジウムは、コロナ禍で人と人とのかかわり方が変化する中で、「コミュニケーション」を中心に 4 つの立場から発表があり、教育・臨床現場の立場と、周産期看護と家族看護の立場からは事例をもとに発表があった。今回、教育現場や臨床現場で困難を極めながらも体制整備や工夫を行い、その中から見えてきたものや新しい取り組みが紹介され、それらを参加者が共有することで、今後の示唆が得られ有意義な時間となった。また、アンケートの意見にもあるように、今後さらに相互につないでいく取り組みができればと思う。

研究発表・実践報告は「実態調査」「看護介入」「教育・看護師支援」の 13 演題の口演発表があり、アンケートの「実践への応用に役立つか」の問いに、約 98.3%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と答えており、今回の発表が臨床現場で活用されることを期待している。

また、ハイブリッド開催は、会場と遠隔で参加者が意見交換を行う場合、音声の調整が難しく課題が残る。

看護研究学会開催にあたり、ご協力をいただいた座長・発表者、参加者の皆様に心から感謝申し上げます。

2 地区支部看護研究発表会

【幡多地区支部】 令和４年度第27回看護研究学会

日時:令和５年２月18日(土) 14:00～16:30
開催方法:オンライン

プログラム

開会あいさつ　　地区支部長　伊賀 世起

第Ⅰ群　座長　竹本病院　水谷 美幸

1 当院の地域活動について ～地域の取り組みと課題～　中村病院　沖 和代

2 最期まで自分らしく生きることを支えていくための看護の役割を考える　松谷病院　濵中 美喜

3 透析室におけるCOVID-19感染症対策～個室対応となった患者への関わりを通して～
四万十市民病院　堺 咲子

4 薬カート導入してからのインシデントへの認識の変化　大月病院　中川 操

5 介護医療院の機能充実に対するスタッフの意識の変化と課題
介護医療院おおいだ 坂本 昌美

第Ⅱ群　座長　大月病院　前田 順子

1 コロナ禍における新卒看護師の看護実践能力の実態　竹本病院　大塚 歩

2 産後１ヶ月後の褥婦のうつ病スクリーニングの実態
～エジンバラ産後うつ病質問票(EPDS)と赤ちゃんへの気持ち質問票を用いて～
幡多けんみん病院　有田 亜美

3 在宅での介入困難な患者の服薬支援について外来での関り　森下病院　那須 汐里

4 スライディングシートについてのスタッフの認識　渭南病院　芝崎 諭志

5 回復期リハビリテーション病棟における食べるという意義について
～経管栄養から離脱した1事例を通して学んだこと～　筒井病院　若本 こゆき

講評　高知県看護協会　会長 藤原 房子

閉会

【須崎・窪川地区支部】 保健・福祉・医療実践発表会　開催なし

【吾川・佐川地区支部】 保健・福祉・医療実践発表会　開催なし

VI. 受託事業

1 看護職員等研修事業

研修名	1)多施設合同研修
開催日時	令和4年4月15日(土)～7月30日(土)のうち14日間
受講者数	延べ685名(会員32名、非会員653名)　実人数159名(助産師0名、看護師143名、准看護師16名)
目的	新人看護職員研修ガイドラインに沿った研修を補完するために、基礎的知識・技術、態度を習得し、先輩看護師の支援のもとに職場に適応して就業が続けられることに役立てる。また、研修を通して、他施設の新人看護職員との交流、意見交換の場とする。
その他	開催日時、受講者数、ねらい、講師、内容については1. 計画書参照

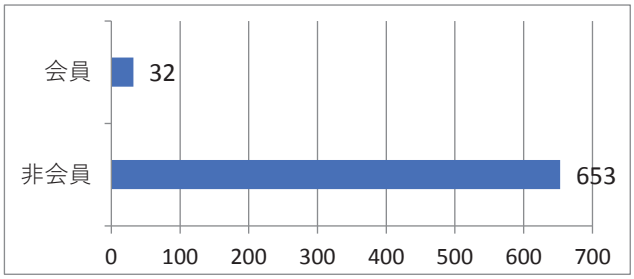
1. 多施設合同研修計画書

テーマ	ねらい	内容	方法	講師名	開催日時	募集人員	参加者数
魅力ある専門職に成長するために	社会人として、また専門職業人として成長していくための心構えをもつことができる	1. 看護の動向 2. 専門職業人としての第1歩 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、ﾏﾅｰ 倫理、接遇、 3. 看護協会の役割について	ｵﾝﾗｲﾝ	藤原房子 高知県看護協会　会長	4/15(金) 9:30～ 12:30	70名	集合)　16 ｵﾝﾗｲﾝ)　86 計　102名
医療安全の基礎知識	ヒューマンエラーの考え方を理解し実践できる	1. 医療安全の基礎知識 2. 組織で取り組む医療安全 3. 医療安全のための危険予知訓練	ｵﾝﾗｲﾝ	伊勢田純子 高知赤十字病院 医療安全管理者	4/15(金) 13:30～ 16:30	70名	集合)　8 ｵﾝﾗｲﾝ)　87 計95名
感染管理の基礎知識(1回目) 感染管理の基礎知識(2回目)	感染管理の基本的な考え方と実技を学び実践できる	1. 標準予防策と感染経路別予防策 2. 手指衛生と個人防護具について 3. 職業感染防止	講義 ・ 演習	森田安世 白菊園病院 感染管理認定看護師 アシスタント いずみの病院　並木健一郎	4/22(金) 9:30～ 16:30 4/27(水) 9:30～ 16:30	各 55名	集合のみ 92 計92名
注射・輸液(1回目)	静脈注射実施時の法的責任を理解し、点滴注射実施の注意事項を学ぶ	1. 看護師が行う静脈注射と法的責任 2. 薬剤の基礎知識 3. 点滴・静脈注射の適正使用	講義 (午前) 演習 (午後)	1. 谷めぐみ 高知大学医学部附属病院 教育担当師長 2. 段松雅弘 高知医療センター 薬剤局次長 3. 片井克也 テルモ株式会社四国支店 高知県担当チーフ ・指導者 佐竹あき・福原圭奈子 福留裕美・中川和也 濱田瞳・市川裕美 大崎徳江・有澤紫織 岡林啓太・刈谷恵子 髙根沙季・氏原祐子 中尾早央里・西田みさ 小田真美・池田香織 矢野茜・中野昌江 西川江美・廣田由紀 浅田陽子	5/20(金) 9:00～ 16:30	各 30名	集合のみ 38
注射・輸液(2回目)					5/21(土) 9:00～ 16:30		集合のみ 30
注射・輸液(3回目)					5/22(日) 9:00～ 16:30		集合のみ 37 合計105名
メンタルヘルスケア(1回目)	ストレスとうまく付き合い、乗り越えるための対処方法を理解できる	1. リアリティショック 2. メンタルヘルスの基礎知識 3. ストレス対処方法 5. 自分を元気に 4. 仕事を楽しく続ける	講義 演習	中井有里 高知県立大学看護学部 助教	6/3(金) 9：30～ 16：30	各 55名	集合のみ 47
メンタルヘルスケア(2回目)					6/4(土) 9：30～ 16：30		集合のみ 47 合計94名
フィジカルアセスメント(1回目)	身体をアセスメントするための基礎的な知識と技術を学ぶ	1. ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄとは 2. ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝの意味 3. 呼吸・循環の ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄに必要な知識	講義 (午前) 演習 (午後)	藤本王子 幡多けんみん病院 集中ケア認定看護師 アシスタント 三宮優子（6/29・30） 中平貴惠（7/1） 池畠真由美（6/29～7/1）	6/29(水) 9:30～ 16：30	各 30名	集合のみ 31
フィジカルアセスメント(2回目)					6/30(木) 9:30～ 16:30		集合のみ 34
フィジカルアセスメント(3回目)					7/1(金) 9:30～ 16:30		集合のみ 35 合計100名
救急対応(1回目)	救急看護の知識を理解しエビデンスに基づいた救命技術を学ぶ	1. 急変対応に必要な ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ 2. ＢＬＳとＡＥＤ 3. 蘇生時に使用する薬剤	講義 (午前)	大麻康之　(午前) 高知医療センター 救急看護認定看護師	7/28(木) 9:30～ 12：30	各 32名	ｵﾝﾗｲﾝ のみ)　34
救急対応(2回目)					7/29(金) 9:30～ 12：30		ｵﾝﾗｲﾝ)　33 集合)　2
救急対応(3回目)					7/30(土) 9:30～ 12：30		ｵﾝﾗｲﾝ のみ)　28 合計97名

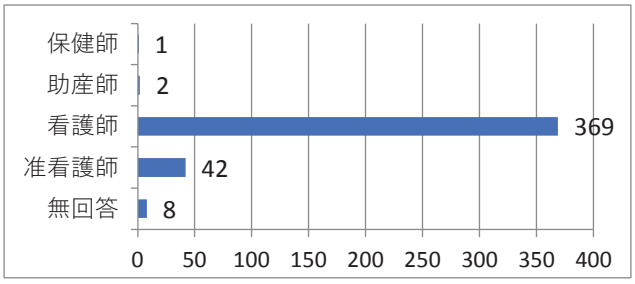
1．アンケート結果

出席者：延べ685名　　アンケート回収：422名　　回収率：61.6%

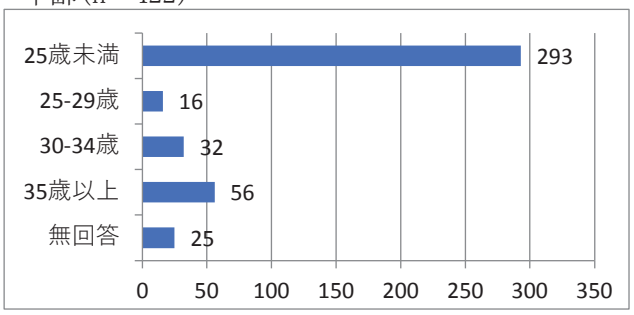
会員有無(n＝685)



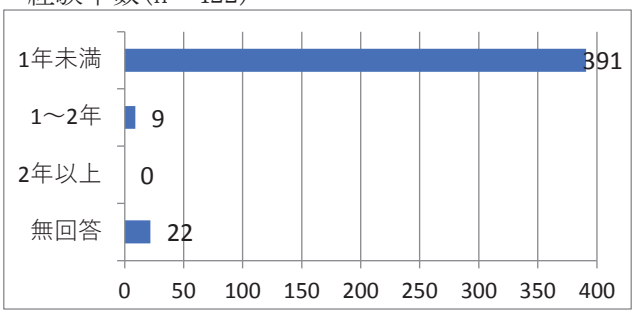
職名(n＝422)



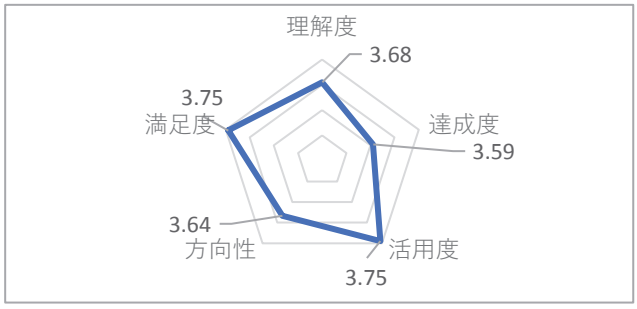
年齢(n＝422)



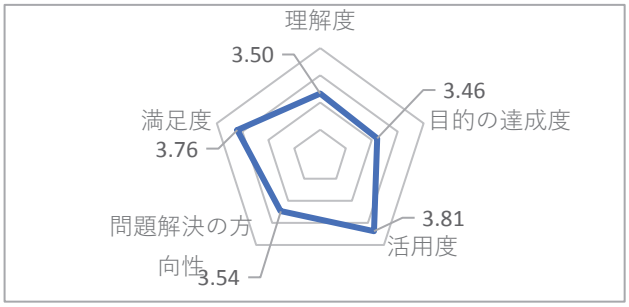
経験年数(n＝422)



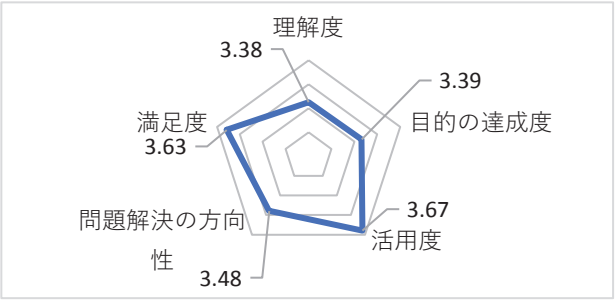
4段階評価(n=322)



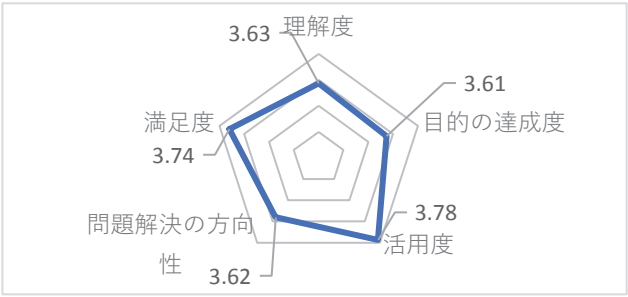
「看護師が行う静脈注射と法的責任」について
4段階評価(n＝100)



「薬剤の基礎知識」について
４段階評価（n＝100）



「点滴・静脈注射の適正使用」について
４段階評価（n＝100）



2. 感想、ご意見(一部抜粋)

＜医療安全の基礎知識・魅力ある看護専門職に成長するために・感染管理の基礎知識＞

・看護師としての必要な技術や知識について知ることができた。今後に生かしていきたい。

・薬剤名や患者名などの確認を改めて気をつけて行うようにしたいと思う。

・自分が実施していることに事故をおこさないか不安な日々ですが、確認をしっかりしていけば未然に防げることを再認識できた。

・学生時代に学んだことを振り返ることができ、改めて医療安全の大切さに気づくことが出来た。

＜メンタルヘルスケア＞
・ストレスになっていることを共有できてすっきりした。
・今日の講義を受けるまでマイナス思考になることが多くなっていたが、良い解決策が聞けて今後に活かしていき、前向きに仕事を続けていけたらいいと思った。
・ロールプレイをしたことで、先輩Nsにどう質問したら良いかを考えることができた。
・今日の研修で看護師の心身が健康である必要性は大事だと思った。
・ストレスの対処法やコミュニケーションの方法を学ぶことができた。
＜注射・輸液＞
・実際に実施することができ理解が深まった。
・注射では曖昧にしている所が自分自身あったので、今回の研修を通してしっかり学ぶことができた。
・注射の手技を再確認できた。
・静脈注射をしてなかったので、この研修のおかげでしっかりできると思う。
・病院では体験できないこともあり、良い刺激になった。今後に活かしていきたい。
・ルートキープ自体が初めてで、手順、コツがわからなかったけど、指導者さんが分かりやすく教えてくださって今後に活かせそう。
＜フィジカルアセスメント＞
・状態の把握やアセスメントまで行うことはできたが、その先検査の事（確認すること）、Dr. に報告する内容、確認する内容などが頭に浮かばず、難しいと感じた。次の日勤に繋ぐためにしないといけない行動をとることの重要性がわかった。
・バイタルサイン値からアプローチへのつながりが結びつかない所があったが、今回の研修で結びつきを考えることができた（解決できそうです）。仕事に活かして生きたい。
・聴診のやり方や基礎のこと、患者さんの情報から考えられる事や看護など広く考えることができた。
・一次評価、二次評価をこれから実際行いたいと思う。
＜救急対応＞
・現場で学んだ知識と結び付けて研修を受けることができた。自身が実施している医療行為が根拠の基正しく行われていることを再確認できたことで自信に繋がり、継続学習の意欲を得られた。
・話した内容を途中で整理する時間があり、要点を抑えながら学習出来た。
・報告は苦手だが、何を伝えればいいかがわかった。
・パワーポイントが見やすくて分かりやすかった。グループ討論でSBARの報告の仕方が理解できた。
・明日から実施できることがたくさんあって勉強になった。

3. 担当者のコメント

今年度は、参加55施設のうち新規参加が7施設、全研修参加者は29名であった。また演習を含む研修では、急変対応以外の研修で計画通りに実施することができた。COVID-19の感染拡大により急遽講義のみになった急変対応は、演習こそ実施できなかったものの講師の協力もあり、より実践に近い内容で満足度・活用度が高評価となったと考える。

また、他施設の方と直に交流することで自然と友人関係が成立したり、共感したり、参考にしたり情報共有したりと、有意義な時間になったと考える。

次年度以降も、基本的感染対策を遵守しつつ、体験を通して楽しく学べる企画を継続していきたい。

研修名	2)新人看護職員研修　実地指導者研修
開催日時	令和4年12月3日(土)、9日(金)、16日(金)
受講者数	延べ111名(会員91名、非会員20名)、実人数38名(保健師0名、助産師2名、看護師36名、准看護師0名)
目的	新人看護職員の実地指導者として、ガイドラインで求められている基礎的知識・技術、態度を習得し、効果的な支援ができる
その他	講師、内容については、下記表1参照

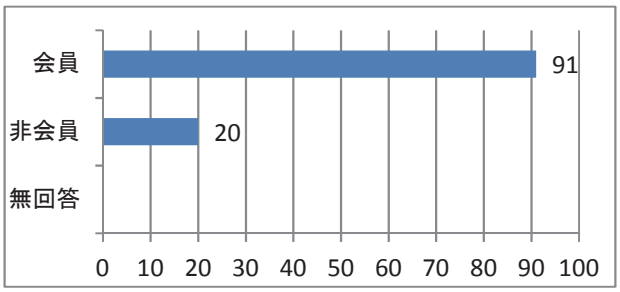
表1　実地指導者研修計画書

日程	テーマ	内容	方法	講師
1日目 12月3日 (土) 9：30 ～16：30	新人看護職員臨床研修体制の理解	1．医療・看護を取り巻く社会の動向	オンライン 講義	日本看護協会 看護研修学校 継続教育課 課長 高橋　久美
		2．新人看護職員研修のガイドラインについて		
		3．看護基礎教育と臨床現場の現状		
		4．人材育成の考え方と教育体制づくり		
		1)組織における研修責任者・教育担当者・実地指導者の役割		
		2)新人看護職員を育てる組織風土づくり		
		3)部署管理者との調整		
2日目 12月9日 (金) 9：30 ～16：30	新人看護職員と実地指導者のメンタルヘルス	1．新人看護師が抱えるストレスとメンタルサポートについて	集合 講義	岡本　眞知子
		2.　新人看護師に対するメンタルヘルスケア支援		
		3．効果的なコミュニケーションスキル		
		1）伝えたいことを伝える力、伝わる説明力について		
		2）意思疎通・信頼性など関係性構築のスキル		
		4．実地指導者のストレスマネジメントについて		
3日目 12月16日 (金) 9：30 ～16：30	部署における看護技術指導の実際	1．実地指導者を取り巻く現状と役割の実際	集合 講義 + GW	高知大学医学部 附属病院 教育担当師長 谷　めぐみ
		2．部署における新人看護職員研修計画について		
		3．看護技術の指導方法		
		1）到達目標の設定と期間・看護技術を支える要素		
		2）個別プログラムの作成		
		3）評価とフィードバック(振り返り)		
		4）自施設にいかすための意見交換		

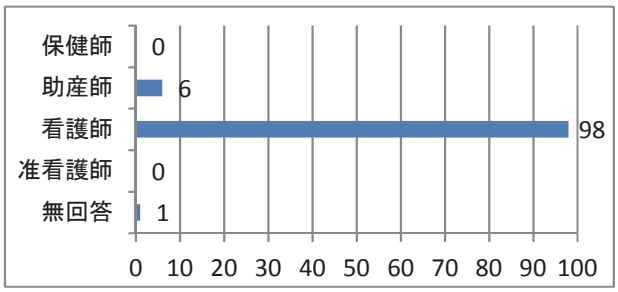
1.アンケート結果　　令和4年12月3・9・16日

出席者:111名　アンケート回収:105名　アンケート回収率:94.6%

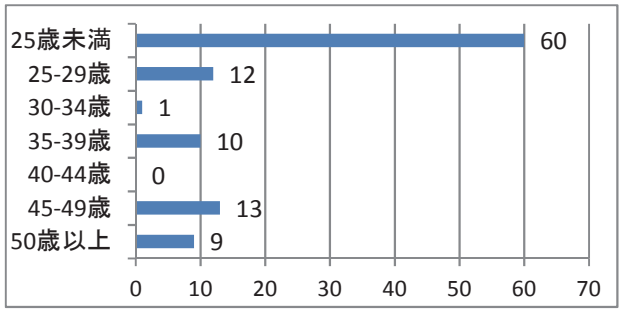
会員有無(n=111)



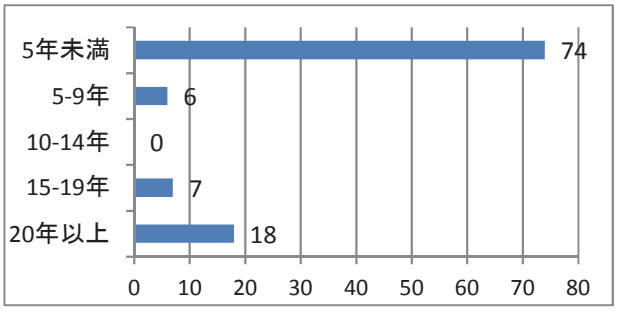
職名(n=105)



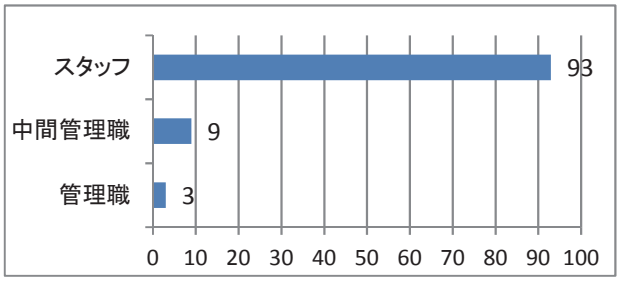
年齢(n=105)



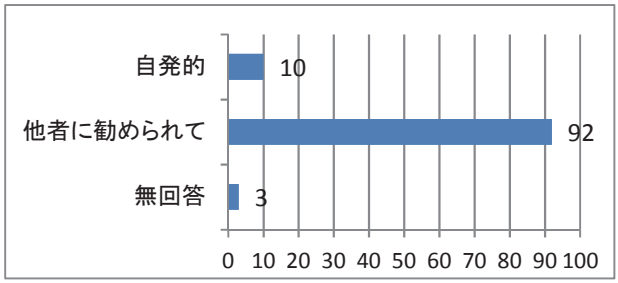
経験年数(n=105)



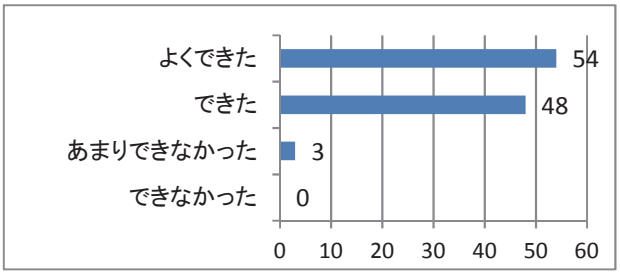
職位(n=105)



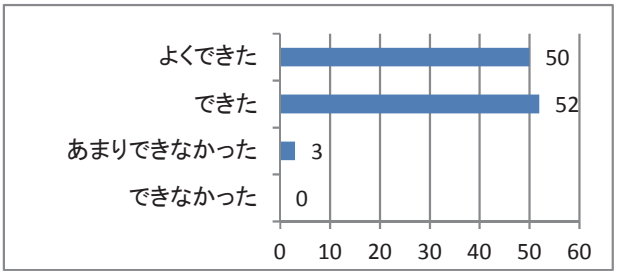
参加について(n=105)



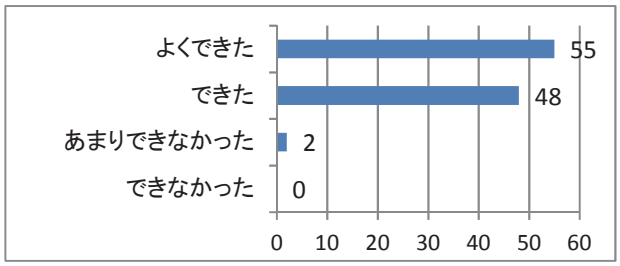
研修内容の理解度(n=105)



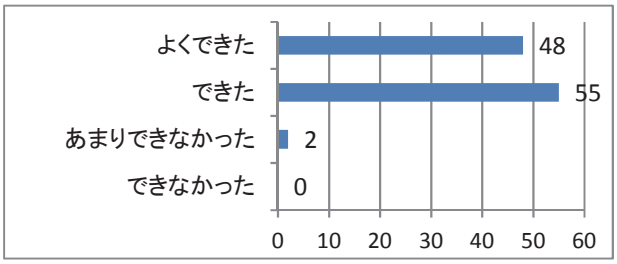
参加目的の達成度(n=105)



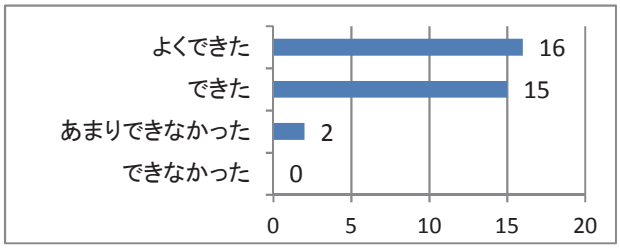
今後の活動に活用できるか(n=105)



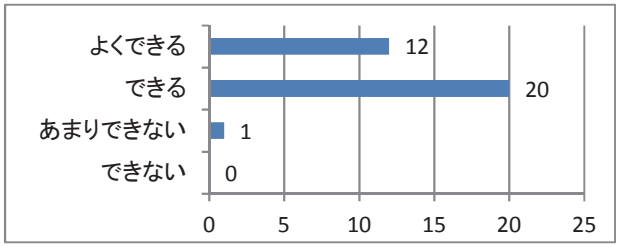
課題、方向性の明確化ができたか(n=105)



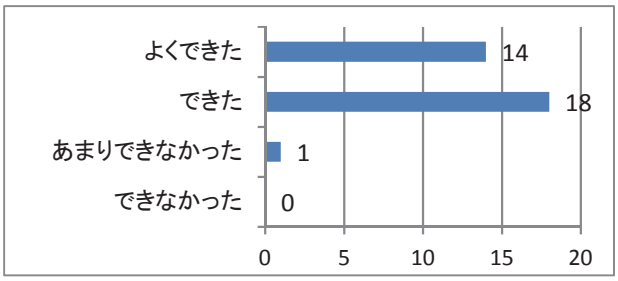
教育体制作りの必要性の理解（n＝33）



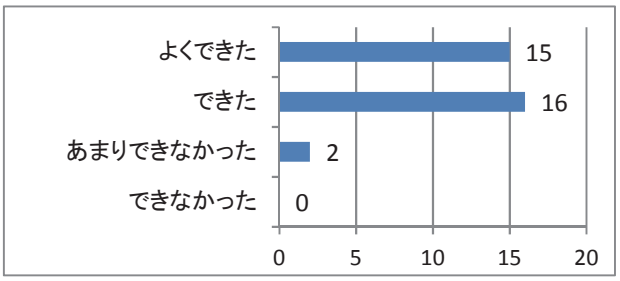
基礎教育の現状の理解（n＝33）



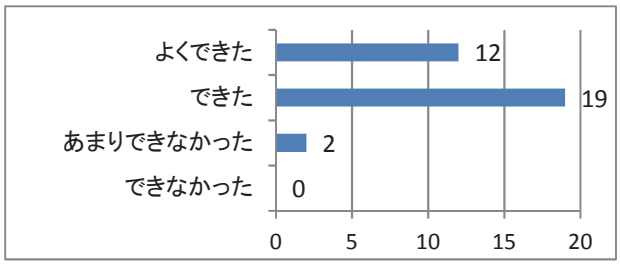
実地指導者の役割の理解（n＝33）



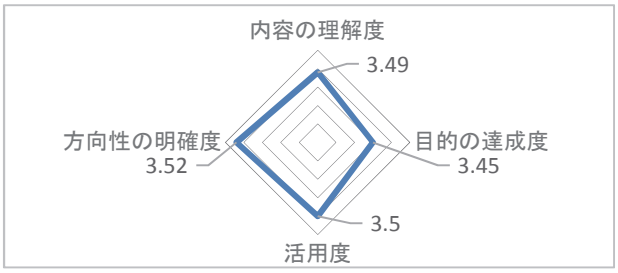
教育担当者の役割の理解（n＝33）



研修責任者の役割の理解（n＝33）



4段階評価（n＝105）



2. 感想・ご意見（一部抜粋）

・新人看護師が新しい職場に来てどのような不安・ストレスを抱えているか、それらにプリセプター、先輩看護師としてどのように関わっていくと良いのか、講義を通して学ぶことができた。
・講義途中で涙してしまった。「勇気づけ」のパートの理想の自分が、新人が置かれている立場の様に「思い描いている」他人のような自分と重なり、等身大の自分ではなく理想の他者を目指していた。中間管理職2年目、部署交換1年目の自分と新人を重ねて共感できることも多かった。共感できる分、自分らしく新人スタッフに寄り添えたらと思う。
・新人さんとの振り返りをロールプレイすることで、どんな事を意識して関わりを持つようにすると良いのか学ぶことができた。プリセプターからの一方的なかかわりにならないよう、新人さんの気持ちや考えている事を引き出せるような関りを行っていきたい。
・具体的な事例を用いてロールプレイを行う事で、自身がプリセプターになった際のイメージがしやすかった。本日の講義内容を今後の仕事へ活かしていきたい。
・他の病院の新人教育の様子や新人とのかかわりについて話を聞くことができ参考になった。新人一人ひとりと向き合えるよう、自分が新人の頃も思い出しながら頑張りたいと思う。
・実際に指導計画やチェックリストを作成したことで、指導のプロセスや考え方が少し分かった。
・新人さんの気づきを認めながら関わっていきたいと思った。
・やみくもに教える、自分流に教えることにならないように、ガイドラインや手順書、チェックリストを用いて、客観的に皆が同じように評価できるよう整えていく事の大切さが分かりました。また、相手の性格なども踏まえてモチベーションが上がる関りができたらいいなと感じた。

3. 研修担当者コメント

今年度は、1日目はオンライン配信、2・3日目は集合で開催することが出来た。
アンケートの4段階評価は、活用度3.5、方向性の明確化3.52となっている。このことは、今回の研修で、日頃新人を育てるうえで困難と感じていたことへの対応方法や新しい知識を得たり、他者（他施設）との意見交換・情報共有、具体的なコツなどを学び、自部署での立場、役割を認識した結果と考えられる。
また、グループワークやロールプレイでは効果的な支援の再考につながっている。以上のことから、本研修の目的は達成できたといえる。
今後は、現場で新人看護職員とともに成長し続けてくれることを期待する。

研修名	2)新人看護職員研修　教育担当者研修
開催日時	令和4年11月18日(金)　25日(金)　27日(日)
受講者数	延べ84名(会員57名、非会員27名)、実人数43名(保健師1名、看護師42名、)
目的	組織における教育担当者の役割を理解し、ガイドラインで求められている研修企画・運営・実施・評価に必要な知識を学び、組織全体で取り組む新人看護職員臨床研修体制を構築する
その他	講師、内容については、下記表1参照

表1　教育担当者研修計画書

高知地区　：　（会場）高知県看護協会

日程		テーマ	内容	方法	講師
1日目 11/18（金） 13：30～ 16：30	ＰＭ (3H)	新人看護職員臨床研修体制の理解	1. 医療・看護を取り巻く社会の動向 2. 看護基礎教育の現状 3. 新人看護職員研修ガイドラインの概要 1）新人看護職員研修ガイドライン策定の意義と基本的な考え方 4. 人材育成の考え方と教育体制づくり 1）新人看護職員を育てる組織風土づくり 2）組織における研修責任者、教育担当者、実地指導者の役割　等	ｵﾝﾗｲﾝ ＊Wi-Fi環境により会場で受講可（要事前申込）	日本看護協会 教育研究部 継続教育課 課長 高橋久美
2日目 11/25（金） 9：30～ 16：30	２Ｈ 9：30～ 11：30	看護基礎教育現場の実際	・カリキュラム改正について ・県内看護師等学校養成所のカリキュラム、ディプロマポリシーについて ・教育現場が臨床現場に求めること	集合	国立病院機構 高知病院 附属看護学校 教育主事 東谷みゆき
	２Ｈ 12：30～ 14：30	臨床現場の新人看護師教育体制について	・教育体制について ・最近の新人看護職員の特徴 ・臨床現場が基礎看護教育現場に求めること		近森病院 副看護部長 森本　志保
	２Ｈ 14：30～ 16：30	ワークショップ (1.5H) まとめ (0.5H)	テーマ 「コロナ世代、社会人基礎力が低下している新人看護師の現状から、新人看護師研修のプログラムを考える」		ファシリテーター 東谷みゆき 森本志保

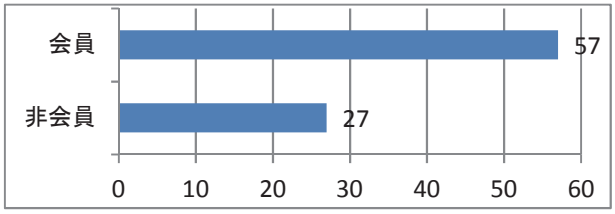
幡多地区　：　幡多看護専門学校

1日目 11/18（金） 13：30～ 16：30	ＰＭ (3H)	新人看護職員臨床研修体制の理解	1. 医療・看護を取り巻く社会の動向 2. 看護基礎教育の現状 3. 新人看護職員研修ガイドラインの概要 1）新人看護職員研修ガイドライン策定の意義と基本的な考え方 4. 人材育成の考え方と教育体制づくり 1）新人看護職員を育てる組織風土づくり 2）組織における研修責任者、教育担当者、実地指導者の役割　等	ｵﾝﾗｲﾝ ＊会場なし	日本看護協会 教育研究部 継続教育課 課長 高橋久美
2日目 11/27（日） 9：30～ 16：30	２Ｈ 9：30～ 11：30	看護基礎教育現場の実際	・カリキュラム改正について ・県内看護師等学校養成所のカリキュラム、ディプロマポリシーについて ・教育現場が臨床現場に求めること	集合のみ ＊会場 幡多看護専門学校	近森病院 附属看護学校 副校長 平瀬節子
	２Ｈ 12：30～ 14：30	臨床現場の新人看護師教育体制について	・教育体制について ・最近の新人看護職員の特徴 ・臨床現場が基礎看護教育現場に求めること		幡多けんみん病院 副看護部長 伊吹奈津恵
	２Ｈ 14：30～ 16：30	ワークショップ (1.5H) まとめ (0.5H)	テーマ 「コロナ世代、社会人基礎力が低下している新人看護師の現状から、新人看護師研修のプログラムを考える」		ファシリテーター 平瀬節子 伊吹奈津恵

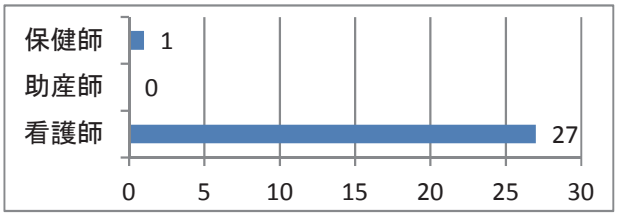
1. アンケート結果　　令和4年11月18・25・27日

出席者:84名　アンケート回収:65　アンケート回収率:77.4%

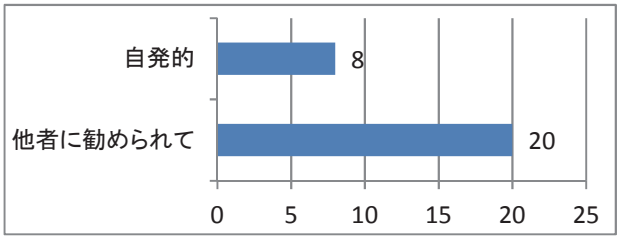
会員の有無(n＝84)



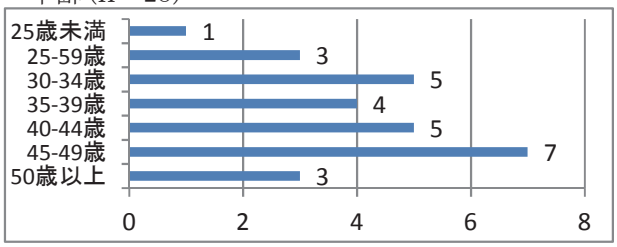
職名(n＝28)



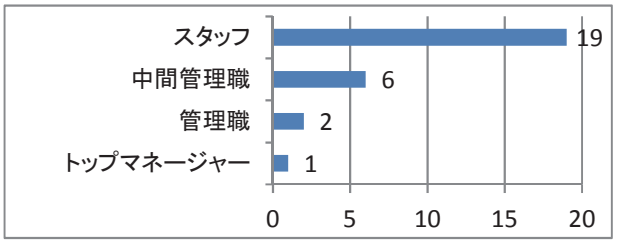
参加について(n＝28)



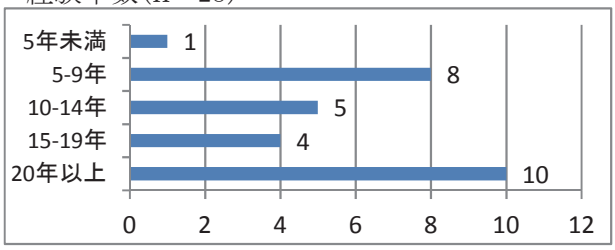
年齢(n＝28)



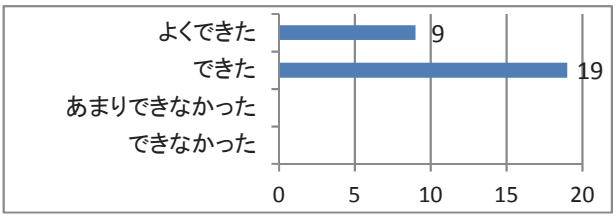
職位(n＝28)



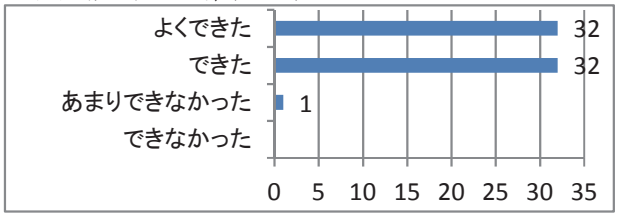
経験年数(n＝28)



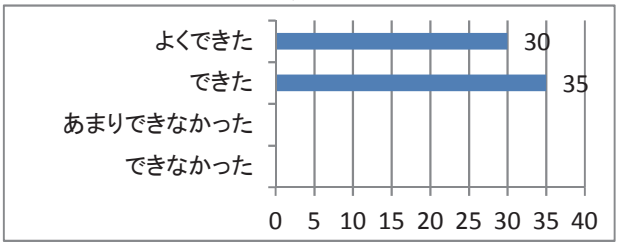
教育体制づくりの必要性の理解(n＝28)



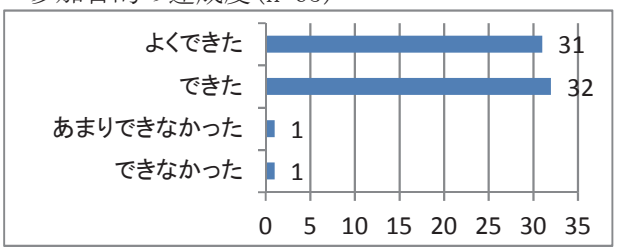
研修概要の理解(n=65)



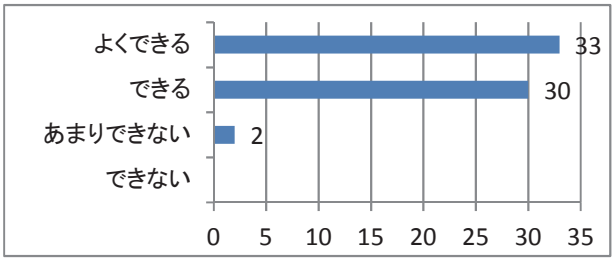
基礎教育の現状の理解(n=65)



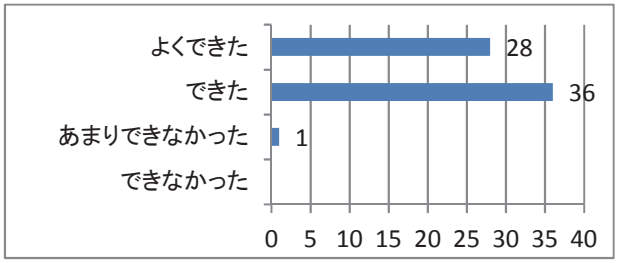
参加目的の達成度(n=65)



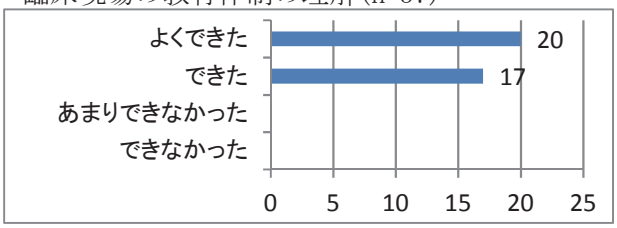
今後の活動に活用できるか(n=65)



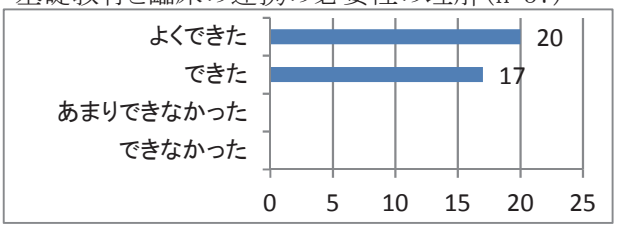
課題、方向性の明確化ができたか(n=65)



臨床現場の教育体制の理解（n=37）



基礎教育と臨床の連携の必要性の理解（n=37）



2. 感想、ご意見（一部抜粋）

・看護職として当たり前のように感じていたことも、教育課程や時代によって大きく異なる。自分の当たり前と思っていることや価値観が全く通じないことも多々あり、教育者側がその辺りをしっかり意識しておく必要があると感じた。
・実際に毎年新人看護師を受け入れているなかで、新人看護師の特徴がまさに当てはまることばかりで、そこにはアセスメント力の違いや業務分担の明確化などがきちんと出来ていないなど、今回の研修で自分達がやっていかなければならない課題が明確化出来た。
・新人教育について深く学べたが、責任も同時に重くなり少し不安。自分にできることから始め、新人さんと成長していければ良いかなと思う。
・他の医療施設の新人研修プログラムも共有できて、学びが深まった。
・新人職員との関わり方を理解することができてよかった。教育への知識が深まり今後に活かせる気がする。
・これからの新人看護師や指導者、病棟スタッフへの働きかけ方を見直す機会となり、とても学びの多い研修となった。
・業務に追われ、基本を忘れる事が多々ありますが、常に基本に振り返る指導をしていきたい。
・医療、看護をとりまく政策など変化が大きく、受け入れに困難さを覚えた。しかし社会的な動向も変化があるのは当たり前で、それに遅れをとらないように頑張る必要があることが学べた。
・新人がどのような学習をし看護師として入職してきたのかを知ることができ、今後新人と関わる際にはもっと理解してあげられるのかなと思った。全体を通して目標設定がかなり大事なことだと気づいたので、実践にも生かせるように考えていきたい。
・ワールドカフェでいろいろな発想、意見が聞けてとても楽しかった。
・カリキュラムや学校教育についても学べ、今後の教育に活かせそう。
・新人さん個々に応じた対応、個別を理解し寄り添っていくことが大切であると再確認できた。
・新人を認める、大切に育てていく、根気強く育てていこうと思う。指導者、スタッフ、病院全体で新人教育に取り組める体制ができればいいと思う。
・年間目標の達成に向けた行動ができないスタッフに、成功体験できるような関わりができるスタッフを育成したい。
・新人教育体制が整っていない状態なので、他病院の話を聞けて良かった。
・自分一人で計画を立案していたので、プリセプター、新人とで一緒に話をして計画を立てることで成長につながると思った。
・自施設の教育プログラムが見直された背景がよく理解できた。また、自施設と他施設の理念や施設の役割の違いや、様々な情報共有ができ、有意義なグループディスカッションとなった。

3. 担当者コメント

・新人の定着に向けた取り組みはコミュにケーションに関することが最も多く、ソフト・ハード面での働きやすい環境作りも重視していることから、教育担当者は、自身の新人時代とのギャップや困難感を感じる一方で、スタッフ教育や環境改善への困難感も感じていることが分かった。
・新人教育についての新たな気づきや知識が深まり、現場で活かしていきたいという意見が多くみられたことは、他施設との情報交換・共有し自施設の新人教育体制を再考する機会となり、より実践に即した体制の必要性が理解できた研修であったと思われることから、本研修の目標は達成できたと考えられる。

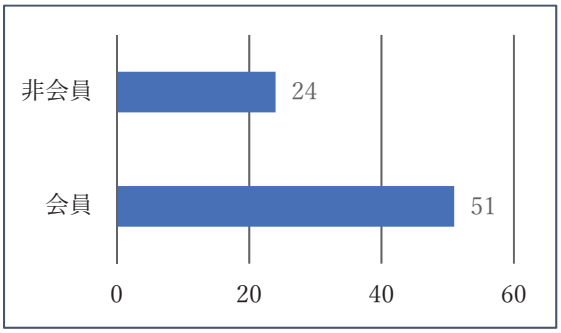
研修名	3)新人助産師合同研修	
開催日時	令和4年7月30日(土)～令和5年1月21日(土)	時間 9:30 ～16:30
受講者数	延べ75名(会員51名 ・非会員24名)	定員20名
ねらい	(1)県内に就労した新人助産師が、基本的な臨床実践能力を獲得することにより、看護の質の向上及 び早期離職 防止を図る。 (2)自らが主体的に学ぶ力を育て、継続的にキャリアアップに取り組むことができる。 (3)研修を通して新人助産師間の交流を図る。	
講師	プログラム参照	
内容(キーワード)	プログラム参照	オンライン・集合講義・演習

1. プログラム

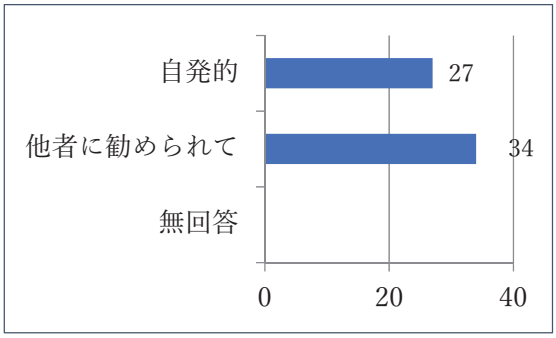
開 催 日	テーマ・時 間	内 容	方法	講 師
【公開講座】 7/30(土)	9:30～12:00 CTGによる胎児心拍モニタリングの基礎知識	CTGによる胎児心拍モニタリングの基礎知識と判読について学ぶ	講義	高知県立あき総合病院 産婦人科部長 池上 信夫
	13:00～15:30 助産師として災害に備える①	助産師として災害への心構え ・ 災害発生時の初期対応がわかる	講義	高知県立大学看護学部 教授 渡邊 聡子
	15:35～16:30 交流会【新卒助産師対象】	他施設の新人助産師と交流	GW	助産師職能委員会
【公開講座】 8/24(水)	9:30～11:30 新生児のフィジカルアセスメントとディプロップメント	フィジカルアセスメントとは 新生児をとりまく家族への支援 環境調整について	講義	高知医療センター 新生児集中ケア認定看護師 山本 晃子
	12:30～14:30 不妊治療を受けた妊産褥婦の支援と家族支援	不妊治療を受けた妊産褥婦・家族への支援を考える	講義	高知医療センター 不妊症看護認定看護師 田渕 良枝
	14:30～16:30 産前・産後の骨盤ケア	産前・産後の骨盤ケアについて学ぶ	講義	理学療法士 山崎 生希
【公開講座】 10/1(土)	9:30～12:30 母乳育児支援の理論と実際	母乳育児の意義・効果について理解できる 乳房ケアの実際を学ぶ	講義	香川県助産院ゆるり 助産師 鈴木 佳奈子
	13:30～16:30 助産師として災害に備える②	災害発生時の初期対応のその後	講義	高知県立大学看護学部 教授 渡邊 聡子
【公開講座】 11/5(土)	9:30～12:30 ハイリスク妊産婦の治療と管理	ハイリスク妊産婦の病態について学び、管理について知る	講義	高知大学医学部附属病院 産婦人科 講師 永井立平
	13:30～16:30 社会的ハイリスク妊産婦の看護	社会的ハイリスク妊産婦の看護及び心理的危機に直面した妊産婦と家族の看護について学ぶ	講義	高知医療センター 看護副科長 矢野真奈美
【公開講座】 1/21(土)	9:30～12:00 新生児訪問について ～産後の支援を考える～	・施設と地域の連携 ・地域の保健師活動について	講義	助産院はぐはぐ 助産師 森木 由美子
	13:00～15:00 職業倫理	助産師の職業倫理について学び、倫理的感応力を高める	講義	高知県立大学看護学部 准教授 嶋岡 暢希
	15:10～16:30 交流会【新卒助産師対象】	助産師としての今後の目標をたてる	GW	助産師職能委員会

2. アンケート結果　参加者　延 75 名(助産師 67 名　看護師 8 名)アンケート回収率 81.3%

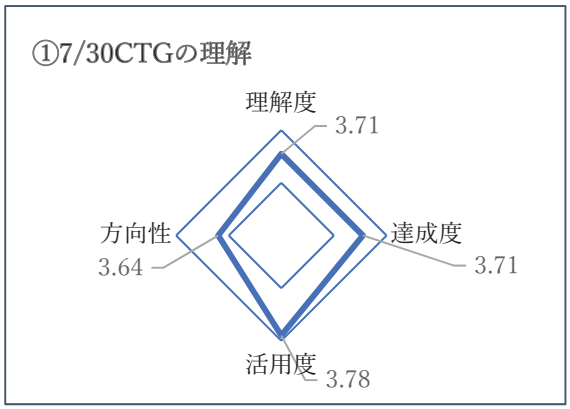
1)会員の有無

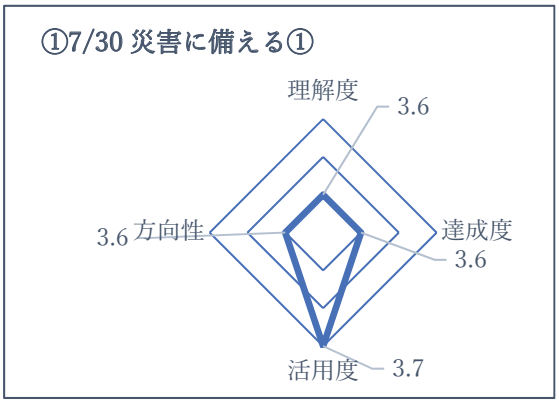


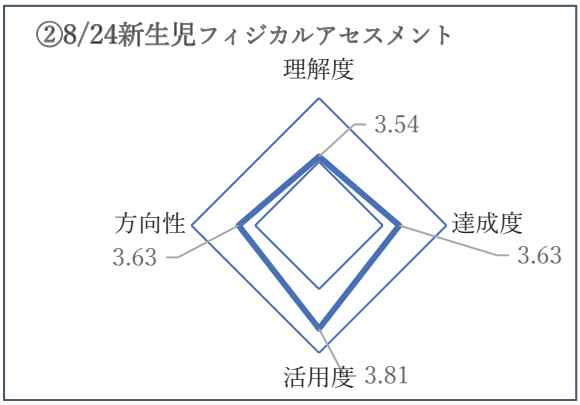
2)参加について

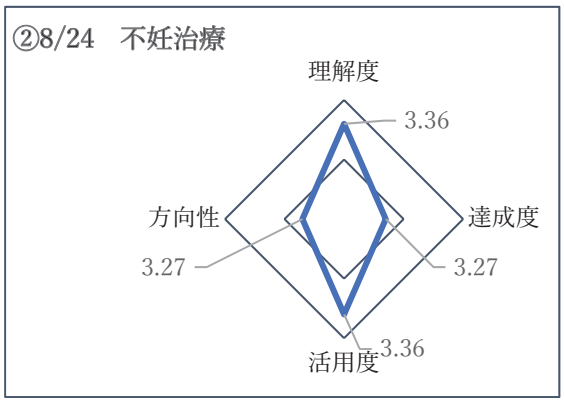


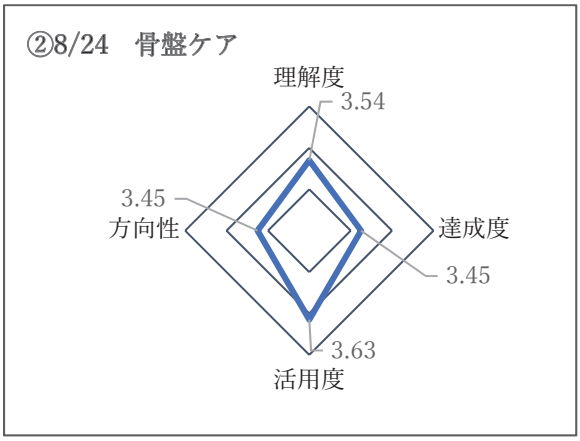
3）研修成果

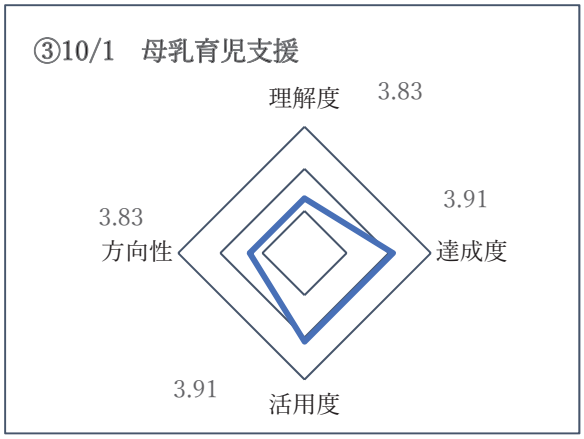


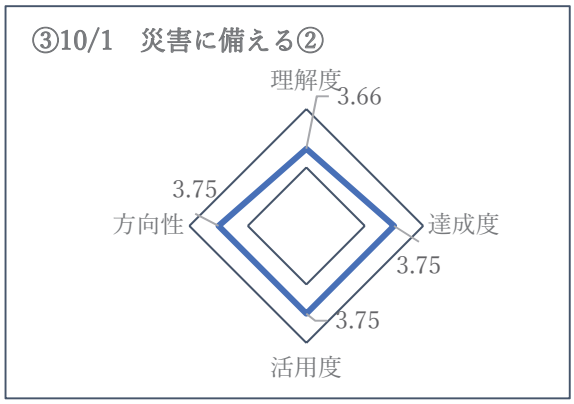


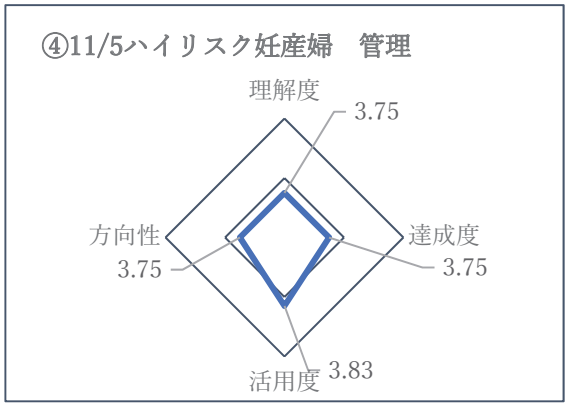


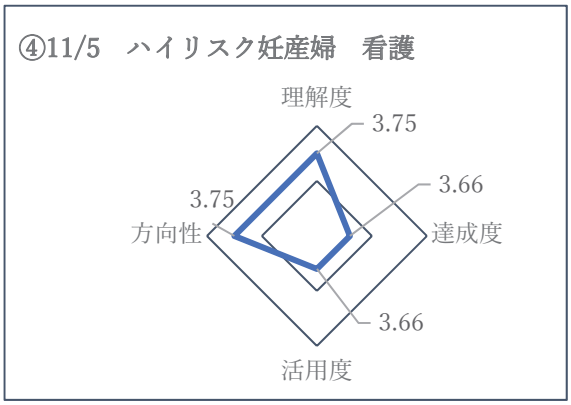


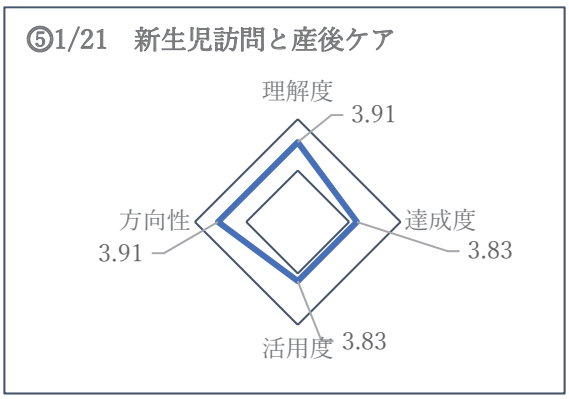


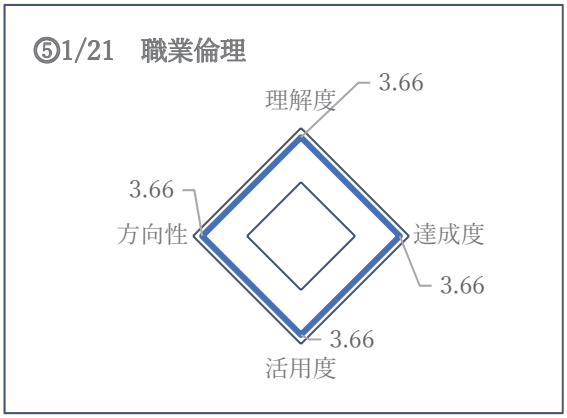












3. 感想ご意見

第 1 回

・モニター判読が苦手だったのでとても勉強になりました。

・皆さんレベルが高くて驚きました。現場で胎児心拍モニタリングのレベル評価するために、ポケットマニュアルをぜひいただきたいです。

・他の病院の新人さんの努力されていること、悩みも知れて良かったし、私も改善しようと思いました。

第 2 回

・つい最近帝王切開術の児受けに入り、その後の呼吸アセスメントで悩んだので、改めてフィジカルアセスメントを学べてよかったです。また普段疑問に思っていたことを根拠から理解できたので今後に活かしていきます。不妊についての講義は少し難しかったですが、生殖補助医療が増えていく中で必要な知識だと思いました。骨盤ケアについては、妊産褥婦さんのニーズも高いので、分かりやすい説明で理解できました。

・周産期の女性の生活環境は様々であり、その悩みや不安に対して寄り添い母児が健やかに過ごせる環境を整える支援が必要なのだと学びました。またその言葉選びも言葉遣いも受け取る側のことを考えて慎重になるべきだと感じた。

第 3 回

・明日からの実践に活かせる内容でした。

・母乳育児支援に苦手意識があったので、知識が増えてよかったです

・母乳育児支援は褥室係になった時の 1 番の課題にあると思っているので、ケアの方向性について学ぶことができて良かったです。今後の参考にしていきたいです。

・母乳育児支援では、根拠を理解できたので日頃の悩みや疑問を解消することができました。お母さんたちに還元できるような声かけ・関わりを実践していきたいです。 災害では、内容が少し難しく理解しようと必死になっていました。最後のクイズ楽しかったです。
・もう少し詳しくききたい部分もありましたが、分かりやすく今後の臨床の場で参考にしたい内容ばかりでした。 また、災害対策についても各病院の取り組みについて知ることができ、自分の病院でも実践したいと思います。

第 4 回

・実際に臨床で活かせる知識や内容でした。
・ハイリスク妊産婦の講義では知識の再確認ができてすごくよかったです。お話も面白くて聞くのがたのしかったです。 社会的ハイリスクの方を担当させていただくことがまたないですが、これからに活かします。
・ハイリスク疾患に関しては、自分がまだ勉強しきれていなかった合併症などもあると分かり、さらに危機意識を持って看護していこうと思いました。 社会的にハイリスクがある人に対しては、まだそこまでの関わりはないですが、今後は妊産婦と家族の全体像を理解して関わりをもっていこうと思いました。

第 5 回

・グループワークの機会があり、普段関わらない方とも情報交換できてよかったです。
・一年間ありがとうございました。同じ新人助産師として交流できてよかったです。
・グループワークやロールプレイを通して、対象との関わり方について考えさせられるいい機会になりました

4）研修担当者コメント

受講生 75 名中 67 名（89.3%）が新人助産師であった。研修内容により評価はややばらつきがあるが、臨床経験と照らし合わせ、理解を深める研修となっている。新型コロナ感染拡大のため研修当初は、オンラインで開始したが、10 月から集合研修となり、顔と顔が見える関係作りにも効果があったと考える。

研修名	4) 保健師助産師看護師実習指導者講習会	
開催日時	令和4年8月9日(火)～11月11日(金)のうち32日間 (186時間) 時間 9:30～16:30	
修了者数	41名(会員31名・非会員10名) 職種(看護師41名)	定員 50名
目的	看護教育における実習の意義ならびに実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるように必要な知識、技術を習得する	
講師	研修日程表 下記表1参照	
内容	研修科目・時間数・内容 別添表2参照	講義・演習

表1 保健師助産師看護師実習指導者講習会日程表 ［　］の部分は公開講座

月 日	曜日	午前 9:30～12:30	午後 13:30～16:30
8/9	火	オリエンテーション(開講式終了後～)	医療看護の動向と展望 高知県看護協会 会長 藤原 房子
8/10	水	教育原理 高知大学教育研究部 教授 岡谷 英明	
8/12	金	教育原理(教育制度の観点から) 愛知教育大学 准教授 石嶺 ちづる	
8/22	月	教育原理(学習科学の観点から) 高知大学教育研究部 准教授 野中 陽一朗	教育方法 高知大学教育研究部 准教授 野中 陽一朗
8/23	火	教育方法 高知大学教育研究部 准教授 野中 陽一朗	
8/24	水	教育方法 高知大学教育研究部 准教授 野中 陽一朗	
8/25	木	発達心理 高知大学人文社会科学部 准教授 渡邊 ひとみ	
8/26	金	教育心理 高知大学教育研究部 講師 福住 紀明	
9/5	月	教育心理 高知大学教育研究部 講師 福住 紀明	教育評価 高知大学教育研究部 講師 福住 紀明
9/6	火	教育評価(教育評価の理論) 高知大学教育研究部 講師 福住 紀明	
9/7	水	教育評価(教育評価の実践) 高知大学教育研究部 准教授 野中 陽一朗	
9/8	木	看護論 高知県立大学看護学部 教授 池添 志乃	看護倫理(概論) 高知県立大学看護学部 准教授 藤代 知美
9/9	金	看護倫理(演習) 高知県立大学看護学部 講師 有田 直子	セルフケア理論 高知県立大学看護学部 助教 中井 有里
9/20	火	実習指導の原理 高知大学医療学系看護学部門 教授 山脇 京子	
9/21	水	看護教育課程 高知大学医療学系看護学部門 講師 下元 理恵	実習指導の原理 高知大学医療学系看護学部門 准教授 佐藤 美樹
9/22	木	実習指導の原理 高知大学医療学系看護学部門 講師 竹村 多加	
10/3	月	基礎看護学 高知大学医療学系看護学部門 准教授 笹岡 晴香	家族ケア 高知県立大学看護学部 助教 坂元 綾
10/4	火	在宅看護学 高知県立大学看護学部 准教授 川上 理子	ヘルスプロモーション 高知県立大学看護学部 講師 小澤 若菜
10/5	水	看護教育課程 高知大学医療学系看護学部門 講師 下元 理恵	
10/6	木	看護教育課程 高知大学医療学系看護学部門 講師 下元 理恵	成人看護学 高知大学医療学系看護学部門 准教授 佐藤 美樹
10/7	金	精神看護学 高知県立大学看護学部 教授 田井 雅子	母性看護学 高知県立大学看護学部 教授 渡邊 聡子
10/12	水	小児看護学 高知県立大学看護学部 准教授 高谷 恭子	看護教育課程 高知大学医療学系看護学部門 教授 下元 理恵
10/17	月	老年看護学 高知県立大学看護学部 教授 竹﨑 久美子	カンファレンス指導法 高知学園短期大学看護学科 教授 和泉 明子
10/18	火	カンファレンス指導法 高知学園短期大学看護学科 教授 和泉 明子	実習指導の実際(Gワーク)
10/19	水	実習指導の評価 高知学園短期大学看護学科 講師 東 麻奈美	
10/20	木	実習指導の評価 高知学園短期大学看護学科 講師 東 麻奈美	実習指導の実際(Gワーク)
10/21	金	実習指導の実際(Gワーク)	
11/7	月	実習指導の実際(模擬カンファレンス)	実習指導の実際(Gワーク)
11/8	火	実習指導の実際(Gワーク)	実習指導の実際(Gワーク)
11/9	水	実習指導の実際(Gワーク)	
11/10	木	実習指導の実際(Gワーク)	発表会準備
11/11	金	まとめ 発表会 閉講式	

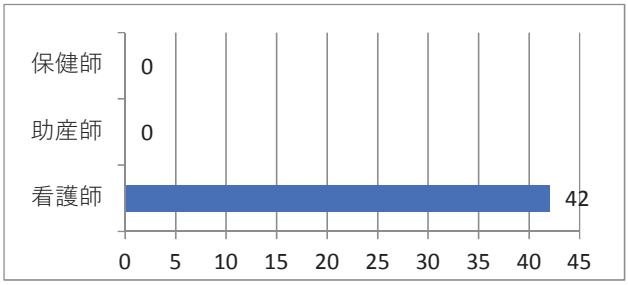
令和4年度　保健師助産師看護師実習指導者講習会　科目・時間数・内容

区分	科目		単位数	時間数	目標及び内容
基礎分野	教育の基盤	教育原理	1	15	教育の本質の基本知識、概念及び必要な理論を学ぶ。 ・教育の本質、目的
		教育方法	1	15	教育方法の基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・授業形態、教育方法及び教材の活用　等
		教育心理	1	15	人間の発達と学習過程における心理的特徴についての基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・成長発達に伴う学習者心理の理解 ・学習過程における心理　等
		教育評価	1	15	教育評価の基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・教育評価の目的と方法 ・講義・演習・実習評価の方法　等
専門分野	看護論	看護論	1	15	人間の健康、看護の考え方を多角的に学び、看護についての視野を広げ、自己の看護観を明確にする。 ・看護の機能と役割 ・看護場面と看護観の再構成 ・健康の概念と健康支援 ・倫理的課題とその方法　等
	看護教育課程	看護教育課程論	1	15	看護師等養成所の各教育課程の概要を学び実習指導につなげる。 ・教育課程の基礎知識　等
	実習指導の基盤	実習指導方法論	2	30	実習指導案について理解し、教授方法を学ぶ。 ・実習指導の方法
		実習指導方法演習	2	60	実習指導の展開の実際を学ぶ。 ・実習指導案の作成及び評価 （過程別、学年別、専門領域別等） ・実習の評価　等
				領域・対象別看護	
				3	基礎看護
				3	成人看護
				3	老年看護学
				3	家族看護
				3	小児看護
				3	母性看護
				3	精神看護
				3	在宅看護
				36	指導案の作成 ・実習指導の展開について理解を深め演習等を通して実際を学ぶ ・領域別の三観、週案、日案、場面設定指導案、カンファレンス指導案を作成
			10	180	
その他				6	
				3	医療・看護の動向
				3	オリエンテーション・ 発表・閉校式
合 計				186	

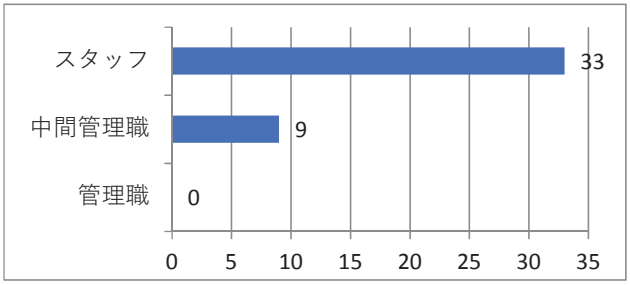
1．アンケート結果

修了生：41名　アンケート回収：42名（最終日受講生数）　回収率：100％

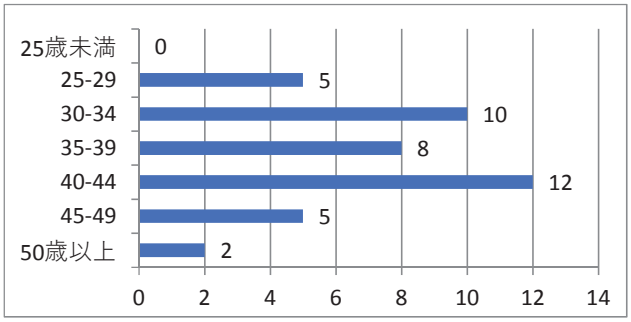
Ⅰ－1．職名



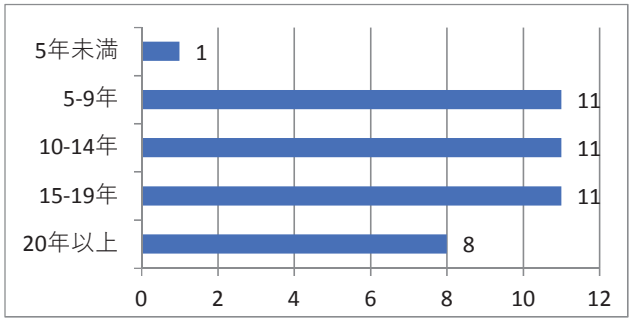
Ⅰ－2．職位



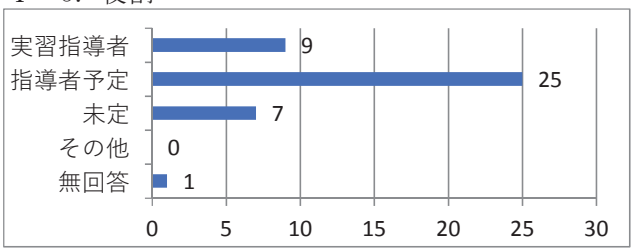
Ⅰ－3．年齢



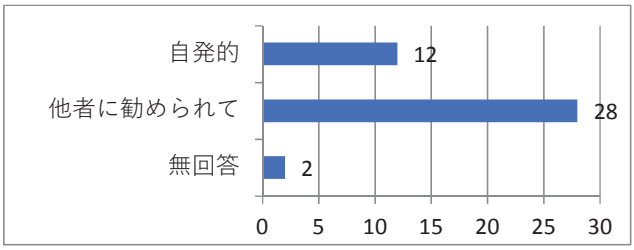
Ⅰ－4．経験年数



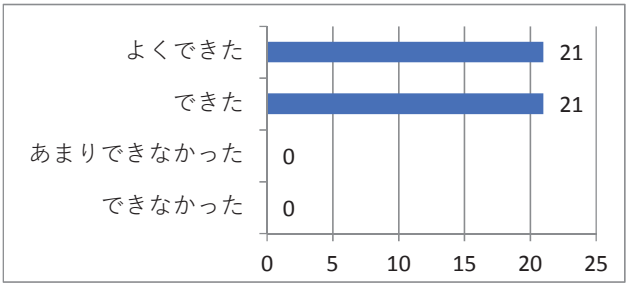
Ⅰ－5．役割



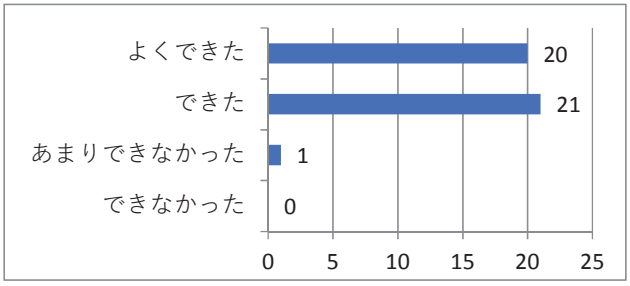
Ⅰ－6．参加について



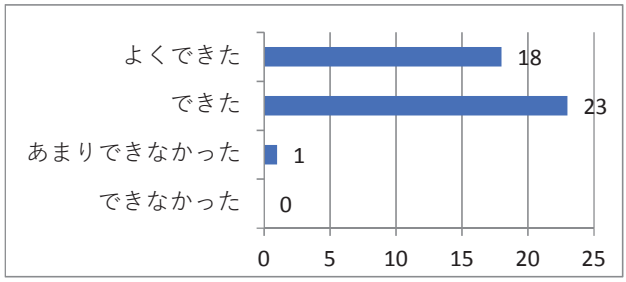
Ⅱ－1．教育の意義は理解できたか



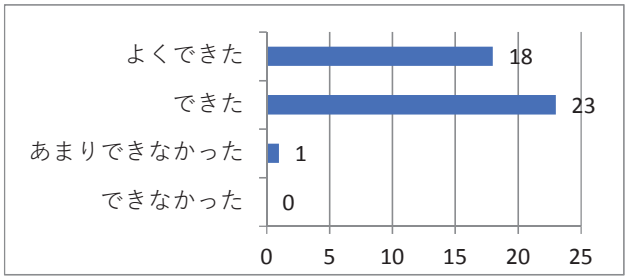
Ⅱ－2．教育活動の特性は理解できたか



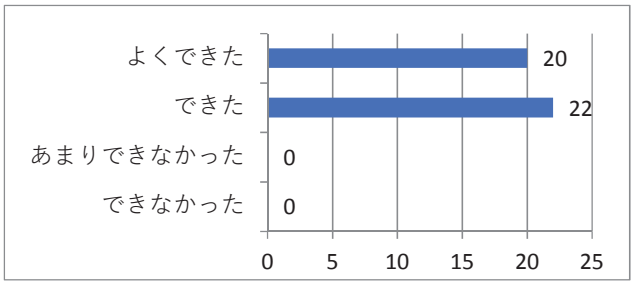
Ⅱ－3．人間の発達過程を理解することができたか



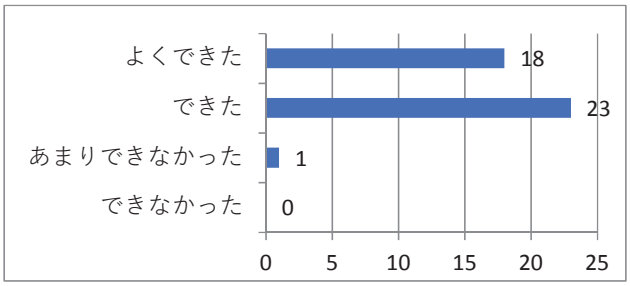
Ⅱ－4．青年期の心理的特徴を理解することができたか



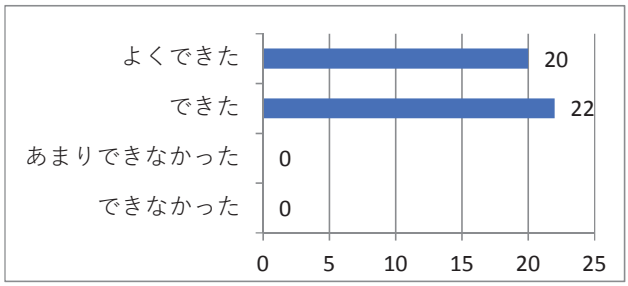
Ⅱ－5．教育評価の目的が理解できたか



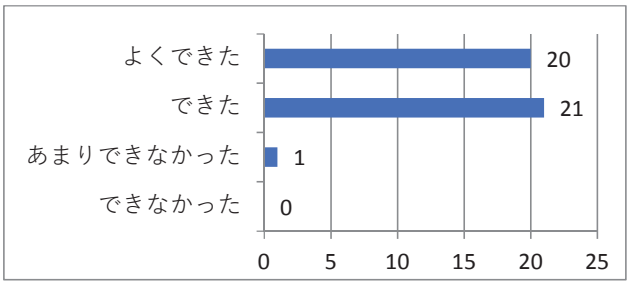
Ⅱ－6．教育評価の方法が理解できたか



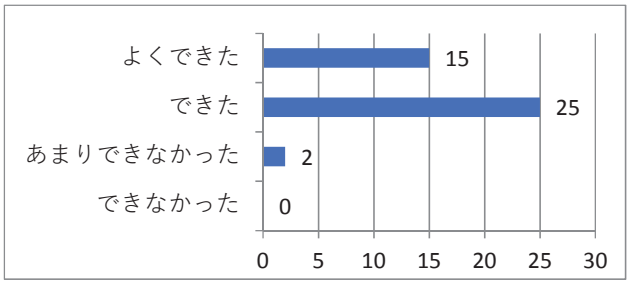
Ⅱ－7．看護理論を日常の看護実践に結び付けて考えることができたか



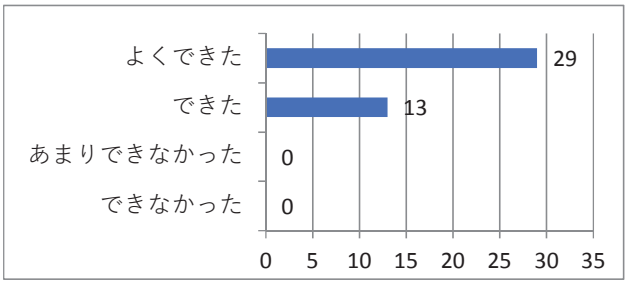
Ⅱ－8．看護の実践と思考過程を結びつけるような指導方法を理解したか



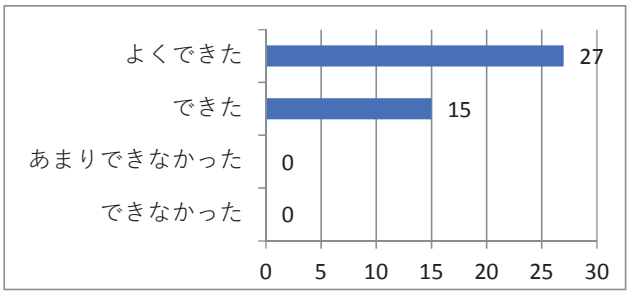
Ⅱ－9．ｶﾘｷｭﾗﾑ作成の過程が理解できたか



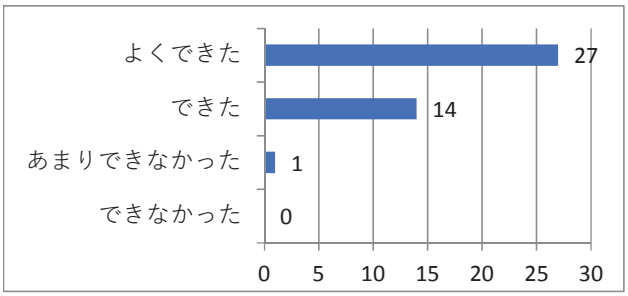
Ⅱ－10．実習の意義を理解できたか



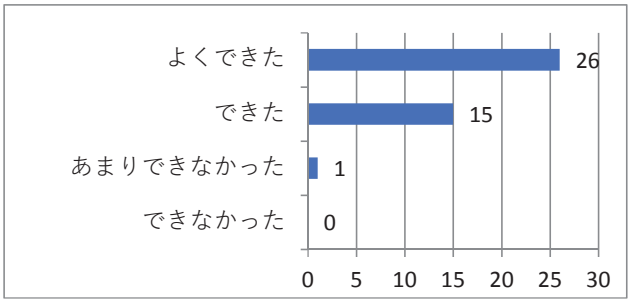
Ⅱ－11．実習指導者の役割が理解できたか



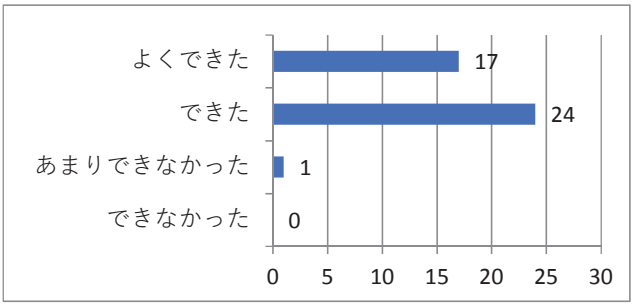
Ⅱ－12．実習指導案作成の意義が理解できたか



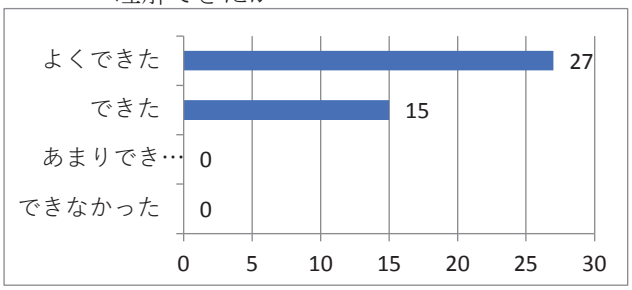
Ⅱ－13．実習指導案作成の方法が理解できたか



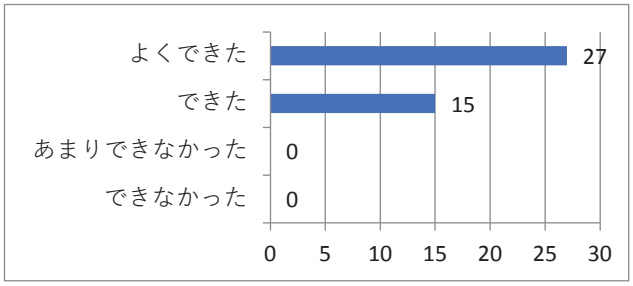
Ⅱ－14．実習における評価の方法が理解できたか



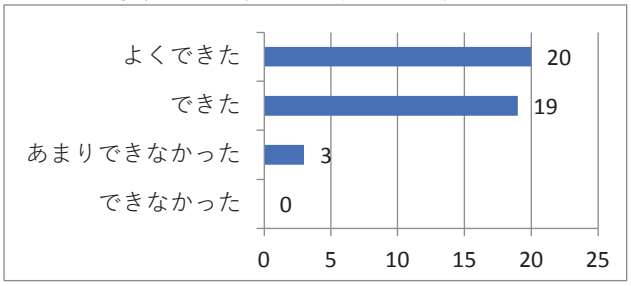
Ⅱ－15．実習におけるカンファレンスの意義は理解できたか



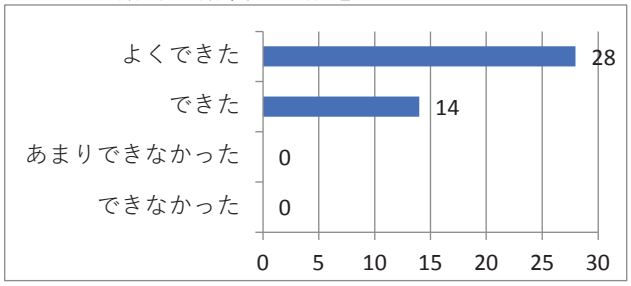
Ⅱ－16．実習におけるカンファレンスでの実習指導者の役割は理解できたか



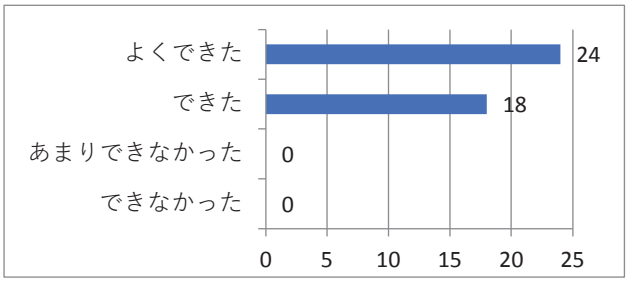
Ⅱ－17．教材（ﾃｷｽﾄ、配布資料）は適切だったか



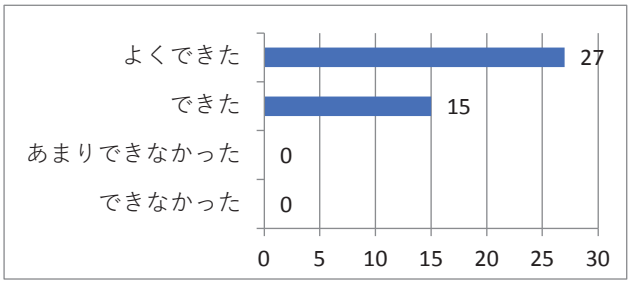
Ⅱ－18．講師に講義への熱意は感じられたか



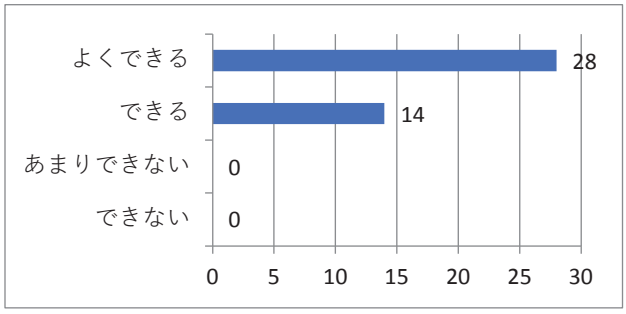
Ⅲ－1．講習会の内容は理解できたか



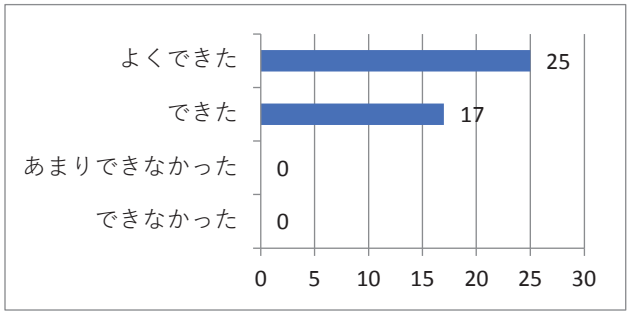
Ⅲ－2．あなたの参加目的は達成できたか



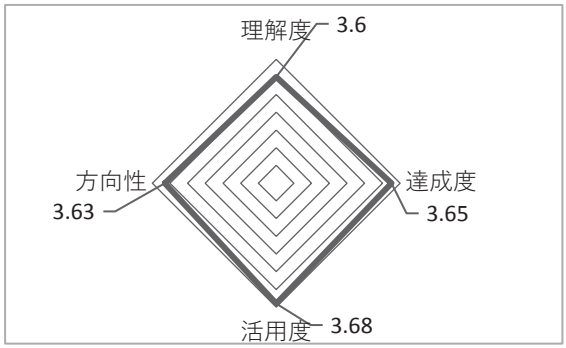
Ⅲ－3．今後の活動に活用できるか



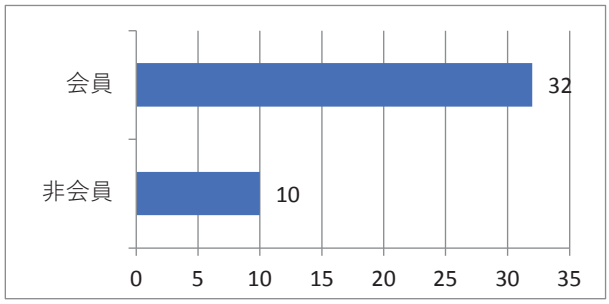
Ⅲ－4．課題や方向性を明確にできたか



4段階評価



会員の有無



２．感想・ご意見（自由記載）（一部抜粋）

・今回の研修では、教育の学びや指導案の作成、指導方法など、今まで自分の指導とは違う方法や捉え方を知る事で、学生のみに限らず新人指導にも活用し、後輩育成を行っていきたい。
・他施設の方とグループワークを行い、多角的な視点で考えることができ、看護について、指導する役割、学生の動向など学べて良かった。講習会で得たものを臨床の場、スタッフと共有し活かしていきたい。
・今の学生の思いや背景を知ることができ、またコロナの影響で十分に実習が出来ない現状の中で、臨地実習が学生にとって実りあるものとなるように、今後指導者として教員の方と協働し病棟全体を巻き込んで取り組んでいけたらと思う。
・今回講習会に参加し、現在の学生の特徴を知り、どのように介入しないといけないのかなど、現場だけではわからない事を知ることができた。また、現在の実習カリキュラムなども理解できた。今回学んだことを　職場へ持ち帰り、今後の指導に役立てていきたい。
・長期間の研修でしたが、他施設のスタッフと情報共有することができ、学びも深まったためとても有意義な実習指導者研修会だった。長時間、試行錯誤しながらまとめた指導案作成はこれからの自身の知識に役立ち宝になると思う。まとめの会の発表内容を、制限時間内にまとめるためのポイントを絞るのは難しかった。
・各病院の現状を共有しつつ、今後について話ができたこと、また、教育について一から学べたことが、モチベーションの向上につながった。病棟全体のモチベーションの向上を望むため、少しでも多くの看護師がこの研修に参加してくれたらいいと思う。
・教育学をしっかりと学んだのは初めてでしたが、とても興味深く、今後の指導においても活用していけると思った。子育てに関してもとても参考になった。
・当初は教育学や心理学をなぜ学ぶんだろうと思っていましたが、土台から振り返り実習生の特徴も知り、領域や個々に沿った指導案を作成することで、今後の実習指導に活かせると思う。各施設の人たちとの交流でも沢山刺激を頂いた。

３．担当者コメント

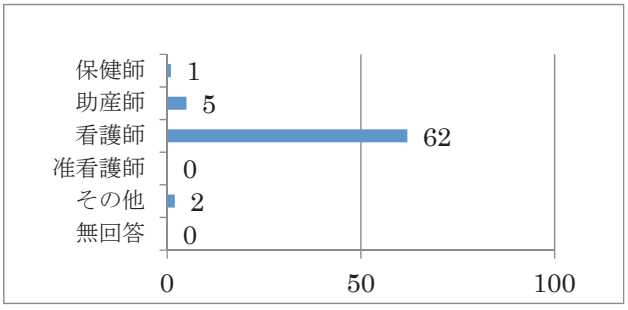
本年度は17施設から41名が修了した。

本研修の多くの参加者は、学生や後輩育成に関して同じような困難感や思いを抱いていた。受講後には4段階評価の結果にみられるように、それらの思いを前向きに捉え今後の活動に活かしていきたいという意見に変化している。また、レポート内容にも自部署の課題を明確化し、今後の取り組みも具体的に記述出来ていた。これらのことから、本講習会の目的は達成できたといえる。修了生の今後の活躍に期待したい。

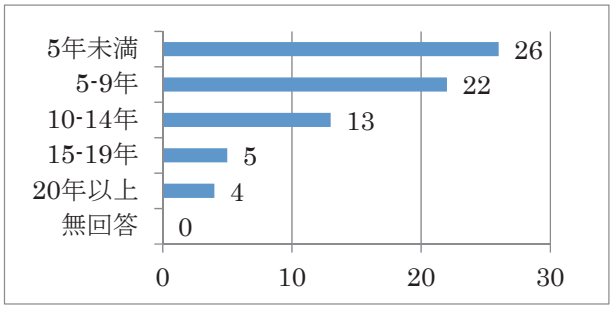
研修名	5)看護教員継続研修	
開催日時	① 令和４年７月 31 日(日) オンライン研修	時間 9:30～16:30
	② 令和４年８月２日(火) オンライン研修	時間 9:30～16:30
	③ 令和４年８月３日(水) オンライン研修	時間 9:30～16:30
	④ 令和４年８月 29 日(月) オンライン研修	時間 9:30～16:30
受講者数	のべ89名(会員62名・非会員27名)	各定員 40 名
ねらい	医療の高度化・国民のニーズの多様化といった変化を踏まえ、教育内容の向上を図るためのカリキュラム改正等に対応した教育の実施や看護教員がキャリアアップを図ることで、看護教育の質の向上に資することを目的とする	
講師	① 高知大学教育研究部 准教授 野中 陽一朗 ② 京都大学大学院教育学研究科 教授 西岡 加名恵 ③ 聖路加国際大学大学院看護学研究科 講師 三浦 友理子 ④ 東京医療保健大学千葉看護学部看護学科老年・在学領域 教授 清水 準一	
内 容	① 看護基礎教育に活かす教育方法のあり方 ② 本質的な問い・永続的理解とパフォーマンス課題 ③ 臨床判断能力を育てるコンセプトを基盤とした学習活動 ④ 新カリキュラムへの対応地域で暮らす人たちへの看護を組み込む	講義・演習

1. アンケート結果　　回答数　70 名　　回収率 78 %

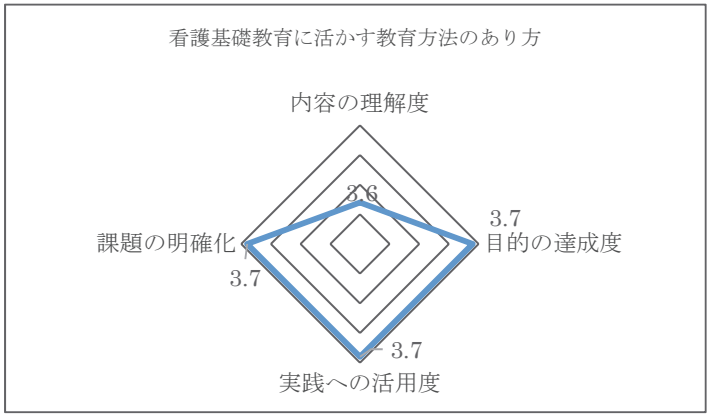
1）職種

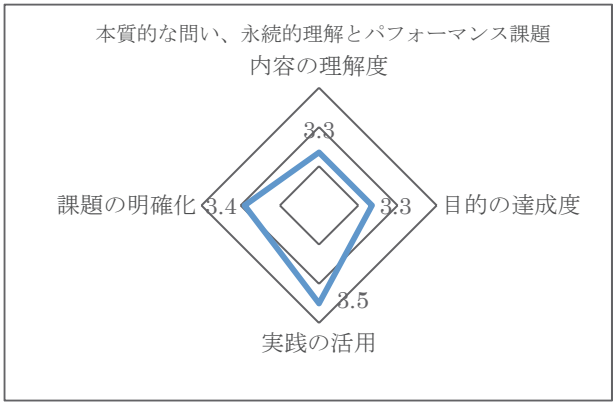


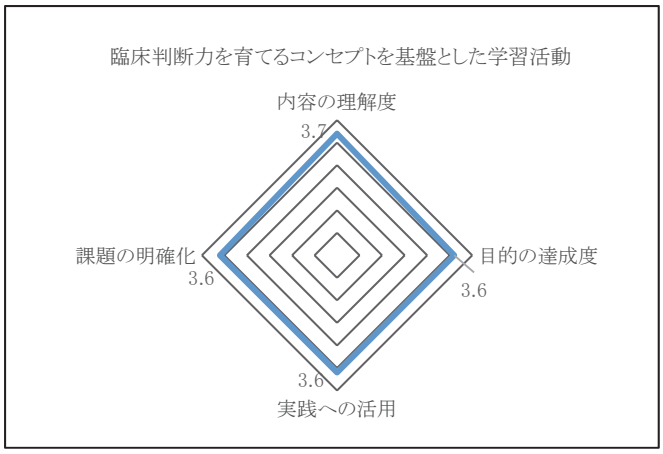
2）教員経験年数

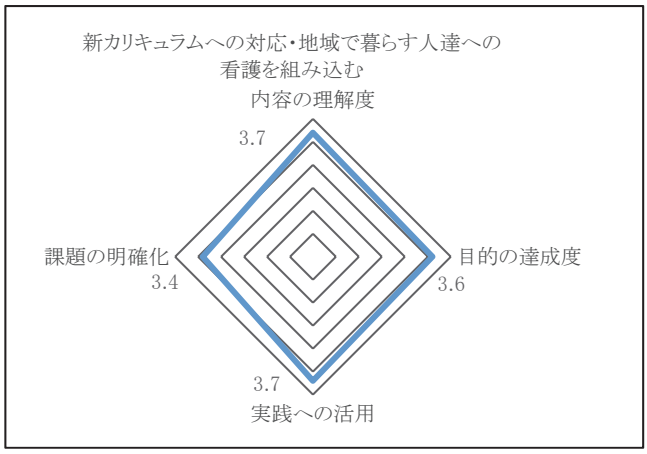


3）研修の評価

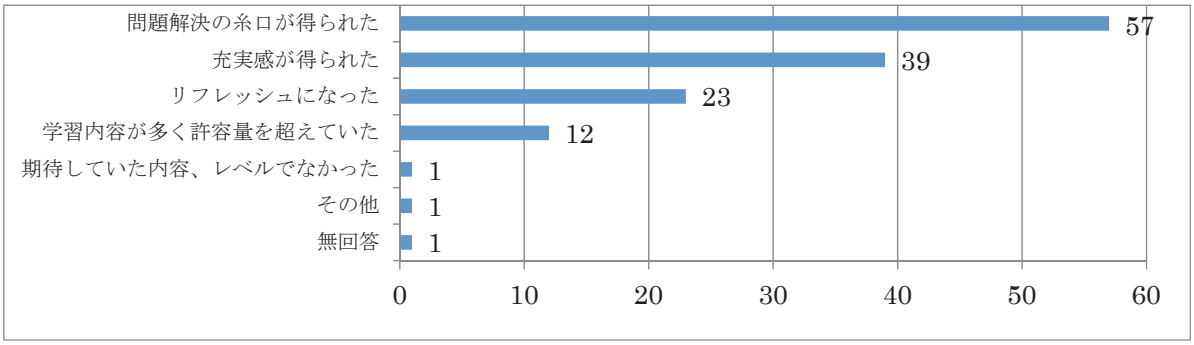








4）研修の感想



2. 感想・意見等

・とてもわかりやすく、悩んでいたことが紐解かれた気持ちです。

・できる事から実践していきたいと思います。

・教育教授方法という視点で改めて学生を主体となる学習方法を検討していきたいと思いました。

・今後の授業に活かせるように自分自身も頑張っていかないといけないと思いました。

・受講者として過ごす時間から、わかりやすい授業とは、学生の思考を活性化させるとは、より理解を促すためには…。感じることが多い 1 日となりました。

・教員になり間もないため、学生との関わりから試行錯誤しています。少しずつ、今回のような研修に参加し、学習を重ねていきたいと思っております。

・基本的なことを丁寧に教えていただき、自身の振り返りになりました。

・主体的な学びを支援するために、できることから取り組みたいと思います。

・学生と双方向に学んでいくことが大切であることを改めて実感した。また、新カリキュラムとなり、ICT 活用についてどのように取り入れると効果的なのか思案していました。講義して頂いた内容を踏まえ、学生にとって効果的な教授方法を考えていきたいと思います。大変充実した研修となりました。

・評価を返すときにどのような内容で学生に返したら良いのかがわかりました。

・それぞれの理論の意味を改めて確認しながら学習できました。

・実際にワークを行い、パフォーマンス評価を具体的に考えることができました。授業をどのように作っていけばよいのか戸惑うことも多くあるのですが、取り組み方のヒントを今回学ぶことができました。

・看護師の業務がタスクシフトしていく中で、環境整備やベッドメーキングの本質的な問いを学修することの重要性がさらに増していると感じています。
・私たち自身が、本質的な問いに常に立ち返り、パフォーマンス課題として取り組んでいけるよう努力していきます。
・もがいていたような状況でしたが、先生のお話を聞いて私たちが向かうべき方向性が見えてきた気がします。
・本質的な教育の重要性と、そして看護教育(新人育成を含め)は変わっていっているということを気づかせていただきました。ここからが、私たちの挑戦です。臨床と根本的にチェンジ!していけるよう取り組みたいと思います。
・改めて、学生の変化にあわせて教員も成長していく必要を感じました。
・3 月まで、臨床現場にいました。初めて実習の引率に行きましたが、講義を受けていれば、もっと違う指導ができたのではと思い反省ばかりでした。先生がおっしゃっていたように、現場は高いところは求めていませんでした。何かおかしいと気づいて、先輩に報告する事が出来ればと。思考が整理されとても分かりやすかったです。
・新たな知識が得られました。
・まだ教員になって日が浅いのですが、実習に対して困っていることがたくさんあります。ただ私の経験不足が理由のことも多いとは思いますが、実習のやり方そのものを変えていくことで解決することもあるのではないかと思いました。
・グループワークで他施設の方と話すことで課題を再認識し、新たなアイデアをいただくことができた。
・他校の状況を知ることができ、自校の良い部分に気がついたと同時に他校の取り組みも参考にしたいと思いました。
・先生及び、各学校の先生の話を聞いてとても参考になりました。コロナ禍ではあるが、出来る限りのことをしていくしかないと感じています。地域とのつながりをいかに感じてもらえるかが課題だと思っています。新カリキュラムになり、まだまだ課題や気づいてないことも多々あると思います。今後もこのような研修を通じて情報共有していただければと思います。
・どこの学校も色々と工夫されていることが分かりました。視野を広く持ち、授業や実習に取り入れていきたいと思いました。
・各看護学校の先生方の臨地実習に行けなくても、色々と工夫されて対策されている事が分かりました。
・具体的な事例や考えが共有できてよかった。
・カリキュラム改正の背景から実際の考え方まで、また、他校の取り組みも参考になりました。

3. 研修担当者のコメント

COVID-19 感染症拡大に伴い急遽、集合研修から全てオンライン研修に変更し実施した。グループワークを通じ、コロナ禍での各看護学校での工夫や取り組みを共有することができたと思われる。また、教員それぞれの悩み等ディスカッションできる場となった。本年度で看護教員継続研修は終了となるが、それぞれの看護教員一人一人が活躍できることを期待したい。

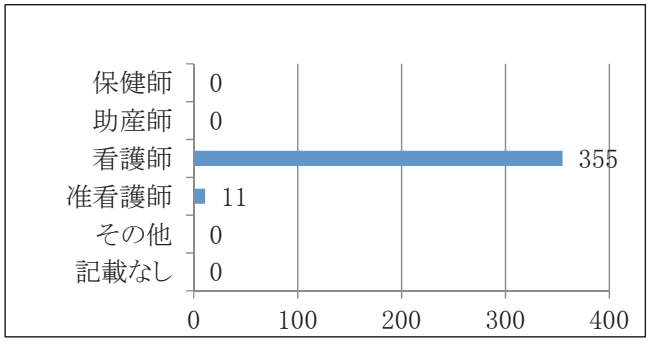
研修名	6)感染管理担当者研修	
開催日時	令和 4 年 5 月 28 日(土)～8 月 21 日(日)内 6 日間	時間　9:30～16:30
受講者数	延べ人数 487 名(会員 474 名　非会員 13 名) 実人数 110 名(看護師 107 名　准看護師 3 名)	定員　60 名
修了者数	62 名（看護師 61 名　准看護師　1 名）	
ねらい	感染管理担当者が施設･部署内での感染予防策を実施するための基本的知識を深め活用し、感染拡大防止対策能力の向上を目指す	
講師･内容	プログラム参照	
内容(キーワード)	感染管理の基本	講義･演習

1．プログラム

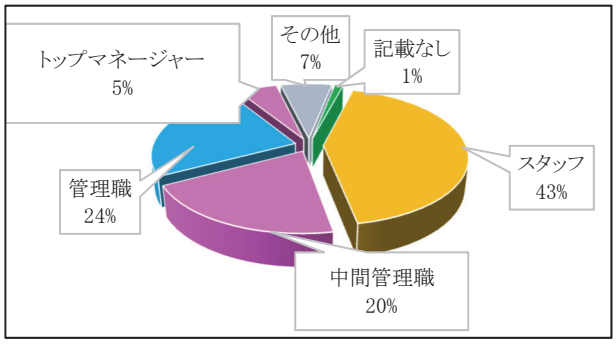
	日程	時間	項目	講師
基礎知識○オンライン研修 ≪講義1≫感染予防対策の	1日目 5月28日（土）	9:15～ 9:20	オリエンテーション	高知県看護協会
		9:20～ 9:30	新型コロナウイルス感染症に対する各自治体での医療提供体制の状況や対策について	高知県健康政策課 健康対策課
		9:30～12:30	新型コロナウイルスについて 感染症の基礎知識	石田　正之
		13:30～16:30	新型コロナウイルス/ワクチン・治療薬 抗菌薬の基礎知識	高知医療センター 段松　雅弘
	2日目 5月29日（日）	9:30～12:30	感染管理体制 感染対策の実際 情報管理	感染管理認定看護師 近森病院 近森　幹子
		13:30～16:30	サーベイランス アウトブレイク時の対応	
	3日目 6月4日（土）	9:30～12:30	標準予防策 経路別予防策	感染管理認定看護師 白菊園病院 森田　安世
		13:30～16:30	職業感染対策 洗浄・消毒・滅菌 ファシリティ・マネジメント	
実際○演習・集合 ≪講義2≫感染予防の	4日目 領域Ⅰ 6月8日（水） 領域Ⅱ 6月12日（日）	9:30～11:00	新型コロナウイルス感染症の看護	感染管理認定看護師 高知西病院 笠原久美
		11:00～12:30	クラスター対応	感染管理認定看護師 細木病院 土居 世知
		13:30～14:30	標準予防策・演習	感染管理認定看護師 高知西病院 笠原久美 細木病院　土居世知
		14:30～16:30	グループワーク ・自施設の感染対策の課題と解決に向けた行動計画の立案	
	5日目 8月21日（日） 午前：領域Ⅰ 午後：領域Ⅱ	9:30～12:30 領域Ⅰ	・各施設での取り組み・行動計画の進捗状況の報告発表	感染管理認定看護師 高知西病院 笠原久美
		13:30～16:30 領域Ⅱ	・各施設での取り組み・行動計画の進捗状況の報告発表	感染管理認定看護師 高知西病院 笠原久美

2. アンケート結果　出席者計:487 名　平均アンケート率:75.2%

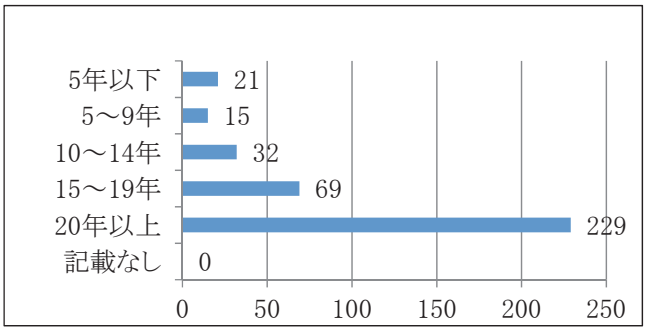
1)職名　n＝366



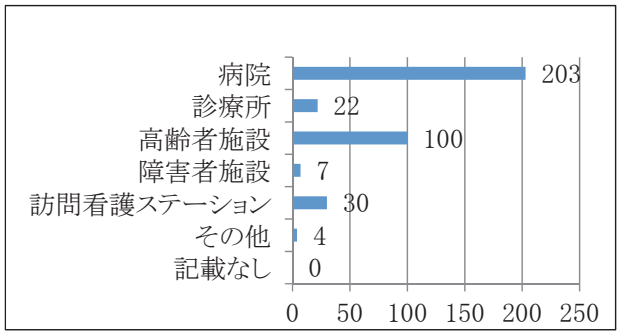
2)職位



3)経験年数　n＝366



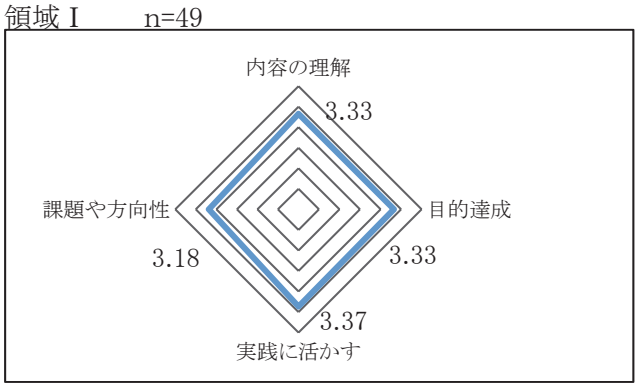
4)所属施設　n＝366



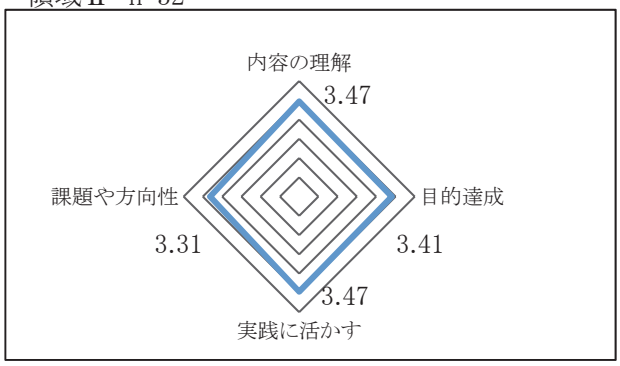
5)　研修別内容評価　　指標　4段階(4:とてもそう思う 3:そう思う 2あまりそう思わない 1全くそう思わない)

①　感染症の基礎知識≪1 日目≫

領域Ⅰ　n=49

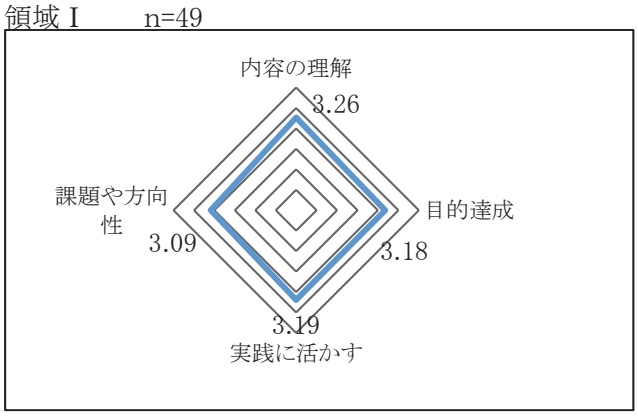


領域Ⅱ　n=32

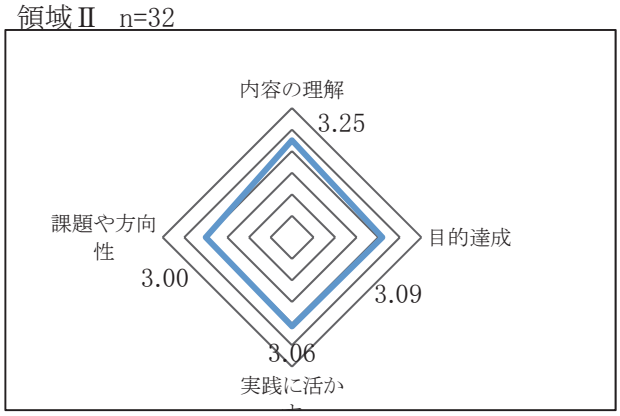


②　抗菌薬の基礎知識≪1 日目≫

領域Ⅰ　n=49

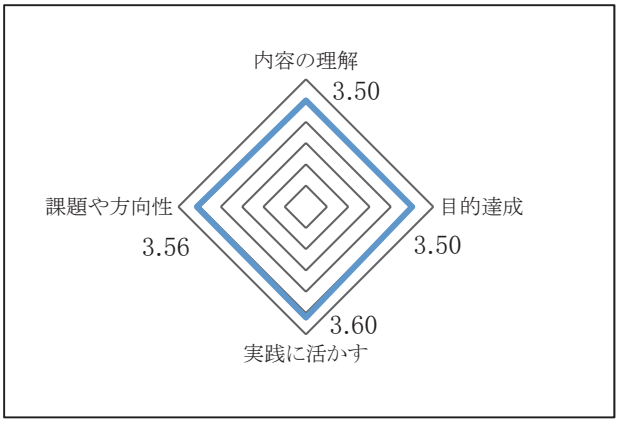


領域Ⅱ　n=32

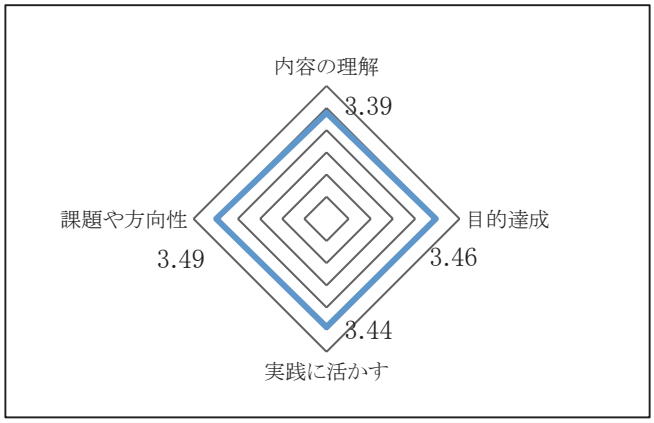


③　感染管理の基本　サーベイランス　≪2 日目≫

領域Ⅰ　n=48

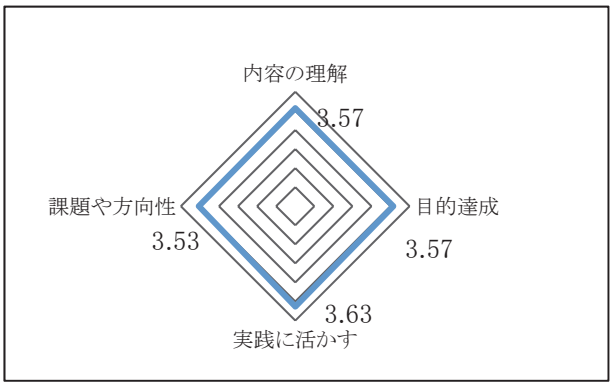


領域Ⅱ　n=41

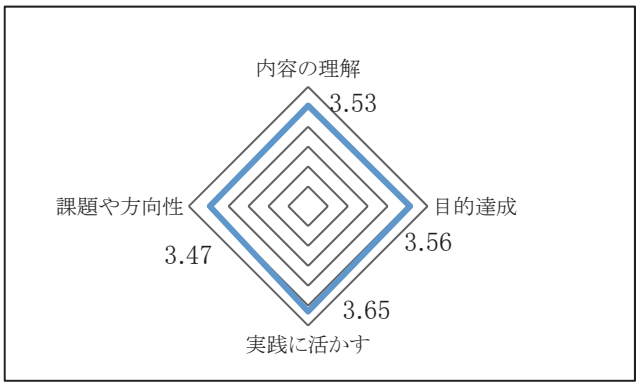


④ 標準予防策 ≪3 日目≫

領域Ⅰ n=49

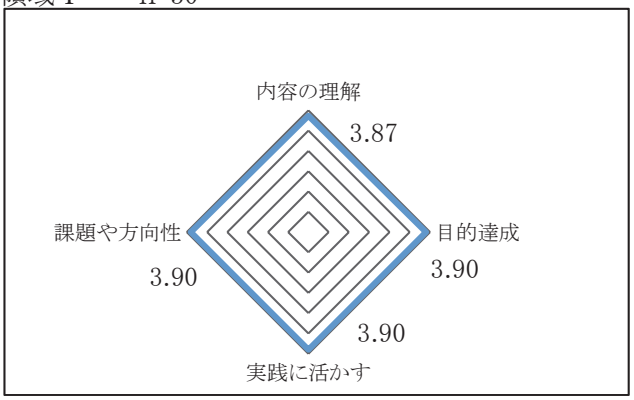


領域Ⅱ n=32

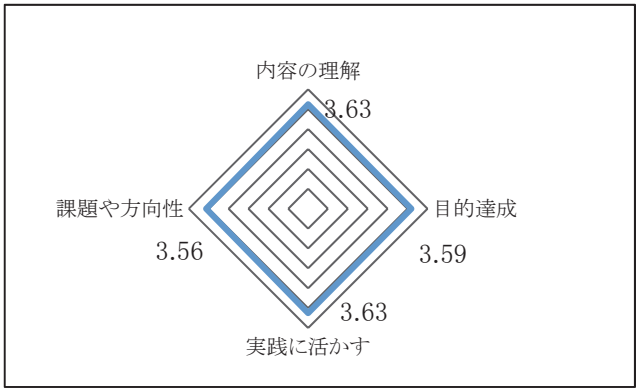


⑤ 新型コロナウイルス感染症の看護≪4 日目≫

領域Ⅰ n=30

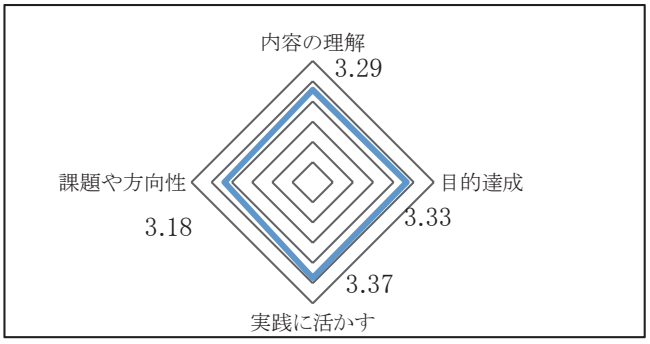


領域Ⅱ n=17

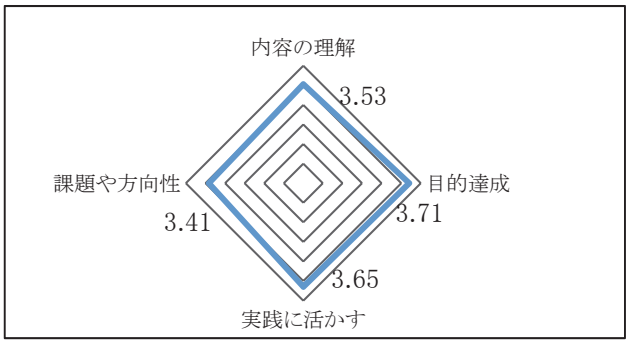


⑥ クラスター対応≪4 日目≫

領域Ⅰ n=30

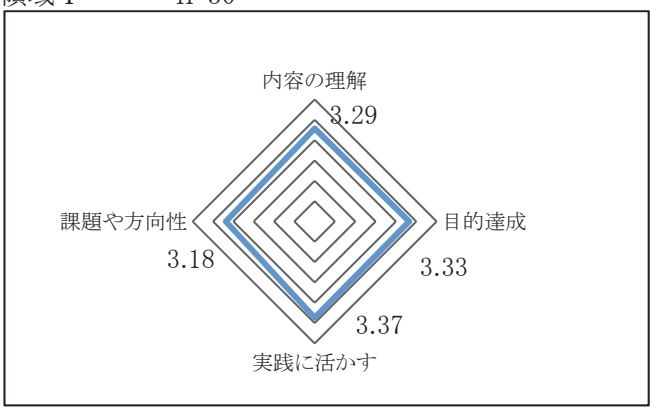


領域Ⅱ n=17

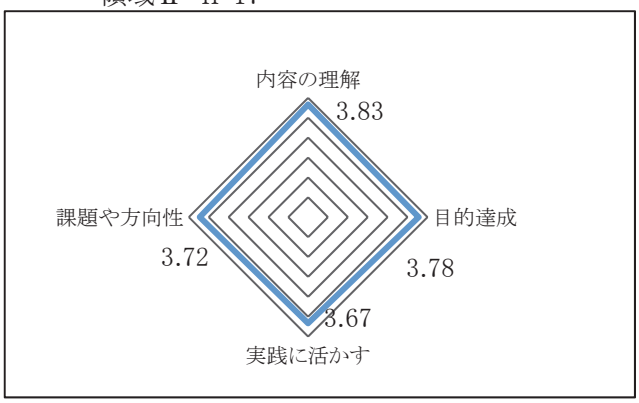


⑦ 標準予防策 演習≪4 日目≫

領域Ⅰ n=30

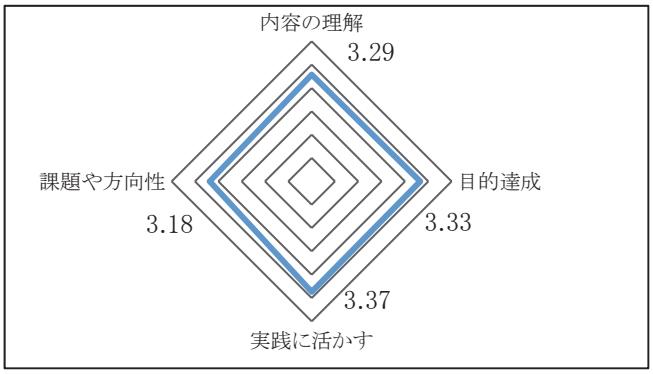


領域Ⅱ n=17

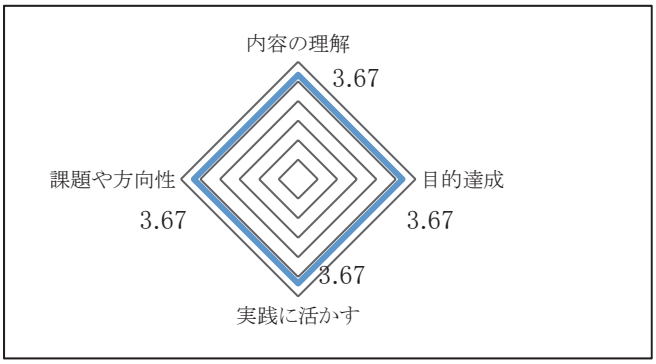


⑧ グループワーク 演習≪4日目≫

領域Ⅰ n=30

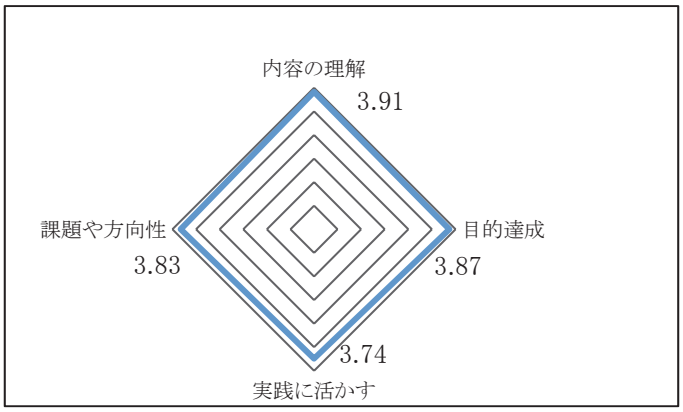


領域Ⅱ n=17

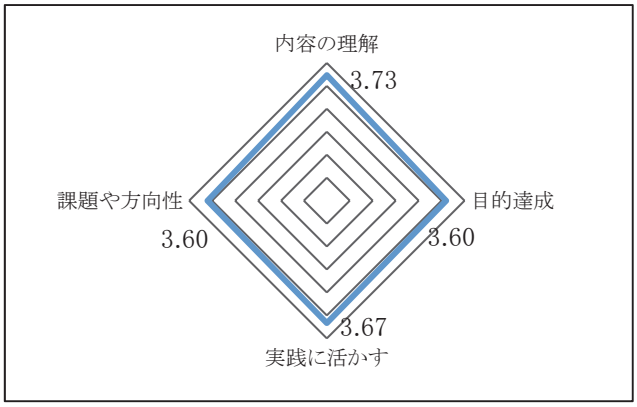


6)研修全体の評価

領域Ⅰ n=28



領域Ⅱ n=15



3. 研修の意見・感想(最終日アンケートより抜粋)

・コロナ感染対策としてたくさんの知識が得られた。また当院の感染対策活動を高めれていい機会となった。

・各施設の取り組みの内容が具体的なものもあり、とても参考になった。

・コロナ対策で、疑問点がたくさんでてきた中で他の施設の方が様々な対策の取り組みの内容も参考にしたいものが色々あった。 また、先生からの助言もあり、すぐに現場に返すことができる。

・クラスター対応で非常に勉強になった。

・短期間の取り組みで、まだ充分な結果は出ていないが、他施設の取り組みについても学ぶことができたので参考にし、継続して取り組んで行きたい。

4. 研修担当者コメント

本研修は領域Ⅰ、Ⅱを合わせ、定員60名としていたが、受講申込者多数の定員数を各40名とし、できるだけ多く参加できるよう、オンラインの講義は申し込み者を全員参加とした。また4日目の集合研修も演習以外は受講できるようオンライン配信をおこなった。

最終日の自施設での感染対策の取り組みの発表では、自施設の感染対策の取りくみやクラスター発生時の対応を共有する事ができた。

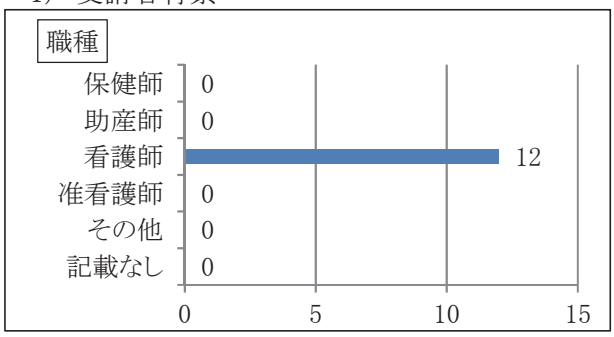
2 訪問看護師研修事業

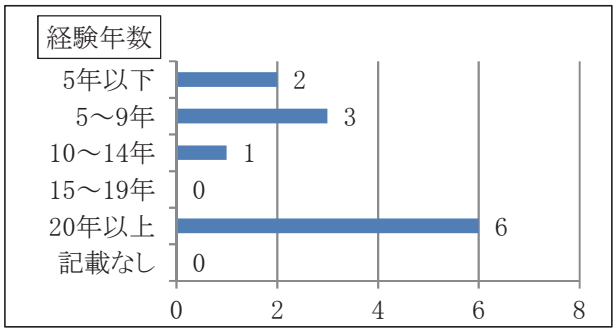
研修名	1)施設－在宅を支援する看護師育成研修(退院調整看護師育成研修)	
開催日時	令和4年7月13日・7月20日・8月17日 (9:30～16:30) 実習3日間　期間 8月～11月	定員 ： 24名
受講者数	令和4年 7月13日　受講者数 14名 オンライン 6名・集合 8名 7月20日　受講者数 14名 オンライン 6名・集合 8名 8月17日　受講者数 14名 (欠席 2名)オンライン12名	会員 11名 非会員 3名
ねらい	・ 施設-在宅の連携について学び、看護師の役割を明らかにできる ・ 在宅療養者の状態に応じてケアおよびサービスの調整ができる ・ 施設内の退院支援システムの課題を明らかにできる ・ 在宅移行支援計画の作成ができる	
講師	・ 訪問看護ステーションちかもり 所長　在宅看護専門看護師　山本 詩帆 ・ 細木病院在宅部教育課長　在宅看護専門看護師　井上 加奈子 ・ 高知赤十字病院 地域医療連携課　在宅看護専門看護師　山本 恵理	
内容	講義 ・ 施設－在宅の移行を支援する看護師の役割と機能 ・ 施設－在宅の移行期における療養者と家族への支援(実践) ・ 退院調整の実際 病院・施設内の組織化と在宅への移行期にある事例のケア検討 訪問看護ステーション・訪問診療・施設等の実習 ・ 同行訪問で在宅療養の実際を体験し、在宅移行支援に向けて医療機関看護師の役割を考える	講義・演習 実習

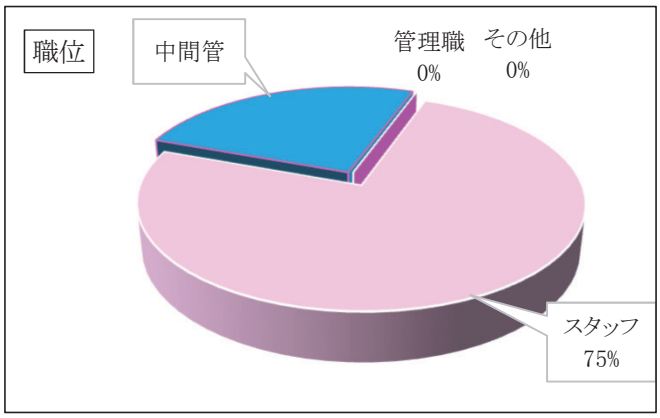
1. アンケート結果

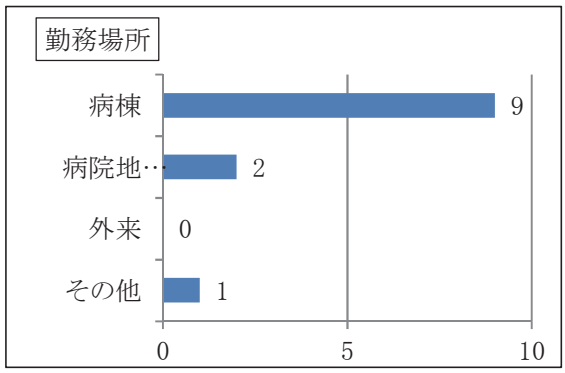
アンケート実施日 令和4年 8月17日　　アンケート回数数 12名 回収率 100%

1) 受講者背景



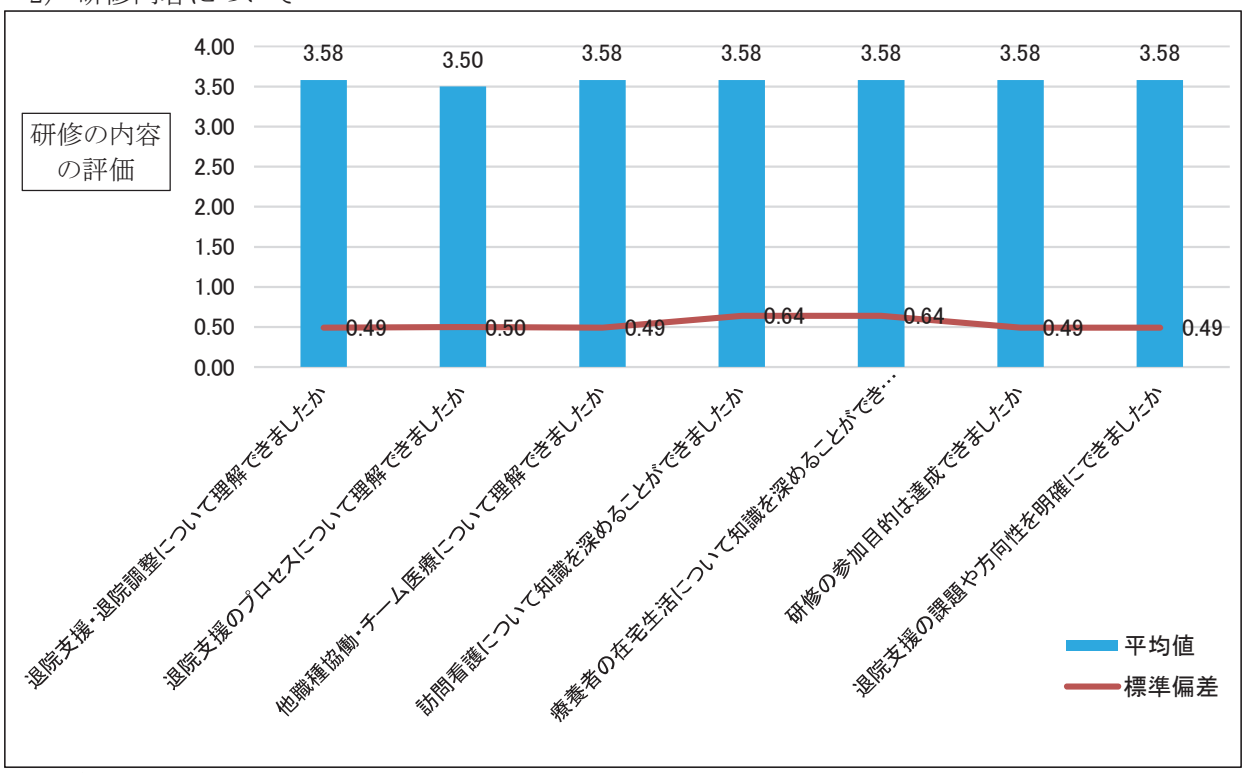




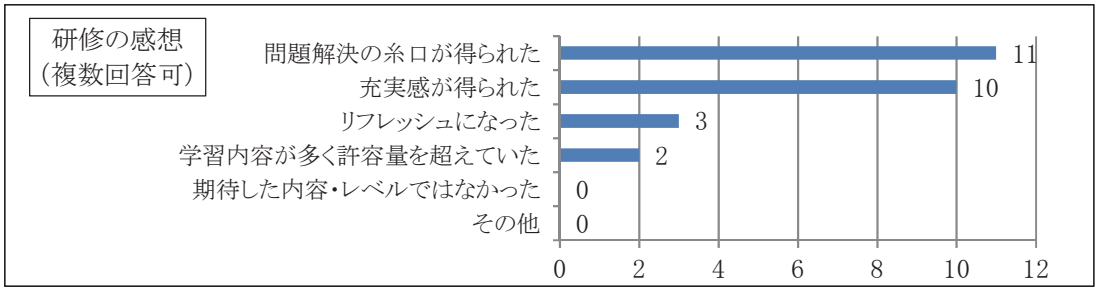


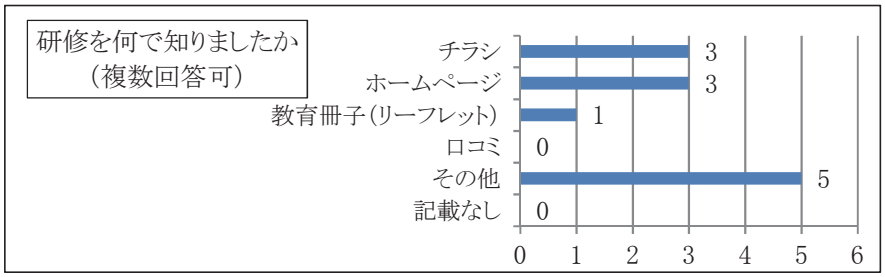
その他 ：医療安全推進室

2） 研修内容について



研修評価で ②あまりできなかったを選択した理由 ・ イメージするのが難しかった





その他の内容

・上司からの勧め	2名
・病院・施設からの勧め	2名
・他者の勧め	1名

2. 意見・感想（抜粋）

- 在宅でどのようなことが行われているのか勉強できた。実習でさらに学びを深めたいと思っている。
- 在宅看護を実際に経験されている講師の先生から在宅の声を聞くことで、退院前の指導や説明をどうすれば良いのか、またそれを在宅へ伝えるタイミングはいつなのかを学ぶことができて、退院指導へ繋げていけると感じた。
- よい勉強の機会となった。実習を通して更なる理解を深め今後の看護に活かしていきたい。
- とても充実した内容で勉強になった
- これまで行っていた退院支援が、プロセスだてて理解できたことが一番の学びでした。特に今日の演習は、さっそく明日からの病棟での実際の支援に役立てられると思っている。実習もとても楽しみにしている。
- すごく学びの多い研修になりました。今後の仕事に生かせるよう頑張りたい。
- とてもためになり、新しい知識を得る事が出来た。

3. 研修担当者のコメント

本研修は、在宅療養の現場を知る必要を考慮して、同行訪問・見学実習を取り入れ研修を開催している。

実習記録には、①自宅での看取りに立ち会った経験　②本人の希望や家族の意向を早めに確認する必要を学んだ　③サマリーを記載する時にADL・IADLが必要であると思った等の実習の学びが記載されていた。指導者のコメンとして、本人のニーズに合い家族の負担の軽減に繋がる安心した在宅生活を支援することや本人・家族との信頼関係を築くことが大切であること、少し視野を広げて看ることの勧め等が記載されていた。以上ののことから同行訪問・見学実習は、受講者の貴重な経験となっていることが推測される。

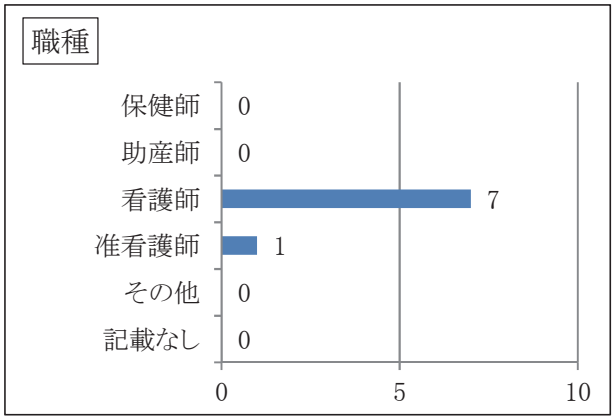
令和元年 36名、令和2年度 24名、令和3年度 24名、令和4年度 14名と受講者の減少が続いており、実習の継続を考慮した研修の見直しが求められる。

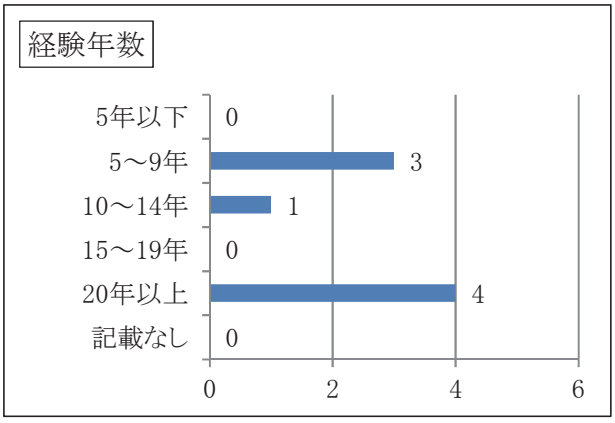
研修名	2)施設－在宅を支援する看護師育成研修　フォローアップ研修 高知県における入退院支援の実際　～現場の実践報告から学ぼう～	
開催日時	令和4年11月5日　(9:30～16:30)	定員　：　50名
受講者数	令和4年11月5日　　受講者数10名　　オンライン 5名・集合　5名	会員　5名 非会員　5名
ねらい	・　入退院支援および施設-在宅の連携について学び、看護師の役割を明らかにできる ・　高知県の入退院の支援の現状について学ぶ	
講師	・　医療法人おくら会　芸西病院　　老人看護専門看護師　　田村　文佳 ・　高知大学医学部附属病院　入退院支援センター 新生児集中ケア認定看護師　　小笠原　美和	
内容	・　超高齢化社会と認知症、高齢者と地域包括ケアについて ・　認知症を持つ人の家族への支援、事例から考える支援について ・　入退院支援の必要性(高齢者の増加、在院日数の短縮化、医療の高度化、診療報酬・制度への対応) ・　高知県の現状と事例から考える「退院後の療養の場、療養先」	講義・演習

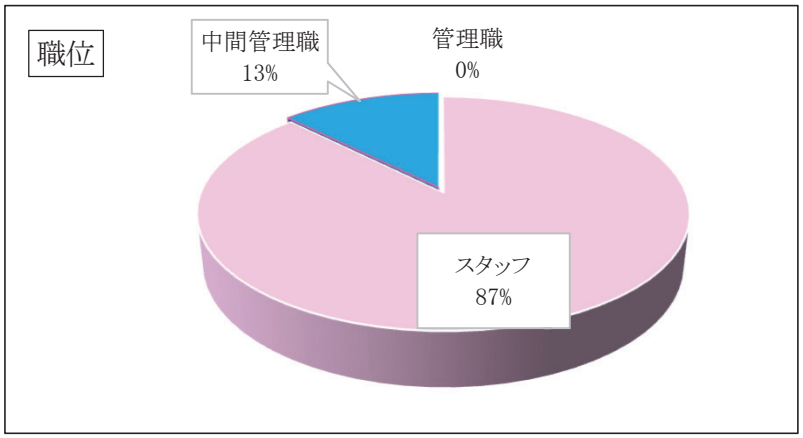
1. アンケート結果

アンケート実施日　令和4年　11月5日　　アンケート回数数　8名　回収率　80.0%

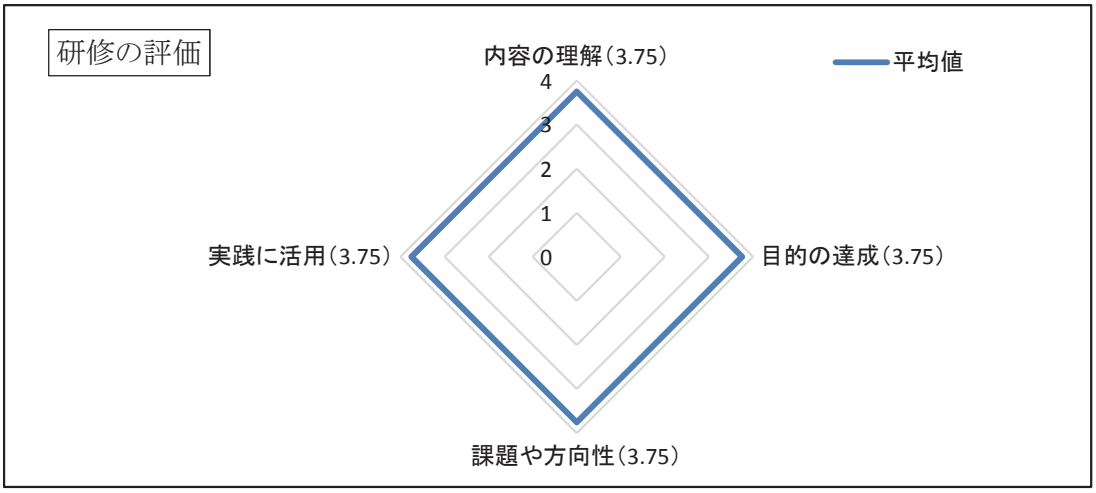
1)　受講者背景

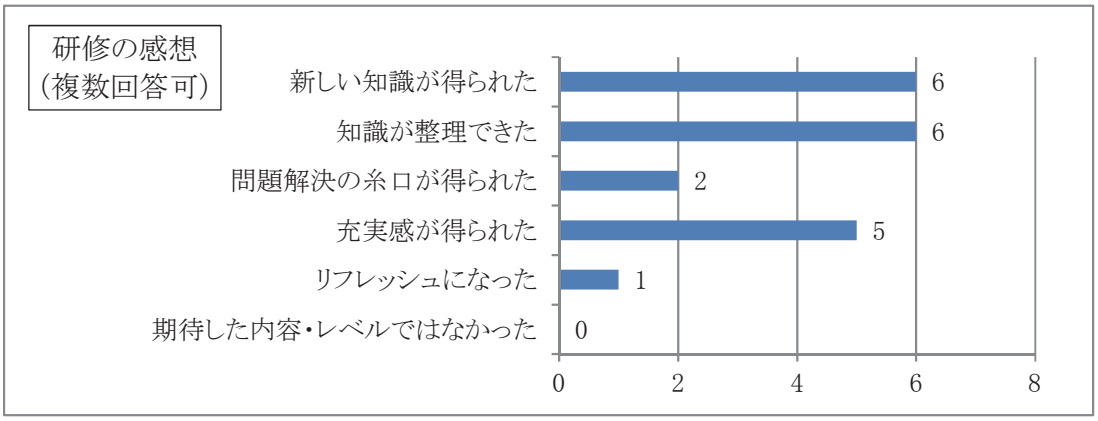






2） 研修内容について





2. 意見・感想（抜粋）

・ 色々な事例があり、さまざまな病院との情報交換の機会にもなった。

3. 研修担当者のコメント

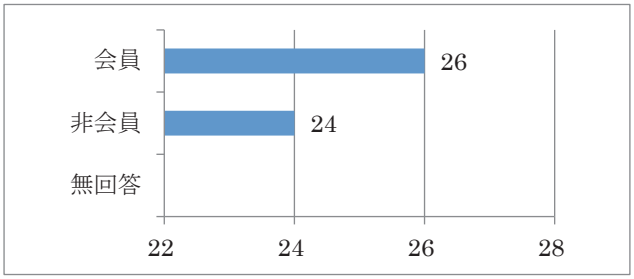
超高齢化社会の中、高齢者の置かれている現状や高知県の在宅療養者の現状から、事例の抱える課題を考える「退院後の療養の場、療養先」についての講義内容であった。在宅療養を支援するための必要な内容が沢山含まれ、対象者の今後の生活の場や生活の質について振り返る機会になった研修であったと考える。

研修の評価は、3.75と高値であったが、受講者数が10名と少なく定員に対する割合は、20%と低値であった。来年度の研修は、広報の方法を考えるとともに「対象者の今後の生活の場や生活の質の向上のために必要なケア・支援について考える」ことをねらいとした研修計画を提案したい。

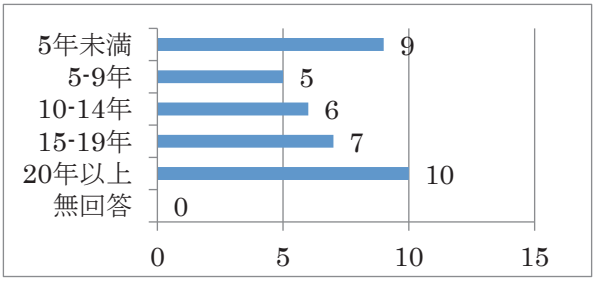
研修名	令和 4 年度看護職員認知症対応力向上研修	
開催日時	令和 4 年 10 月 23 日(日)～10 月 25 日(火) 3 日間	時間 9:30～16:30
受講者数	50 名(会員 26 名・非会員 24 名)	定員 50 名
ねらい	・認知症患者の入院から退院までのプロセスに沿って、基本的な知識を習得する ・個々の認知症の特徴・症状に対するより実践的な対応力(アセスメント、看護方法・技術、院内外連携手法)を習得する ・マネジメント(人員、環境、、情報管理等)の実践的な対応方法及び教育技能を習得する	
講師	渡川病院 院長 吉本 啓一郎 JA 高知病院 認知症看護認定看護師 松髙 ゆり 芸西病院 老人看護専門看護師 田村 文佳	
キーワード	看護職員、認知症対応力	講義・演習等

1. アンケート結果　　回答数 37 名　　回収率 74 %

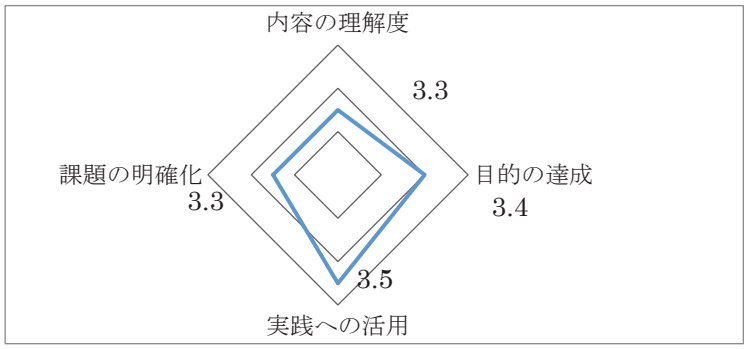
1) 会員有無



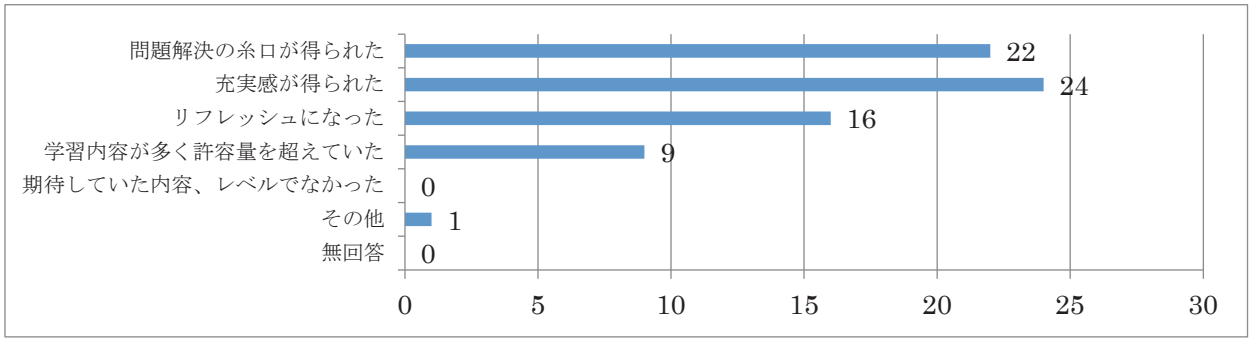
2) 経験年数



3) 研修の評価



4) 研修の感想



5）感想・意見等（抜粋）

・具体的な方策についても学べてとても勉強になりました。

・上司からの指示で参加しましたが、参加できて良かった。

・看護師歴は約 10 年で、そのあと助産師となり 5 年目で現在は産科勤務ですが、隣の病棟は整形外科で認知症患者さんもいらっしゃいます。今回の研修に参加したことで、認知症疾患の理解と対応について学ぶことができ大変良かったです。久々の集合研修で他病院の方とのグループワークの交流もよいリフレッシュとなりました。

・他の病院でも、認知症患者さんの退院がなかなか決まらない。認知症の症状、行動の対応で、職員が疲弊している。こういう時はこんな対応している等、聞くことができ参考になった。

・色んな事を学ぶことができ、病棟で活かしたいと思います。

・認知症患者の世界を知る事で、認知症へのイメージが変わってきた。

・グループワークで情報共有する事で他施設でも認知症患者の看護の難しさを感じ葛藤を持ちながら業務にあたっている事が分かった。貴重な意見を聞くこともできたので今後の看護に活かしたいと思う。

・認知症患者さんへの対応について考えさせられる研修になりました。また薬剤についての知識も深め、目的を持ち使用することが大切だと思いました。

・認知症かせん妄なのか判断して対応する、まず話を聞く、体位変換をするなどすぐ薬剤に頼らない事が印象に残りました。日々の業務に追われ心の余裕がなく対応していた。今後は研修内容を思い出しながらアセスメントしながら対応策を検討していきたいと思います。

・認知症やせん妄の理解が深まり今後のケアに活かしていきたいと思いました。病棟全体などの組織的な質改善の具体的な方策についても学べてとても勉強になりました。久々の対面研修で他の施設の方との交流ができて参考になりました。

2. 研修担当者のコメント

看護職員認知症対応力向上研修は、3 日間研修修了者には高知県知事より修了証書が交付され、今年度は50名が受講し修了した。グループ人数を最小限にする等、新型コロナウイルス感染症対策を強化し、対面形式研修として実施できた。受講生より、講義内容はわかりやすく実践に活かせる内容であったという言葉も聞かれ、研修目的は達成できたと考える。

4　医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成研修

研修名	1）医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成研修	
開催日	令和4年12月6日（火）　7日（水）　支援者・コーディネーター合同 令和5年1月19日（木）　20日（金）　コーディネーターのみ	定員　:各30名
受講者数	令和4年12月6日（火）　33名　集合13名　・　オンライン20名 7日（水）　33名　集合12名　・　オンライン21名 研修別参加者数　支援者養成研修　13名　コーディネーター養成研修　20名 （会員12名　・　非会員14名　・　その他非該当7名） 令和5年1月19日（木）　20日（金）　27名　集合8名　・　オンライン19名 （会員8名　・　非会員10名　・　その他非該当9名） ※　医療的ケア児等支援者修了書を有する　8名を含む	
ねらい	・医療的ケア児等の発達や疾患等の特徴、各疾患によるライフステージや必要な医療的支援をイメージし、地域の医療的現状を把握する。 ・医療的ケア児等と家族を支援するための地域連携、資源の開発の方法等を理解する。 ・事例を基に、ニーズの把握、当事者の意向に沿った計画作成、関係機関との調整などができる。	
講師	プログラム参照	
内容	合同研修 1）医療的ケア児の支援に必要な基本的知識 2）支援体制の整備と連携 3）本人・家族の思い 4）ライフステージにおける支援 コーディネーター養成研修 1）支援計画作成の実際 jamubo-doを使用したグループ討議	講義 演習

医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成研修プログラム

研修名	日程		研修内容	講師等
医療的ケア児支援養成研修	1日目 12月6日（火） オンライン受講可	8:10～8:30	受付	
		8:30～8:35	オリエンテーション	
		8:35～9:00	あいさつ 高知県の医療的ケア児の現状と取り組み	高知県子ども・福祉政策部 障害福祉課 チーフ（障害児支援担当） 村山　真一　氏
		9:00～11:00 2時間	●医療1 障害のある子どもの成長と発達の特徴 疾患の特徴、生理、救急時の対応	社会福祉法人土佐希望の家 医療福祉センター 施設長　吉川 清志　氏
		11:00～11:10	休憩（10分）	
		11:10～12:40 1.5時間	●総論 医療的ケア児等の地域生活を支える医療的ケア児等のコーディネーターに求められる資質と役割 ●支援に必要な概念	高知県立大学看護学部 小児看護学 准教授　佐東 美緒　氏
		12:40～13:40	昼食休憩（1時間）	
		13:40～15:10 1.5時間	●ライフステージにおける支援 各ライフステージにおける相談支援に必要な視点 在宅移行支援 ●医療的ケアに必要性が高い子ども等の特徴及び支援	高知医療センター 小児看護専門看護師 永井 友里　氏 高知大学医学部附属病院 新生児集中ケア認定看護師 小笠原　美和　氏
		15:10～15:20	休憩（10分）	
		15:20～17:20 2時間	●連携 小児在宅医療における多職種連携 連携・協働の必要性	あおぞら診療所高知潮江 所長　松本 務　氏
		17:20～18:20 1時間	●医療2 訪問看護のしくみ	訪問看護認定看護師 ハリヤグルゲ　佳永　氏

日程		研修内容	講師等
2日目 12月7日（水） オンライン受講可	8:30～9:00	受付	
	9:00～10:00 1時間	●福祉　虐待について	中央児童相談所 初期対応部長　國澤　真紀　氏
	10:00～10:10	休憩（10分）	
	10:10～12:10 2時間	●本人・家族の思いの理解 本人・家族の思い、意思決定支援 ニーズアセスメント	佐川町　田元 朝美　氏 佐川町健康福祉課 保健師　山本　鈴佳　氏
	12:10～13:10	昼食（1時間）	
	13:10～15:10 2時間	●福祉 支援の基本的枠組み福祉の制度 遊び・保育、家族支援	高知県立大学社会福祉学部 教授　西内　章　氏
	15:10～15:20	休憩（10分）	
	15:20～16:20 1時間	●支援体制整備 支援チーム作りと支援体制整備 支援体制整備 医療・福祉・教育の連携 地域の資源開拓・創出方法	幡多希望の家相談支援センター 相談支援専門員 永吉 納美　氏
	16:20～16:30	修了式（支援者養成研修受講者のみ）	
	16:30～18:30 2時間 コーディネーター研修受講者のみ	●計画作成のポイント 演習に向けた計画作成のポイント	社会福祉法人土佐希望の家 医療福祉センター　在宅支援部 相談支援課長 相談支援専門員 林 恵　氏 （高知県相談支援専門員協会　理事）

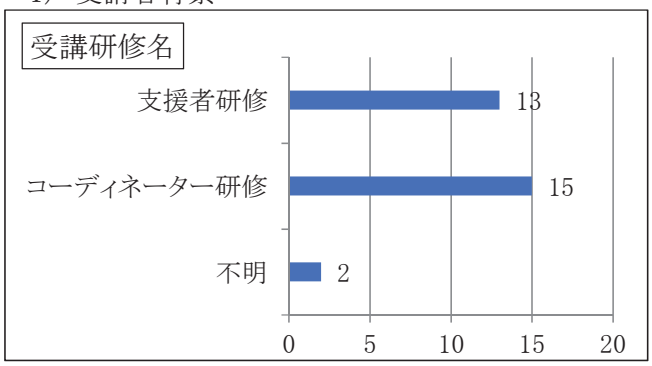
3日目 令和5年1月19日（木）	8:30～9:00	受付	講師 福岡県医療的ケア児支援センター 医療的ケア児等コーディネーター兼トータルアドバイザー 横田 信也氏 講師・ファシリテーター 土佐希望の家医療福祉センター 相談支援専門員　林 恵　氏 幡多希望の家相談支援センター 相談支援専門員　永吉 納美　氏	
	9:00～12:30	●演習　計画作成		
	12:30～13:30	昼休み		
	13:30～17:00	●演習　計画作成		

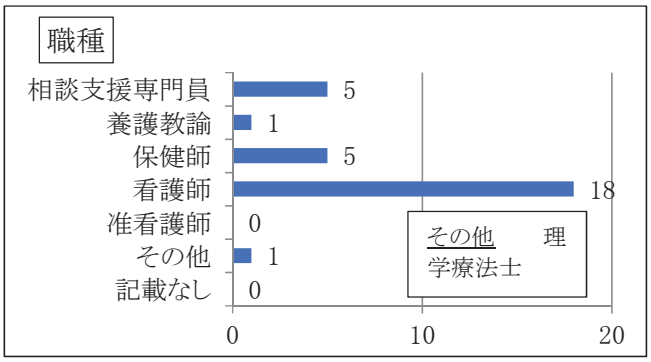
日程		研修内容	講師等
4日目 令和5年1月20日（金）	8:30～8:45	受付	講師 福岡県医療的ケア児支援センター 医療的ケア児等コーディネーター兼トータルアドバイザー 横田 信也氏 講師・ファシリテーター 土佐希望の家医療福祉センター 相談支援専門員　林 恵　氏 幡多希望の家相談支援センター 相談支援専門員　永吉 納美　氏
	8:45～12:15	●演習　事例検討	
	12:15～13:15	昼休み	
	13:15～16:45	●演習　事例検討	
	16:45～17:00	修了式	

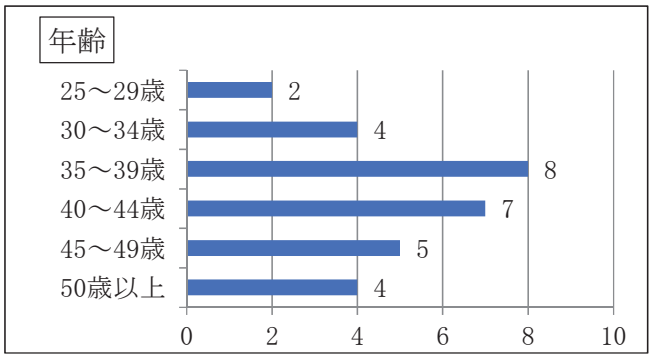
1. 医療的ケア児等支援者・コーディネーター合同研修アンケート結果

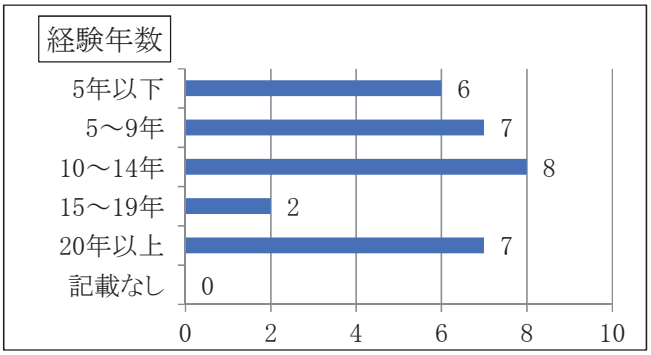
実施日　令和4年　12月7日　　回数数　30名　回収率　90.9%

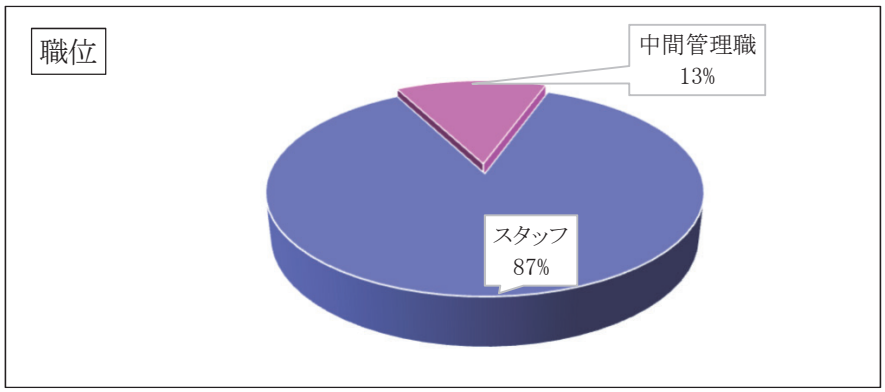
1）受講者背景



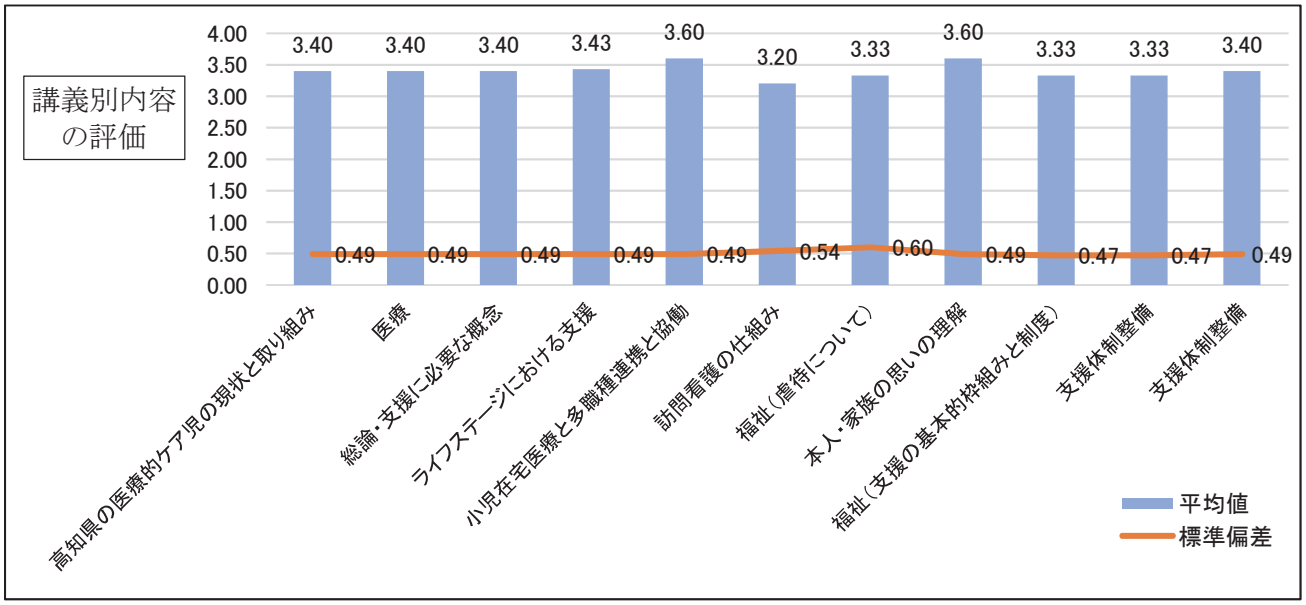




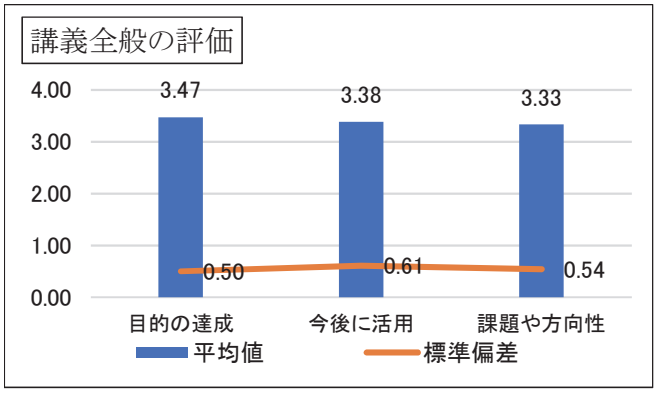


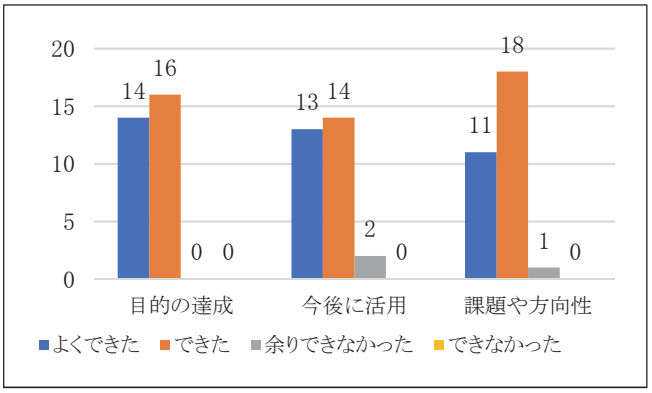


2）研修内容について

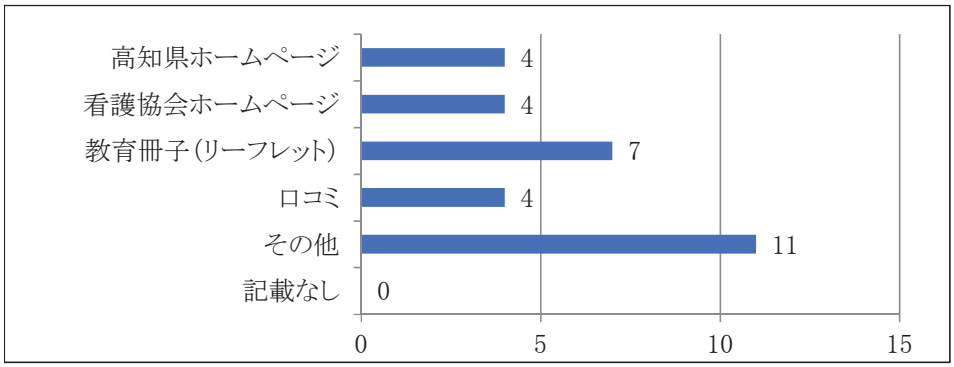


②あまりできなかったを選択した理由
・どんなときにどこに連絡すればよいかよくわからなかった。すべてが児相ではないことは分かった。
・訪問看護は小児の経験が少ない事業所が多いということしか印象に残らなかった。
・福祉について知識が乏しく難しかった。
・声が聞き取れず、資料を読むだけの内容で具体的な部分が分かりにくかった。





3） 研修を何で知りましたか（複数回答可）



その他の内容
・上司からの勧め　6 名
・ 高知市からの情報
提供メール　3 名

4） 研修に参加した目的 （抜粋）
・ NICUからの在宅移行が円滑にできる
・ 学校現場での対応が今後ある可能性があるため
・ 未熟児の増える今、今後医療的ケア児の保育園入所が当たり前になってくると感じたから
医療的ケアは不要だがてんかんの発作が頻回にある乳児について、どのように支援をしていくべきか悩んでいるため
・ 医療的ケア児について現状の把握と理解を深めたかった
・ 医療的ケア児を担当しているのでより適切な支援を学びたいため
・ 医療的ケア児に関わりについて、どのような支援の形があるのか勉強したかった
・ 退院支援センターからの参加依頼と興味があるから
・ 今後訪問看護に従事したいから
・ 保育園看護師として、保育園に入所を希望される医療的ケア児や地域で生活する医療的ケア児を支援したいと考え、研修に参加し自己研鑽し今後の支援に活かしたい
・ 地域の基幹病院に所属しながら、子どもと家族の地域生活における継続的な支援を実践するための知識・技術を習得する
・ 今後医療的なケアが必要な方の相談支援を行うときがあったときに基本的なことは知っておくため
・ 今後医療的ケア児の相談が入った場合に対応できるように
・ 相談対応と相談支援専門員との協働
・ 利用者の方の生活を包括的に見られ、支援していけるようになれたらと思い参加した
・ 幅広い視野を持った支援ができることが目的
・ 医療的ケア児への退院支援でどのようなことに視点をおけばよいのかを学ぶため
・ 知識を得るため、コーディネートするため
・ 医療的ケア児に関する対応力向上のため
・ 業務上必要なため、相談支援業務のため

・在宅での小児ケアを支えていく為
・医療的ケア児の支援をトータルで学びたいと考えたから
・医療的ケア児の現状、今後自身がどのような働きかけができるのかを知りたい
・障害児相談支援事業所を開設、医療的ケア児等と関わりがなく分からないことも多いため
・医療的ケア児について理解を深めるため
・35年間土佐市の方で保育士(障害児加配保育士を含む)をしていた。その時に医療ケア児が入所してきた。その子供の家族の心情や、苦労など、その大変さを目のあたりにして、自分も同じ親として、心が痛んだ。「少しでも、一緒に感じる事ができ、寄り添い、教えてもらうことが出来たら・・」と、痛感したことを思いだし、今専門員として自分に出来ることを学びたくて

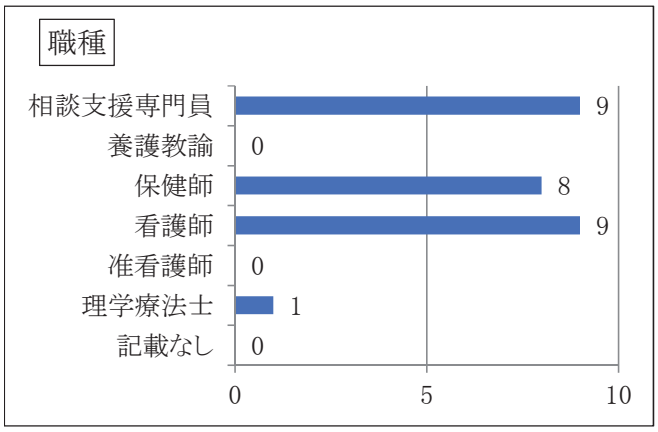
5) 意見・感想 (抜粋)

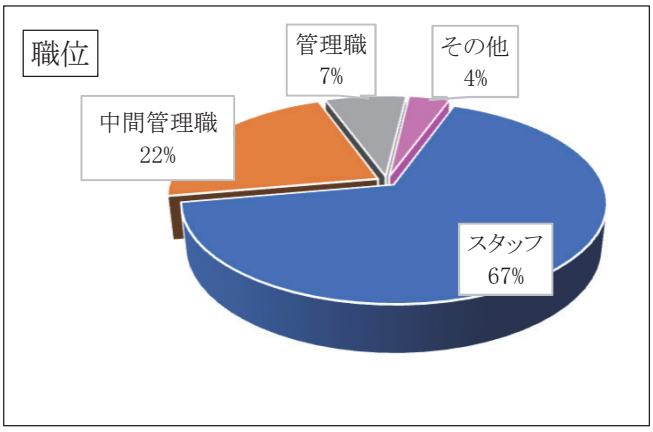
・現場で、役立てたい。
・事例が沢山盛り込まれていて勉強になった。事例がある講義はイメージしやすく分かりやすかった。
・看護師として医療的ケア児にかかる専門的な知識をもとに、本人の「生命の安全」「健康維持」の中心的役割を担うことが考えられると思った。今回の研修を受講したことで、障害のある子どもの成長と発達の特徴や、医療的ケア児等支援者に求められる資質と役割、相談支援、家族支援、連携・協働の重要性などを学ぶことができた。研修で学んだことを活かし支援を行っていきたい。
・事例でどのような支援をすれば良いか、障害の重症度に関わらずどのように接すれば良いか、詳細に教えていただいたので、家族や本人が悩んでいる時は他職種とも情報を共有しながらベストに近い選択肢を一緒に考えていきたいと感じた。
・現場で活躍されている方々や専門職の貴重なお話しっかり勉強させていただいた。特に当事者の保護者の方のお話は、親にしかわからないお気持ちや家族全体として考えた時の必要なサービスや支援についてがわかりやすく勉強になった。つい「前例がない」「地域資源がない」と言われるとあきらめてしまいがちになりるが、本人にとって何が最善かを保護者と共に考え、多職種と連携をとりながら実現していくことを忘れずに行きたいと思い、今後の支援に生かしていきたいと考える。
社会の状況は常に変化し、自分のもっている価値観とは違っているかもしれないが、大切なのは、本人家族の思いや希望、意向、意思決定支援であることを学び、最善の選択ができるよう伴走した支援をを行っていきたい。
・遠方なので、ZOOMで研修参加できることはありがたい。移動につかれず研修に集中できる。
・充実した講義で分かりやすく、それぞれのお立場からの熱意が伝わる内容でした。今後の支援につなげていきたいと思っている。
・内容が大変充実していました。
・どの講義も重要なものであるため、どうしても詰め込みになってしまうことは理解できるのですが、内容が重複しているものがあったため、もう少し講義時間が短縮できたのではないかと思った。
・医療的ケア児の現状を知り、理解を深めることができた。ただ、保育園の立場では周りとの連携をとっても、なかなか受け入れるまで難しいのではないかと感じた。ただし、今回で学んだことを保育現場に持ち帰り、伝えていこうと思った。
・実践例などが組み合わされていて、理解出来たし勉強になった。

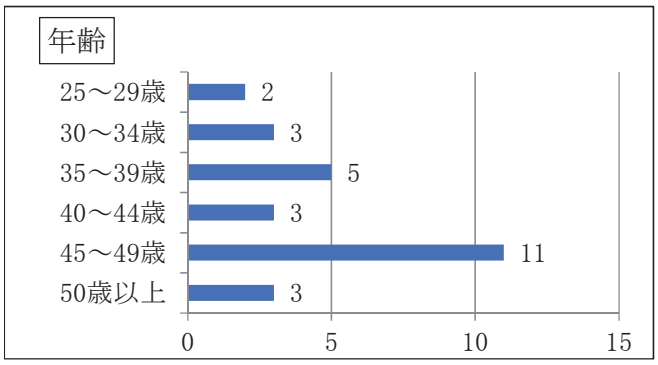
2. 医療的ケア児等コーディネーター研修(演習) アンケート結果

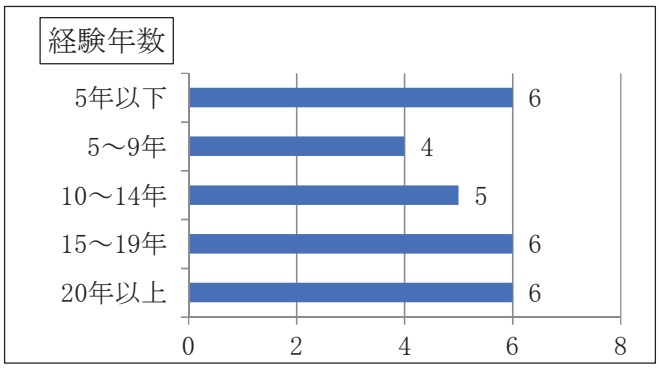
実施日 令和5年 1月20日　　回数数 27名 回収率 100%

1) 受講者背景

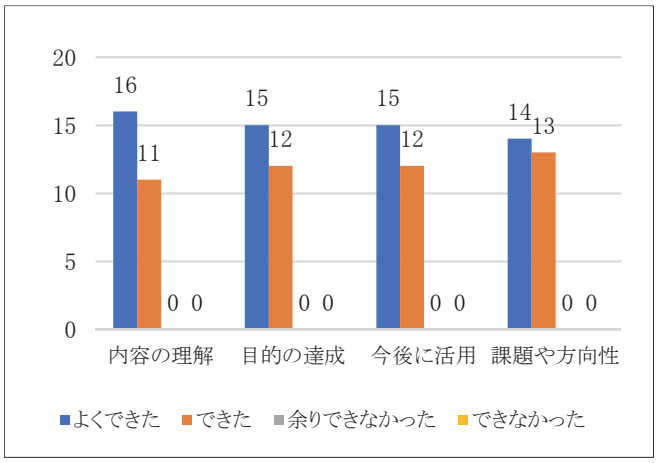


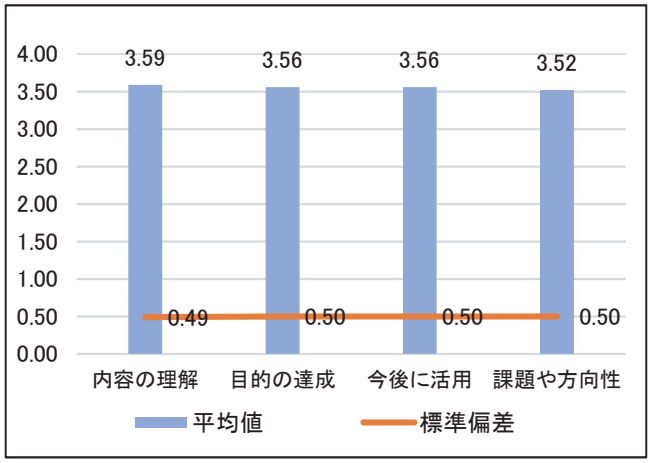






2） 研修内容について





3） 意見・感想 （抜粋）

- 分かりやすい講義でよく理解できた。グループワークが多く頭をフル回転させて大変でしたが、他職種間での視点や他グループの発表を聴く中で学びがとても多いと感じた。
- 実際にコーディネーターとして、関わるとなるととても大変だと思うけれど、基本はこどもの支援ということで、本人の思いに寄り添った支援を行っていきたい。
- 大変参考になった。業務にいかしていきたい。
- 講義がとてもわかりやすかったため、長時間の研修でも集中力が途切れることなく向き合うことができた。
- とても分かりやすい内容で、グループワークでも様々な職域・職種の方と意見を交換することができた。とても有意義な時間となった。
- 多種業の方とのグループワークは非常に勉強になった。
- 勉強になり、今後の病院での支援に活かしていきたい。
- 主役はあくまでも子どもです。コーディネーターは、子どもや家族の人生の伴走者であり、応援役であることを忘れず、本人・家族と一緒に夢や希望のあるライフストーリーを紡ぐことができるように、様々な社会資源を提案していけたらり、子供にとってよい選択していけるような意思決定支援ができるコーディネイターでありたいと思っている。
  コロナ感染拡大の状況もあり仕方がないなとは思いますがグループワークはZOOMではやはりやりにくさを感じました。ジャムボードをもっとつかいこなせたらよかったかもしれませんが、初めてだったので苦戦しながらでした。皆の意見をまとめるよいツールだと思った。
- 講義がとてもわかりやすかった。今後、医療の事も勉強していかなければいけないことがわかったので、頑張りたい。

3. 研修担当者のコメント

本年も集合とオンラインでの研修方法で実施した。

3.4日目のコーディネーター養成研修は、演習が主体となる研修形式のためjamubo-doを活用して開催した。最初は、jamubo-doに苦戦をしていたが少しづつ慣れてきて意見交換も活発になり、セッション毎に発表することができた。最終のセッションの発表では、医療的ケア児等コーディネーターに大切なものと心得について受講生皆で共有することができた。

多職種が参加しての研修であることから、多職種連携を進める研修となっている。

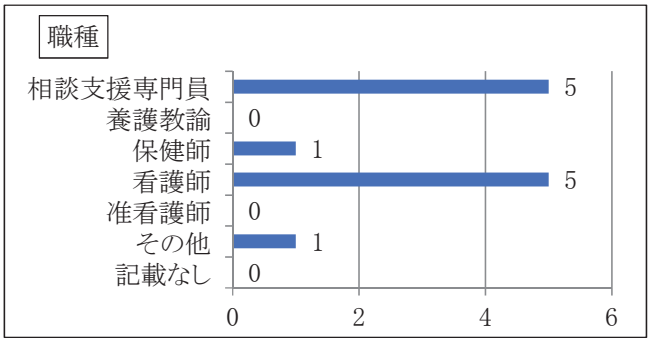
研修名	2)医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	
開催日時	令和4年10月3日（月） 9:30～16:30	定員 ： 30名
受講者数	18名 （会員6名 ・ 非会員0名 ・ その他非該当12名）	
ねらい	・ 医療的ケア児にかかる災害時の対応について理解できる ・ 事例を通じて医療的ケア児等コーディネーターのスキルアップを図る	
講師	プログラム参照	
内容	プログラム参照	

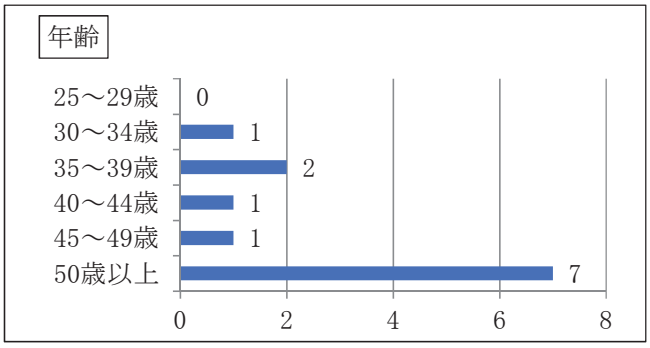
医療的ケア児コーディネーターフォローアップ研修プログラム

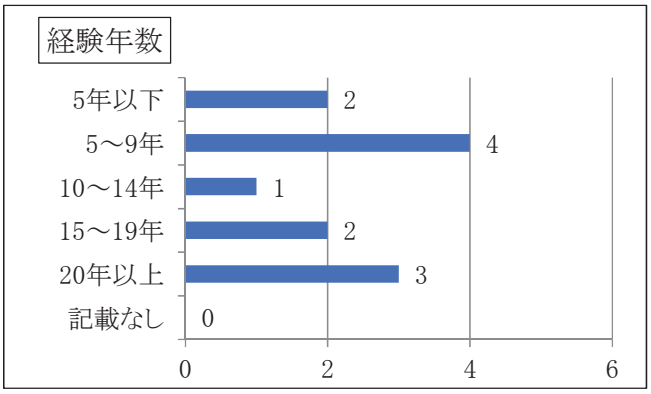
時間	内容	講師
9:30～ 9:40	医療的ケア児等コーディネーターに 期待される役割について	高知県こども・福祉政策部 障害福祉課　村山　真一　氏
9:40～12:30	災害時対応 医療的ケア児にかかる災害対応について 個別避難計画等の作成支援の取り組み 報酬支弁方法（養育支援事業）	黒潮町健康福祉課 亀谷　賢汰　氏 山本　省太　氏
13:30～16:30	医療的ケア児コーディネーターの 対応事例検討 グループワーク	講師・ファシリテーター 重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センターきぼうのわ　医療的ケア児等トータルアドバイザー（相談支援専門員） 林　恵　氏 幡多希望の家医療福祉センター 相談支援専門員　永吉　納美　氏 ファシリテーター 高知県こども・福祉政策部障害福祉課 チーフ　村山　真一　氏 障害児支援担当　山本　唯　氏

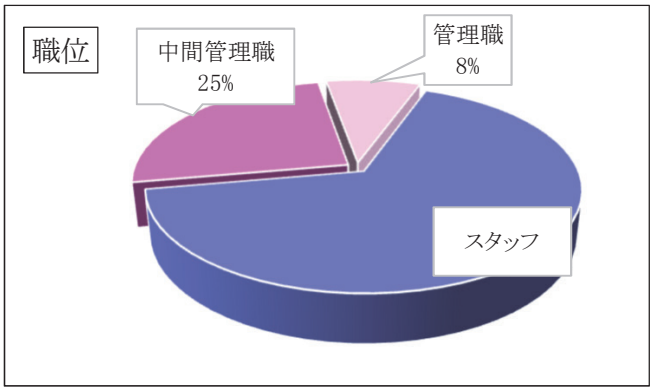
1. アンケート結果　　実施日　令和4年　10月3日　回数数　12名　回収率　66.6%

1）受講者背景

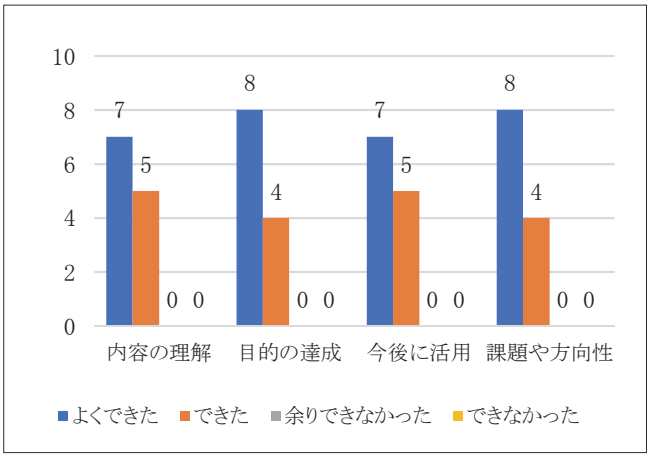


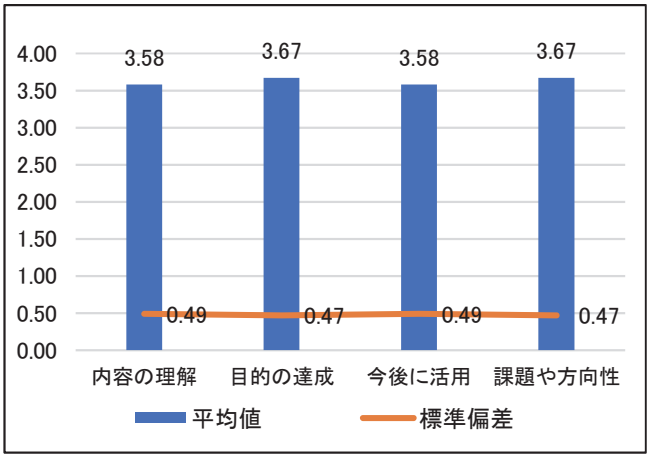




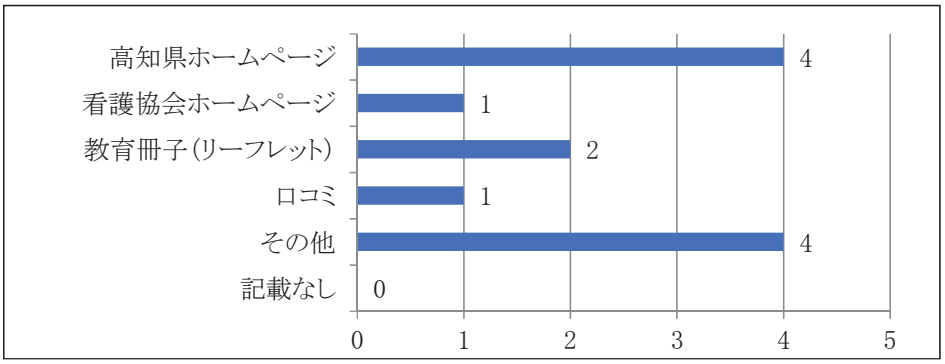


2） 研修内容について





3） 研修を何で知りましたか（複数回答可）



<u>その他の内容</u>

案内メール・FAX
4名

4） 意見・感想 （抜粋）

- 現場で、役立てたい。
- 勉強不足を痛感した。業務に追われて日々の研鑽を怠らないように努めていきたい。本日学んだことを生かし、微力でも仲間と一緒に高知県下の医療的ケアを必要とする皆様の力になりたい。
- 相談支援専門員としての業務と、コーディネーターとしての業務のそれぞれの違いが理解できた。津波対策も漠然と理解していたのですが、具体的に個々がどうするか？について焦りを感じながらグループワークをさせていただき、とても参考になった。機会があればまた参加させて頂きたい。
- コーディネーター養成の研修を受けた時にアンケートにフォーローアップの機会を希望していたので、今回の研修を心待ちにしていた。
  現在、特別支援学校に勤務しているのでコーディネーターとしては活動できていない。日々の業務のなかで学校の先生や保護者に情報としてお伝えするくらいなのだが、常にアンテナを張って新しい情報を得られるようにしている。
  いろいろな職種のコーディネーターとグループワークを通じてディスカッションすることができ、それぞれの分野におけるアセスメントや関わり方、支援方法などを共有することができたので大変有意義でした。できれば定期的にこのような研修を開催して欲しい。

グループワークのなかでも話が上がったが、医ケアに関する会や研修に出たときに感じることは医療や福祉、行政などの支援者は参加していても、学校の関係者は参加していないことが多くぽっかりと抜け落ちているように感じる。(私自身は自分の休みを利用して個人的にこの会に参加した。)
就学している医ケア児が一番長い時間を過ごす場所は学校だと思うので、今後は学校現場も加わった形での会が開催されることを希望している。

・久しぶりの対面研修、とても充実していた。仲間を増やすことができ、これからは相談もできるので心強い。講師の先生たちからは本当にたくさんのことを教えてもらい勉強になった。
・今回の研修でいろいろな職種の方と繋がりを持つこともでき、やっぱり直に会ってお話しができるのは、良いと思った。また、改めて自己研鑽が必要だと感じた。

2.　研修担当者のコメント

初めての開催であった。午前は、災害時の対策について黒潮町の取り組みについてと医療的ケア児等の災害時対応・個別避難計画についての演習を行った。受講者の意見から、災害時の支援について必要性を痛感しているにもかかわらず、支援計画が進んでいない状況であることが良く分った。午後の事例検討でも多くの悩みを抱えながら、支援に携わっている受講者が多いことに気づいた。
今回研修を担当して、受講生の思いやアンケート結果からこのような研修を継続して開催していくことが当協会の役割の一つであると再認識した。

5. 高知県新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成研修

研修名	1)令和4年度 高知県新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成研修 領域1　病院で勤務する看護師対象	
開催日	令和4年12月4日(日)　領域1.2合同講義(オンライン・集合)	定員:100名
	令和4年12月12日(月)・令和5年1月30日(月)　演習(集合)	定員:各50名
受講者数	令和4年12月4日(日)　受講者101名　オンライン98名・集合3名　会員68名・非会員33名 令和4年12月12日(月)　受講者45名　会員31名・非会員14名 令和5年1月30日(月)　受講者40名　会員26名・非会員14名	
目的	新型コロナウイルス感染症患者に対応するために必要な知識と技術を身につける	
ねらい	1)新型コロナウイルス感染症患者の重症化予防と急変時の早期発見ができる 2)感染防止対策を考えた看護ケアが実践できる 3)本人・家族の精神的サポートができる 4)新型コロナウイルス感染症患者の対応に必要な他職種及び行政との協働について学ぶ	
講師	プログラム参照	
内容 研修詳細	プログラム参照	

高知県新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成研修プログラム(領域1)

日時				講義名	講師等
1日目講義　オンライン	12/4(日) 領域1 領域2 合同	午前	9:40(20分)	新型コロナウィルス感染症に対する高知県の現状と対策	高知県健康対策課
			10:00～12:00(120分)	新型コロナウィルス感染症の感染対策及び病態生理	高知医療センター 医師　矢野　博子　氏
				・新型コロナウィルス感染症の特徴	
				・新型コロナウィルス感染症の病態生理	
				・感染対策の知識(標準予防対策、ゾーニング等)	
		午後	13:00～16:00(180分)	新型コロナウィルス感染症患者の看護の実際	高知医療センター 集中ケア認定看護師 角丸　佳世　氏
				・平時の患者早期発見のために	
				・患者発生時の対応～自施設で患者がでたらどうする？～	
				・重症化予防、急変時対応	
2日目　演習	2022/12/12(月) 2023/1/30(月)	午前	10:00～12:00(120分)	新型コロナウィルス感染拡大防止対策の実際について(演習)	※12/12の講師・アシスタント 高知医療センター 集中ケア認定看護師 角丸　佳世　氏 看護科長 大石　美和氏 看護師 坂野　真美氏 吉田　亜矢氏 ※1/30の講師・アシスタント 高知医療センター 集中ケア認定看護師 角丸　佳世　氏 看護師 坂野　真美氏
				・ゾーニングの実際	
				・患者対応時の感染予防対策	
				(病棟受け入れ時の準備、感染防護具の適切な取り扱い等)	
		午後	13:00～16:00(180分)	患者看護	
				・重症化予防、急変時対応の実際	
				・清潔ケア、排泄ケア、食事介助と口腔ケア、吸引等	
				・転落・転倒防止対策とケア	
				・精神的サポート	
				家族看護(感染管理、精神的サポート等)	
				※2回目の講義については一部を、1回目の講義の録画を使用する	

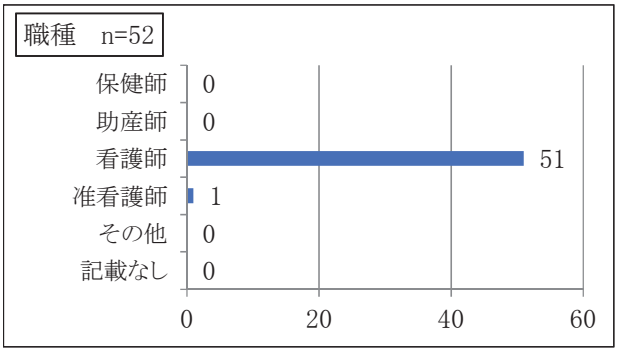
1. アンケート結果

令和4年12月12日(月)　回収数　27名　回収率　60.0%

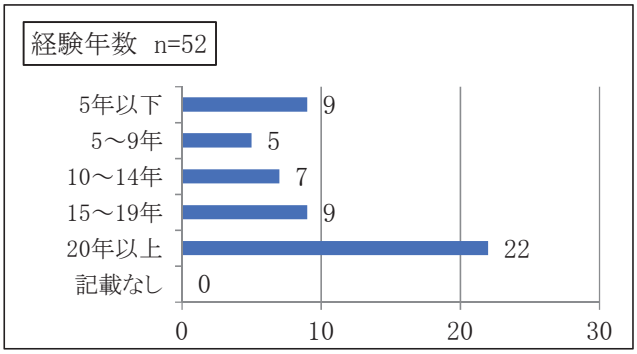
令和5年1月30日(月)　回収数　25名　回収率　62.5%

1)受講者背景

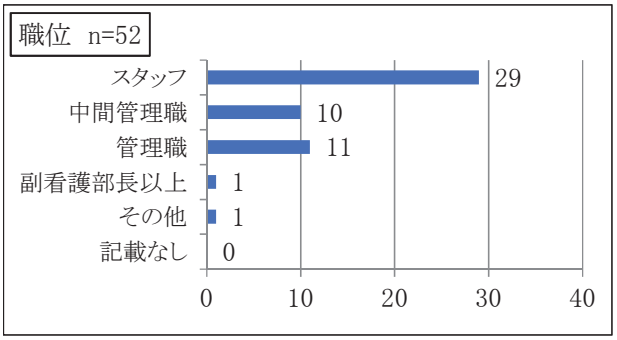
(1)職名



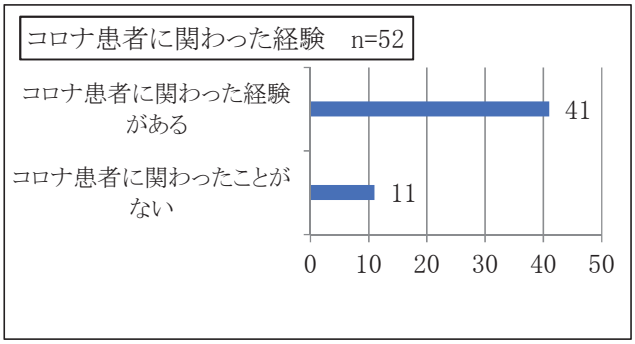
(2)経験年数



(3)職位

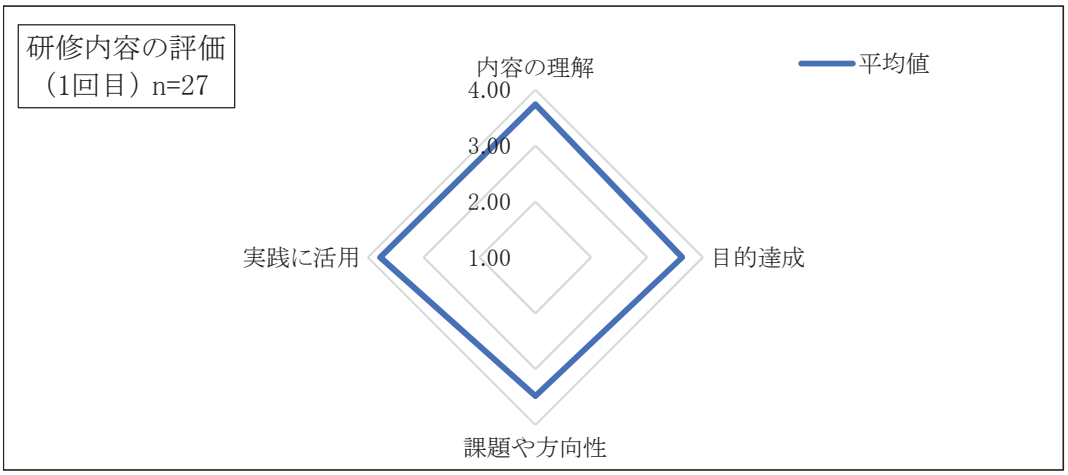


(4)コロナ患者に関わった経験

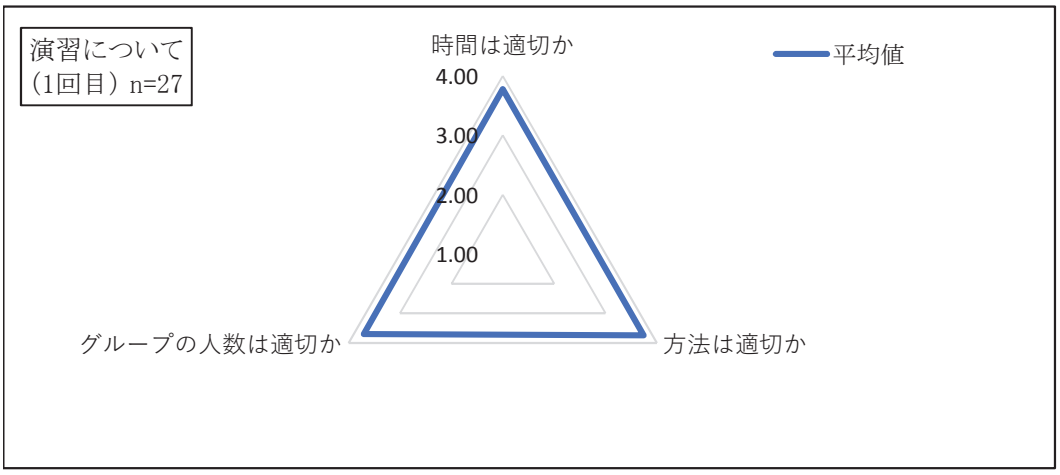


2)研修評価

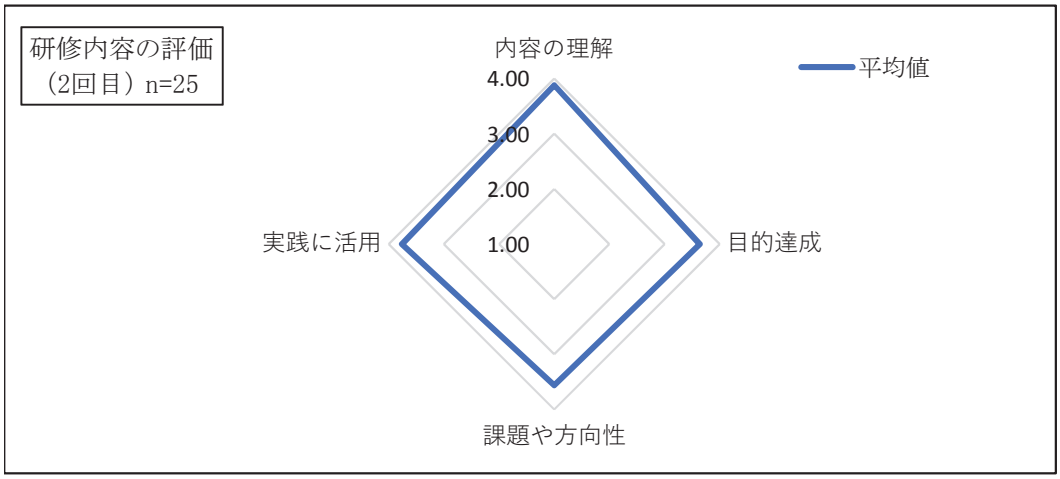
(1)研修の内容(1回目)



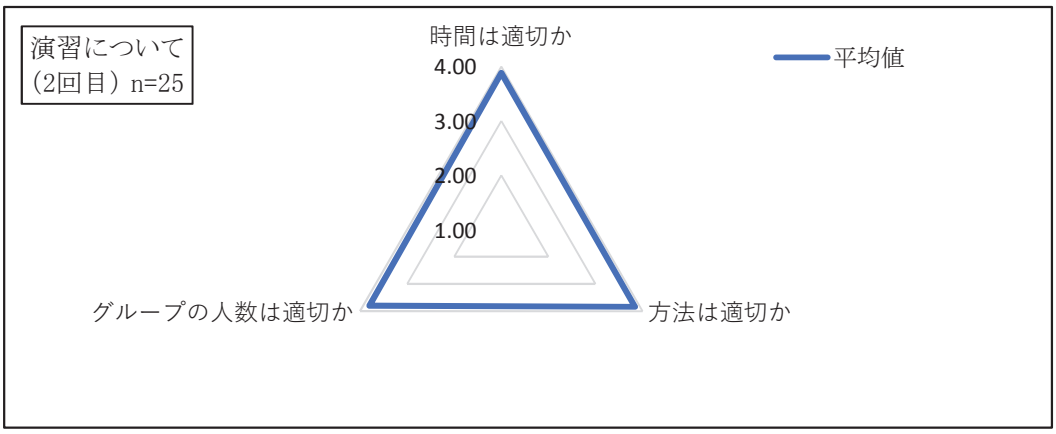
(2)演習について(1回目)



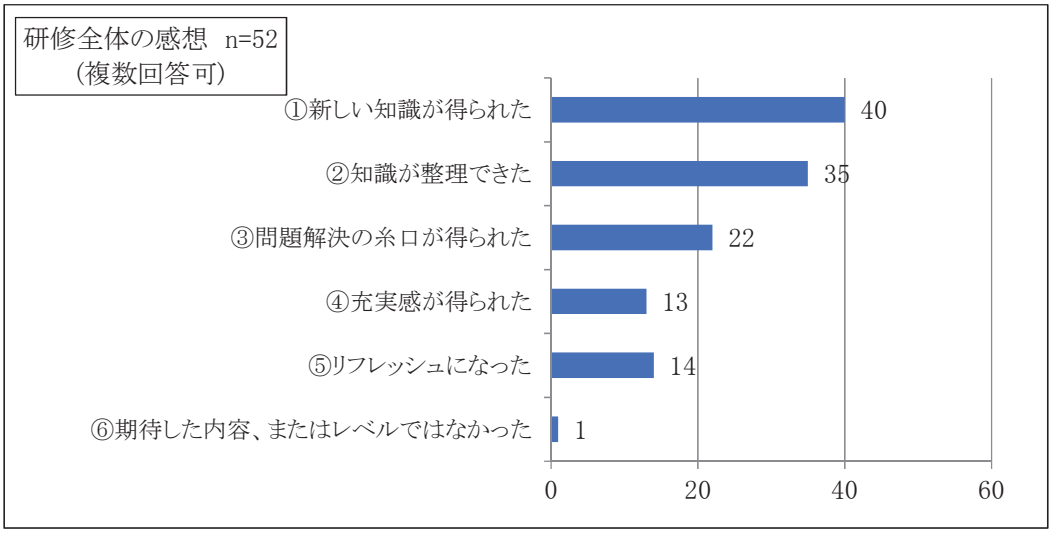
(3)研修内容について(2回目)



(4)演習について(2回目)



(5)研修全体の感想



3)意見・感想(抜粋)

- 感染対策のみでなく、基本のフィジアセスメントや実際の現場での話等あり、とても学びとなった。現在濃厚接触者に該当するなど、スタッフが少なく一人での参加になり、一回目の角丸さんの 講義などは感染対策に限らず重要な内容で、今回のような講 義がスタッフ全員が聞けたらと思った。遠方のため、今回のようにzoomなら多くのスタッフが学べるので、ぜひこのような機会を持っていただけたらと思う。
- とても勉強になった。今回の学びを現場で活かしていきたい。
- 演習や意見交換もあり、身になる研修となった。

- とても勉強になった。これからの対応に活かしていきたいと思った。
- 演習内容がとても良かった。
- 久しぶりの集合研修に参加をした。感染対策に配慮して下さり、安心して研修を受ける事ができた。
- 研修で得た知識を今後の感染対策に生かす事ができればと思う。
- すごく貴重な意見を共有できて良かった。
- もう少し感染病棟の実際を聞きたかった。
- 今後の業務に活かせるよう引き続き知識の習得をしていきたいと思う。

2.研修担当者のコメント

- 募集定員に対して多くの応募があったため演習を2回にわけて実施することとなり 新型コロナウイルス感染症の患者の看護に対する関心の高さが現れていた。 また研修を通して新型コロナウイルス感染症への対応に、病院や施設・在宅を問わず苦慮していることを実感した。
- 演習は個人防護服をつけて行う事で、より具体的に感染予防や技術を学ぶ機会になった。 グループ内の意見交換がとても勉強になり、今回の学びを現場で活かしていきたいとの意見があった、研修終了後の講師への質問も多く、研修の内容を各職場へフィードバックしていただけるようであった。
- 領域1では、様々な病院の対応を知ることができ、講師側も学ぶことがあったとの感想があった。限られた人や資源のなかでどのように基本的な感染対策を行うかが重要であり看護師が果たす役割は大きい。他の病院での体制や工夫を知ることにより、より良い看護が提供されるのでは思った。

研修名	2)高知県新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成研修 領域2 介護・福祉施設と在宅領域で勤務する看護師対象	
開催日	令和4年12月4日(日)　領域1.2合同講義(オンライン)	定員:100名
	令和4年12月21日(水)・令和5年1月22日(日)　領域2演習(集合)	定員:各50名
受講者数	令和4年12月4日(日)　受講者48名　オンライン48名　会員18名・非会員30名 令和4年12月21日(水)　受講者36名　会員13名・非会員23名 令和5年1月22日(日)　受講者12名　会員5名・非会員7名	
目的	新型コロナウイルス感染症患者に対応するために必要な知識と技術を身につける	
ねらい	1)新型コロナウイルス感染症患者の重症化予防と急変時の早期発見ができる 2)感染防止対策を考えた看護ケアが実践できる 3)本人・家族の精神的サポートができる 4)新型コロナウイルス感染症患者の対応に必要な他職種及び行政との協働について学ぶ	
講師	プログラム参照	
内容 研修詳細	プログラム参照	

高知県新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成研修プログラム(領域2)

日時				講義名	講師等
1日目講義　オンライン	12/4 (日) 領域1 領域2 合同	午前	9:40(20分)	新型コロナウィルス感染症に対する高知県の現状と対策	高知県健康対策課
			10:00 ～ 12:00 (120分)	新型コロナウィルス感染症の感染対策及び病態生理	高知医療センター 医師　矢野　博子　氏
				・新型コロナウィルス感染症の特徴	
				・新型コロナウィルス感染症の病態生理	
				・感染対策の知識(標準予防対策、ゾーニング等)	
		午後	13:00 ～ 16:00 (180分)	新型コロナウィルス感染症患者の看護の実際	高知医療センター 集中ケア認定看護師 角丸　佳世　氏
				・平時の患者早期発見のために	
				・患者発生時の対応～自施設で患者がでたらどうする？～	
				・重症化予防、急変時対応	
2日目　演習	2022/12/21 (水) 2023/1/22 (日)	午前	10:00 ～ 12:00 (120分)	新型コロナウィルス感染拡大防止対策の実際について(演習)	※12/21講師・アシスタント 細木病院 感染管理認定看護師 土居　世知　氏 在宅部　教育課長 井上　加奈子　氏 老人保健施設 あうん高知副施設長 小松　雅理　氏 看護師 森中　美緒　氏 ※1/22午後の講師・アシスタント 細木病院 感染管理認定看護師 土居　世知　氏 在宅部　教育課長 井上　加奈子　氏
				・ゾーニングの実際	
				・患者対応時の感染予防対策	
				多職種との連携(協働・教育・指導等)	
				行政および他施設との連携(協働と情報共有等)	
		午後	13:00 ～ 16:00 (180分)	患者看護	
				・重症化予防、急変時対応の実際	
				・清潔ケア、排泄ケア、食事介助と口腔ケア、吸引等	
				・転落・転倒防止対策とケア	
				・精神的サポート	
				家族看護(感染管理、精神的サポート等)	
				ICTを活用した全身管理の方法	
				※2回目の講義については一部を、1回目の講義の録画を使用する	

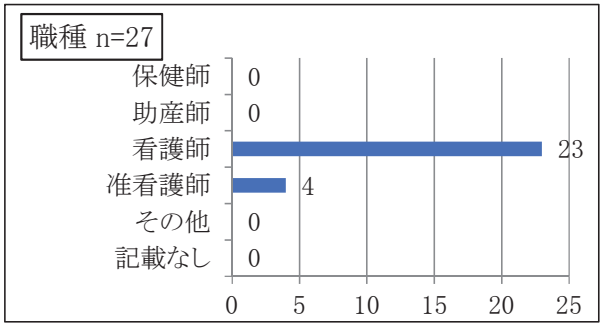
1. アンケート結果

令和4年12月21日(水)　回収数　17名　回収率　47.2%

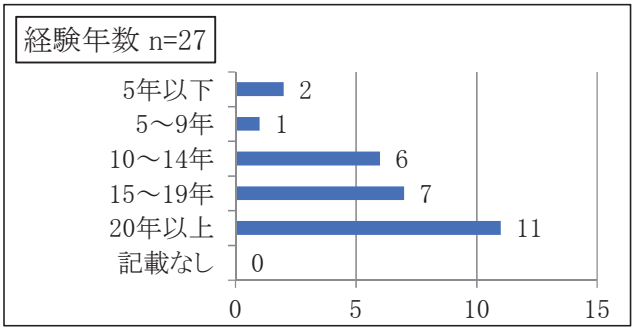
令和5年1月22日(日)　回収数　10名　回収率　83.3%

1)受講者背景

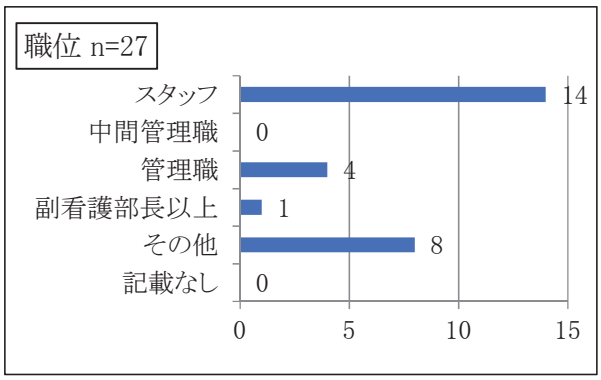
(1)職種



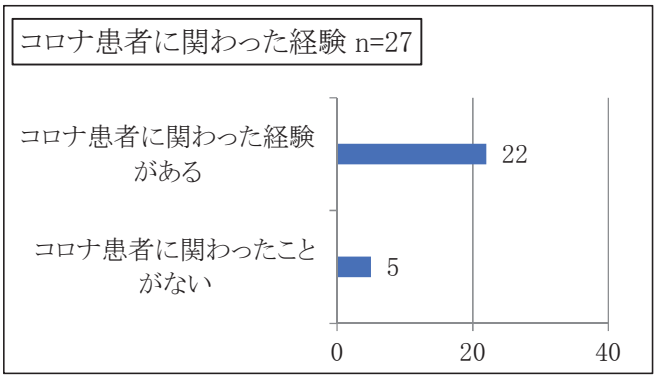
(2)経験年数



(3)職位

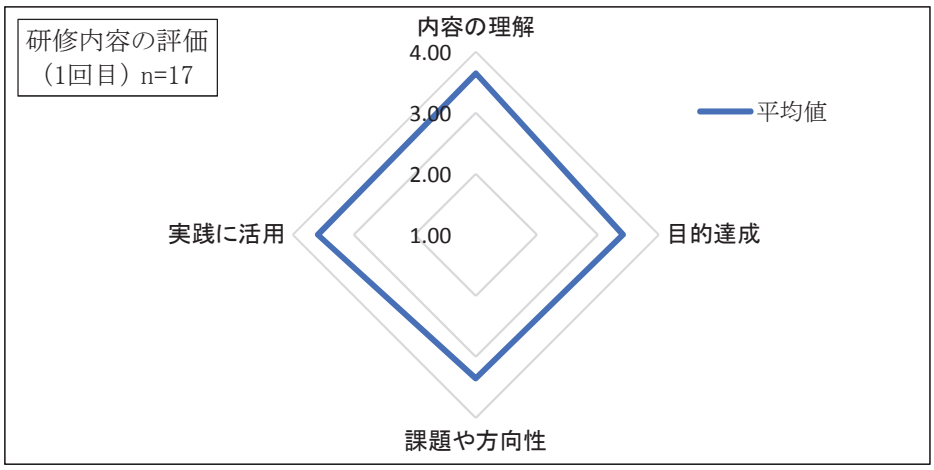


(4)コロナ患者に関わった経験



2)研修評価

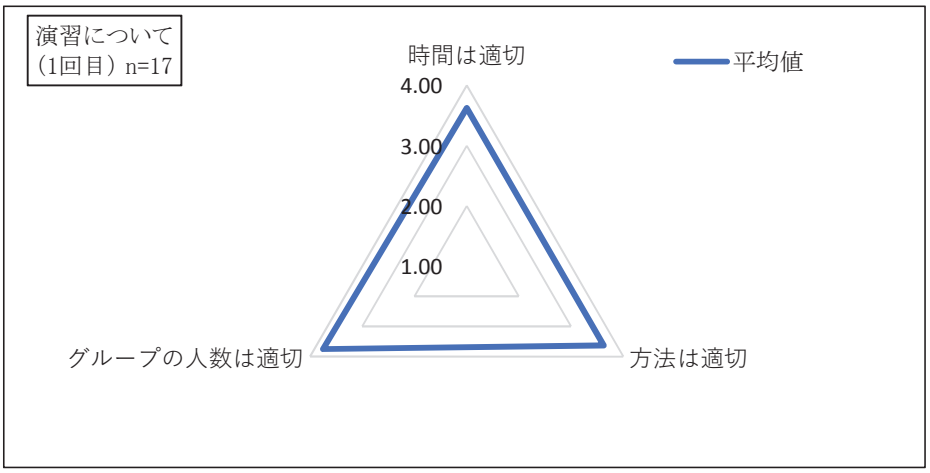
(1)研修の内容について(1回目)



2 あまりできなかったを選択した理由

・施設で実際どの様な対応をしたのか、病院で出来る事が出来ない状況下でどこまでやらないといけないのか、やらなくて良いのか知りたかった。

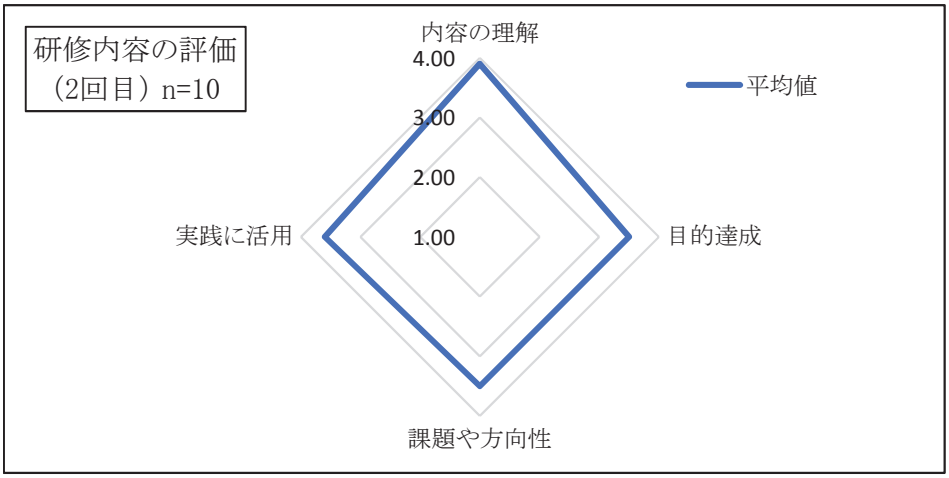
(2)演習について(1回目)



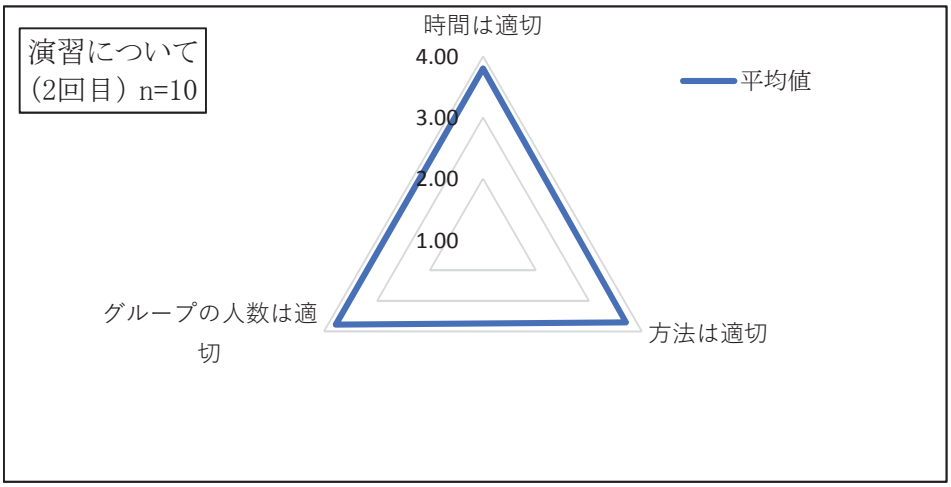
2 あまりできなかったを選択した理由

・実践の時間がもう少しほしかった。意見や質問が聞こえにくい。
・病院での対応が想定されていて、フェイスシールドやマスク等は使い回しなので、どの様にすれば良いか知りたかった。

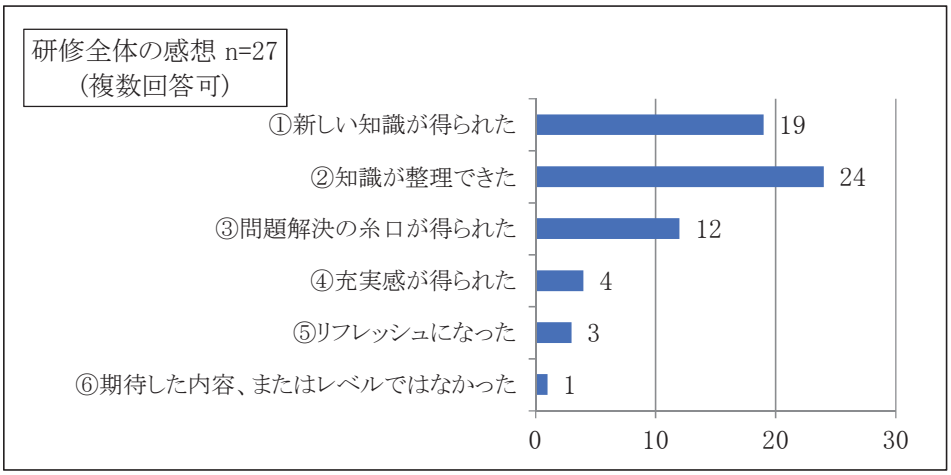
(3)研修の内容について(2回目)



(4)演習について(2回目)



(5)研修全体の感想



⑥を選択した理由

・もう少し具体的に話を聞きたかった。職員の心理的フォロー等も聞きたい。

3)意見・感想(抜粋)

- 職員への説明や配慮について、再認識できた。
- 今後の対応、対策に役立てたいと思っている。
- 色々な知識を得る機会になって、良かった。職場で広げていけたらと思っている。
- 他の施設の事や、意見も聞く事ができて良かった。

- 病院で出来る事が施設ではできない。看護師だけなら感染対応と一言言えば統一した対応が出来るが、介護士がメインの場所では、一つ一つ指示を出さないといけないし統一されない事が多い。介護士の教育が難しい。
- もっと施設向けの研修を増やしてほしい。
- 他施設のコロナ対策や体験談を聞くことができ貴重な時間でした。参考になる部分も沢山ありスタッフへ研修の共有、今後も活かしていきたいと思った。
- 感染対策をする上でどのような対策を行うか、具体的に理解ができた。
- 困っていた課題に対して解決できたので、持ち帰り直ぐに実践したい。

2.担当者のコメント

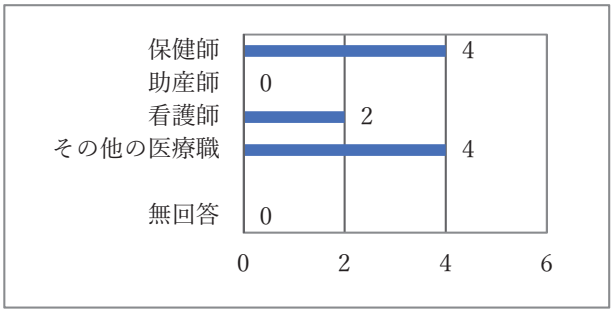
- 領域2では、様々な施設や在宅での新型コロナウイルス感染症への対応を学ぶことができた。施設では看護師が介護者に対して感染管理を指導することへの重要性と難しさを共有できたと思う。在宅看護では、臨機応変の対応を求められるが、基本の感染管理をどのように行えば良いか具体案に対して活発な意見があり、今後の方向性が明らかにできた。
- 他の施設や在宅で働く看護職が、グループワークを通じて情報交換をしたり、災害ともいえる今回の新型コロナウイルス感染症の流行に対応してきた看護職ならではの想いを共有でき、看護師間の連携を深めることができたと考える。

6. 新型コロナウイルス感染症等対応人材育成研修

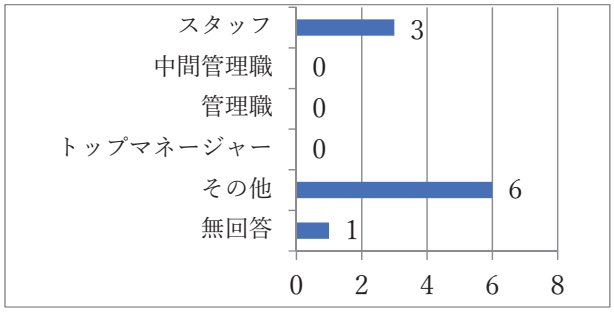
研修名	**新型コロナウイルス感染症等対応人材育成研修**	
開催日時	令和5年1月 23 日(月)	時間　13:30～16:30
受講者数	15 名（会員:4 名　非会員:11 名）	定員　50 名
ねらい	都道府県が、新興感染症等の感染拡大期に、保健所を中心とした業務に従事できるよう、人材バンク(IHEAT)の登録者に対して最新の知識や技術を習得する為の人材を育成する。	
講師	1)土佐希望の家医療福祉センター　医師　吉川清志 2)安芸福祉保健所健康障害課　保健師　濵田麻愛 3)高知県健康政策部保健政策課　保健師　池知亜弥	
内容 (キーワード)	IHEAT 登録　保健所業務支援　疫学的調査	講義・演習

1.アンケート結果　出席者:15 名　アンケート回収:10 名　アンケート回収率:66.7%

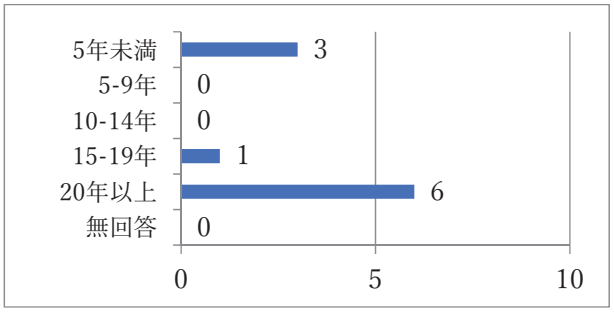
1) 職名



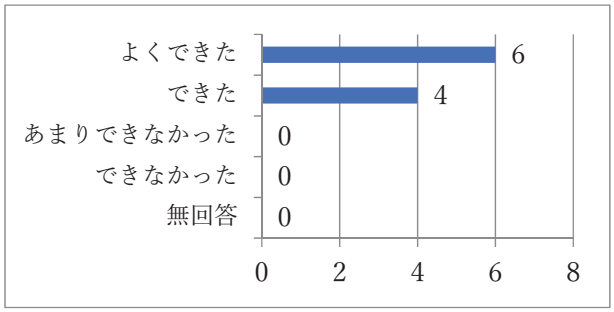
2) 職位



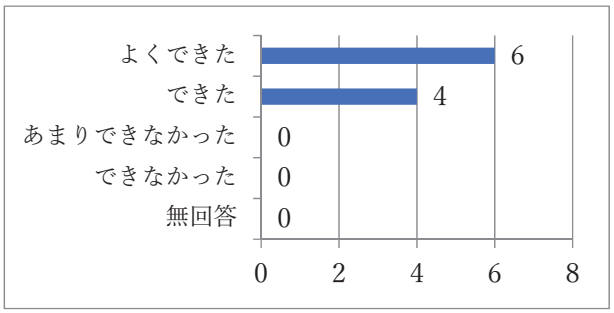
3) 経験年数



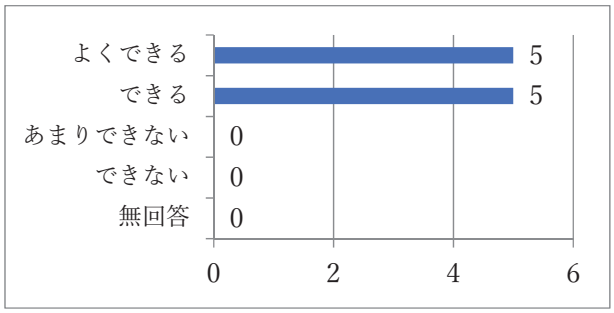
4) 研修内容の理解度



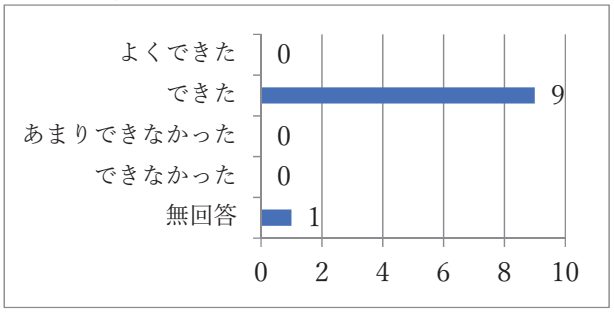
5) 参加目的の達成度

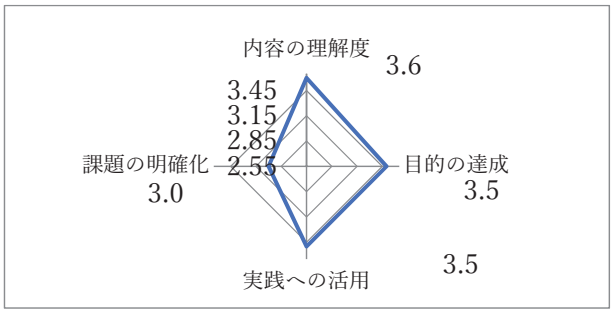


6) 今後の活動に活用できるか

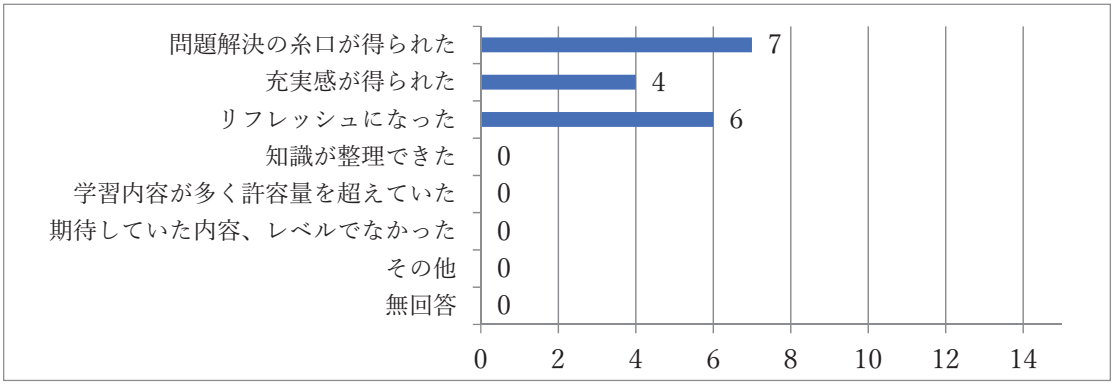


7）課題解決の方向性が明確になったか





8）研修全体を通した感想(複数回答)



2. 感想、意見

・経験のある方とペアが組め、実際のご経験も聞けて勉強になりました。
・5 類になっても大変さは一緒だと思う。
・吉川医師の資料は広範囲に網羅されており、今後の活用に参考になりました。
・演習はもう少し時間があれば振り返りが深まるように感じました。

3.担当者のコメント

COVID-19 感染拡大により、ひっ迫する保健所を支援する目的で、IHAET 登録者を対象に高知県から委託された研修である。

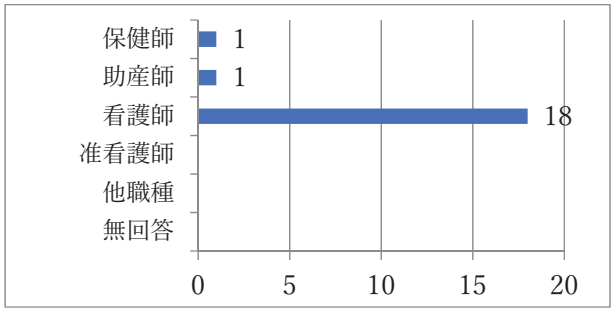
今年は更に対象者を広げ、宿泊施設や電話相談業務を行ったナースセンターに登録している潜在看護師も受講した。感染に関する基本的な知識や保健所業務の実際を知り、その後、複数の事例をもとにロール実際に演習を行うことで理解が深まったとの意見が多かった。

7.就労環境改善のための体制整備事業

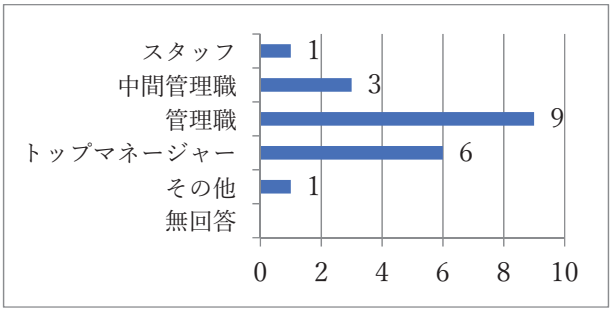
研修名	1）看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ 【公開講座】	
開催日時	令和4年9月 24 日（土）公開講座 web 開催	時間　9:30～11:30
受講者数	公開講座　21 名（会員 20 名、非会員 1 名）	
ねらい	ワーク・ライフ・バランスインデックス調査の結果を分析し、課題の抽出とアクションプランの作成、勤務環境改善を取り組む キックオフとして公開講座を開催し、ワーク・ライフ・バランスに関する知見を広げる	
講師	【公開講座】 高知大学教育学部門　教授　森田美佐 「ジェンダーとは何か」 高知大学教育学部門　准教授　磯部　香 「LGBTQ と性的多様性について」	
内容 (キーワード)	ジェンダー平等・LGBTQ・性的多様性・働きやすい環境への取り組み	講義

1．公開講座アンケート結果　出席者:21 名　アンケート回収:20 名　アンケート回収率:95.2%

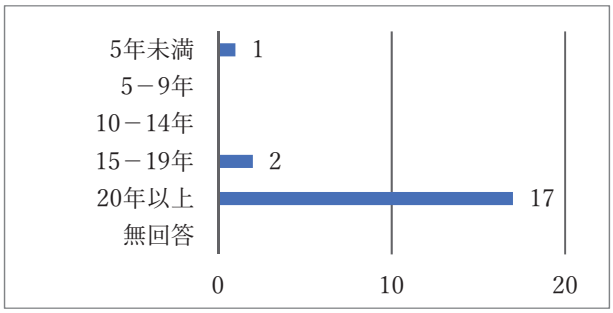
1）職名



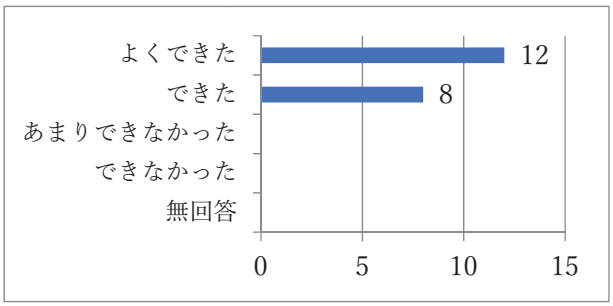
2）職位



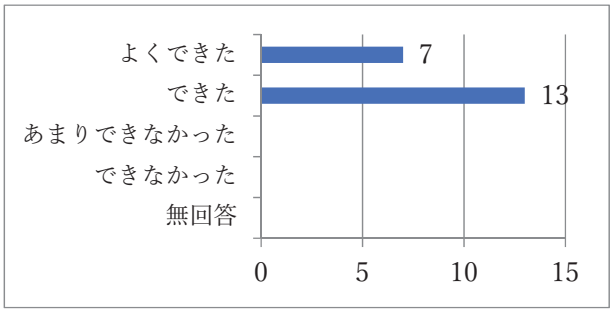
3）経験年数



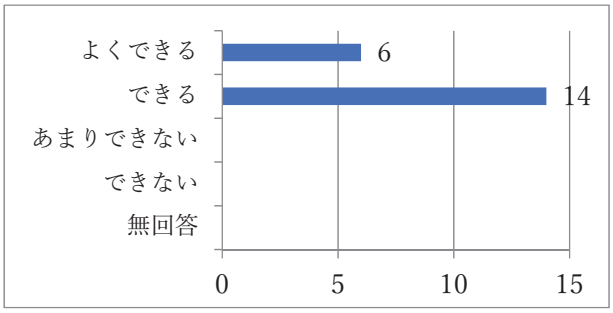
4）研修内容の理解度



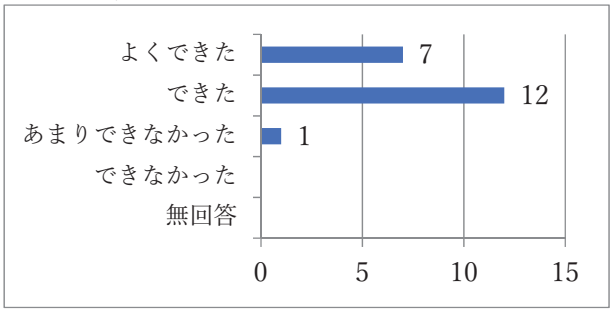
5）参加目的の達成度

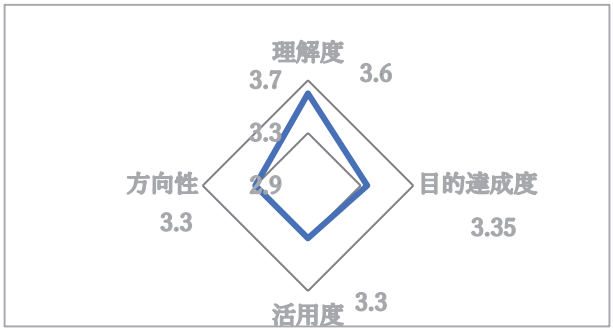


6）今後の活動に活用できるか



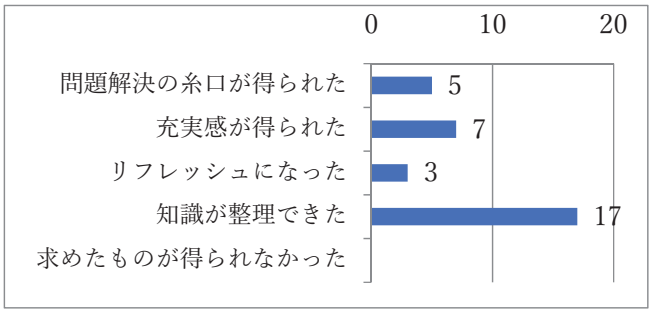
7) 課題解決の方向性が明確になったか



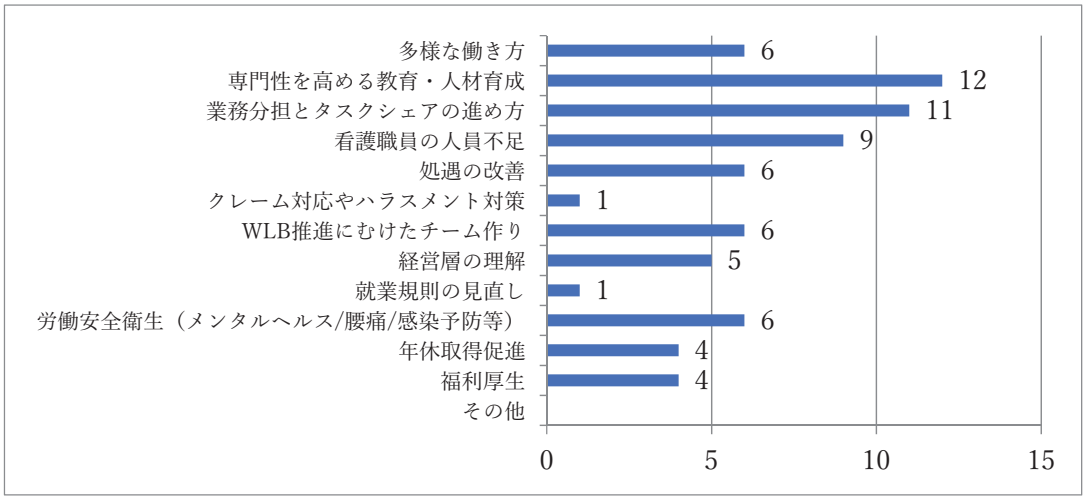


・あまりできなかった理由：自分の知識が足りてないと思うから

8) 研修全体を通した感想(複数回答)



9)WLB を推進するための貴施設の課題は何ですか(複数回答)



2. 感想、意見

・今まで意識してなかったことや知らなかったことが多く、大変勉強になりました。
・新しい知識が得られました。
・看護学校の授業でジェンダーに関する講義もあるので参考にさせていただきます。
・今日は貴重な講演ありがとうございます。
・働きやすさと LGBTQ について改めて考えさせられました。
・今回の内容を施設内へ持ち帰り、今後の WLB への取り組みに活かしていきたいと思いました。
・思い込んでいることへの働きかけは、大変なこともあるかもしれませんが、直面する課題ができた時に順応できる力にしていきたいと思います。
・院内の WLB チームのメンバーに伝達したいと思います。ありがとうございました。
・管理者として、こういった視点は必要な為、より学習を深め業務に活かしていきたいです。

・わたしのセクシュアリティは何だろうかと思い研修に参加しました。何で男女と区別されるのか、LGBTQ と分けられるのか、カミングアウトで何が変わるのか、LGBTQ の活動にも違和感がありました。更に学びを深め業務に活かしていきたいです。
・自分でも分かっているつもりでしたが、柔軟な考え方が出来てなかったことに改めて気づきました。今後も知識を増やせるように努力していきます。
・新たな視点を持ち視野を広げることができました。
・今日の研修内容とワーク・ライフ・バランスとの関連にピンとこないまま受講しました。 そんな中、森田先生の「無意識の偏見に気づく」という言葉にハッとしました。 面接や普段の会話に無意識、決めつけ、で勝手に話しを進めていた自分に気づかされました。まだまだ偏見が払拭できていませんが、まずは知る事で変わっていきたい!働きやすい職場環境にしていきたいと思いました。
・小さい頃からの教育が大事だなと思いました。相手の人生を尊重出来るように心がけていきたいです。

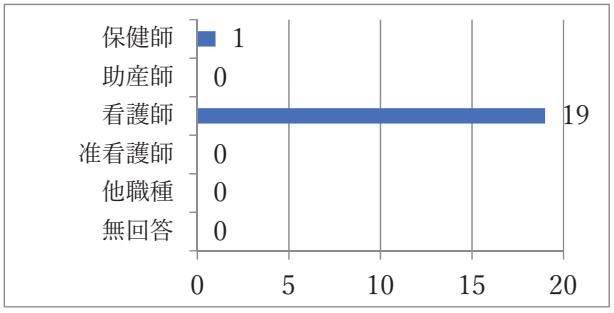
3.担当者のコメント

WLB 推進ワークショップの中での公開講座の予定であったが、COVID-19 感染拡大に伴い、公開講座のみ web 開催とし、ジェンダー平等について理解を深める事ができた。ワークショップは 10 月 9 日に改めて開催した。

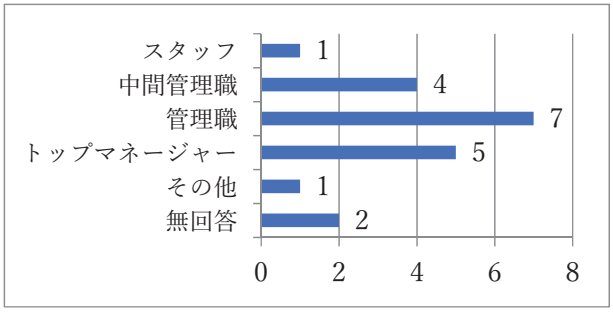
研修名	2）看護職のワーク・ライフ・バランス推進フォローアップワークショップ 【公開講座】	
開催日時	令和5年2月3日（金）	時　間　　9:30～14:30 公開講座　9:30～11:00
受講者数	参加施設　6 施設 27 名（会員 25 名・非会員 2 名）	
ねらい	インデックス調査結果分析後、アクションプランをもとに実践することで、自施設の就労環境の改善を図ることができる	
講師	【公開講座】 東京医療保健大学東が丘看護学部看護学科大学院 看護学研究科　教授　中島美津子	
内容 （キーワード）	少子高齢化・DX 化・業務の効率化・労働環境改善	講演・実践報告

1.公開講座アンケート結果　　出席者:27 名　　アンケート回収:20 名　アンケート回収率:74.1%

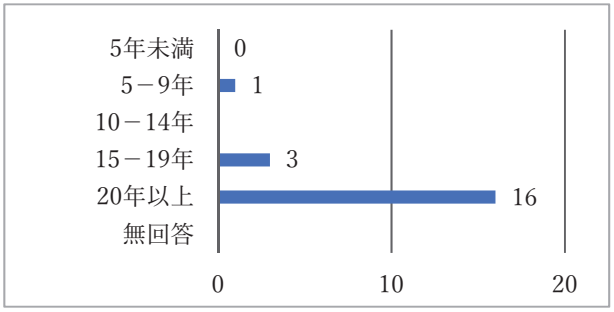
1）職名



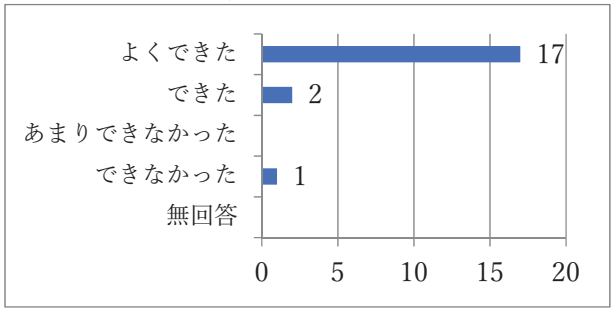
2）職位



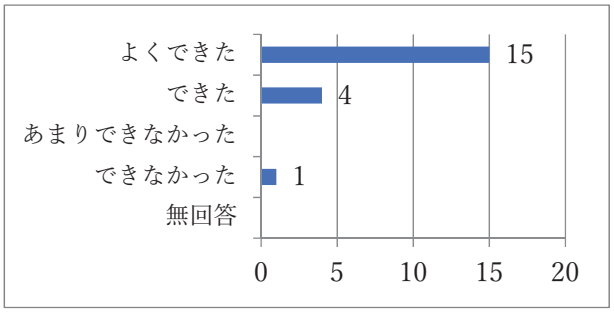
3）経験年数



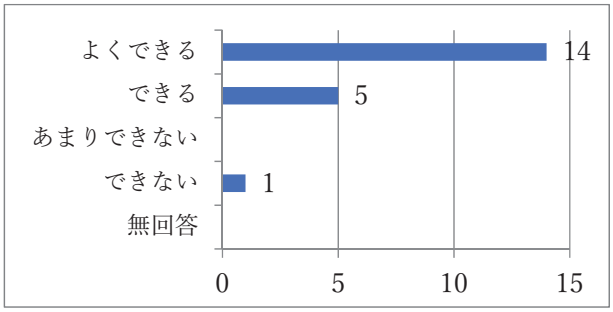
4）研修内容の理解度



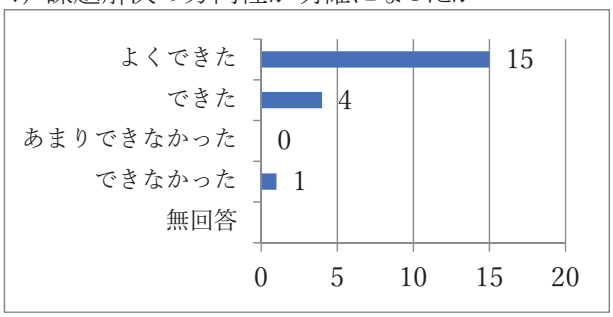
5）参加目的の達成度

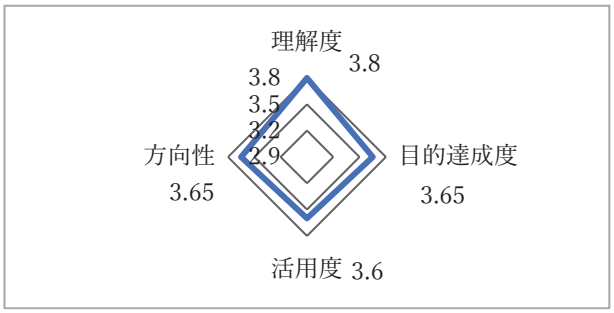


6）今後の活動に活用できるか



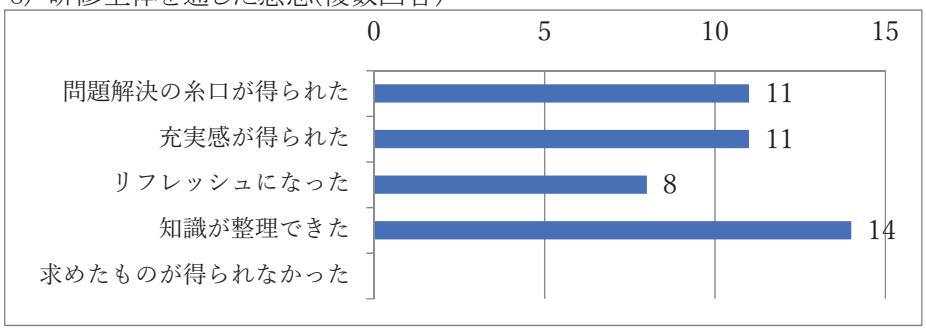
7）課題解決の方向性が明確になったか



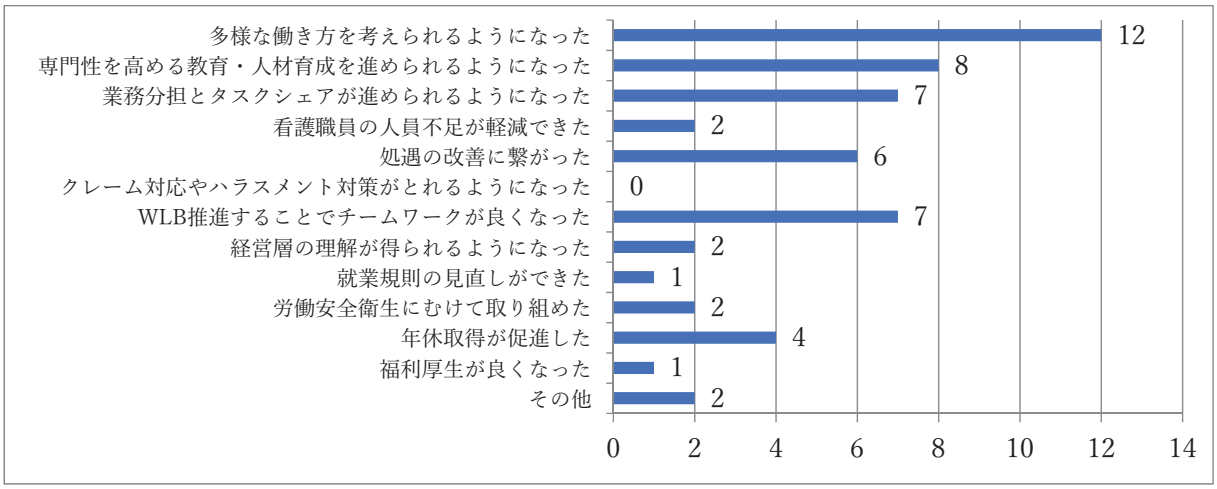


・あまりできなかった理由：自分の知識が足りてないと思うから

8）研修全体を通した感想(複数回答)



9）今年度 WLB を推進してきたことで、貴施設でよくなったと思われることは何ですか（複数回答）



その他

・取り組みを始めたばかりなので、成果はまだ見えていない。

・スタッフ個々がワーク・ライフ・バランスを意識して子育て世代のスタッフと関わることができている。

2. 感想、意見

・講演凄く分かりやすかったです。

・当院も再度取り組みをと思っています。

・全体的に取り組みの質が上がってきていると感じました。

・研修ありがとうございました。今後はワーク・ライフ・バランスをとりながら、看護の質が向上できるよう検討していきます。

3.担当者のコメント

公開講座はオンラインで行った。講師の話は、少子高齢化の中で看護職が選ばれる仕事になるためには何をしないといけないか、また、労働人口が減少する中で、医療はDX化に早急に取り組む必要性があること、看護師が働きやすい就労環境を整えるためには管理者の役割が大きいことなど多くの学びが得られた。

ワークショップでは、取り組み施設の報告が簡潔にまとめられており、各々の施設の強みを再認識したとの声が聞かれた。次年度も就業環境改善にむけて、継続してチームで取り組めるよう委員会でサポートしていきたい。

8. 看護職員確保対策事業

1.事業の目的

保健師、助産師、看護師及び准看護師で、未就業の者に対し就業促進に必要な事業、看護業務等の PR 事業を行い、医療機関等の看護職員の確保に寄与する。また、看護師等の人材確保の促進に関する法律に基づく離職者の届出制度に対応し、スムーズな復職につなげる支援を行う

2.事業内容

1）看護の心普及等・ナースセンター強化事業

（1）ナースセンター事業

「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき、高知県の委託を受け高知県ナースセンターの運営を行う。

ア. 看護職員就業促進事業

①就業を容易にするための看護技能知識についての相談、就業に関する指導を行う

②公共職業安定所との連携を図り、ナースセンターコンピューターシステム（NCCS）を利用して求人状況に関する情報の提供、就業の斡旋を行う。

≪ 実施曜日等≫

区　分	実施曜日	1 日の実施時間	年間実施日数
①看護技能知識についての相談、就業に関する指導 ②無料職業紹介事業	月 ～金	9 時 ～17 時	246 日

≪e ナースセンター登録者数及び就業率≫

区　分	eナース登録 未就業者数（A）	eナース新規 登録者数（B）	就業者数 （C）	就業率 {C÷(A+B)}×100
保健師	19 人	23 人	1 人	2.3%
助産師	2 人	4 人	0 人	0.0%
看護師（准）	看 311 人 准 16 人	393 人	154 人	21.3%
計	348 人	420 人	155 人	20.1%

※2023 年 3 月 31 日時点（2022 年度末）

≪e ナースセンター求人登録施設数及び医療機関数等≫

	病院(A)	診療所(B)	計(A)+(B)
2023 年 4 月 1 日の総数 （2022 年度末時点での登録数）	124	10 （うち有床 7）	134
e ナースセンター求人登録施設数 （2021 年度末時点の登録数）	129	9 （うち有床 5）	138

≪2022 年度 相談等件数≫

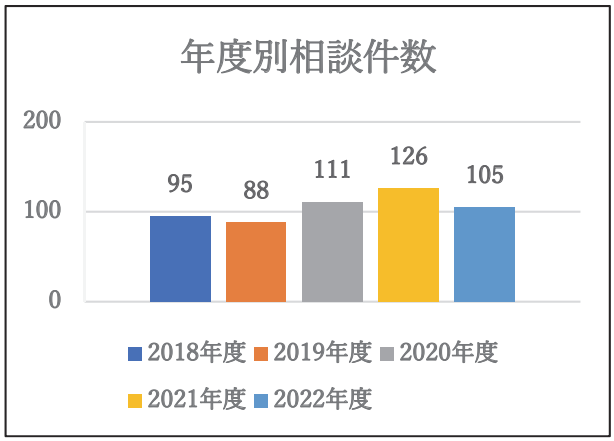
	求職						求人						進路						合計
	来所	TEL	メール	郵送	FAX	その他	来所	TEL	メール	郵送	FAX	その他	来所	TEL	メール	郵送	FAX	その他	
4月	6	42	6	7	0	5	2	28	1	1	0	26	0	1	0	0	0	0	125
5月	10	38	5	6	0	17	1	47	7	3	0	30	0	0	0	0	0	0	164
6月	4	42	0	0	0	12	0	29	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	95
7月	5	27	1	0	0	10	0	25	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	71
8月	2	14	0	0	0	13	0	18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48
9月	10	11	1	0	0	8	0	22	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	53
10月	15	29	3	0	0	6	0	34	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	88
11月	6	16	7	1	1	6	1	21	6	0	3	0	0	0	0	0	0	0	68
12月	8	39	0	0	0	6	2	13	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70
1月	7	26	1	0	0	8	2	19	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68
2月	10	17	2	0	0	11	1	17	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62
3月	7	23	2	0	0	4	2	29	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	71
合計	90	324	28	14	1	106	11	302	38	5	6	56	0	2	0	0	0	0	983

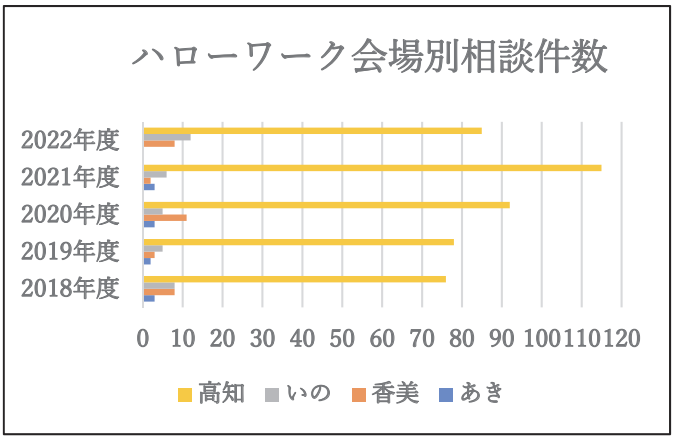
≪公共職業安定所（ハローワーク）出向相談実績≫

相談件数は、新型コロナウイルス感染症が再び拡大し始めた 8 月ごろより影響を受けるかと思われたが、大きく件数が減少することはなかった。高知会場以外は相談者数 0 という日もあったが、継続的に地域格差があり年度で比べてみてもさほど変動はなかった。ハローワーク安芸は相談者数が年間を通して 0 名であった。看護職等の相談の機会を絶やさないことが重要であるが検討課題である。

現状のままで次年度も行っていくこととなった。特に e ナースセンター新規登録者やハローワークに来所された人などに対して、チラシやパンフレット等を利用してナースセンターのアピールも含め、積極的な声かけを行った。

ハローワークとの連携では、就業相談者の共有や人材確保対策推進協議会への参加、医療関係面接就職相談会へ参加を行い、協力体制の継続を図った。





イ.「看護の心」普及事業

①高校生及び学校の進路指導担当者等を対象に、看護職等についての知識や理解を深める機会とし、将来の看護職の人材確保のための広報活動、進路相談事業を行う。

②「看護の心」の普及啓発を通じて、県民一人ひとりの看護についての関心を高め、理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図るための事業を行う。

≪こうち看護フェア≫

5月8日(日)、こうち看護フェアをオンラインで開催し、先輩看護職の語り、看護系学校教員による学校紹介、県の奨学金について説明があった。看護職をめざす高校3年生84名が参加した。

先輩看護職の語りでは、保健師、助産師、看護師、訪問看護師から、看護を目指したきっかけや自らの看護体験、患者との関わりなど、看護の仕事や看護の魅力などについて語りがあった。アンケートでは、「改めて看護職は人の役に立つ仕事だと思った」、「現場の声が聞けて良かった」、「実際に働いている人の話を聞くことができ、自分の目指している看護師像とあてはまり、より明確な将来像が見えた」等の感想があった。

また、看護系学校紹介には、県内の大学、短期大学、専門学校9校が参加し、それぞれの学校の特徴や学習内容などについて説明があった。参加した学生からは、「学校の内容を詳しく知ることが出来た」、「文字だけでは分からないことが多かった。直接、聞くことが出来てイメージが沸いた」、「コロナ禍であっても情報を取り入れる機会に参加できてよかった」、「今回 Zoom で参加でき、希望学校の説明が聞けて良かった」という感想や意見が多く聞かれ、次回開催に向けての参考となった。

(2)ナースセンター強化事業

①離職者の把握と早期復職の支援を行う。

・医療機関を訪問し届出制度によるナースセンターへの登録普及活動

・医療機関等の離職者等の状況を把握(とどけるん)

・就業相談

②潜在看護職員復職研修事業を実施する。

≪とどけるん登録状況≫

	累積数	前年比
2019 年度	61	−37
2020 年度	84	22
2021 年度	135	51
2022 年度	58	−77

≪施設訪問≫

病院	施設・訪問 ST	市町村	合計
5	0	0	5

2022 年度、新型コロナウイルス感染症の感染状況を確認しながら、ナースセンターの事業内容や取り組みをより深く理解頂くために施設訪問を行った。

直接、話を聞くことが出来、病院の抱える問題、現状を把握することが出来た。

2023 年度は高知県内の病院や施設、訪問看護ステーションの訪問を行っていく予定。

≪再就職相談会≫

再就職を考えている看護職と、看護職を確保したい施設を対象に 2 回開催した。

	8/28（日）	1/28（土）
求人施設数	8	16
求職者数	10	11
就職者数	3	2

第 1 回（8月28日）は、申込求人施設 10 施設の内、当日参加施設は8施設で、内訳は病院4施設、児童福祉会 1 施設、訪問看護ステーション 1 施設、看護学校1施設、医療系施設 1 施設であった。

求職者の年齢は 60 歳以上が 6 名、50 歳代、40 歳代、30 歳代がそれぞれ 1 名。相談件数は 18 件、見学相談は 5 件、面接希望は 1 件であった.

第 2 回目（1月28日）は、求人施設 16 施設（道路事情により 1 施設 Zoom で参加）、その内訳は、病院 10 施設、児童福祉会 1 施設、介護老人福祉施設 2 施設、訪問看護ステーション1施設、看護学校1施設、福祉施設 1 施設。参加年齢は 60 歳以上が 3 名、50 歳代が 2 名、40 歳代、30 歳代は 1 名であった。
相談件数は 24 件、見学希望は 6 件、面接希望は 2 件、就職内定者は 2 名であった。

実施後のアンケート
（求職者）

直接、施設側に気になる点を聞くことが出来た。とても聞きやすい雰囲気であった。病院参加がもっとあればよかった。

（求人施設）

仕事内容に興味を持って話を聞いて頂き、有意義な時間を持つことが出来た。自分たちの専門性を生かして、職業人として気骨のある人に来て頂きたいとの意見があった。

≪潜在看護職員等復職支援研修≫

この研修は、復職のための心構え、最新の看護現場の状況、看護実践に必要な基本的な知識と技術等を確認することにより復職支援につなげることを目的に実施。

プログラムは次頁の内容で、講師は専門分野で活躍している現場の看護師の方々である。

2021 年度			2022年度		
開催月	参加	就職	開催月	参加	就職
6 月	3	3	6 月	6	3
9 月	7	3	9 月	8	2
12 月	7	2	2 月	2	0
3 月	6	3	―	-	-

【 2022 年度 中央地区研修プログラム 2 日間 】

	テーマ	講師
60 分	医療・介護を取り巻く社会の変化	高知県看護協会会長　藤原 房子
120 分	創傷管理の基本	≪皮膚・排泄ケア認定看護師≫特定行為研修修了看護師 社会医療法人近森会 近森病院　安松 和美
120 分	救急対応	≪クリティカルケア認定看護師≫特定行為研修修了看護師 社会医療法人近森会 近森病院　酒井 由夏
120 分	感染管理の基礎	≪感染管理認定看護師≫ 社会医療法人仁生会 細木病院　土居 世知
120 分	医療安全の基礎知識	≪医療安全管理者≫ 日本赤十字社高知赤十字病院医療安全推進室 伊勢田 純子
150 分	研修事業説明 動画：訪問看護/訪問看護師の 1 日 訪問看護師のカバンの中身 新型コロナワクチン接種研修	≪ナースセンター担当職員≫

研修終了後のアンケートでは、「研修内容が分りやすかった」、「今後の参考になった」、「とても勉強になった」、「とても分かりやすい講義、資料であった」、「現場の状況について話を聞くことが出来た」、「疑問に思ったことを研修で聞くことができた」、「実技研修がとても勉強になった」など好評であった。
研修後 5 人が就職に繋がった。

≪プラチナナースセミナー≫

今年はじめて行った事業で、病院や施設において、様々な看護の経験を積み、熟練した看護技術と対人スキルをもつプラチナナース(定年退職前後の看護職等)の方々がその豊かな経験を活かしたライフプランや生活の保障について考え、定年後の再就職に繋げる機会にできることを目的に 7 月と 12 月に開催した。

参加者の年齢は 60 歳以上が一番多く、次に 55 歳から 59 歳代、50 歳から 55 歳代であった。実施後のアンケートでは 80%以上が理解できた、やや理解できたと回答。今後、活用できる参考になったと回答があった。

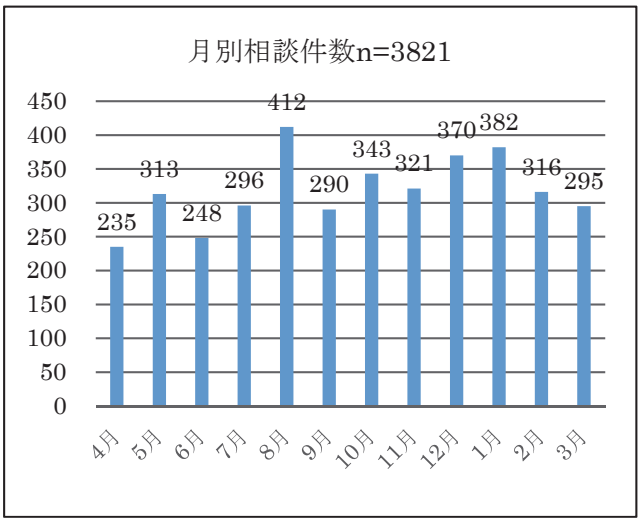
2022 年度	7/26（火）	12/14（水）
参加者数	19	20
参加者のうち Zoom 参加	14	13
就職者数	1	0

9. 小児救急電話相談事業

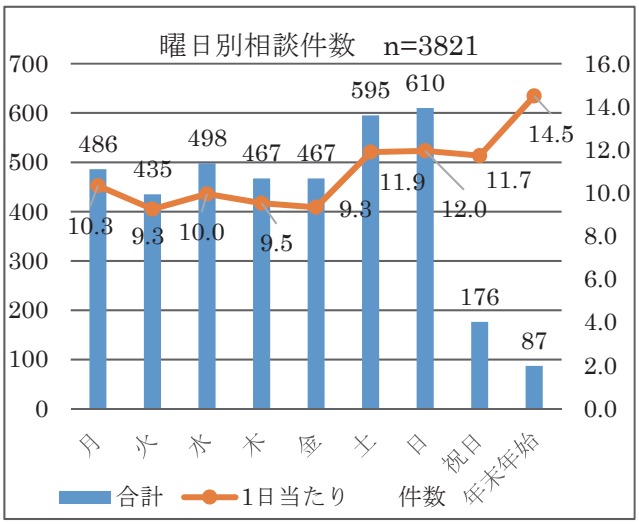
事業名	こうちこども救急電話相談	
目的	小児を持つ保護者などが安心して子育てができるよう環境づくりを推進し、子育て支援を行うため、夜間、子どもの病気などに関する電話相談に応じ、怪我等の応急処置についての助言と情報提供を行い、保護者に安心を提供する。	
開催日時	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日	20:00～1:00(5 時間)
相談員	小児看護に精通した看護職	
対象者	おおむね 15 歳未満の子どもの保護者等	
留意事項	① 電話相談の実施にあたっては、相談者に対し、相談員が行う助言が電話による限られた情報に基づくものであり、相談者の判断の参考とするためのものであることを十分に説明し、理解を得たうえで行う。 ② 相談員は、相談受付後は相談記録を作成するとともに、相談者のプライバシー保護に努め、相談記録等の管理に十分配慮を行う。	

こうちこども救急電話相談結果

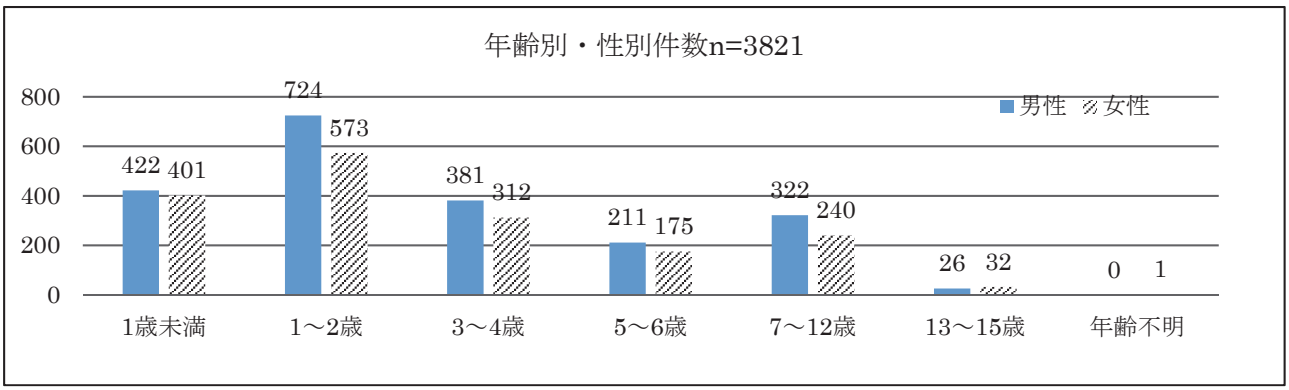
1. 月別相談件数



2. 曜日別相談件数



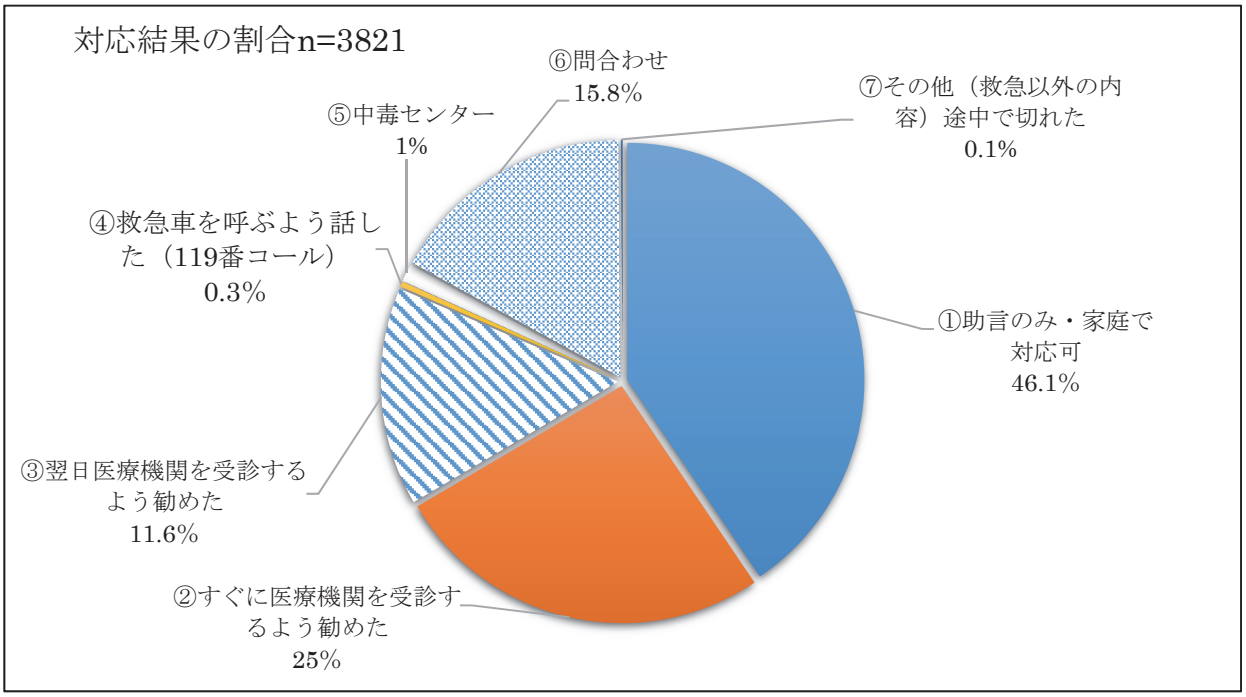
3. 年齢別・性別相談件数



4. 年間相談者件数・割合

相談者	母親	父親	祖父母	親戚	その他
件数	3,113	675	26	4	3
割合(%)	81.5	17.4	0.8	0.1	0.2

5. 対応結果別割合

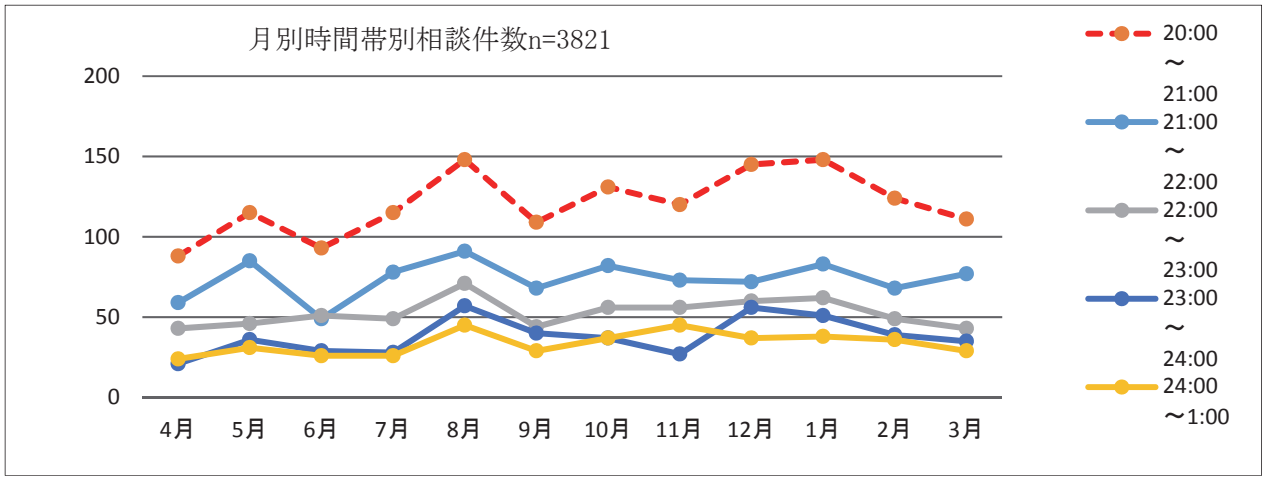


6. 相談者居住地地域別件数・割合

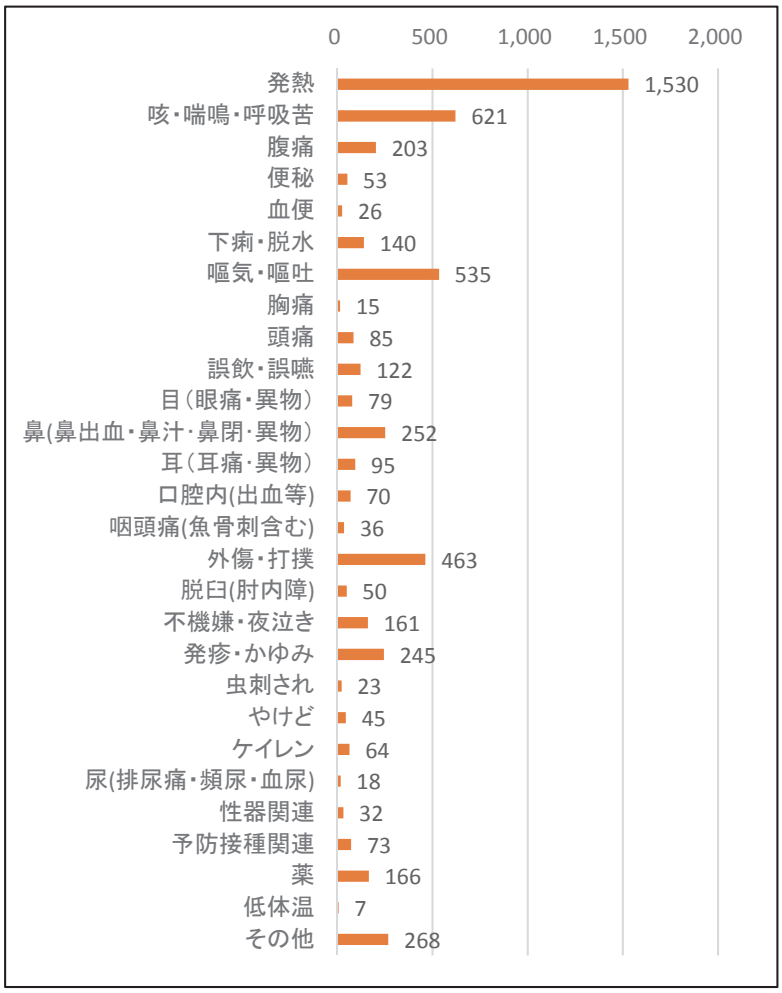
高知市	南国市	香美市	香南市	土佐市	室戸市	安芸市	須崎市	四万十市	宿毛市	土佐清水市	東洋町	奈半利町	田野町	北川村	馬路村	安田町	芸西村	大豊町
2,325	291	145	210	178	19	60	96	73	28	11	5	9	11	2	2	2	17	7
60.8	8.9	3.8	5.5	3.9	0.6	1.6	2.5	1.9	0.7	0.3	0.1	0.2	0.3	0.1	0.0	0.1	0.4	0.2

本山町	土佐町	大川村	いの町	日高村	佐川町	越知町	仁淀川町	津野町	梼原町	中土佐町	四万十町	黒潮町	三原村	大月町	不明	県外	合計
5	6	0	114	17	47	14	18	22	4	15	43	8	0	1	3	13	3,821
0.1	0.2	0.0	3.0	0.4	1.2	0.4	0.5	0.6	0.1	0.4	1.1	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	100

7. 月別時間帯別相談件数



8. 令和4年度相談内容別相談件数（複数回答あり）



9. まとめ

令和 4 年度の電話相談件数は 3821 件、月平均 318 件、1 日平均 10.5 件であった。特に 8 月は 412 件で最も多く、次いで 1 月が 382 件であった。新型コロナウイルスの家庭内感染が拡大した時期であり、多い日は 21 件の相談があった。

曜日別では、土、日が多く時間帯は 20 時から 21 時が多い。年齢性別では、1～2 歳、次いで 1 歳未満が多く、男児が多い。相談者は母親からが 81.5%で、相談者の居住地は、高知市 60.8%、南国市 8.9%、香南市 5.5%と人口に比例する。対応結果は、助言のみ 46.1%、すぐに受診を勧めた 25%、翌日受診が 11.6%で、救急車を呼ぶよう勧めたは 11 件 0.3%であった。

相談内容は、発熱が最も多く、次いで咳・喘鳴・呼吸苦、外傷打撲の順であった。対応に対しては 99.8%が「納得した」印象であり、きめ細やかな対応が出来ている。

10. その他

相談員は現在 9 名で対応している。質向上のため、研修会への計画的参加や連絡会を通じて事例を共有する等進めていく。

Ⅶ. 配信研修

研修名	1.診療報酬改定説明会	
開催日時	令和 4 年 4 月 16 日(水)	時間:10:00～11:30
受講者数	35 名(会員 31　非会員 4)	定員:50 名
ねらい	令和 4 年度診療報酬改定に関して、看護関連項目の内容を理解し、日本看護協会の見解を知る	
講師	厚生労働省保険局医療課課長補佐　猿渡央子 日本看護協会　常任理事　　吉川久美子	
内容 (キーワード)	令和 4 年度年度診療報酬改定　概要	DVD研修

1.研修担当コメント

令和 4 年度診療報酬改定の概要説明では、特に新興感染症等に対応できる医療提供体制の構築に向けた評価や、看護補助者の活用及び夜間における看護業務の負担軽減、看護職員の処遇改善の仕組みについて等の看護関連項目に関する説明と日本看護協会の見解を知ることができた。

<table>
<tr><td>研修名</td><td colspan="2">2. 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>① 令和 4 年 7 月 12 日（火）
② 令和 4 年 8 月 2 日 （火）
③ 令和 4 年 8 月 16 日（火）
④ 令和 5 年 1 月 27 日 （金）</td><td>時間 10:00～16:30</td></tr>
<tr><td>受講者数</td><td>① 58 名(会員: 55 名、非会員: 3 名)
② 50 名(会員: 43 名、非会員: 7 名)
③ 59 名(会員: 53 名、非会員: 6 名)
④ 85 名(会員: 65 名、非会員: 20 名)</td><td>定員 各 40 名</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="2">効率的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務範囲や教育及び終了環境について理解し、自施設における看護補助体制整備の一助とする。</td></tr>
<tr><td>講師</td><td colspan="2">日本看護協会</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>・看護補助者との協働の業務実施体制の整備
・看護職への教育体制の整備
・看護補助者の労働環境の整備及び確保等
・看護補助者の育成・研修・評価</td><td>講義・演習</td></tr>
</table>

研修名	**3.災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～**	
開催日時	令和 4 年 7 月 14 日(木)･7 月 15 日(金) 9:30～16:30　2 日間	
受講者数	8 名(会員 7 名･非会員 1 名)	定員 20 名
ねらい	1.看護専門職の災害時支援者として必要な基礎知識を習得する 2.災害支援ナースとしての役割や活動の実際を理解する	
講師	日本看護協会	
内容	災害医療の基礎知識、災害時の求められる看護支援活動、災害時の心理変化とこころのケア、看護協会の災害時看護支援活動、災害時の保健師の役割と災害支援ナースとの連携、災害支援ナースの実際	講義

研修名	**4. 認知症高齢者の看護実践に必要な知識**	
開催日時	① 令和4年 7 月20 日(水)～21日(木) 9:30～16:30 2 日間 ② 令和4年 11 月15日(火)～16日(水) 9:30～16:30 2 日間	
受講者数	① 49名 (会員34名 ・非会員15名) ② 51名 (会員36名 ・非会員15名)	定員①②各 50 名
ねらい	1. 認知症高齢者における国の施策や医療の現状を理解する 2. 入院中の認知症高齢者を適切にケアするための基本的な知識を理解する	
講師	日本看護協会 演習支援者:高知赤十字病院 認知症看護認定看護師 堀内 啓民	
内容	認知症高齢者に関する医療の現状と国の取り組み、認知症に関連する疾患と病態・治療、組織で取り組む認知症高齢者ケア、認知症高齢者の看護に必要なアセスメント・コミュニケーションと援助技術、認知症高齢者ケアにおける多職種・看護連携のあり方、認知症高齢者に適した療養環境と調整方法、認知症高齢者に特有な倫理的課題、認知症高齢者の意思決定支援等	講義・演習

研修名	5. 医療安全管理者養成研修　:集合演習	
開催日時	オンデマンド配信研修 35 時間　集合演習 5 時間 ①　令和4年 10 月28日（金） ②　令和4年 11 月12日（土）	時間:9:30～16:00
受講者数	①　34 名　（会員 22 名　・非会員12 名） ②　24 名　（会員 17 名　・非会員 7 名）	定員　各40　名
ねらい	医療の質の向上と安全確保を目的とした、医療安全管理業務を遂行するための基本的な知識と実践能力を習得する。 演習を通して実践方法がわかる。	
講師	講師:高知大学医学部附属病院　　坂本　美和 演習支援者:高知赤十字病院　　小松　ゆり	
内容（キーワード）	医療安全	講義・演習

研修名	6.看護職の賃金制度の抜本的見直しに関する勉強会	
開催日時	令和 5 年 3 月 8 日(水)	時間:13:30～16:30
受講者数	36 名(会員 28　非会員 8)	
ねらい	国家公務員医療職俸給表(三)の見直し内容と今後の対応について理解し、自施設において、管理職や高度な知識経験に基づき困難な業務を処理する看護師を適切に処遇し、キャリアアップできるような環境を整えることができる	
講師	日本看護協会　常任理事　森内　みね子 学習院大学名誉教授　今野　浩一郎 日本看護協会労働政策部看護労働課　奥村　元子	
内容 (キーワード)	国家公務員医療職俸給表(三)　能力・職務・役割による貢献と賃金制度	オンライン研修 グループワーク

1.研修担当コメント

国の看護職員の処遇改善に向けた取り組みについて、日本看護協会と県協会が共同で勉強会を開催した。年功序列ではなく、能力・職務・役割による貢献に応じた賃金制度の見直しを行うことで、看護職員のキャリアップやモチベーションアップに繋がること、自施設での具体的な対応手順について説明があった。まずは、県内の他の医療機関や院内の他職種との比較などの情報収集を行い、データに基づいた経営層への働きかけが必要であると思われる。

Ⅷ. 日本看護協会受託事業

1. 厚生労働省 新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保事業
「潜在看護職研修事業」

研修名	厚生労働省 新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保事業 「潜在看護職研修事業」
開催日	プログラム参照
受講者数	16名　延べ24名　（会員　9名　　非会員15名）
目的	新型コロナウイルス感染症に従事が可能な看護職の人材を確保する。
ねらい	新型コロナワクチン接種業務に従事した潜在看護職等へ研修を行い復職への機会とする。
講師	プログラム参照
内容 研修詳細	プログラム参照

潜在看護職研修プログラム

月日	時間	テーマ	講師
7/7（木） 10 /6（木）	9:30～10:30 10:30～12:30	高知県の医療の・看護の動向 医療安全の知識	高知県看護協会会長 藤原　房子 高知県看護協会 元医療安全管理者 井上　富美
7/26（火） 9/22（木） 11/29（火）	10:00～12:00	感染管理研修 ・ 新型コロナウイルス感染症の基礎知識 ・新型コロナウイルス感染症の感染対策	ナースセンター担当者
	13:00～16:00	感染管理研修 ・標準予防策 ・個人防護服の着脱 ・衛生的手洗いの実際	高知医療センター 感染管理認定看護師 山崎　みどり
8/17（水） 10/18（火） 12/20（火）	9:30～12:30	新型コロナウイルス感染症患者の看護 吸引の技術 ・DVD視聴 ・吸引シミュレーターを使った演習	ナースセンター担当者
9/12（月） 11/14（月）	10:00～16:00	注射の技術・採血 ・点滴静脈内注射演習 ・筋肉内注射演習 ・採血	高知医療センター 教育担当　看護部長 中尾　裕子

1. 意見・感想

7月26日（火）参加1名（会員）

・講義が分かりやすく、理解が深まった。個人防護服を着てみることが出来て良かった。

8月17日（水）参加1名（会員）

・新型コロナウイルス感染症の看護の話は為になった。特にフィジカルアセスメントは、仕事のことを思い出しながら聞くことが出来て直ぐにいかせると思った。技術に自信がなかったので演習が良かった。

・職場での疑問なども話が出来たので有意義であった。

9月12日（水）参加7名（会員3名・非会員4名）

・現場に復帰する前に研修を受け不安が軽減した。仕事をする時に研修内容を活かしていきたい。

・準備から実際に演習することができ、演習の時間も多くて良かった。

・先生のデモンストレーションや、他の人が実施しているのを見ることができ、ためになった。今後もいろいろ他の人の方法を見て学びたい。

・何度か演習でき良い時間でした。研修内容をもう一度復習して実践できるように頑張ります。

・丁寧でとてもわかりやすく実践ばかりでとても良かったです。

9月26日（月）参加5名（会員1名・非会員4名）

・手指衛生は患者さん、自分を守るために重要なので感染対策の基本として考えていきたい。

・自分の手洗いを見直すことができ、汚れが付きやすい所がわかったので注意をしていきたい。

・とても分かりやすく良かった、コロナ治療の現場でのお話はとても興味深かった。

・午後の先生の講義はお話がとても楽しく分かりやすかった。

10月6日（木）参加1名（会員）

・久しぶりに研修を受けることができて新鮮だった。講義が面白く為になった。他の研修も受講したい。

10月18日（火）参加3名（会員1名・非会員2名）

・オンデマンドの内容は少し難しかった、コロナに関わる仕事に復帰するのは難しいと感じた。

・吸引の技術をする機会が少なく、モデルで実施することができて良かった。

11月14日（月）参加3名（会員1名・非会員2名）

・何度も演習をすることが出来て良かった。注射の技術のポイントが分かりやすかった。

・緊張することなく、楽しく演習ができた。他の受講者と話が出来て良かった。

12月20日（火）参加2名（会員1名・非会員1名）

・技術に不安があるので、実際に演習が出来たのは良かった。普段は使わない技術でも勉強しておくことが必要だと思った。

・3年ぐらい臨床から離れているが、演習をしていると思いだして意外とスムーズに実施できて少しほっとした。

・演習ができるような研修があれば参加したい。

2. 研修担当者のコメント

研修全体を通して参加者が少なく、潜在看護職にとって一般病棟より新型コロナウイルス感染症に対応する職場への復職はハードルが高いと感じた。しかし新型コロナウイルス感染症に、実際の対応している臨床現場での話は興味をもって聞いて頂けたので、漠然とした不安は少なくなったのでないかと考える。

技術の演習のある研修はニーズが高く、人数が少ない事もあり、何度も演習が出来て良かったとの声が多く、復職するために技術の習得は不安の軽減につながると感じた。今後の潜在看護職への研修に活かしていきたい。

Ⅸ．こうち看護協会
訪問看護ステーション事業

こうち看護協会訪問看護ステーション事業

【理念】

誰もが最期まで安心して、自分が選んだ場所で療養生活が送れるよう、24 時間 365 日、ご本人ご家族の QOL 向上をめざし療養生活支援と在宅終末期の看護を提供する。

Ⅰ．令和 4 年度の目標及び評価

1．質の高い訪問看護の提供

1）定期的な事例検討会と勉強会の実施

・事例検討会は毎月実施、勉強会の開催は2回/年実施。ほぼ計画どおりに実施した。

2）事業所の組織評価

・日本訪問看護事業財団の組織の自己評価指標を使用して評価を実施（令和5年3月）

3）利用者満足度調査の実施

① 令和5年 2 月 9 日～3 月 7 日にかけて利用者満足度調査を実施した。

② 結果

・対象者 46 名、回答者 41 名（回答率 89.1%）、医療保険 24 名（うち小児 16 名）、介護保険 17 名

・訪問看護に対して 14 項目の満足度調査の結果、「あまりそう思わない」と回答した人が 1 名いた。
それ以外はすべて、「そう思う、まあそう思う」という回答であった。
あまりそう思わないと回答した理由は、契約の手続きの煩雑さであった。

・ご意見や要望についてはすべて感謝の言葉であった。今後、引き続き利用者のニーズに対応できるよう取り組む。

4）外部研修会等への参加によるキャリアアップ

看護師 8 名がのべ 29 研修等に参加、学びを共有し質の向上に努めた。

2．人材育成

1） 高知県中山間地域等訪問看護師育成講座スタートアップ研修に 1 名参加 （2 年目職員）

2） 3 名の職員が、看護学校での講義、医療的ケア児支援看護師確保事業において講義・実技研修講師、主任介護支援専門員研修講師を務めるなど積極的に県内の訪問看護及び在宅療養支援に関する人材育成に関わった。

3） コロナ禍の状況の中で実習時間などの制限がある中で、訪問看護研修生及び実習生 47 名、のべ 152 日間の研修、実習を受け入れた。

教育機関名	受入人数（名）	延べ日数(日)
高知病院附属看護学校	9	64
県立大学（大学院含む）	14	44
開成専門学校看護学科	4	12
高知学園短期大学看護学科	8	8
龍馬看護ふくし専門学校	3	15
在宅ケア研修看護師	4	4
認定看護管理者教育課程セカンドレベル （国立病院機構の同教育課程 1 名含む）	4	4
その他	1	1
計	47	152

3. ステーションの経営の安定化

経営状況を 2 ヶ月ごとに把握し改善の必要な事項について検討、目標件数よりやや減少

4. 訪問看護ステーション運営委員会を2回/年実施した。(令和4年 9 月、令和 5 年 3 月)

Ⅱ. 体制

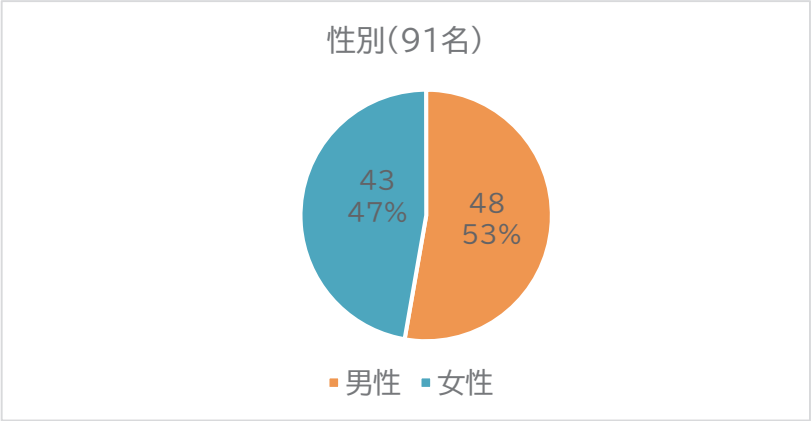
職員数 管理者 1 名、看護師7名(常勤6名、非常勤1名)、事務職員 1 名

Ⅲ. 訪問実績

1. 利用者数

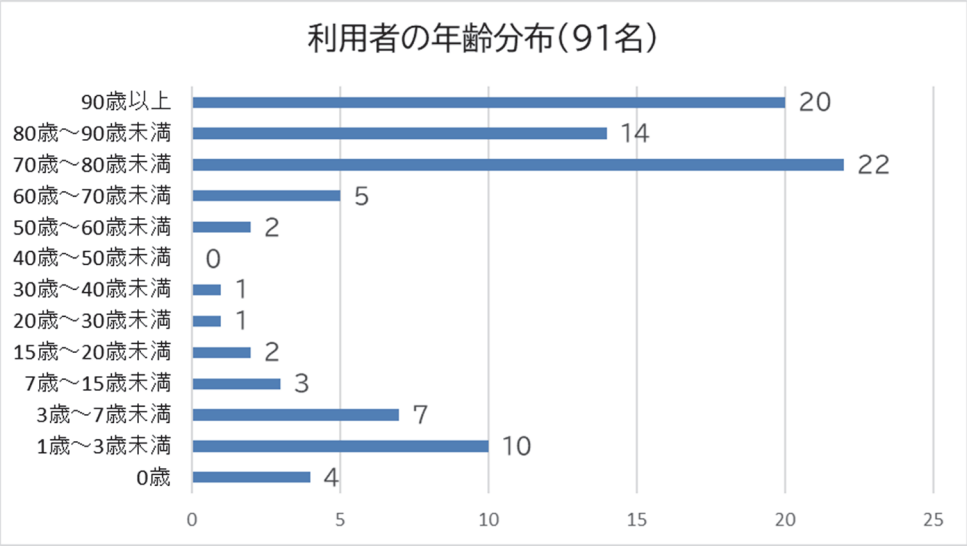
① 令和4年度の1年間の利用者数は 91 名(昨年度95名)で昨年度より 4 名減少した。

② 性別では、女性 43 名、男性 48 名とほぼ同じ割合であった。



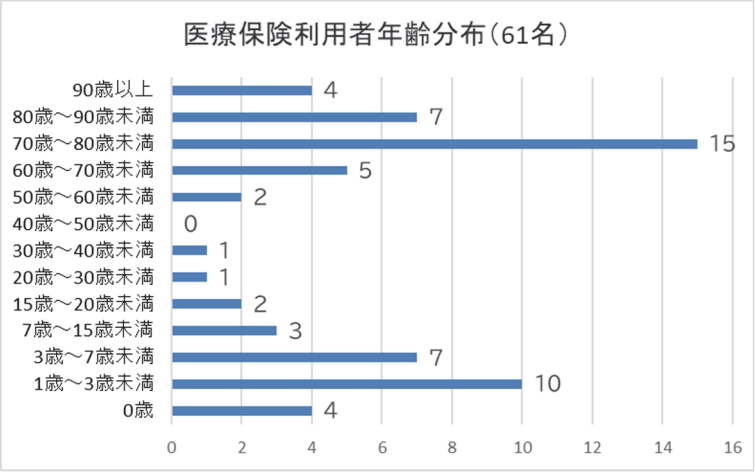
2. 利用者の年齢分布

① 70 歳以上が 56 名(61.5%)、15 歳未満が 24 名(26.4%)を占め、15 歳以上 70 歳未満は 11 名(12.1%)であった。平均年齢は 55.9 歳であった。

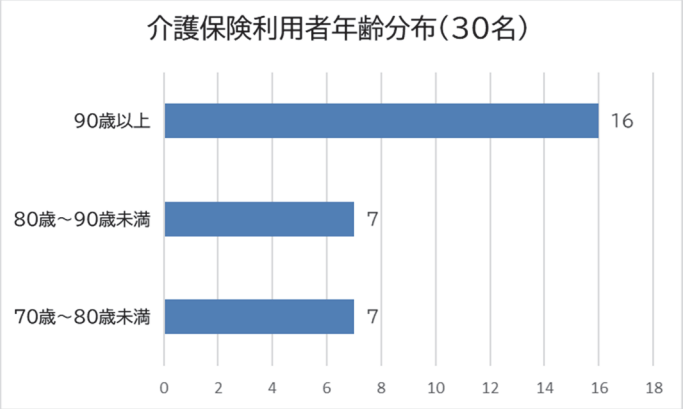


3. 保険別利用者数

① 医療保険利用者は 61 名(小児の医療的ケア児 3 名含む)で利用者全体の 67.0%、うち小児が 24 名で医療保険利用者の 39.3%、全体では 26.4%を占めている。
61名のうち、60 歳以上が 31 名で 50.1%であった。 平均年齢は 40.1 歳であった。

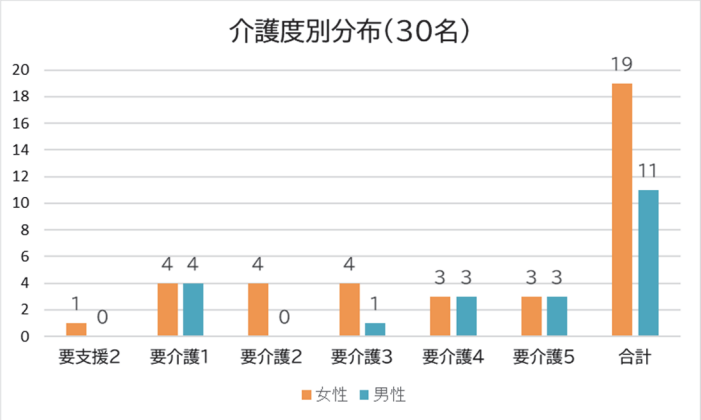


② 介護保険利用者は、30 名で利用者全体の 33.0%、昨年度とほぼ同じであった。年齢は 90 歳以上が 53.3%と昨年度(48.5%)に比し増加し、平均年齢は 87.9 歳で昨年度(86.4 歳)に比しやや高くなっている。



4. 介護度別分布

女性が 19 名、男性が 11 名、介護度別では、要介護 1 から要介護 5 まで広く分布している。
要支援 2 が 1 名であった。



5. 訪問件数

① 総訪問件数は 5007 件で、昨年度の 4800 件に比し 207 件増加した。

・介護保険利用件数は 1210 件で昨年度の 1454 件に比し 244 件減少している。オプションは 51 件であった。

・医療保険利用件数は 2959 件で昨年の 2,600 件に比し 359 件増加。内訳は、成人が 1741 件、小児が 1218 件と小児が増加している。高知市医療的ケア児通園支援事業として医療的ケア児の訪問件数は 787 件と増加している。

	介護保険	医療保険	医療的ケア児	オプション	合計
令和 4 年度	1210 件	2959 件 成人 1741 小児 1218	787 件	51 件	5007 件
令和 3 年度	1454 件	2600 件 成人 1850 小児 750	667 件	79 件	4800 件

② 1 か月の平均訪問件数は 417 件で昨年度の 400 件より増加したが、看護師一人当たりの月平均訪問回数は、53.8 件で昨年度の 58.9 件よりやや減少している。

6. 新規依頼と継続者の内訳（カッコ内は前年度数）

総数	継続	新規
91名（95）	48名（47）	43名（48） 医療34名・介護9名

7. 終了者の状況

① 終了者は全体で 37 名（昨年度 46 名）であった。

② 内訳は、死亡 25 名（昨年度 34 名）、入院及び施設入所 6 名、軽快 4 名、その他 2 名であった。

③ 死亡 25 名のうち、在宅看取りは 18 名（昨年度 25 名）、医療機関での死亡は 7 名であった。

Ⅳ まとめ

1. 令和 4 年度は令和 3 年度に比べ、利用者数は若干増加したが、看護師一人当たりの月平均訪問件数は 53.8 件（昨年度 59 件）と減少しているため最低月 60 件以上を達成するよう取り組む。
2. がんターミナルの看取りや小児訪問看護に加え、令和元年度に新規に開始された「高知市医療的ケア児通園支援事業」としての訪問が月平均 65.5 件と増加している。医療的ケア児への訪問看護は、小児の就学を支援するために必要なサポートであり、当協会のステーションの役割を果たす上からも今後もニーズがある限り関係機関との連携を強化し、在宅療養者の支援を強化していく。
3. 在宅看取り件数は昨年度よりやや減少しているが、引き続き、職員全員で利用者・家族にとって最善の看取りができる体制をつくっていく。
4. 小児の拠点ステーションとして、訪問看護ステーション看護師の教育支援を行い、小児の訪問看護に対応できるよう支援を継続する。
5. 介護保険の利用者は平均年齢 89 歳と高齢であり、介護度が低い利用者であっても状態の変化が起きやすいため、引き続き、現在の介護度が維持できるレベルの体調の自己管理・生活機能の維持に努める。

6. 地域の医療機関との連携では、医療機関からの看護師出向は1件あり。今後も関係機関との連携を推進し機能を強化していく。
7. 研修生及び実習生の受け入れについては、コロナ禍という状況であったが、ほぼ予定どおり受け入れることができた。今後も、在宅看護の普及と、在宅看護に関わる人材育成に努める。
8. 訪問看護の役割は、重症化を早期発見し予防につなげること、利用者の尊厳を保ち最後まで住み慣れた場所で過ごすことができるよう支援していくことが重要であり、その視点を持って対応できるようケアの質を高めていく。

県民とともに　はぐくみ　つなぎ　支える　看護の力

Kochi Nursing Association

高知県看護協会

〒780-8066 高知市朝倉己825番地5

公益社団法人高知県看護協会
TEL. 088-844-0678 FAX. 088-844-0053

高知県ナースセンター・看護師等無料職業紹介所
TEL. 088-844-0758 FAX. 088-844-0053

こうち看護協会訪問看護ステーション
TEL. 088-844-8777 FAX. 088-855-6717